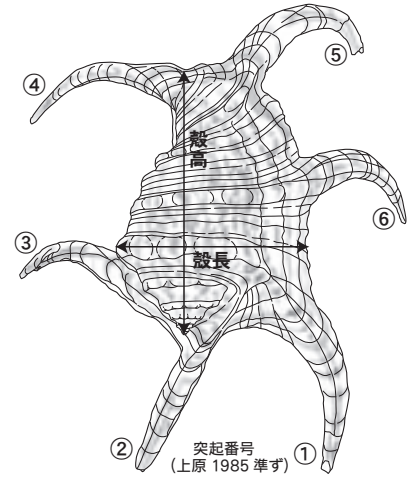


5. スイジガイ製品

スイジガイの体層を有し、突起①を研磨（図 42）したものと、体層を欠落し突起⑤のみを研磨（図 41）した2つのタイプがある。他に腹面穿孔（製品 102）したものが出土しているが、表に示した。

図 41 はスイジガイの⑤突起の部分で、背面側に研磨が認められ、突起の付け根部分に溝状の抉りを圍繞するが、体層部分は直線状に整形される。また、突起の基部に抉りが確認されることから、伊礼原 E 遺跡（2010）出土の突起のみを用いたものの未製品の可能性も考えられる。



第55図 スイジガイ突起番号

第37表 スイジガイ製品観察一覧

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	大分類	残存	突起	縦 (cm)	横 (cm)	重量 (g)	観察事項	出土地
第62 図版 図44	41	370	スイジガイ	突起製品	⑤	⑤のみ	6.5	4.4	28	背面側切断研磨。突起の付け根、溝状圍繞、すり切りの痕。体層直線状、整形か。風化	H18 II層 台 290
	42	362	スイジガイ	スイジガイ製利器	完	②~④欠、⑥半欠	13.6	9.2	468	体層有。突起①両面研磨、刃部欠損。◎、へび付着、風化	H16 II層 台 214
なし 図版	-	102	スイジガイ	腹面穿孔	背面欠	②~⑥半欠	12.0	7.3	294	腹面穿孔 (2.4×1.6cm)、背面欠自然。◎、へび付着、風化	C12 IV層 4409SX (1層) 台 4625

6. 二枚貝有孔製品

二枚貝の殻頂近くに 1.0 ~ 2.0cm 前後の粗孔を施すものである。小堀原遺跡（2012）で示したように下記の条件を2つ以上満たすものを「二枚貝有孔製品」とした。

- a : 孔の穿孔時に複数の打割が見られるもの
- b : 複孔（孔に切り合い）があること
- c : 腹縁に複数の剥離（使用痕）があること。

Ⅱ層 42 点、Ⅲ層 47 点、Ⅳ層 (4409SX) 23 点、Ⅴa 層 (4409SX) 6 点、Ⅴb 層（攪乱含む）118 点、不明 1 点の計 237 点で、貝製品の中で最も多い。本品は沖縄の民俗事例（上江洲 1973）によると網の錘とされ、その種類はシャコガイやタカラガイ（ハナマルユキ）である。しかし、本遺跡からはリュウキュウサルボオ、リュウキュウマスオ、カワラガイ、シラナミ、シレナシジミ、ヒメジャコ、メンガイ類、ソメワケグリガイ、ホソスジイナミなど、貝の種類が多く、網の錘の属性を明瞭にするため、貝の大きさ（殻高、殻長）、孔の大きさ、孔の位置、孔形、穿孔方向、腹縁の剥離位置など（第56図）個別に観察し、観察一覧を第40表に示し主な貝種を第63図に図示した。

貝種別にみるとヒメジャコ 104 点、シラナミが 40 点、リュウキュウサルボオ 32 点、メンガイ類 38 点と二枚貝有孔製品としてよく出土する貝種である。本品の平面分布を見ると 4409SX (Ⅳ・Ⅴ a 層) で 29 点と多く得られ、Ⅴb 層の出土分布をみると I18 で



第56図 二枚貝有孔製品観察部位

第38表 二枚貝有孔製品出土量

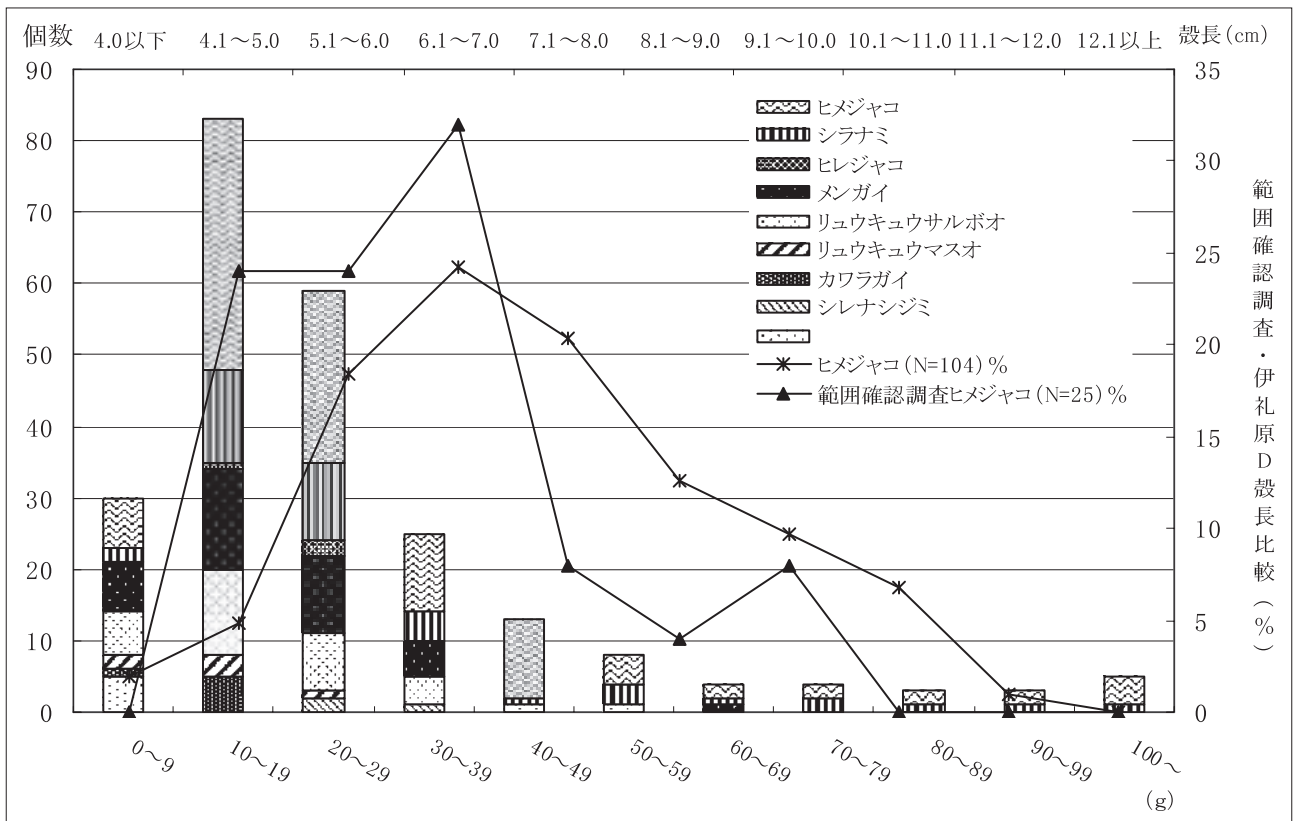
重量(g)	ヒメジャコ	ヒレジャコ	シラナミ	メンガイ	リュウキュウサルポオ	リュウキュウマスオ	その他	シレナジミ	カワラガイ	合計
0～9	7		2	7	6	2	5		1	30
10～19	35	1	13	14	12	3			5	83
20～29	24	2	11	11	8	1		2		59
30～39	11		4	5	4			1		25
40～49	11		1		1					13
50～59	4		3		1					8
60～69	2		1	1						4
70～79	2		2							4
80～89	2		1							3
90～99	2		1							3
100～	4		1							5
合計	104	3	40	38	32	6	5	3	6	237

5点、I17で7点、G18、H17で各6点、H18で12点と調査区南側に多く出土する傾向があり、土器の重量分布（第19図）と同じような出土状況を示す。

重量別（Vb層）の出土状況を見ると10～19gが83点、20～29gが59点と最も多く、0～9gが30点、30～39gが25点と小堀原遺跡と同様な傾向を示す（第57図棒グラフ）。前回の範囲確認調査ではくびれ平底土器が主体で、今回の調査区のI18 V b層では乳房尖底土器が主体であり、同一遺跡内でも主体土器が異なる。第39表に範囲確認調査（2008）と今回調査のヒメジャコの殻長のサイズとの比較を第57図にグラフ（折れ線）を示した。これによるとくびれ平底主体の製品のほうが、小さくなる傾向がみられる。

第39表 ヒメジャコ殻長比較（範囲確認・本調査）

遺跡	ヒメジャコ	範囲確認調査ヒメジャコ	ヒメジャコ(N=104) %	範囲確認調査ヒメジャコ(N=25) %
4.0以下	2	0	1.94	0
4.1～5.0	5	6	4.85	24.00
5.1～6.0	19	6	18.45	24.00
6.1～7.0	25	8	24.27	32.00
7.1～8.0	21	2	20.39	8.00
8.1～9.0	13	1	12.62	4.00
9.1～10.0	10	2	9.71	8.00
10.1～11.0	7	0	6.80	0.00
11.1～12.0	1	0	0.97	0.00
12.1以上	0	0	0	0.00
計測不可	1	0	0	0.00
合計	104	25	100	100



第57図 二枚貝有孔製品の重量分布と殻長比較

第40表－1 二枚貝有孔製品観察一覧

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	右 左	残 存	殻高 (cm)	殻長 (cm)	重量 (g)	孔縦 (cm)	孔横 (cm)	孔 位置	孔の 状況	穿孔 方向	孔形	腹縁	貝殻状態・他	出土地
第 63 図 ・ 図 版	43	949	ウチワガイ	左	完´	3.2	3.1	4.0	1.2	1.2	上中	複	内→外	方形	前中後マモウ	摩耗	I17 Ⅱ層 台 183
	44	948	ソメワケグリガイ	右	完	3.4	3.5	7.0	1.4	1.0	上中	複	内→外	不定形	前中後マモウ	色	K17 V b層 台 1990
	45	990	ホソスジイナミ	左	完	2.5	3.0	3.0	0.3	1.1	上中	複	内→外	楕円	×		I18 V b層 台 670
	46	982	リュウキュウシラトリ	左	完	2.5	3.2	2.0	0.6	0.6	上中	複	内→外	ヨコ楕円	前中	色○	H17 V b層 台 1031
	47	959	リュウキュウマスオガイ	左	完´	3.2	4.5	3.6	0.8	1.1	中前	複	内→外	ヨコ楕円	×	色○	F18 V b層カ 0737SK 台 1605
	48	500	リュウキュウサルボオ	左	完	3.3	4.7	14.2	1.2	1.3	上中	複	内→外	タテ楕円	後	色△	G17 V b層 台 4953
	49	932	カワラガイ	右	完	4.9	4.6	17.0	1.3	1.5	上中	単	内→外	円	×	摩耗△	D・G10～12 Ⅱ層 0008SF (ビーチロック道) 台 4653
	50	940	カワラガイ	右	完	4.2	4.5	14.0	1.0	0.7	上中	複	内→外	円	×	色	I18 V b層 台 1153
	51	783	メンガイ	左	完	6.4	5.7	32.0	1.4	1.4	上中	単	内→外	ヨコ楕円	右下マモウ	色△ヒモズレ	H17 Ⅲ層 台 936
	52	641	シラナミ	右	完	4.5	7.0	21.0	0.6	0.9	上前	複	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ		I18 V b層 台 721
	53	765	シラナミ	右	完	3.9	6.3	15.0	0.9	1.3	上中	複	内→外	楕円	後マモウ	ハクリ	E18 V b層カ 0790P 台 1156
	54	973	シレナシジミ	左	完	6.3	7.0	30.0	1.1	0.9	上中	複	内→外	方形	前下		C13 V b層 台 4718
図 ・ 図 版 な し	—	841	リュウキュウサルボウ	右	完	4.0	5.0	20.0	1.2	1.0	上後	複	内→外	不定形	×		G16 V b層 台 479
	—	842	リュウキュウサルボウ	右	完	4.5	6.7	28.0	1.0	0.8	殻頂	複	内→外	円	前中後マモウ		G17 Ⅲ層 台 912
	—	843	リュウキュウサルボウ	右	完	4.0	5.1	13.0	1.2	1.5	殻頂	複	内→外	ヨコ長	前中後マモウ	摩耗○	G17 Ⅲ層 台 829
	—	844	リュウキュウサルボウ	右	完´	3.6	5.0	11.0	1.3	1.8	殻頂	複	内→外	ヨコ楕円	×		D18 V b層 台 4618
	—	845	リュウキュウサルボウ	右	完	3.0	3.8	9.0	1.7	1.2	中後	複	内→外	不定形	×		I18 V b層 台 742
	—	846	リュウキュウサルボウ	右	完	4.6	6.8	31.0	1.0	0.9	上中	複	内→外	円	×		18 Ⅲ層 台 690
	—	847	リュウキュウサルボウ	右	完	4.2	5.5	40.0	1.0	1.0	上前	単	内→外	円	前中後マモウ	摩耗○	G18 Ⅲ層 台 658
	—	848	リュウキュウサルボウ	右	完	3.4	5.1	18.0	1.4	1.0	中後	複	内→外	ヨコ楕円	×		D18 V b層 台 4543
	—	849	リュウキュウサルボウ	右	完	4.5	6.5	34.0	0.7	0.7	殻頂	単	内→外	円	前中後マモウ		D15 Ⅱ層 台 759
	—	850	リュウキュウサルボウ	右	完	3.5	5.1	23.0	1.1	1.4	殻頂	複	内→外	不定形	前中後マモウ		H18 V b層 台 683
	—	851	リュウキュウサルボウ	右	完	4.2	7.0	35.0	0.5	0.5	殻頂	単	内→外	円	×		H18 V b層 台 719
	—	852	リュウキュウサルボウ	右	完´	3.3	—	14.0	1.4	0.6	殻頂	複	内→外	不定形	カット?	アバタ△	E16 V b層カ 0350SZ 台 946
	—	853	リュウキュウサルボウ	右	完´	3.5	4.4	12.0	3.5	4.4	上中	単	内→外	円	中		E18 Ⅱ層 台 435
	—	854	リュウキュウサルボウ	右	完	3.6	5.4	20.0	1.9	1.0	殻頂	複	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ		G18 Ⅲ層 台 604
	—	855	リュウキュウサルボウ	右	完	3.8	4.7	12.0	1.1	1.2	上中	単	内→外	ヨコ楕円	×		G17 Ⅲ層 台 925
	—	857	リュウキュウサルボウ	右	完	3.3	4.9	10.3	1.3	1.7	殻頂	単	内→外	円	後中欠		D18 V b層 台 883
	—	858	リュウキュウサルボウ	右	完	3.0	4.0	7.2	0.8	0.6	上中	複	内→外	タテ楕円	×		I18 Ⅲ層 台 690
	—	859	リュウキュウサルボウ	右	完	3.7	4.0	15.0	1.3	1.4	上中	単	内→外	楕円	前中後マモウ		G18 Ⅲ層 台 602
	—	860	リュウキュウサルボウ	右	完	2.8	4.1	8.0	1.0	0.7	殻頂	複	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ		I18 Ⅲ層 台 753
	—	891	リュウキュウサルボウ	左	完	3.7	4.9	14.4	0.8	1.0	殻頂	複	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ	風化△	K18 Ⅱ層 台 191
	—	892	リュウキュウサルボウ	左	完	4.5	5.3	27.0	1.0	0.7	上後	単	内→外	方形	前	石灰◎	B13 Ⅳ層 4409SX (4層) 台 4719
	—	893	リュウキュウサルボウ	左	完	2.8	3.3	6.5	1.0	0.9	上後	単	内→外	円	前中後マモウ		E17 Ⅲ層 台 561
	—	894	リュウキュウサルボウ	左	完	3.9	5.0	17.0	0.8	1.1	上中	複	内→外	方形	×		E15 Ⅲ層 台 800
	—	895	リュウキュウサルボウ	左	完	4.5	5.0	20.0	0.9	0.9	上中	複	内→外	円	前後	風化△	G18 Ⅱ層 台 349
	—	896	リュウキュウサルボウ	左	完	2.8	4.0	6.7	0.6	0.6	上中	単	内→外	円	後		I18 V b層カ 0495P 台 1214
	—	897	リュウキュウサルボウ	左	完´	4.8	6.4	31.0	1.2	1.0	上中	複	内→外	不定形	中後	風化△	E12 Ⅱ層 0586SZ 台 901
	—	898	リュウキュウサルボウ	左	完	4.3	5.5	23.0	0.9	0.8	上前	単	内→外	円	後		H17 V b層 台 677
	—	899	リュウキュウサルボウ	左	完´	3.6	4.2	13.0	1.0	0.8	上前	単	内→外	不定形	中後	色△	H17 Ⅱ層 台 338
	—	900	リュウキュウサルボウ	左	完	4.6	6.5	50.0	1.1	1.8	殻頂	単	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ	アバタ○	G17 V b層 台 543
	—	901	リュウキュウサルボウ	左	完	2.8	4.0	6.0	0.6	0.7	上中	複	内→外	楕円	×		I18 V b層 台 670
	—	902	リュウキュウサルボウ	左	完	4.6	5.8	23.0	1.6	1.3	上前	複	内→外	円	×		B12 V a層 4409SX 台 4642
	—	950	リュウキュウマスオガイ	左	完	4.5	7.0	18.0	1.2	1.2	上中	単	内→外	ヨコ楕円	×	色△	C17 Ⅱ層 台 4054
—	951	リュウキュウマスオガイ	右	完	4.9	6.7	21.0	1.4	1.3	上中	複	内→外	方形	×	色△	H18 V b層 台 554	
—	952	リュウキュウマスオガイ	左	完´	—	—	7.0	0.8	0.8	上中	単	内→外	円	×	色△	E18 V b層 0805P 台 1274	
—	953	リュウキュウマスオガイ	左	完	3.9	5.3	10.0	1.3	1.3	上中	複	内→外	円	×	色△	I17 V b層 台 707	
—	954	リュウキュウマスオガイ	右	完	4.4	6.8	14.0	1.4	1.2	上中	複	内→外	ヨコ楕円	×		H18 Ⅲ層 台 734	

「残存」：完´－ほぼ完形 「貝殻状態・他」：◎－強 ○－中 △－弱

第40表-2 二枚貝有孔製品観察一覧

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	右 左	残 存	殻高 (cm)	殻長 (cm)	重量 (g)	孔縦 (cm)	孔横 (cm)	孔 位置	孔の 状況	穿孔 方向	孔形	腹縁	貝殻状態・他	出土地
—	989	エガイ	左	完	2.8	4.3	5.0	0.7	1.0	上中	複	内→外	ヨコ楕円	×		H18 V b層 台 4687	
—	536	カワラガイ	右	完	4.5	4.2	11.0	0.6	0.6		単	内→外	円	上中		H16 V b層 台 5043	
—	931	カワラガイ	左	完	3.8	3.9	11.0	0.8	0.8	上中	単	内→外	円	前中	色△	H18 V b層 台 2039	
—	933	カワラガイ	左	完	4.1	4.0	11.0	1.0	0.6	上中	単	内→外	タテ楕円	前中後		B12 V a層 4409SX 台 4644	
—	934	カワラガイ	左	完	4.0	3.8	7.0	1.3	1.0	上中	複	内→外	不定形	後	風化△	I17 II層 台 184	
—	603	シラナミ	右	完	6.0	10.0	62.0	0.8	1.8	上前	複	内→外	不定形	×		H18 V b層 台 2033	
—	605	シラナミ	右	完'	3.7	6.4	11.0	0.9	1.8	上中	複	内→外	不定形	前中		G17 II層 台 316	
—	608	シラナミ	左	完	3.4	4.8	6.0	0.6	0.6	上前	単	内→外	円	×		I18 V b層 台 690	
—	614	シラナミ	右	完	7.2	10.2	78.0	1.4	1.0	上中	単	内→外	円	×		K17 II層 台 170	
—	621	シラナミ	右	完	2.8	4.6	5.0	0.6	0.9	上中	複	内→外	方形	前		I18 V b層 台 726	
—	624	シラナミ	右	完	4.2	5.5	12.0	1.1	1.7	上前	複	内→外	ヨコ楕円	前中後カット		H17 II層 台 338	
—	631	シラナミ	右	完	8.3	12.4	126.0	1.3	2.6	上中	複	内→外	ヨコ長	中		J18 V b層 台 708	
—	633	シラナミ	右	完	6.0	7.5	34.0	1.3	2.0	上中	複	内→外	ヨコ楕円	前マモウ		G15 V b層力 0350SZ 台 1038	
—	638	シラナミ	右	完	4.5	6.3	18.0	1.1	0.9	上前	複	内→外	ヨコ楕円	×		C13 IV層 4409SX (2層) 台 4573	
—	643	シラナミ	右	完	5.0	8.2	30.0	1.2	0.9	上中前	複	内→外	ヨコ楕円	×	へビ○	H16 II層 台 237	
—	646	シラナミ	右	完	4.2	6.1	17.0	1.2	1.3	上中	単	内→外	円	前中後マモウ		J17 V b層 台 324	
—	650	シラナミ	右	完	4.0	5.6	13.0	0.7	0.7	上中	単	内→外	円	×		G18 V b層力 0673SK 台 1877	
—	651	シラナミ	右	完	4.4	—	13.0	2.0	1.1	上中	複	内→外	不定形	前カット		I18 V b層 台 451	
—	660	シラナミ	右	完	4.3	6.0	21.0	3.0	2.6	上中前	単	内→外	不定形	前中後マモウ		K18 V b層 台 2021	
—	662	シラナミ	右	完	6.4	8.5	58.0	1.2	1.0	上前	単	内→外	方形	前中後マモウ	風化△	不明	
—	668	シラナミ	右	完	4.6	7.2	22.0	1.6	1.4	上前	単	内→外	円	×	色△	G18 V b層力 0631SK 台 1414	
—	670	シラナミ	右	完	5.6	8.8	35.0	1.6	1.3	上前	複	内→外	不定形	×		G17 II層 台 411	
—	671	シラナミ	右	完	5.3	8.5	28.0	1.8	1.5	中前	複	内→外	不定形	×		E15 II層 台 796	
—	675	シラナミ	左	完	5.5	7.8	27.0	0.8	0.7	上前	複	内→外	不定形	×		I18 V b層 台 1987	
—	678	シラナミ	左	完	7.2	10.8	71.0	2.4	1.4	上前	複	内→外	不定形	×		J18 V b層力 0513SK 台 1458	
—	682	シラナミ	左	完	7.8	9.8	92.0	2.1	1.2	上前	単	内→外	不定形	前中後カット	アバタ◎	H18 II層 台 420	
—	684	シラナミ	左	完	3.7	5.7	13.0	1.0	0.7	中中	単	内→外	方形	×	色△	I18 V b層 台 670	
—	688	シラナミ	左	完	4.6	7.2	24.0	1.7	1.0	上前	複	内→外	不定形	前中後	色△	H17 V b層 台 723	
—	697	シラナミ	左	完	4.6	7.4	22.0	2.2	1.5	上前	複	内→外	不定形	前中後マモウ	風化△	G18 II層 台 311	
—	713	シラナミ	左	完	5.0	7.5	31.0	0.7	0.5	上中	単	内→外	円	前		I17 II層 台 184	
—	714	シラナミ	左	完	6.0	10.2	56.0	1.3	1.5	上中	単	内→外	ヨコ楕円	×		D16 V b層力 0350SZ 台 967	
—	715	シラナミ	左	完	4.7	7.5	24.0	1.3	0.9	中中		内→外	タテ楕円	後		K18 V b層力 0156P 台 1289	
—	723	シラナミ	左	完	6.8	10.6	83.0	2.6	1.9	上前	複	内→外	不定形	前中後マモウ	摩耗△	D17 II層 台 4044	
—	724	シラナミ	左	完	5.9	10.6	57.0	1.1	2.6	上前	複	内→外	不定形	×	へビガイ	G18 II層 台 349	
—	728	シラナミ	左	完'	7.2	8.4	48.0	2.2	2.4	上前	複	内→外	方形	前後マモウ		B12 IV層 4409SX (2層) 台 4569	
—	730	シラナミ	左	完	4.5	7.2	21.0	1.0	1.5	上中	複	内→外	不定形	×	風化△	I18 V b層 台 670	
—	732	シラナミ	左	完	4.3	7.2	20.0	0.8	0.8	上中	複	内→外	不定形	前×	色△	I18 V b層 台 690	
—	734	シラナミ	左	完	4.6	7.5	25.0	20.0	1.5	上前	複	内→外	円	中後欠	色△	G18 V b層力 0659SK 台 1518	
—	735	シラナミ	左	完	3.7	5.5	12.0	0.9	1.1	中中	複	内→外	円	前中後マモウ	摩 耗 △ 土方ハクリ	F18 III層 台 606	
—	737	シラナミ	左	完	3.7	6.0	12.0	1.6	1.0	上前	複	内→外	ヨコ楕円	×	色△	J17 II層 台 164	
—	754	シラナミ	左	完'	4.3	5.5	15.0	1.3	1.1	上中	単	白	不定形	前後	風化◎	G18 III層 台 604	
—	761	シラナミ	左	完	3.5	6.5	13.0	1.4	0.8	上中	複	内→外	不定形	×		I17 V b層力 0355P 台 1889	
—	763	シラナミ	右	完'	4.5	5.6	13.0	0.7	0.9	上中	複	内→外	不定形	×		F17 V b層力 0777SK 台 1597	
—	972	シレナシジミ	左	完	5.6	5.3	22.0	1.7	1.1	上中	複	内→外	タテ楕円	前中後	風化△	C13 IV層 4409SX (1層) 台 4557	
—	974	シレナシジミ	右	完	6.5	5.8	25.0	1.7	1.7	上中	単	内→外	楕円	×	色△	G17 II層 台 316	
—	373	ヒメジャコ	左	完	4.2	6.2	15.0	0.6	0.6	上中	複	内→外	円	前		I18 V b層 台 5007	
—	374	ヒメジャコ	右	完	7.2	10.8	88.0	10.8	1.8	上前	複	内→外	不定形	前中後カット	石灰付着	C12 V a層 4409SX 台 5089	
—	376	ヒメジャコ	左	完	6.8	9.3	55.0	1.5	2.3	中中	複	内→外	ヨコ楕円	前	色○	I18 V b層 台 5007	

図・図版なし

「残存」：完' - ほぼ完形 「貝殻状態・他」：◎ - 強 ○ - 中 △ - 弱

第40表－3 二枚貝有孔製品観察一覧

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	右 左	残 存	殻高 (cm)	殻長 (cm)	重量 (g)	孔縦 (cm)	孔横 (cm)	孔位 置	孔の 状況	穿孔 方向	孔形	腹縁	貝殻状態・他	出土地
図・ 図版 なし	—	394	ヒメジャコ	右	完	4.8	6.8	21.0	1.0	1.5	上前	複	内→外	ヨコ楕円	後△		I18 V b層 台 5007
	—	601	ヒメジャコ	右	完	4.1	5.9	15.0	0.8	0.7	上前	単	内→外	円	×		G18 Ⅲ層 台 604
	—	602	ヒメジャコ	右	完	4.3	5.5	15.0	0.5	0.6	上前	単	内→外	円	前中後マモウ		H18 V b層 台 718
	—	604	ヒメジャコ	右	完	5.3	7.2	29.0	1.8	1.9	上中	複	内→外	不定形	前中後マモウ		J17 V b層 台 1495
	—	606	ヒメジャコ	右	完	4.8	7.4	23.0	1.4	1.9	中中	複	内→外	不定形	後マモウ		I18 V b層 台 1299
	—	607	ヒメジャコ	左	完	6.0	3.6	12.0	1.2	0.6	上前	複	内→外	ヨコ楕円	×		I18 V b層 台 690
	—	609	ヒメジャコ	右	完	3.7	5.3	11.0	0.6	0.5	上	単	内→外	円	×		I18 V b層 台 690
	—	610	ヒメジャコ	左	完	5.5	7.4	37.0	2.9	1.3	上前	複	内→外	不定形	前中後マモウ		I18 V b層 台 690
	—	611	ヒメジャコ	左	完	5.8	8.1	36.0	1.2	1.1	上	複	内→外	円	前中後マモウ		I18 V b層 台 690
	—	612	ヒメジャコ	右	完	4.5	6.6	24.0	1.2	1.0	上中	単	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ		G18 Ⅲ層 台 604
	—	613	ヒメジャコ	右	完	5.1	6.7	29.0	1.3	1.0	上前	複	内→外	方形	前中後マモウ		G18 Ⅲ層 台 604
	—	615	ヒメジャコ	左	完	5.6	7.8	36.0	1.6	0.7	上前	単	内→外	ヨコ楕円	前中後		H17 Ⅱ層 台 338
	—	616	ヒメジャコ	左	完	4.5	3.3	8.0	1.0	1.2	中前	複	内→外	円	前中後カット		I17 Ⅲ層 台 263
	—	617	ヒメジャコ	右	完	6.0	8.4	36.0	—	1.2	上前	単	内→外	—	前中後マモウ		I18 V b層 台 728
	—	618	ヒメジャコ	右	完	6.5	10.7	72.0	2.8	3.5	上中	単	内→外	ヨコ長	中		K18 V b層 台 2021
	—	619	ヒメジャコ	右	完	4.3	6.1	18.0	0.9	1.5	上中	単	内→外	ヨコ楕円	中後マモウ		I18 V b層 台 670
	—	620	ヒメジャコ	右	完	5.5	8.0	32.0	0.8	1.8	上前	単	内→外	方形	中後		I18 V b層 台 670
	—	622	ヒメジャコ	右	完	8.2	12.0	146.0	1.8	2.5	上前	複	内→外	ヨコ長	中後	上方ハクリ	I18 V b層 台 458
	—	623	ヒメジャコ	右	完	3.8	5.0	7.0	1.0	1.2	上前	複	内→外	方形	中後マモウ?		K18 V b層力 0230P 台 1310
	—	625	ヒメジャコ	右	完	5.8	8.8	32.0	1.2	2.0	上中	複	内→外	不定形	×	風化△	B13 Ⅳ層 4409SX (4層) 台 4719
	—	626	ヒメジャコ	右	完	4.7	7.0	18.0	1.1	2.1	上中	複	内→外	不定形	×		J17 V b層 台 1499
	—	627	ヒメジャコ	右	完	5.7	7.4	36.0	1.8	2.2	上中	単	内→外	円	前中後マモウ	風化△	H17 Ⅲ層 台 261
	—	628	ヒメジャコ	右	完	4.4	5.6	12.0	1.0	1.5	上中	複	内→外	ヨコ楕円	×		B13 Ⅳ層 4409SX (4層) 台 4719
	—	629	ヒメジャコ	右	完	—	5.3	8.0	—	0.8	上中	単	内→外	—	×	色△	H18 V b層 台 2020
	—	630	ヒメジャコ	右	完	4.4	6.5	16.0	1.0	1.0	上前	複	内→外	円	前中後マモウ	色△	J17 V b層 台 630
	—	632	ヒメジャコ	右	完	5.2	6.8	25.0	2.8	1.7	中前	複	内→外	ヨコ楕円	前中後カット	風化	B13 Ⅳ層 4409SX (2層) 台 4586
	—	634	ヒメジャコ	右	完	7.0	10.2	82.0	1.2	1.8	上前	複	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ		G17 Ⅲ層 台 912
	—	635	ヒメジャコ	右	完	6.1	9.1	43.0	1.2	1.4	上前	複	内→外	タテ長	後		E12 Ⅲ層 台 901
	—	636	ヒメジャコ	右	完	4.4	6.6	18.0	1.2	2.1	上中	複	内→外	不定形	前中後マモウ	風化△	J17 V b層力 取47 1090P X:35929.104 Y:25729.198 Z:2.967 台 1615
	—	639	ヒメジャコ	右	完	4.4	6.7	22.0	1.0	1.0	上前	複	内→外	不定形	前マモウ		I17 V b層力 0533P 台 1481
	—	640	ヒメジャコ	右	完	3.7	5.2	10.0	1.0	0.9	上前	複	内→外	円	×		B12 Ⅳ層 4409SX (2層) 台 4569
	—	642	ヒメジャコ	右	完	7.5	10.0	96.0	1.4	1.6	上中	複	内→外	不定形	×	風化	E18 V b層力 0803P 台 1324
	—	644	ヒメジャコ	右	完	5.7	7.8	41.0	1.3	2.3	上前	単	内→外	ヨコ長	前中後マモウ		I18 V b層 台 1987
	—	645	ヒメジャコ	右	完	4.2	6.0	18.0	0.9	0.7	上前	単	内→外	円	中		G18 Ⅲ層 台 658
	—	647	ヒメジャコ	右	完	3.6	5.5	10.0	1.5	1.0	上前	単	内→外	不定形	前中後マモウ		I18 V b層 台 690
	—	648	ヒメジャコ	右	完	5.5	8.0	24.0	1.4	1.4	中中	複	内→外	円	×		E18 Ⅱ層 台 840
	—	649	ヒメジャコ	右	完	4.6	6.5	19.0	0.7	0.9	上中	複	内→外	不定形	前	風化△	F17 Ⅲ層 台 686
	—	652	ヒメジャコ	右	完	4.6	6.3	17.0	0.7	0.9	上中	単	内→外	方形	中後カット	風化△	G18 Ⅲ層 台 658
	—	653	ヒメジャコ	右	完	4.3	5.1	12.0	0.9	0.6	上前			ヨコ楕円	前中後カット		F18 Ⅲ層 台 717
	—	654	ヒメジャコ	右	完	3.8	5.5	12.0	0.7	0.8	上中	単	内→外	不定形	×		H18 V b層 台 683
	—	655	ヒメジャコ	右	完	7.8	11.0	102.0	2.4	1.6	上前	複	内→外	不定形	前中後マモウ		J17 Ⅱ層 台 164
	—	656	ヒメジャコ	右	完	4.8	6.9	19.0	2.1	1.3	上前	複	内→外	不定形	×		F18 Ⅲ層 台 817
	—	657	ヒメジャコ	右	完	3.2	4.7	7.0	1.2	0.9	上前	単	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ		G18 Ⅱ層 台 349
	—	658	ヒメジャコ	右	完	4.8	7.0	23.0	0.9	0.8	上前	複	内→外	円	前中後マモウ		H18 Ⅲ層 台 620
	—	659	ヒメジャコ	右	完	6.5	10.0	69.0	1.0	1.4	上中	単	内→外	ヨコ楕円	×		G17・F16.17 V b層 0656SS 台 1064
	—	661	ヒメジャコ	右	完	5.6	6.8	23.0	1.9	1.1	上前	複	内→外	不定形	前中後カット		J17 V b層力 0295SK 台 1908
—	663	ヒメジャコ	右	完	5.4	8.2	32.0	2.0	1.0	上前	複	内→外	ヨコ楕円	×		C17 V b層力 4419P 台 4550	
—	664	ヒメジャコ	右	完	5.8	6.8	28.0	0.9	1.0	上前	複	内→外	円	前中後カット	風化△	D18 V b層 台 857	

「残存」：完´—ほぼ完形 「貝殻状態・他」：◎—強 ○—中 △—弱

第40表－4 二枚貝有孔製品観察一覧

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	右 左	残 存	殻高 (cm)	殻長 (cm)	重量 (g)	孔縦 (cm)	孔横 (cm)	孔位 置	孔の 状況	穿孔方 向	孔形	腹縁	貝殻状態・他	出土地
図・ 図版 なし	—	665	ヒメジャコ	右	完	4.1	6.0	15.0	1.5	0.8	上前	複	内→外	不定形	×		I18 V b層 台 1987
	—	666	ヒメジャコ	右	完	5.7	8.2	41.0	2.0	1.6	上前	複	内→外	円	前中後マモウ	風化△	E13 Ⅱ層 台 862
	—	667	ヒメジャコ	右	完	5.2	7.3	33.0	2.0	1.3	上中	複	内→外	不定形	×		H17 V b層 台 4668
	—	669	ヒメジャコ	右	完	4.6	7.2	22.0	0.8	0.6	上前	複	内→外	円	前中後マモウ		H17 V b層カ 1010P 台 1805
	—	672	ヒメジャコ	左	完	5.1	8.0	24.0	2.3	1.5	上中	複	内→外	不定形	×		E18 V b層カ 0798SK 台 1323
	—	673	ヒメジャコ	左	完	6.3	9.3	42.0	1.8	1.1	上前	複	内→外	ヨコ楕円	×		H17 Ⅱ層 台 920
	—	674	ヒメジャコ	左	完	4.8	7.3	21.0	2.1	1.6	上中	単	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ		J17 V b層 台 266
	—	676	ヒメジャコ	右	完	4.4	5.5	16.0	0.7	0.6	上前	単	内→外	円	前カット・マモウ		G17 Ⅲ層 台 825
	—	680	ヒメジャコ	左	完	3.9	5.3	11.0	1.0	0.9	上中	複	内→外	方形	前中後マモウ		I18 V b層 台 726
	—	681	ヒメジャコ	左	完	4.6	7.4	22.0	1.0	0.7	上前	複	内→外	方形	前中後マモウ		I17 V b層カ 0410SZ 台 1574
	—	683	ヒメジャコ	左	完	4.2	5.8	11.0	0.7	0.6	上前	複	内→外	円	中後マモウ	風化△	H18 Ⅲ層 台 734
	—	685	ヒメジャコ	左	完	4.7	6.5	21.0	1.5	1.2	上前	複	内→外	方形	前中後マモウ	色△	I18 V b層 台 319
	—	686	ヒメジャコ	左	完	3.7	6.0	16.0	1.0	0.9	上前	単	内→外	方形	前中後カット	色△	G18 Ⅲ層 台 604
	—	687	ヒメジャコ	左	完	2.9	5.8	9.0	1.5	0.7	上中	複	内→外	不定形	×	色△	G17 Ⅲ層 台 825
	—	689	ヒメジャコ	左	完	3.7	5.6	10.0	0.9	0.8	上前	複	内→外	不定形	前中後マモウ		H18 Ⅲ層 台 734
	—	690	ヒメジャコ	左	完	6.3	8.5	42.0	2.1	1.3	上前	複	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ	風化△	H18 V b層 台 2039
	—	691	ヒメジャコ	左	完	5.5	8.2	48.0	1.3	0.9	上後	複	内→外	不定形	前中後マモウ	風化◎	G18 V b層カ 0626P 台 1745
	—	692	ヒメジャコ	左	完	7.2	10.4	90.0	2.4	2.3	上前	複	内→外	円	×	風化△	G16 V b層カ 0350SZ 台 982
	—	693	ヒメジャコ	左	完	6.8	8.9	49.0	3.2	1.2	上中	複	内→外	不定形	前中後マモウ	アバタ◎	B13 Ⅳ層 4409SX (1層) 台 4565
	—	694	ヒメジャコ	左	完	6.5	8.5	47.0	1.5	1.5	上前	複	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ	アバタ△	G18 Ⅲ層 台 604
	—	695	ヒメジャコ	左	完	5.7	8.6	36.0	1.6	1.2	上後	複	内→外	不定形	×	色△	H16 Ⅱ層 台 237
	—	696	ヒメジャコ	左	完	4.8	7.3	14.0	1.8	1.5	上中	複	内→外	タテ楕円	後	色△	J17 Ⅱ層 台 1490
	—	698	ヒメジャコ	左	完	6.6	9.2	59.0	1.5	1.5	上中	複	内→外	方形	前中後マモウ	風化△	E9 Ⅲ層 台 971
	—	699	ヒメジャコ	左	完	6.7	9.5	56.0	1.8	2.6	中中	複	内→外	楕円	前後	色△	I17 V b層 台 2050
	—	700	ヒメジャコ	左	完	4.8	7.0	21.0	0.6	0.8	上前	複	内→外	円	前中後カット	風化△	B13 Ⅳ層 4409SX (1層) 台 4565
	—	701	ヒメジャコ	左	完	5.4	7.8	27.0	1.8	2.1	上中	複	内→外	不定形	×		B12 Ⅳ層 4409SX (2層) 台 4569
	—	702	ヒメジャコ	左	完	4.3	6.5	17.0	0.7	1.4	上中	単	内→外	不定形	×		K17 V b層 台 2029
	—	703	ヒメジャコ	左	完	3.2	4.5	7.0	0.5	0.3	中中	複	内→外	ヨコ楕円	×	風化△	H18 V b層 台 2020
	—	704	ヒメジャコ	左	完	5.6	8.0	31.0	1.6	2.4	上中	複	内→外	ヨコ楕円	×	風化△	H17 Ⅲ層 台 936
	—	705	ヒメジャコ	左	完	6.0	8.3	42.0	1.2	1.1	上前	複	内→外	円	前中後マモウ	色△	F16 V b層カ 1051SK 台 1617
	—	706	ヒメジャコ	左	完	4.3	6.0	16.0	1.1	1.3	上中	複	内→外	ヨコ楕円	後		G18 V b層カ 0627SK 台 1630
	—	708	ヒメジャコ	左	完	5.1	6.5	26.0	1.2	0.6	上前	複	内→外	ヨコ楕円	中	風化	H18 V b層 台 2041
	—	709	ヒメジャコ	左	完	5.0	7.5	20.0	0.8	1.3	上中	複	内→外	ヨコ楕円	中		I17 Ⅱ層 台 184
	—	710	ヒメジャコ	左	完	3.5	5.0	10.0	0.9	1.1	上中	複	内→外	不定形	前中		H18 Ⅲ層 台 613
	—	711	ヒメジャコ	左	完	6.3	9.0	40.0	1.4	2.3	中中	単	内→外	ヨコ楕円	前	風化△	B13 Ⅳ層 4409SX (1層) 台 4565
	—	716	ヒメジャコ	左	完	5.0	—	15.0	0.6	0.7	上前	単	内→外	円丁寧	前中カット	風化△	I18 V b層カ 0555P 台 1118
	—	718	ヒメジャコ	左	完	3.1	4.7	6.0	0.8	0.6	上中	複	内→外	ヨコ楕円	×		F16 Ⅱ層 台 358
	—	719	ヒメジャコ	左	完	4.9	7.2	21.0	2.2	1.3	中前	複	内→外	不定形	×	風化△	J18 V b層 台 326
	—	721	ヒメジャコ	左	完	5.8	9.1	47.0	2.4	1.3	上中	単	内→外	不定形	中後マモウ	風化△	H18 Ⅲ層 台 734
	—	722	ヒメジャコ	左	完	4.9	7.1	23.0	1.3	1.0	上中	単	内→外	円	後	色△	J17 V b層 台 1498
—	725	ヒメジャコ	左	完	8.2	11.0	114.0	1.8	1.3	上前	単	内→外	方形	前中後マモウ	色△	G18 Ⅲ層 台 604	
—	726	ヒメジャコ	左	完	—	6.9	15.0	—	1.3	上中	複	内→外	不定形	×		K16 V b層カ 0160SZ 台 1132	
—	727	ヒメジャコ	左	完	7.5	9.8	56.0	1.4	2.2	上前	複	内→外	不定形	×	風化△	C13 Ⅳ層 4409SX (4層) 台 4723	
—	729	ヒメジャコ	左	完	8.4	10.8	128.0	3.6	2.3	中後	複	内→外	不定形	前中後マモウ	風化△	B12 V a層 4409SX 台 4710	
—	731	ヒメジャコ	左	完	4.9	7.5	28.0	1.7	2.6	上中	複	内→外	不定形	後マモウ	風化△	H17 Ⅲ層 台 974	
—	733	ヒメジャコ	左	完	4.6	6.9	19.0	1.8	1.4	上前	複	内→外	不定形	中後マモウ		I18 V b層 台 670	
—	736	ヒメジャコ	右	完	6.9	8.6	70.0	2.0	1.3	上前	複	内→外	ヨコ楕円	前カット	色△	I16 Ⅱ層 台 144	
—	738	ヒメジャコ	左	完	7.0	9.7	64.0	1.5	1.0	上前	複	内→外	方形	前中後マモウ	風化○ハクリ◎	I17 V b層 台 504	

「残存」：完′－ほぼ完形 「貝殻状態・他」：◎－強 ○－中 △－弱

第40表－5 二枚貝有孔製品観察一覧

第図 図版	図番 号	製品 番号	貝種	右左	残存	殻高 (cm)	殻長 (cm)	重量 (g)	孔縦 (cm)	孔横 (cm)	孔位 置	孔の 状況	穿孔方 向	孔形	腹縁	貝殻状態・他	出土地
—	739	ヒメジャコ	左	完	3.9	6.2	13.0	1.0	0.7	上前	複	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ		J18 V b層 台 326	
—	740	ヒメジャコ	左	完´	4.8	6.5	19.0	0.9	1.0	上中	複	内→外	円	後×	色△	I16 II層 台 144	
—	741	ヒメジャコ	左	完	4.2	5.6	11.0	1.6	0.9	上前	複	内→外	横楕円	前中カット	摩耗△	G17 V b層力 1122SK 台 1865	
—	742	ヒメジャコ	左	完	4.5	6.1	16.0	0.8	0.7	上前	複	内→外	円	前中後マモウ	色△	G18 V b層力 0660SK 台 1942	
—	744	ヒメジャコ	右	完´	—	7.3	28.0	—	0.7	中中	複	内→外		前中後マモウ		K17 V b層 台 1967	
—	679	ヒレジャコ	左	完	5.1	6.8	24.0	0.7	0.7	上前	複	内→外	円	前中後マモウ	色○	I17 V b層 台 705	
—	707	ヒレジャコ	左	完	4.6	5.8	19.0	0.9	0.8	上前	複	内→外	円	前中後マモウ	色△	I18 V b層 台 334	
—	717	ヒレジャコ	左	完	5.6	7.4	29.0	1.6	1.1	上前	複	内→外	ヨコ楕円	前中後マモウ	上方ハクリ	B13 IV層 4409SX (2層) 台 4586	
—	440	メンガイ	左	完	3.6	3.6	4.0	0.8	0.8	上中	単	内→外	方形	前中後△		B13 V a層 4409SX 台 5089	
—	781	メンガイ	左	完	6.0	5.7	20.0	1.5	1.0	上左	複	内→外	タテ楕円	左下		B13 IV層 4409SX (4層) 台 4719	
—	782	メンガイ	左	完	4.3	3.5	5.6	0.7	0.6	上中	単	内→外	円	右下	風化△ 色○→2つある	K17 V b層 台 1990	
—	784	メンガイ	左	完´	—	4.0	6.2	1.5	1.5	上中	単	内→外	円	左下		C13 IV層 4409SX (2層) 台 4573	
—	785	メンガイ	左	完	7.2	6.3	21.0	1.0	0.7	上中	複	内→外	タテ楕円	右下	色△	H18 III層 台 727	
—	786	メンガイ	右	完	6.0	5.0	24.0	1.1	1.8	上中	単	内→外	ヨコ楕円	左右下マモウ	色△アバタ△	H18 III層 台 620	
—	787	メンガイ	左	完	6.1	6.1	20.0	1.3	1.6	上中	単	内→外	ヨコ楕円	左右下マモウ		H17 III層 台 936	
—	788	メンガイ	右	完	4.0	4.2	6.0	1.1	0.9	上中	単	内→外	タテ楕円	左右下		H17 III層 台 380	
—	789	メンガイ	左	完	6.2	5.9	30.0	1.1	1.3	上中	単	内→外	ヨコ楕円	左右下マモウ	アバタ△	B13 IV層 4409SX 台 4586	
—	790	メンガイ	左	完	4.5	4.2	11.0	0.7	0.7	上中	単	内→外	円	上下左右マモウ	色△	K17 II層 台 170	
—	791	メンガイ	左	完	2.7	2.5	2.9	0.7	0.7	上中	単	内→外	円	左下	色△	C12 IV層 4409SX (4層) 台 4697	
—	792	メンガイ	左	完	6.2	5.6	28.0	1.5	1.1	上左	複	内→外	不定形	左右下マモウ	色△アバタ△	H17 V b層 台 4668	
—	794	メンガイ	左	完	5.7	—	15.0	0.9	1.1	上中	単	内→外	タテ楕円	右	風化△	G17 II層 台 316	
—	795	メンガイ	左	完	6.1	6.6	23.0	1.6	1.5	上中	複	内→外	不定形	左右下マモウ	色△	J17 V b層力 0298P 台 1968	
—	796	メンガイ	右	完	6.8	5.8	23.0	1.5	1.5	上中	単	内→外	円	左右下マモウ		F17 II層 台 390	
—	797	メンガイ	左	完	5.8	4.5	19.0	1.2	1.4	上中	単	内→外	円	左右下マモウ		C12 IV層 4409SX (3層) 台 4632	
—	798	メンガイ	右	完	9.0	7.0	64.0	2.2	1.8	上中	複	内→外	不定形	左右下マモウ	色△	I17 V b層 台 471	
—	799	メンガイ	左	完	6.2	5.6	18.0	1.7	1.6	上中	単	内→外	方形	×	色△	H18 III層 台 734	
—	800	メンガイ	左	完	3.7	3.2	3.1	0.9	0.7	上中	単	内→外	ヨコ楕円	×	色△	K18 V b層 台 2021	
—	801	メンガイ	左	完	5.6	4.8	20.0	1.6	1.4	上中	単	内→外	円	左右下マモウ	色△	J17 V b層 台 1500	
—	802	メンガイ	左	完	6.2	4.8	18.0	1.6	1.3	上左	単	内→外	タテ楕円	左右下マモウ	色△	H17 III層 台 936	
—	803	メンガイ	左	完	6.6	6.2	26.0	2.0	1.1	上左	単	内→外	方形	×	色△	I18 V b層 台 1987	
—	804	メンガイ	左	完	7.5	6.7	38.0	1.3	1.6	上中	複	内→外	ヨコ楕円	左	色△アバタ△	K16 II層 台 132	
—	805	メンガイ	左	完	5.1	5.1	11.0	1.6	1.6	中中	単	内→外	タテ楕円	左下		E16 V b層力 0350SZ 台 946	
—	806	メンガイ	左	完	7.7	7.2	36.0	5.2	4.3	中中	単	内→外	円	左右		I18 V b層 台 444	
—	807	メンガイ	左	完´	5.0	4.8	14.0	1.7	1.5	上左	複	内→外	方形	左	風化△	B12 IV層 4409SX (2層) 台 4569	
—	809	メンガイ	左	完´	6.2	6.5	17.0	3.3	3.5	上中	単	内→外	円	×	色○	J17 V b層 台 1624	
—	812	メンガイ	左	完	6.9	5.6	25.0	2.1	2.2	上中	単	内→外	円	×	アバタ○	J17 V b層 台 1489	
—	814	メンガイ	左	完	5.5	5.2	13.0	1.7	2.0	上中	単	内→外	方形	中○	アバタ色△	H16 II層 台 237	
—	815	メンガイ	左	完	5.9	5.8	19.0	1.9	2.2	上中	単	内→外	ヨコ楕円	右	風化△	H17 II層 台 920	
—	816	メンガイ	左	半	6.1	5.7	19.0	2.0	2.2	上中	複	内→外	不定形	左	アバタ◎	C13 IV層 4409SX (4層) 台 4723	
—	817	メンガイ	左	完´	5.5	4.8	13.0	1.1	1.3	上中	単	内→外	方形	左右下マモウ	色△	B12 IV層 4409SX (1層) 台 4559	
—	818	メンガイ	左	完´	6.8	6.3	29.0	2.7	2.9	上中	単	内→外	円	左右下	風化△アバタ	C12 V a層 4409SX 台 4632	
—	819	メンガイ	左	完´	5.2	4.7	14.0	1.2	1.4	上中	単	内→外	方形	左右下マモウ	アバタ△色△	B13 IV層 4409SX (1層) 台 4568	
—	822	メンガイ	左	完´	6.9	5.5	39.0	2.4	2.8	上中	単	内→外	円	左右	風化○	J17 II層 台 164	
—	824	メンガイ	左	完	7.0	6.2	23	4.2	4.0	中中	単	内→外	円	マモウ	アバタ○	J17 II層 台 1488	
—	828	メンガイ	右	完´	5.0	4.2	10.0	2.0	1.6	上中	複	内→外	不定形	×	風化○	H17 III層 台 936	
—	830	メンガイ	左	完´	4.9	4.0	7.0	2.3	1.4	上左	単	内→外	タテ楕円	×	風化△色○	K16 V b層力 0160SZ 台 1132	

図・図版なし

「残存」：完´－ほぼ完形 「貝殻状態・他」：◎－強 ○－中 △－弱

7. 二枚貝研磨製品

図55はシレナシジミで貝殻の縁を研磨したもので、前背縁～蝶番～後背縁にかけて、平らに研磨され、研磨面は明瞭である。また、腹縁部分は2面の研磨で丸味を帯びる。外殻面はシレナシジミの特徴である大小のクレーターが顕著に見られることから、実用的な要素が高い。殻高7.0cm、殻長7.2cmと大きい方である。D10 II層（0586SZ）の出土で、所属時期は不明である。

<穿孔貝>

図版39にオニコブシ、イトマキボラ、クモガイ、チョウセンサザエ、マガキガイなどの巻き貝に穿孔されているものでマガキガイ以外は粗い打ち割りで、食するためと思われる。マガキガイはきれいな楕円の孔であるが、研磨痕などは確認できず、自然か人工か判断できない。製品の可能性が低いため、資料の提示にとどめ、今後の資料の追加を待ちたい。第41表に観察一覧を示した。



図版39 穿孔貝

第41表 穿孔貝観察一覧

図版	図版番号	製品番号	貝種	残存	縦 (cm)	横 b (cm)	観察事項	貝殻の状態	出土地
図版39	①	1005	オニコブシ	半欠	-	-	殻軸・体層欠、孔3カ所、自然か？あーマン	風化	G12 II層 0008SF 台108
	②	1009	オニコブシ	完	8.9	1.5×1.5	背面穿孔、孔は円。	色残、アバタ細	H18 III層 台613
	③	1006	イトマキボラ	半欠	-	1.4×1.3	螺旋欠、背面穿孔、腹面及び殻軸欠。	風化	B13 IV層 4409SX (3層) 台4638
	④	1008	クモガイ	半欠	-	0.9×1.0	袖部一欠、腹面孔、方形。	風化	E13 II層 0586SZ 台904
	⑤	1007	チョウセンサザエ	半欠	-	-	背面欠-自然。	色残	G17・F16・17 V b層 0656SS 台1069
	⑥	1003	マガキガイ	完	5.2	1.3×1.2	体層部の殻口近くに孔。他に加工なし。孔に打割調整なし。自然か？	風化	E15 V b層カ 0350SZ 台959

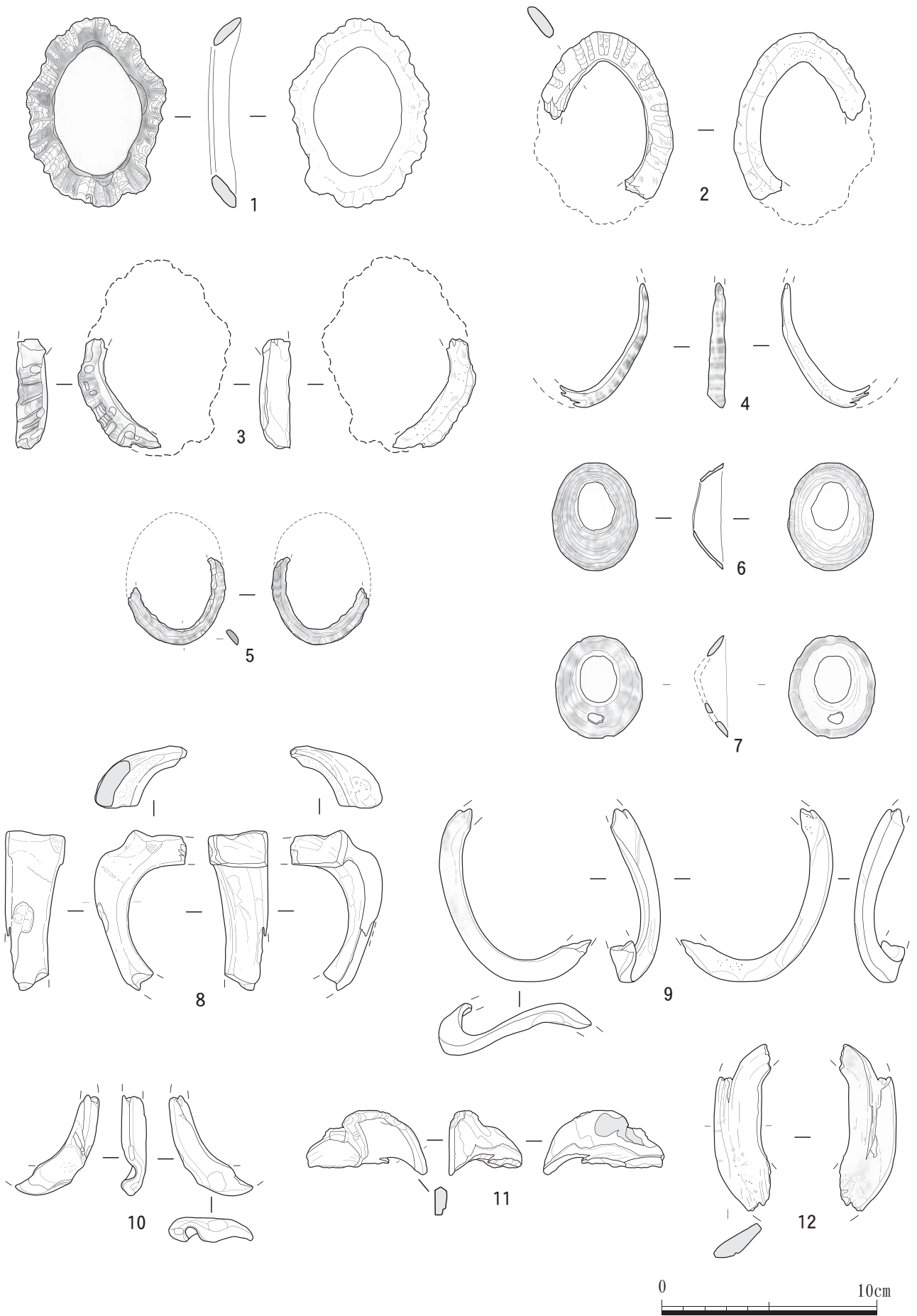
まとめ

貝製品の中には、ホラガイ有孔製品のようにヘビガイやゴカイが付着していることから、製品使用後、一定期間、海底だった可能性が高い資料がある。

沖縄諸島で生息しないとするオオツタノハの貝輪が本遺跡でも4点得られ、また、貝交易の対象とされるゴホウラの腹面型が得られている。その素材であるゴホウラについてヘビガイを除去する工程を示す資料が確認され、死貝を採取して、加工していたことがわかる。

ヤコウガイの匙は従来、貝塚時代後期に一般的に製作されていた背面型とグスク期～近世に出土する腹面型があり、腹面型は出土地からグスク期のものと判断される。また、ヤコウガイは貝匙以外にホラガイ製有孔製品のような容器として利用していたことが明らかになった。

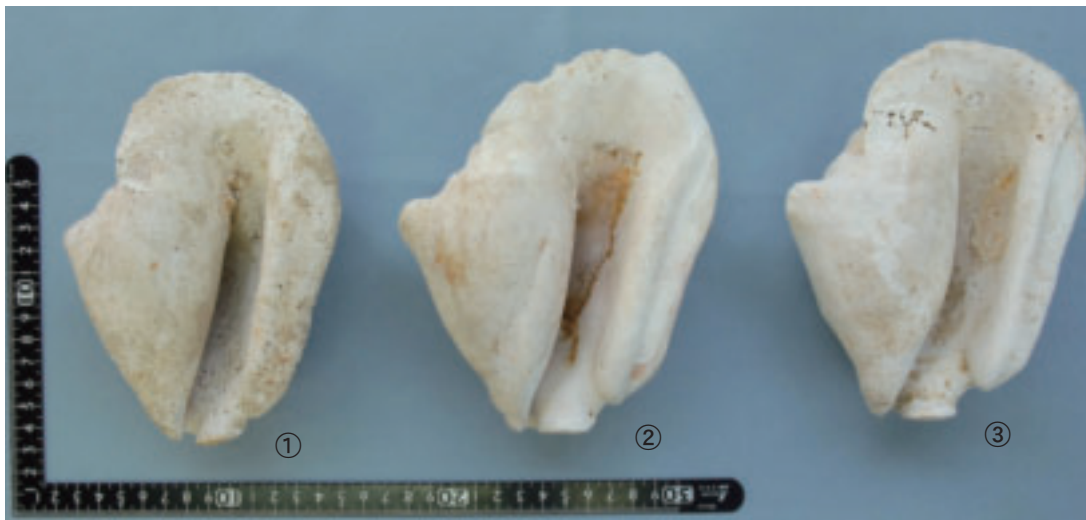
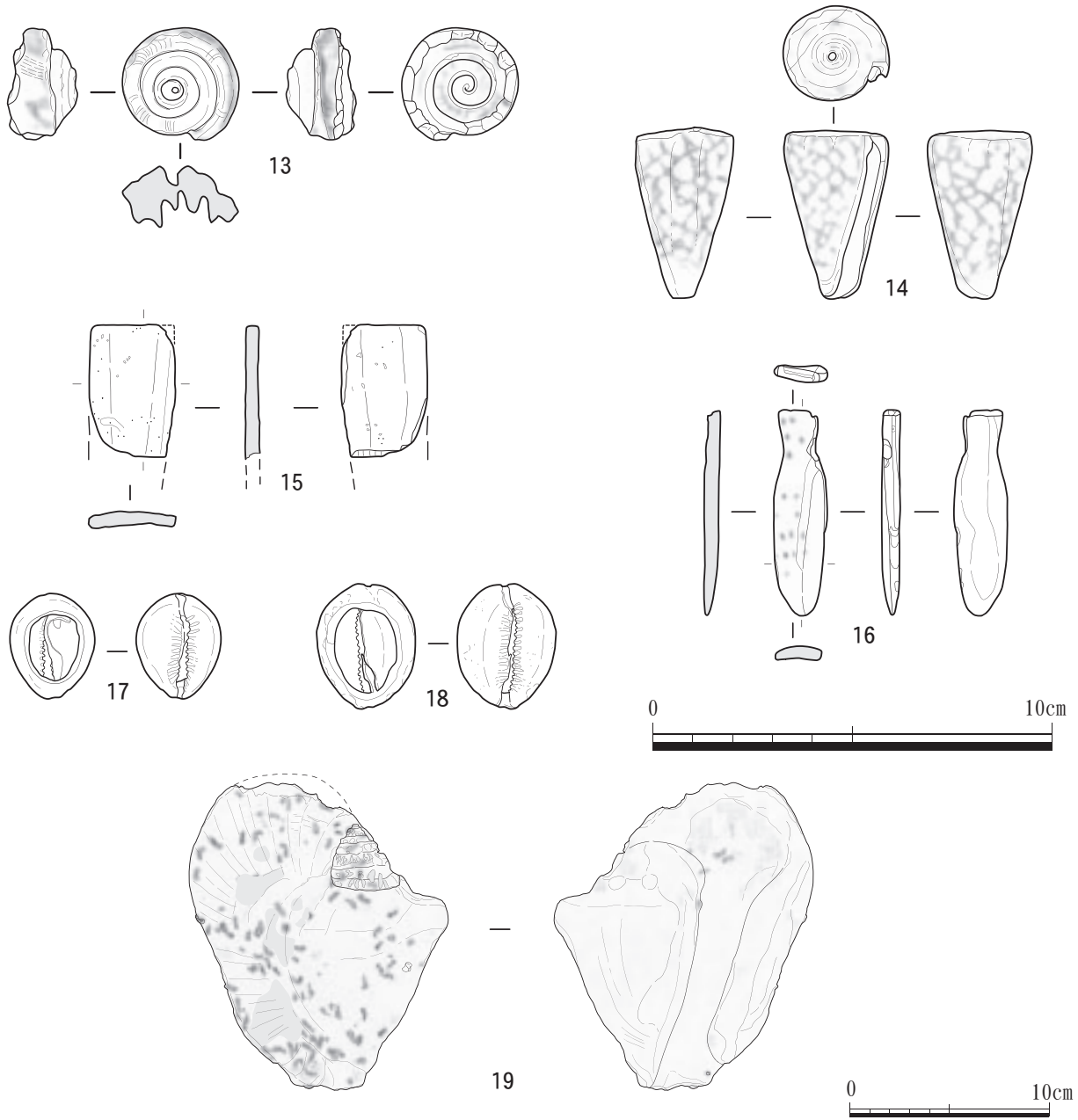
二枚貝有孔製品は主体となる土器によって重量がことなり、時期が下ると小さくなる傾向が見られる。自然貝でも同じような傾向が見られることから、乱獲により貝が小型化することに起因するものであろう。



第58図 貝製品 1



図版40 貝製品 1

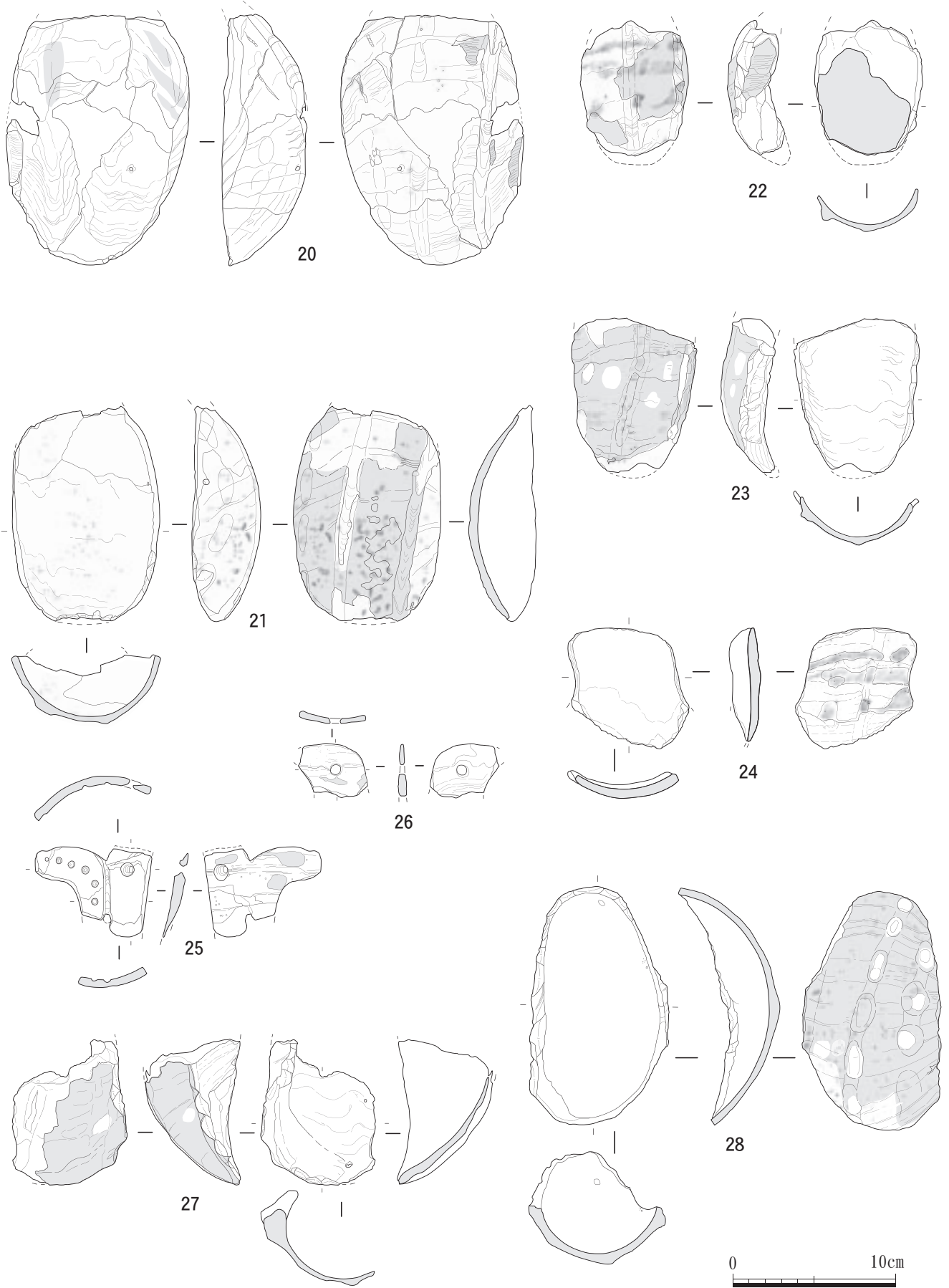


第59図 貝製品 2

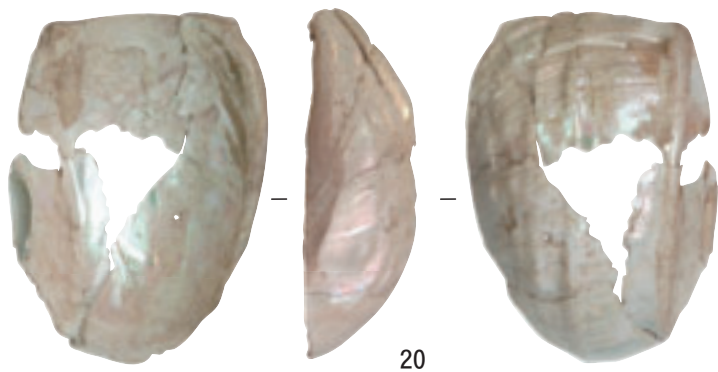
註：②は図19と同一



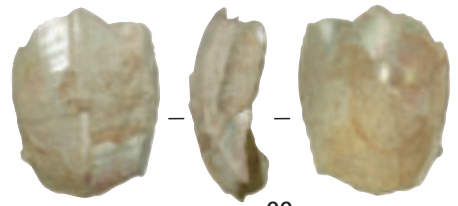
図版41 貝製品 2



第60図 貝製品 3



20



22



21



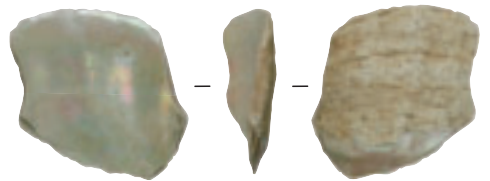
23



25



26



24



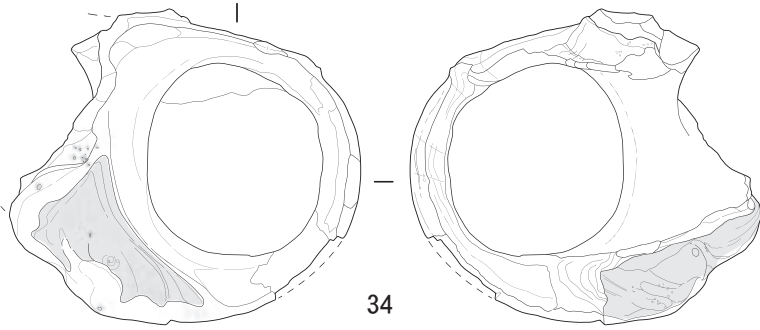
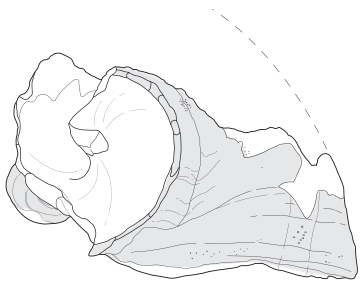
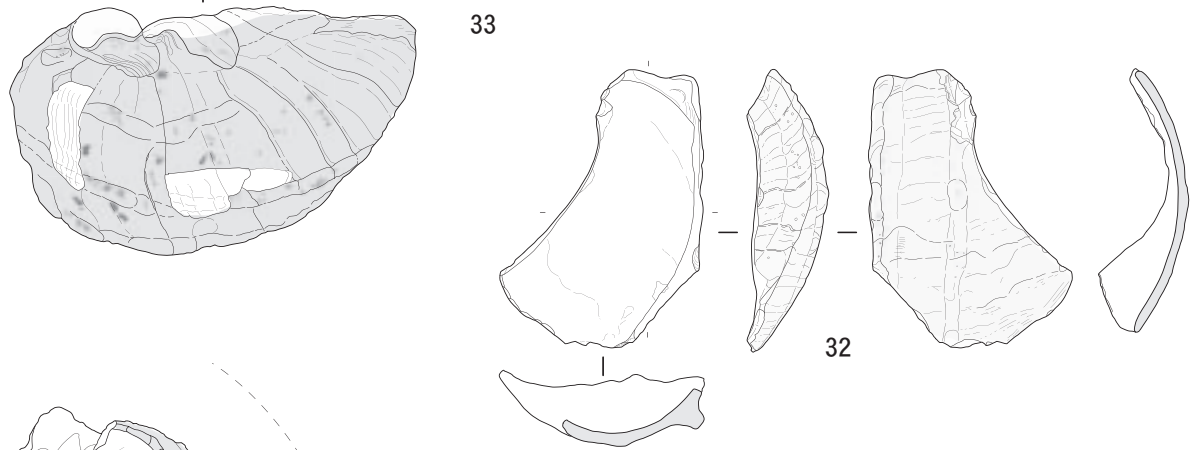
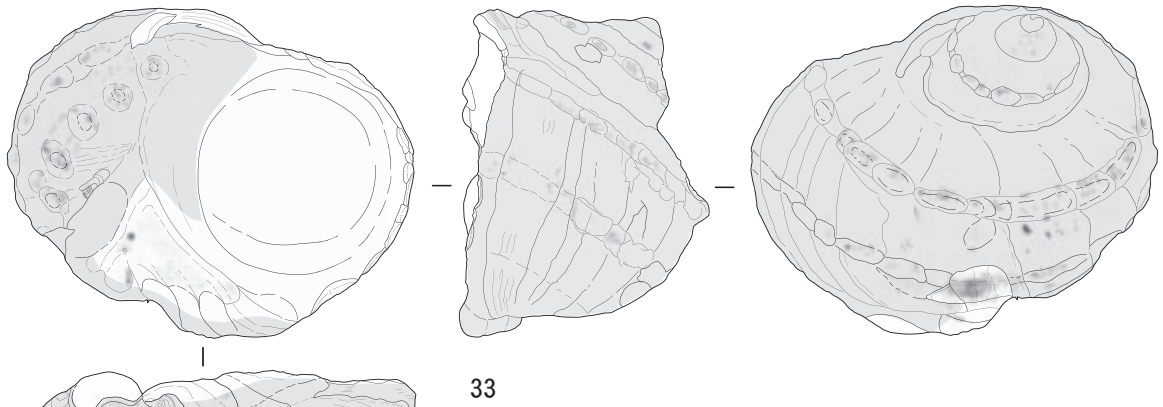
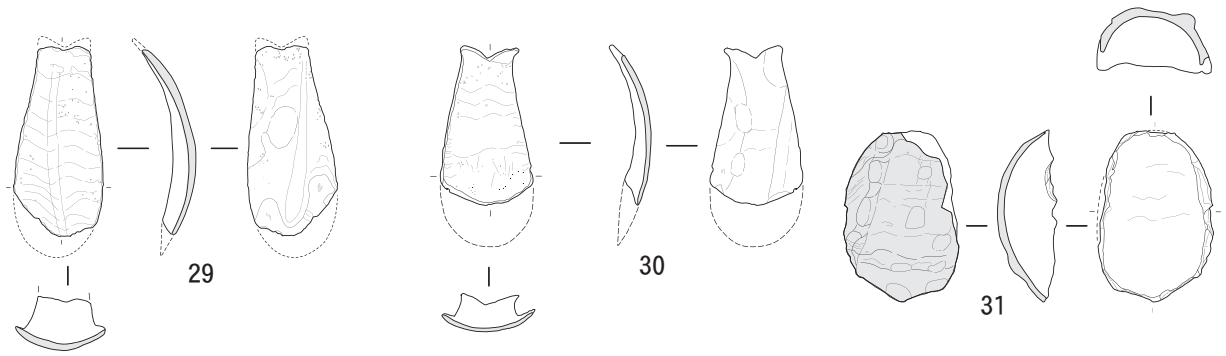
27



28



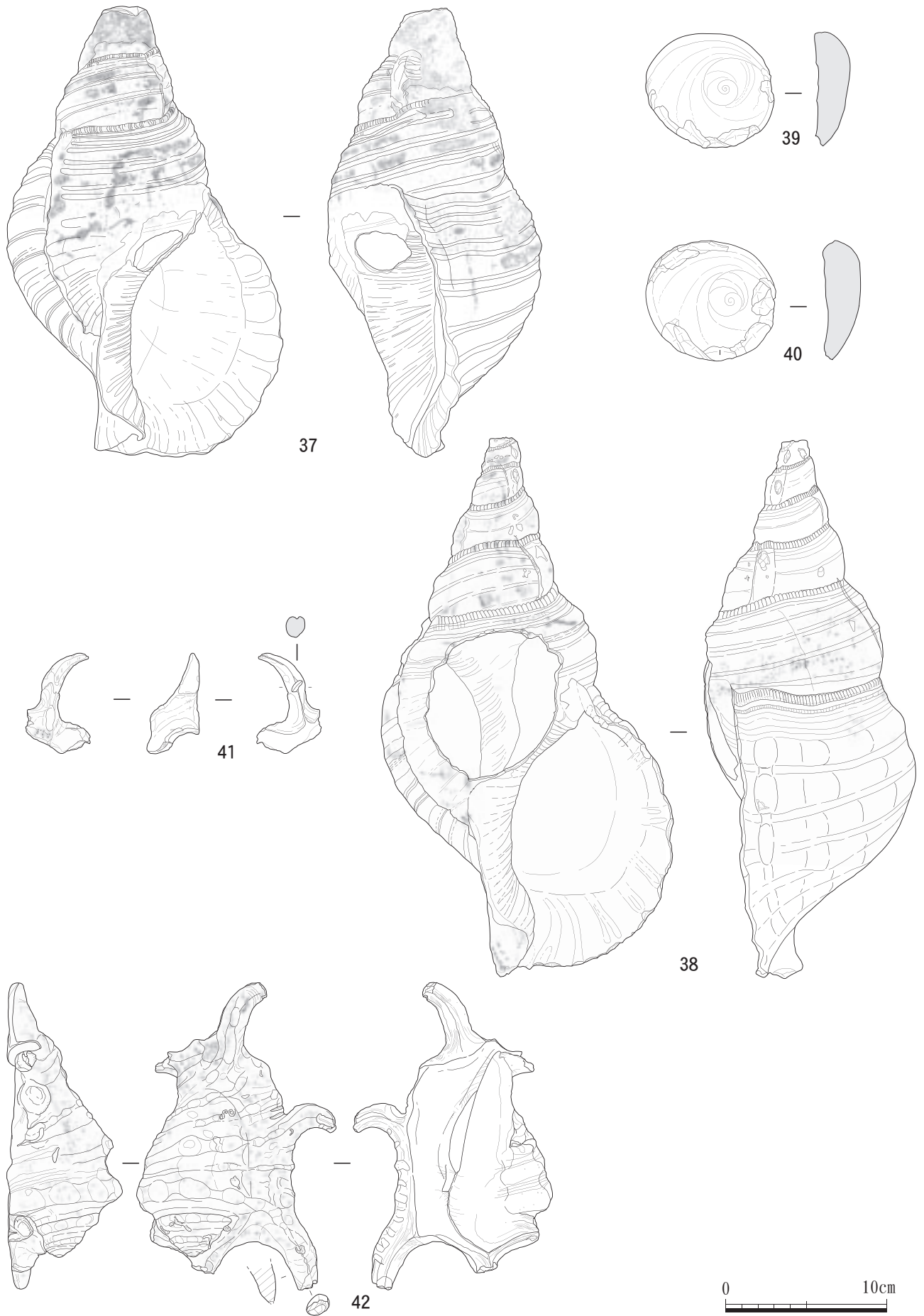
図版42 貝製品 3



第61図 貝製品4



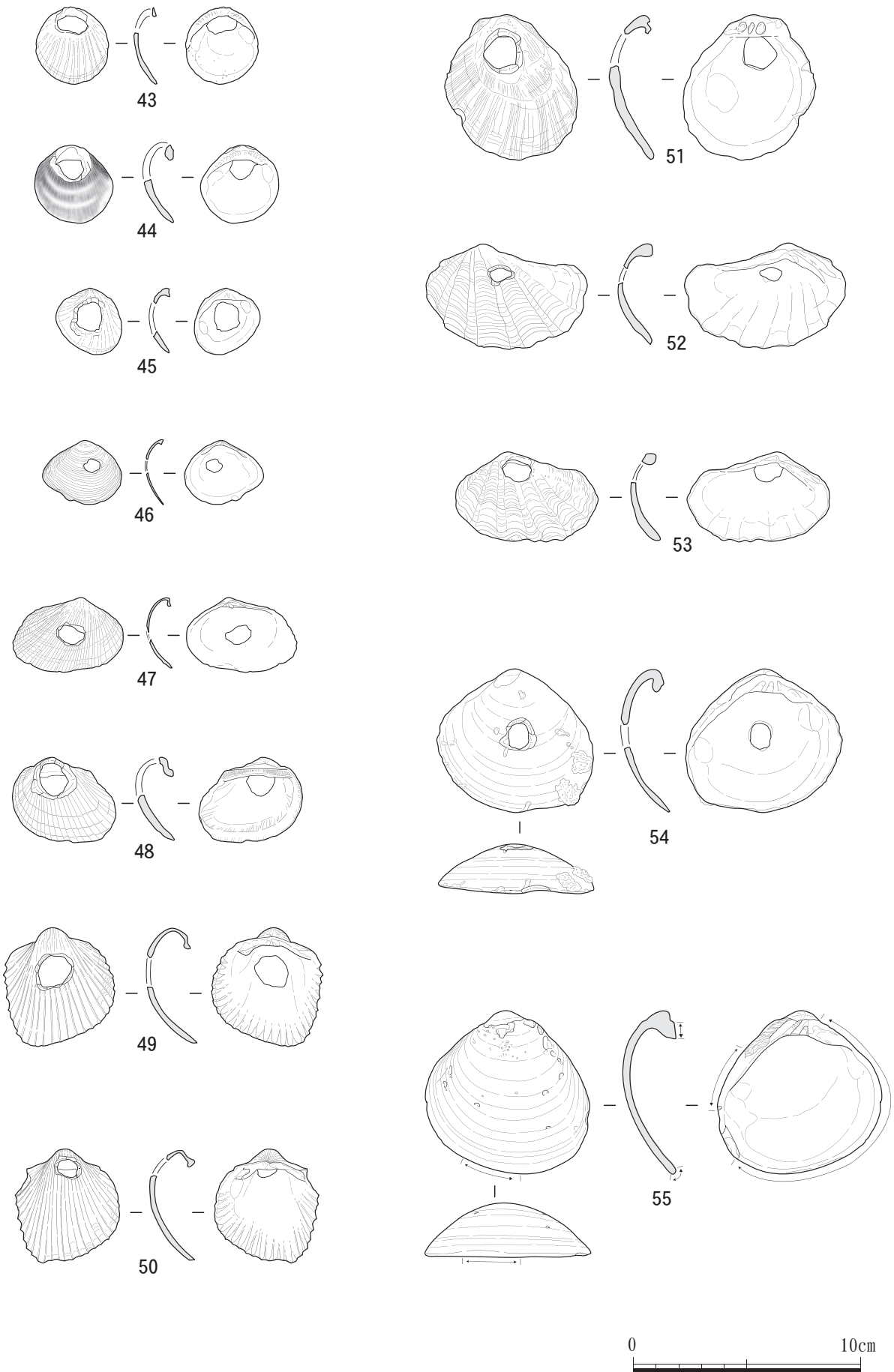
図版43 貝製品 4



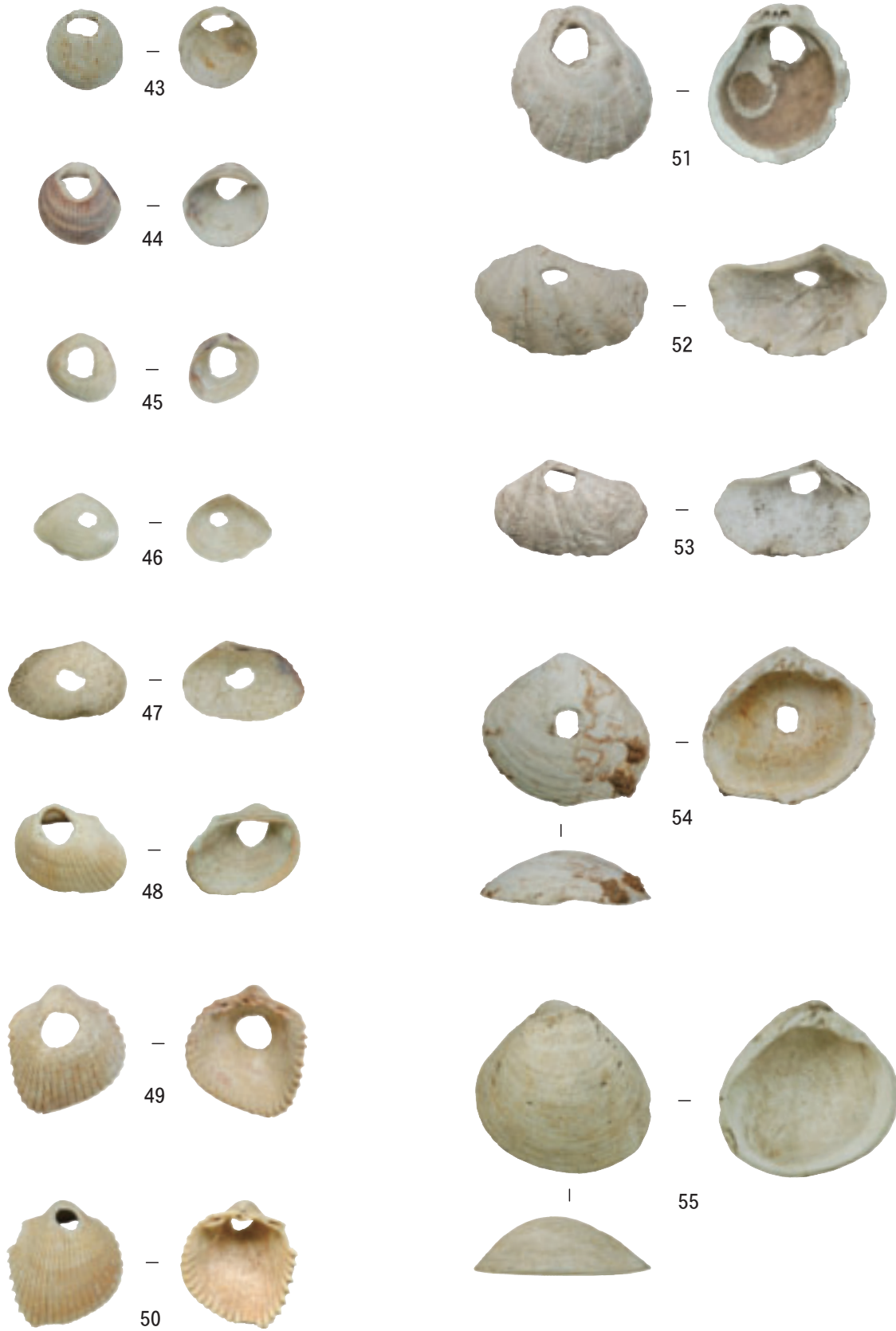
第62図 貝製品 5



図版44 貝製品 5



第63図 貝製品6



図版45 貝製品 6

(5) 骨製品

骨製品の出土は少なく、3点出土した。

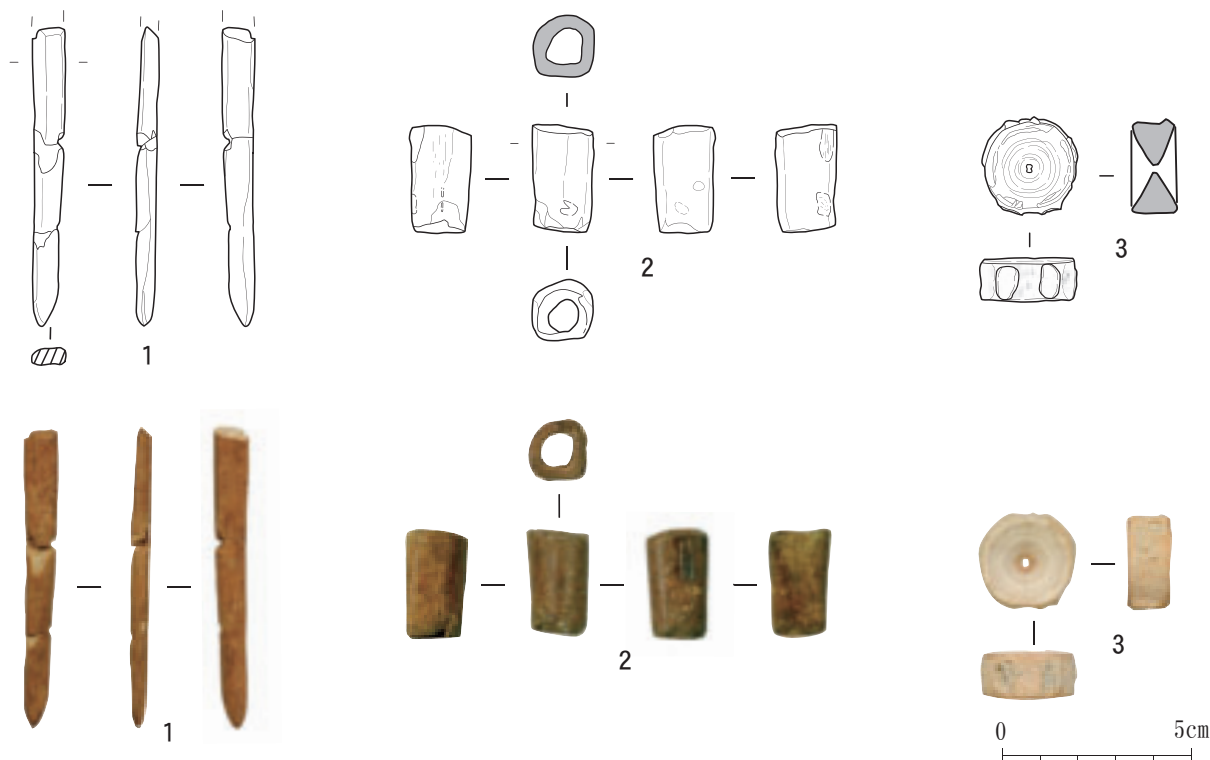
図1はイノシシの腓骨を用いた骨針で、軸頂部を破損する。軸頂部方向に骨のひねりが強いことから近位部と考えられ、先端が遠位部に相当すると思われる。横断面の径0.4×0.9cmと腓骨としては太い方で、成獣の骨を用いたと思われる。

図2はイノシシの大腿骨を横位に切り取り管状にしたもので、切断面を若干破損するが、ほぼ完形である。大腿骨の遠位端側を用いたものと思われ、報告例がなく用途不明。G17・F16グリッド0656SS(第16図)の出土で、他に土器(第25図67・第26図82)、ヤコウガイの貝匙(第61図31)が得られていることからVb層に属する遺物と思われる。

図3はサメの脊椎の中央を穿孔したもので、孔径も0.15cmと小さく、風化気味で、VI層の出土であることから加工されているか疑問が残る。

第42表 骨製品観察一覧

第図 図版	図 番号	製品	種類	残存	縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察事項	出土地
第64 図・ 図版 46	1	骨針	イノシシ腓骨	一部欠	7.9	0.85	0.4	2.87	軸頂部破損。針先は先端部で、丸味を出して尖らず。骨の大きさから成獣の可能性が高い。明茶褐色を呈する。	D18 Vb層 台4523
	2	管状	イノシシ大腿骨	完	2.8	1.7	1.6	5.11	大腿骨の遠位部を横位に切断し、両端とも顕著に研磨。ほぼ全面に光沢有。	F・G16・17 Vb層 0656SS 台1022
	3	骨玉	サメ脊椎	完	2.6	2.5	1.1	6.19	脊椎中央の凹部を穿孔。孔は0.15cmと小さく、方形を呈する。骨部が薄く、自然の欠損か、人工かは明瞭でない。乳白色を呈し、やや骨の風化気味である。	B10 VI層 台5030



第64図・図版46 骨製品

第5節 グスク時代

グスク時代には遺構と遺物がある。以下それぞれについて報告する。

1. 遺構

グスク時代の遺構からは柱穴(P)群、高床式建物址、土坑(SK)、溝状遺構(SZ)が確認された。これら遺構はⅢ層期のものでⅣ層上面の検出である。柱穴内から出土する遺物はⅣ層の遺物が見られるが、グスク期の柱穴がⅣ層まで掘り込んだためである。柱穴サイズを見てみると直径13cm～57cmは平地式建物址で、直径78cm～136cmは高床式建物址と思われる。

(1) 柱穴群 (巻首図版8・第116図)

調査区の東側及び南東側に集中している。1000余の柱穴が検出され、小型(13～30cm)、中型(31～60cm)、大型(70～140cm)が見られ、形状も円形、楕円形、隅丸方形、不定形など様々である。柱穴内の覆土は黒褐色土が主で、暗灰色土や明黄色土、炭混じりなどが見られた。また、柱穴内に礫が含まれているものや板状の礫を底面に敷いているものが見られる(K17 0083P・1109Pなど)。柱穴は単独のものや2穴の重複、又は複数回の重複が見られ、後述する大型柱穴による高床式建物址1基のみプランが確認され、他に明確なプランを確認することはできなかった。柱穴の小型は概ね単独のもので、中型は小型の重複や柱が倒れたことによる広がりと考えられる。大型は円形については高床式建物址の柱の可能性もある。また、隅丸方形や長楕円については土坑と思われるが詳細は不明である。柱穴の断面は「U」字状、「V」字状、有段状、逆台形状、すり鉢状などがあり、断面に柱痕が見られるものがある。(第44表)

(2) 高床式建物址 (第65図)

高床式建物址は調査区の北東角、C17・18、D17・18に所在する。長軸は東西方位で約2.84m、短軸は南北方位で約2.07m、4本柱である。個々の柱穴サイズは表に記した。高床式建物址は本遺跡の南東側に小堀原遺跡(2012)と後兼久原遺跡(2003)で確認されており、両遺跡では本遺構が4本柱、6本柱、9本柱の3種類の構成が確認されている。また、平地式建物址と対になるという配置関係も確認されている。本遺跡ではそれが確認できていない。北東側が未調査であるためそこに平地式建物址及び6、9本柱が存在する可能性がある。

(3) 土坑

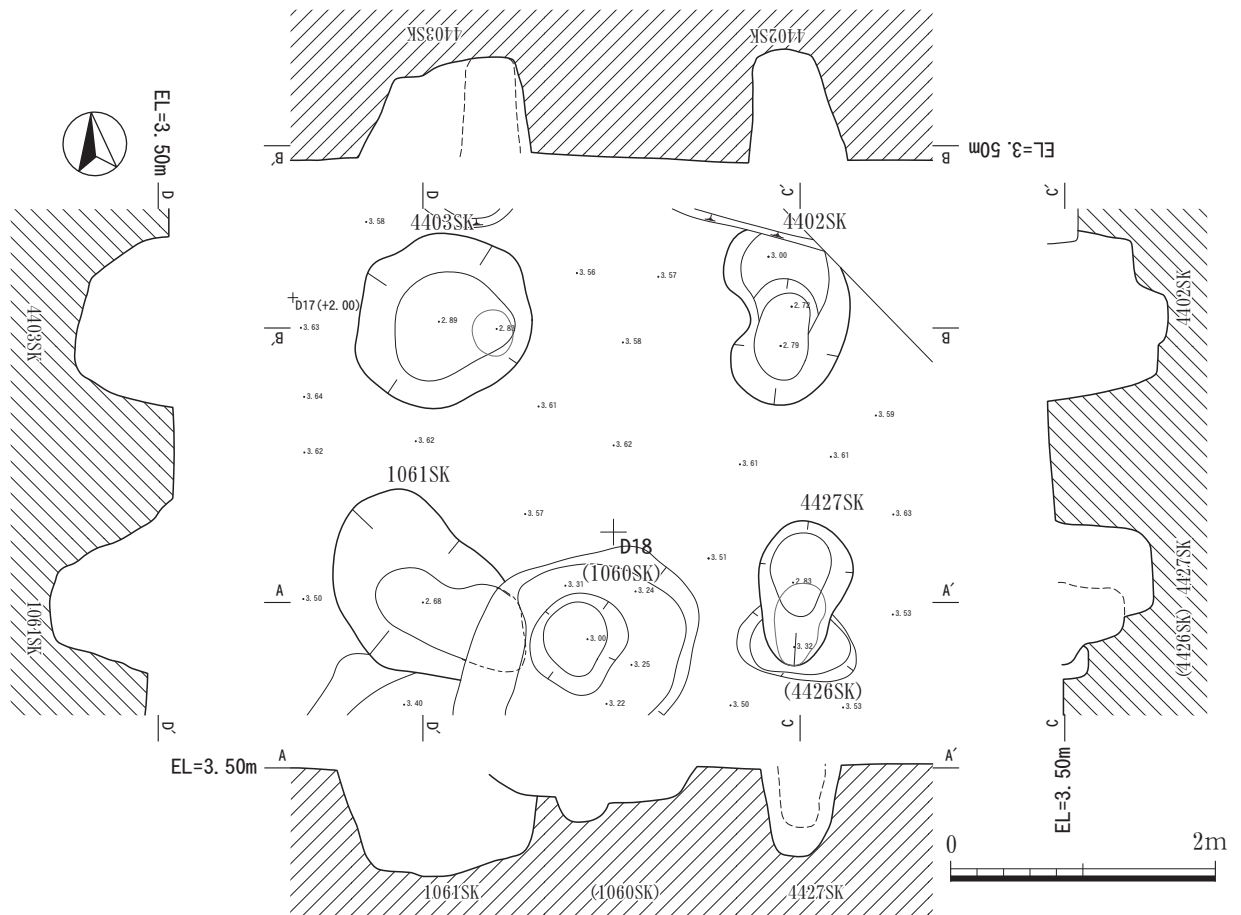
土坑は平面形が不正形、楕円形、円形、隅丸方形が見られ、不正形が多い。断面形は長楕円、逆台形、すり鉢状、皿状、「U」字状、不正形、有段状が見られる。土坑の性格は不明で柱穴群に混在して検出されていることから、小さい遺構は柱穴の可能性も考えられる。

(4) 溝状遺構

溝状遺構は南壁より北側に延びている。幅は30～50cmである。詳細は不明。

第43表 遺構別遺物出土量

時代 遺物 遺構	Ⅴb層(貝塚後期)						Ⅲ層(グスク)							Ⅱ層(近・現代)										合 計				
	前期系土器	後期土器	土製品	石器	貝製品	骨製品	カムイヤキ	白磁	青磁	染付	瑠璃釉・三彩	褐釉陶器	瓦質陶器	焼土	銭貨	沖繩産施釉陶器	沖繩産無釉陶器	陶質土器	本土産陶器	本土産磁器	先島系土器	円盤状製品	瓦		鉄製品・管人形	鉄	分銅・銅製品	
SZ	1	239		4	13			12	38	19		68		8	1	4	26	1		10			5	1	12		462	
SK	3	412		6	16			12	49	19		56		38		1	3	1	1	1	7	1			4		630	
SD		1																									1	
SF		215		5	2		1	6	28	6		40	1	3	1	24	55	15	4	6		1	15	2	1	2	433	
SL																			1								1	
SS		167		1	6	1			1			4			1	2									2		185	
P	7	464		7	21			6	27	12	2	37	1	37		3			1	8	1				1		635	
SX	5	302	1	15	31				1											1		1					357	
合計	16	1800	1	38	89	1	1	36	144	56	2	205	2	86	3	29	89	17	5	19	16	3	21	3	20	2	2704	
層計				1945							535										224							2704



第65図 高床式建物址 (4450SB) 平面・断面図 (グリッド C17・18 D17・18)



図版47 検出状況 (南西より)



図版48 完掘状況 (南西より)



図版49 完掘状況 (柱想定)

柱穴計測一覧

No.	遺構名	直径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
1	4403SK	136×132	79	鉄・石材・褐釉陶器 青磁・白磁・土器
2	1061SK	128×109	88	土器・青磁
3	4427SK	78×71	74	貝・鉄・青磁 先島系土器
4	4402SK	126×79	92	青磁・土器



EFG-16~18 (北から)



図版50 柱穴検出状況

H-16・17 (西から)

第44表－1 柱穴・土坑計測一覧

P：柱穴 SK：土坑

遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物	遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物
0020SK	K17	不定形	U	56	47	49		0125P	J・K17	楕円形	有段状	50	43	44	土器
0021SK	K17	不定形	U	(28)	38	23	青磁	0126P	J・K17	円形	逆台形	26	(24)	17	
0022SK	K17	不定形	すり鉢	(83)	(52)	22	青磁	0127P	K16	隅丸方形	すり鉢	31	30	15	
0023SK	K17	楕円形	U	52	(24)	40		0128SK	K18	楕円形	逆台形	58	38	27	焼土
0024SK	K17	円形	U	51	51	33		0130P	K18	円形	U	50	42	39	
0025P	K17	不定形	逆台形	(38)	37	23		0131SK	K・L18	不定形	U	95	49	39	土器・石器
0027P	K17	楕円形	逆台形	25	(23)	20		0132SK	K18	楕円形	有段状	64	42	60	土器
0028P	K17	不定形	有段状	56	42	28		0133P	K18	円形	不定形	42	(36)	46	土器・褐釉
0029P	K17	円形	U	22	21	17		0134P	K18	円形	U	(37)	34	36	土器・青磁・貝
0030SK	K17	不定形	有段状	65	52	37		0135P	K18	円形	U	41	(40)	26	土器・青磁
0031P	K17	円形	U	24	20	30	焼土	0136SK	K18	円形	U	38	(37)	31	
0032P	K17	円形	U	30	(26)	37		0137SK	K18	楕円形	U	86	54	37	
0033P	K17	円形	逆台形	26	23	17		0138SK	K18	不定形	有段状	52	(52)	47	土器・焼土
0034P	K17	円形	U	47	44	52		0139P	K18	円形	U	39	38	22	石材
0038P	K17	円形	U	19	16	19		0140P	K18	楕円形	すり鉢	39	29	18	
0039P	K17	楕円形	U	47	39	40		0141P	K18	円形	逆台形	39	34	20	土器・焼土
0042P	K17	円形	U	39	34	51	貝製品	0143SK	K18	楕円形	有段状	58	55	54	土器
0043P	J・K17	円形	不定形	40	(24)	36	焼土	0144SK	K17・18	楕円形	有段状	51	48	48	土器
0045P	K17	楕円形	U	31	20	36	青磁・褐釉	0145P	K18	楕円形	U	38	28	40	
0046P	K17	楕円形	U	39	(27)	42	土器	0146P	K18	円形	U	44	(35)	32	土器・染付・褐釉・瑠璃釉・焼土
0048P	K17	円形	U	47	46	43	石材	0147P	K18	円形	逆台形	52	41	26	土器
0049P	K17	楕円形	不定形	34	(21)	32		0148P	K18	円形	U	58	50	54	石器・羽口・青磁焼土
0052P	K17	楕円形	逆台形	44	33	25	土器	0149P	K18	楕円形	U	55	37	34	
0054P	K17	楕円形	U	32	24	28		0150P	K18	円形	U	42	41	34	土器・褐釉
0056P	K17	円形	不定形	45	36	29		0152P	K18	円形	U	19	18	18	
0057P	K17	円形	U	50	(30)	39	土器	0153P	K18	楕円形	U	41	36	31	
0060P	K17	円形	U	32	32	40		0154P	K18	楕円形	逆台形	49	37	34	
0066P	K17	円形	逆台形	47	38	31		0155P	K18	円形	不定形	53	47	37	褐釉・沖施・青磁
0069SK	K・L17	不定形	有段状	61	(54)	50		0156P	K18	不定形	逆台形	51	(33)	18	土器・貝製品
0070P	K17	円形	逆台形	38	37	15		0157P	K18	楕円形	U	37	31	31	
0071SK	K17	楕円形	有段状	(56)	51	20	土器	0158P	J18	円形	すり鉢	42	42	23	土器
0072P	K17	円形	すり鉢	36	35	17		0159P	J18	円形	U	33	29	39	土器
0073SK	K17	楕円形	U	62	40	41	土器	0163P	K16	楕円形	すり鉢	38	32	10	
0079P	K17	楕円形	U	33	23	19		0167P	K16	円形	逆台形	43	42	19	
0080SK	K17	楕円形	U	59	42	65		0168P	K16	円形	逆台形	48	42	16	土器
0083P	K17	円形	U	44	43	43	石器	0169P	K・L16	不定形	U	29	(17)	16	
0084SK	K17	楕円形	逆台形	59	47	32	土器	0170SK	K・L16	不定形	逆台形	(82)	(38)	21	
0085SK	K17	楕円形	すり鉢	47	35	18	土器・石材	0171P	K16	円形	U	30	28	19	
0086SK	K17	円形	U	21	20	20		0172P	K16	楕円形	U	20	16	18	
0087P	K17	円形	すり鉢	24	23	15		0177P	K16	楕円形	U	19	15	18	
0088P	K17	円形	U	20	(16)	17		0178P	K・L16	楕円形	すり鉢	45	33	14	
0090SK	K17	円形	すり鉢	123	122	35	土器・褐釉・貝	0179P	K16	楕円形	すり鉢	37	28	12	
0098P	K17	円形	逆台形	24	23	13	貝製品	0184SK	K16	不定形	すり鉢	46	(36)	13	
0100SK	K17	円形	U	53	53	64	土器	0185P	K16	不定形	すり鉢	(33)	(28)	15	
0101SK	J17	楕円形	逆台形	86	68	37	土器・石器・青磁	0187SK	K・L16・17	不定形	逆台形	(99)	(28)	30	
0102P	J17	円形	U	32	(30)	24		0189P	K18	楕円形	U	41	32	45	貝製品
0103P	J・K17	楕円形	U	35	25	30	褐釉	0190P	K18	楕円形	U	26	(25)	23	
0104P	J17・18	円形	逆台形	51	48	39		0191SK	K・L18	不定形	不定形	53	(23)	26	土器
0105SK	J・K17	不定形	U	105	(43)	84	土器・青磁・鉄・染付・焼土	0192P	K18	不定形	U	18	(11)	26	
0106P	J・K17	円形	すり鉢	51	50	24		0193P	K18	楕円形	U	55	40	26	土器
0107P	J17	楕円形	U	42	28	24		0194P	K18	楕円形	U	46	(40)	56	石材・チャート・焼土
0108P	K17	楕円形	U	47	38	35	土器	0195P	K18	不定形	不定形	40	(18)	45	青磁
0109P	K17	楕円形	U	32	(22)	26		0196P	K18	円形	V	33	29	34	土器
0110P	K17	楕円形	U	25	22	28		0198P	K18	円形	U	44	40	49	
0111P	K17	円形	U	37	(16)	42	土器	0199SK	K18	楕円形	有段状	73	61	59	土器・青磁
0114P	K17	円形	U	36	30	34		0200SK	K18	不定形	不定形	63	48	42	土器
0115P	J17	円形	U	32	29	23		0201P	K18	不定形	U	36	36	32	
0117P	J17	円形	U	34	33	42		0202P	K18	楕円形	U	30	(27)	42	
0118P	J・K17	円形	逆台形	34	(23)	40		0205P	K18	楕円形	U	43	36	48	
0119SK	J・K17	円形	逆台形	65	59	32	貝・染付	0206P	K18	不定形	不定形	44	26	40	
0120SK	J17	不定形	逆台形	(78)	77	34	土器・貝	0208P	K18	円形	U	36	33	30	
0121SK	J17	不定形	すり鉢	(138)	86	35	土器	0209P	K18	円形	U	31	30	26	
0123P	J17	円形	U	31	(20)	20		0210P	K18	楕円形	逆台形	63	47	23	石材
0124P	J・K17	楕円形	U	40	32	29		0212SK	K18	不定形	U	46	(24)	42	染付・石材

第44表－2 柱穴・土坑計測一覧

P：柱穴 SK：土坑

遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物	遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物
0213P	K18	楕円形	U	43	35	27		0302SK	I・J17	円形	有段状	73	61	66	土器・褐釉
0214P	K18	楕円形	U	22	17	19		0303SK	J17	不定形	逆台形	59	(53)	40	土器・青磁
0215P	K18	円形	U	41	34	53		0304P	J17	不定形	U	37	(24)	31	土器
0216SK	K18	楕円形	逆台形	72	46	40	羽口・焼土	0305SK	J17	楕円形	有段状	(52)	49	54	
0217P	K18	不定形	U	(38)	(32)	31	土器・青磁	0306P	J17	不定形	U	37	(18)	21	土器・焼土
0218P	K18	楕円形	U	38	35	21	青磁	0308SK	J17	不定形	U	39	(18)	32	土器・青磁
0219P	K18	楕円形	U	36	28	20		0309P	I17	楕円形	U	(34)	(28)	25	土器・褐釉
0222SK	K18	不定形	U	62	34	57	焼土	0310P	J17	円形	U	41	38	33	
0223P	K18	円形	U	46	45	56		0311SK	J17	楕円形	すり鉢	50	42	18	染付・褐釉
0224SK	J・K18	不定形	不定形	53	(36)	53		0312SK	J17	楕円形	有段状	73	50	53	土器・青磁・白磁・褐釉
0226P	J18	円形	U	22	19	54		0313SK	J17	不定形	不定形	58	(19)	41	土器・褐釉・沖無
0228P	K18	不定形	U	36	(26)	36	土器	0316SK	J17	円形	U	51	51	43	
0229SK	K18	円形	逆台形	49	45	30	土器	0317SK	J17	不定形	有段状	46	(19)	46	土器・貝製品・焼土
0230P	K18	楕円形	U	31	(23)	24	貝製品	0318SK	J17	楕円形	逆台形	(114)	77	56	土器・青磁・本磁・染付・褐釉
0231P	J18	楕円形	逆台形	34	30	20	土器	0319SK	I・J17	不定形	有段状	74	52	50	土器・青磁・染付
0232P	J18	楕円形	すり鉢	18	16	11		0320P	J17	楕円形	U	30	(29)	60	土器
0233P	J18	楕円形	すり鉢	31	25	9		0321SK	I17	楕円形	U	45	39	41	
0234P	J18	楕円形	U	39	34	27		0322P	I17	楕円形	すり鉢	(44)	32	12	
0235P	J18	不定形	逆台形	44	38	19	土器・染付	0325P	J16	不定形	U	45	39	32	白磁・褐釉・貝
0236P	J18	楕円形	U	23	18	20	土器	0326SK	J16	不定形	すり鉢	(88)	46	28	青磁・白磁・染付・焼土
0237P	J18	円形	U	56	45	69	土器	0327P	J17	円形	すり鉢	34	(32)	15	青磁
0238P	J18	不定形	U	35	(17)	17		0328SK	J17	不定形	逆台形	60	51	44	土器・青磁・白磁
0239P	J18	不定形	U	40	(29)	39	土器	0329SK	J17	円形	U	44	44	53	白磁・石材・焼土
0240P	J18	不定形	U	41	(26)	28		0330P	J17	円形	U	44	39	38	土器・沖無・貝
0241P	J18	楕円形	U	46	31	27	土器・染付・褐釉	0331P	J17	楕円形	U	33	29	23	
0242P	J18	円形	U	61	59	56		0333SK	J16・17	円形	U	50	(36)	36	土器
0245SK	J18	楕円形	すり鉢	53	31	21	土器	0334SK	J17	不定形	逆台形	50	(36)	51	土器
0246P	J18	円形	U	43	40	29		0335P	J17	不定形	U	31	(23)	39	
0247SK	J18	円形	有段状	52	45	47		0336P	J16	不定形	U	(36)	32	42	土器・青磁
0249P	J18	楕円形	U	49	36	33	土器・焼土	0338P	J16	不定形	U	35	(18)	23	
0250SK	J17・18	不定形	すり鉢	150	63	46	土器・青磁・本陶・褐釉・焼土	0339P	J16	楕円形	U	76	54	31	
0251P	J18	円形	U	18	15	29		0340P	K16	楕円形	U	42	28	21	
0252P	J18	楕円形	有段状	44	36	75	土器・白磁	0343SK	J16	楕円形	すり鉢	50	31	12	土器・鉄
0253P	J18	円形	U	41	39	30	土器	0344P	J16	円形	逆台形	25	25	15	
0255P	J18	円形	U	44	38	40	土器	0346P	I17	楕円形	U	43	35	48	
0256P	J17	円形	U	44	40	47	青磁・焼土	0347P	I17	楕円形	すり鉢	44	33	21	
0257P	J17・18	楕円形	U	36	29	23	土器	0348SK	I17	不定形	U	76	(32)	47	
0262P	J18	円形	U	48	41	44	土器・白磁・褐釉	0349P	I17	円形	U	27	27	30	褐釉
0263P	J18	円形	U	21	20	29		0353SK	I17	円形	有段状	81	75	39	土器・染付・焼土
0264SK	J17	楕円形	不定形	96	55	41	土器・褐釉・焼土	0354P	I17	楕円形	U	19	17	21	
0265SK	J17	楕円形	U	(51)	38	26	土器・青磁・染付	0355P	I17	円形	U	35	33	41	土器・貝製品
0266SK	J17	円形	U	48	46	34	土器	0356P	I17	円形	U	23	21	23	
0267P	J17	円形	U	22	21	20		0357P	I17	円形	すり鉢	44	41	19	土器
0269P	J17	円形	U	25	24	21		0358SK	I16・17	楕円形	U	64	44	54	土器
0270P	J17	楕円形	すり鉢	33	21	13		0359SK	I16	楕円形	不定形	52	39	29	土器
0271P	J17	楕円形	U	38	31	42		0360SK	I16	不定形	有段状	(23)	(22)	23	土器・褐釉
0272P	J17	楕円形	U	37	30	27		0361P	I16	円形	U	29	25	34	土器・貝製品
0273SK	J17	楕円形	U	69	(27)	30		0362P	I16	不定形	U	(24)	(18)	34	
0274P	J17	円形	すり鉢	26	23	17		0363SK	I16	楕円形	U	35	(29)	39	白磁
0278SK	J17	不定形	不定形	(79)	(45)	35	土器・染付	0364P	I16	楕円形	U	32	23	43	白磁・染付
0279P	J17	円形	U	29	27	29		0365P	I16	楕円形	U	40	(19)	41	土器
0280P	J17	円形	U	30	29	44	土器	0370P	I16	円形	すり鉢	23	21	14	褐釉
0281P	J17	円形	U	38	33	32		0372SK	I16・17	楕円形	有段状	55	(54)	42	土器・褐釉・青磁
0283SK	J16・17	不定形	U	56	27	29		0373P	I17	円形	逆台形	34	29	21	
0284P	J17	不定形	逆台形	25	(23)	20		0374P	I17	楕円形	逆台形	33	26	25	
0286P	J18	円形	U	41	39	26		0375SK	I16	楕円形	有段状	44	41	33	
0289P	J17	不定形	U	35	(28)	33		0376SK	I16・17	不定形	すり鉢	45	(43)	18	
0292SK	J17	円形	不定形	49	(49)	36	土器・褐釉	0377P	I16・17	不定形	U	43	(25)	48	
0294SK	J17・18	楕円形	すり鉢	173	80	40	土器・貝製品・青磁・白磁・褐釉・沖施	0379P	H17	楕円形	有段状	44	34	30	焼土
0295SK	J17	円形	V	51	47	33	貝製品	0380P	H17	楕円形	U	44	32	22	貝製品
0296P	J17	円形	不定形	34	(23)	16		0382P	H・I17	円形	U	22	20	17	
0298P	J17	楕円形	U	29	22	40	貝製品	0385P	I17	円形	すり鉢	41	35	14	土器

第44表－3 柱穴・土坑計測一覧

P：柱穴 SK：土坑

遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物	遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物
0386SK	I17	楕円形	U	68	50	56	土器・白磁・褐釉	0492SK	I18	-	すり鉢	62	(15)	19	
0387SK	I17	楕円形	U	70	55	62	土器・貝製品・染付・褐釉・青磁	0493P	I18	円形	U	42	40	54	土器
0388SK	I17	不定形	U	(45)	(42)	44	土器・染付	0494P	I18	不定形	U	37	34	28	
0389SK	I17	不定形	U	63	(31)	42	土器・褐釉・貝	0495P	I18	不定形	すり鉢	50	(42)	22	土器・貝製品
0391SK	I17	楕円形	U	63	30	40	土器・褐釉	0496P	I18	楕円形	有段状	57	39	67	
0397P	I17	楕円形	すり鉢	48	33	26	土器	0499P	I18	楕円形	U	(30)	26	34	
0398P	I17	楕円形	逆台形	28	(28)	16		0501P	J18	楕円形	U	38	34	25	土器
0399P	I17	不定形	すり鉢	73	(32)	34		0502P	I18	円形	U	26	24	22	土器
0402P	I16	不定形	U	(20)	(17)	25		0503P	I18	楕円形	すり鉢	37	34	11	
0404P	I17	楕円形	U	75	15	44	土器・褐釉	0504P	I18	楕円形	U	43	29	27	土器
0405P	I17	不定形	U	41	(38)	39		0505SK	I18	楕円形	逆台形	(61)	51	37	土器
0409SK	I17	円形	U	(82)	76	62	石材	0506P	I18	不定形	有段状	40	30	25	
0411P	I17	円形	U	39	35	26	土器	0507P	I18	楕円形	有段状	52	56	45	
0414SK	I17	不定形	すり鉢	40	(20)	24		0508P	I18	楕円形	逆台形	31	26	21	
0416P	I17	円形	U	43	40	58	土器	0510SK	I18	不定形	U	48	44	53	土器・染付・貝製品
0417SK	I17	円形	U	52	(45)	51	貝	0512P	I18	楕円形	U	27	23	17	
0418P	I17	円形	逆台形	48	46	34	土器	0513SK	I・J17・18	不定形	不定形	203	(29)	60	土器・白磁・貝製品
0419P	J17	楕円形	すり鉢	23	19	14		0514P	I・J17	楕円形	U	46	(33)	45	土器・褐釉・石器
0420P	I17・18	円形	すり鉢	32	30	15		0515P	J17	楕円形	すり鉢	39	31	16	
0421P	I17	楕円形	すり鉢	32	29	16		0516SK	J17	不定形	不定形	85	50	34	貝製品
0422P	I17	円形	すり鉢	34	34	19		0518P	I17	楕円形	すり鉢	44	26	15	
0424P	I17	円形	U	49	44	38		0519P	I17	円形	すり鉢	36	31	15	
0425P	H16	円形	U	26	19	20	焼土	0521P	I17・18	楕円形	有段状	46	31	32	石材・焼土
0426P	H16	楕円形	すり鉢	35	32	20		0523P	I18	円形	逆台形	40	37	26	土器
0427P	H16	円形	U	39	36	45		0525P	I17・18	楕円形	すり鉢	46	27	18	
0429P	H16	楕円形	有段状	53	40	52	土器・染付	0527P	I18	円形	逆台形	34	30	13	
0430P	H16	円形	U	30	29	30		0529P	I17・18	不定形	不定形	51	(45)	45	土器
0431P	H16	円形	U	21	19	16		0531SK	I17	楕円形	U	52	43	38	
0432P	H16	円形	U	57	46	48		0532SK	I17	不定形	すり鉢	43	(39)	18	土器
0436P	H16	円形	すり鉢	28	26	16		0533P	I17	円形	すり鉢	31	(26)	17	土器・石器・貝製品
0438P	H16	楕円形	U	(24)	23	31	土器・石材	0534P	I18	楕円形	U	24	23	20	
0439P	H16	円形	すり鉢	32	32	16		0535P	I18	楕円形	すり鉢	36	30	15	
0440P	H16	不定形	すり鉢	29	(17)	15		0537P	I18	楕円形	逆台形	46	36	18	白磁
0441P	H16	円形	U	23	23	22	土器	0538P	I18	円形	U	21	20	21	
0442P	H16	円形	U	39	34	26		0541P	I18	不定形	有段状	48	37	44	
0443P	H16	円形	すり鉢	31	29	15		0542P	I18	楕円形	すり鉢	53	38	18	
0446P	H16・17	円形	U	34	29	25	土器	0544P	I18	不定形	U	30	(21)	32	土器・染付
0448P	H17	楕円形	U	50	41	49	土器	0545P	I18	円形	U	28	25	19	
0450P	H16	円形	すり鉢	33	32	15		0546P	I18	楕円形	U	49	41	56	土器・褐釉・焼土
0451P	H16	楕円形	U	29	23	18		0547SK	I18	不定形	U	42	(32)	36	土器
0454P	H16	楕円形	U	26	23	19		0548SK	I18	不定形	逆台形	54	(30)	36	土器・石器
0455P	H16・17	円形	U	30	27	29		0549P	I18	不定形	すり鉢	50	(22)	13	
0456P	H17	円形	U	35	31	22	土器・石器	0550P	I18	楕円形	すり鉢	44	25	19	土器
0457P	H17	円形	U	29	26	27		0552P	I18	円形	U	29	27	38	土器
0458P	H17	楕円形	逆台形	42	32	21		0553P	I18	楕円形	U	27	22	25	土器
0461P	H17	円形	U	30	27	27	土器	0554P	I18	楕円形	U	31	26	23	土器・青磁
0462P	H17	円形	U	18	18	21		0555P	I18	円形	逆台形	34	31	23	土器・貝製品
0464SK	H17	円形	逆台形	50	50	24	土器	0558P	I18	楕円形	U	28	20	22	
0465P	H16	円形	U	34	30	31		0559P	I18	円形	U	18	17	29	土器
0466P	H16	楕円形	U	37	28	27		0560P	I18	円形	U	30	28	34	土器
0467P	H16	不定形	-	21	(14)	(17)		0561P	I18	楕円形	U	50	41	62	土器
0468P	H16	楕円形	U	(33)	(23)	23		0562P	H18	円形	U	28	25	19	土器
0470P	H16	楕円形	すり鉢	39	34	20		0563P	H18	楕円形	すり鉢	37	31	16	土器
0472P	H16	楕円形	U	33	26	32		0564SK	H18	楕円形	すり鉢	62	45	23	土器
0473P	H16	不定形	すり鉢	51	(38)	25	土器	0565SK	H18	不定形	皿	60	(39)	23	土器
0474P	H16	不定形	すり鉢	48	(20)	20	染付	0566P	H18	円形	U	32	(26)	39	土器・青磁
0475P	H16	円形	U	19	19	22	土器	0567SK	H18	不定形	逆台形	65	39	45	土器
0477P	H16	円形	U	20	20	15	土器	0569P	H18	円形	U	38	35	73	土器
0478P	H16	円形	すり鉢	30	29	12	土器・褐釉・染付	0570P	H18	楕円形	U	29	25	28	土器・褐釉・焼土
0480P	H16	円形	U	28	26	26	土器・石材	0572SK	H18	不定形	有段状	78	30	68	土器・貝製品・褐釉・円盤状製品
0483SK	H16	不定形	逆台形	51	42	15		0573P	H18	楕円形	すり鉢	45	30	15	土器
0484SK	H16	楕円形	U	(45)	38	45		0575P	H18	楕円形	U	43	31	55	土器
0488P	J18	円形	不定形	44	39	33		0578P	H18	楕円形	逆台形	44	36	27	土器・鉄・染付
0490P	J18	楕円形	U	52	38	36	土器	0579SK	H・I18	不定形	不定形	65	64	36	土器
0491P	I18	楕円形	逆台形	57	40	17		0580P	H18	円形	U	47	47	43	

第44表－4 柱穴・土坑計測一覧

P：柱穴 SK：土坑

遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物	遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物
0581P	H18	不定形	すり鉢	22	(14)	12	土器・貝製品	0672P	G18	円形	U	42	41	31	
0582P	H18	円形	すり鉢	52	45	27	土器	0673SK	G18	隅丸方形	U	77	26	19	土器・貝製品
0583P	H18	円形	U	32	30	31		0674SK	F・G18	不定形	すり鉢	72	53	36	土器
0584P	H18	円形	U	38	38	28	土器	0675SK	F18	楕円形	逆台形	48	39	33	
0585P	H18	円形	U	23	23	19		0676P	F18	不定形	U	34	(22)	32	土器・白磁
0593SK	H18	不定形	すり鉢	77	51	26	土器	0677P	G18	楕円形	U	29	24	16	土器
0595P	H18	楕円形	U	30	23	31	土器	0678P	G18	楕円形	すり鉢	32	26	12	貝製品
0596P	H18	不定形	逆台形	23	(20)	9		0679SK	G18	楕円形	逆台形	48	41	28	土器・青磁
0597P	H18	不定形	すり鉢	17	(15)	29	土器	0680SK	G18	楕円形	有段状	89	57	61	土器
0598P	H18	楕円形	U	34	20	30		0681P	G18	円形	U	26	25	21	
0599P	H18	円形	U	16	15	20	土器	0682P	G18	円形	U	44	40	35	土器
0600P	H18	円形	U	22	20	28		0683SK	G18	円形	すり鉢	53	(47)	31	土器・貝
0601P	H18	円形	-	18	16	(16)		0685P	G18	不定形	U	29	(18)	24	土器・青磁
0602P	H18	楕円形	U	36	30	29	土器・貝	0687SK	G18	隅丸方形	すり鉢	48	42	27	土器・貝・青磁
0603P	H18	不定形	U	25	(13)	19	土器	0689P	G18	円形	U	32	31	20	
0604P	G18	円形	U	32	(27)	22		0690P	G18	円形	U	32	30	28	
0608P	H18	円形	U	34	30	31		0692SK	F18	不定形	すり鉢	(49)	(13)	24	石器・貝製品
0609P	H18	楕円形	U	37	29	41	土器・染付・沖無・石材	0693P	F・G18	楕円形	逆台形	45	28	27	土器・青磁
0610SK	H18	不定形	不定形	48	36	34	土器	0695P	F・G18	楕円形	U	26	21	27	
0611P	H18	円形	すり鉢	26	25	16	土器	0696SK	F18	円形	U	63	51	57	
0612P	H18	楕円形	逆台形	44	33	25	土器	0697P	F18	不定形	すり鉢	(28)	24	16	土器
0613P	H18	円形	すり鉢	43	35	18	土器・貝	0698P	F18	隅丸方形	逆台形	39	34	24	
0615SK	H18	楕円形	U	59	43	50	青磁	0699SK	F18	円形	U	60	58	55	土器
0616P	H18	楕円形	逆台形	37	28	20		0700SK	F18	不定形	逆台形	90	53	25	土器
0617P	H18	円形	U	35	(22)	21	土器	0701P	F18	円形	U	30	(20)	25	土器
0619P	H18	円形	U	51	47	31	土器・褐釉	0702SK	F18	不定形	不定形	63	(22)	29	土器・石器
0621P	H18	楕円形	U	29	23	27	染付・褐釉	0703P	F18	不定形	不定形	43	(23)	36	土器・石材
0622P	H18	円形	U	27	24	22		0704SK	F18	不定形	有段状	(84)	68	47	土器・青磁
0623P	H18	円形	すり鉢	37	36	16		0705P	F18	不定形	すり鉢	25	(21)	25	土器
0624SK	H18	楕円形	不定形	67	35	33	土器・青磁	0706P	F18	不定形	U	(34)	31	22	土器
0626P	G18	楕円形	すり鉢	34	28	20	貝製品	0707P	F18	不定形	U	22	(22)	26	
0627SK	G18	楕円形	有段状	82	53	48	土器・青磁・褐釉・貝製品・石材	0708SK	F18	不定形	すり鉢	(54)	45	25	土器
0628P	G18	楕円形	U	44	37	27	土器	0709P	F18	円形	U	24	23	23	石材
0629P	G18	楕円形	すり鉢	23	21	10		0710P	F18	円形	すり鉢	30	29	17	
0631SK	G18	円形	U	55	53	70	土器・貝製品	0711P	F18	楕円形	U	27	21	18	青磁
0632P	G18	円形	V	19	(15)	31		0712P	F18	楕円形	U	40	34	25	土器
0633P	G18	楕円形	U	50	43	30	貝製品	0713P	F18	楕円形	すり鉢	38	33	23	土器
0634P	G18	楕円形	すり鉢	41	33	17	土器	0714P	F18	楕円形	U	(26)	25	34	土器
0635P	G18	不定形	逆台形	28	(14)	19	土器	0715SK	F・G18	楕円形	すり鉢	70	43	39	土器
0636P	G18	楕円形	U	78	52	60	土器・貝製品	0716P	F・G18	隅丸方形	不定形	84	31	34	
0637SK	G18	円形	U	59	(47)	50	土器	0718P	F・G18	円形	U	(38)	(38)	27	
0638P	G18	円形	逆台形	43	36	28	土器・青磁	0719SK	F18	楕円形	U	(49)	38	23	
0639P	G18	円形	U	33	27	52		0720P	F18	円形	逆台形	33	30	20	土器
0640P	G18	円形	U	35	32	39	土器	0721P	F18	楕円形	U	49	42	44	
0641SK	G18	楕円形	U	56	34	33	土器・青磁・白磁	0723SK	F17・18	円形	U	67	58	46	石器
0642P	G18	円形	すり鉢	28	25	13	青磁	0724SK	F17・18	不定形	すり鉢	47	(35)	32	
0643P	G18	円形	U	34	32	37	土器	0725SK	F18	円形	すり鉢	65	(51)	34	
0644P	G18	不定形	すり鉢	29	(14)	16		0726P	F18	楕円形	U	50	36	31	
0645P	G18	楕円形	U	44	40	46	土器	0727P	F18	円形	U	35	33	42	
0646SK	G18	楕円形	逆台形	95	43	65	土器・褐釉・貝製品	0728P	F18	円形	すり鉢	26	22	12	
0647P	G18	楕円形	U	51	35	30	土器	0729P	F18	楕円形	有段状	47	25	23	
0648P	G18	隅丸方形	不定形	63	49	34	土器	0730P	F18	楕円形	すり鉢	61	(36)	25	土器
0649SK	G18	楕円形	U	49	39	32	土器	0731SK	F18	楕円形	有段状	58	31	38	土器
0651P	G18	楕円形	すり鉢	43	30	26	石材	0732P	F18	不定形	逆台形	59	28	23	褐釉
0654P	G18	円形	U	33	30	30		0734P	F18	隅丸方形	逆台形	46	42	29	土器・石材
0655P	G18	円形	U	33	30	19	土器	0735SK	F18	隅丸方形	有段状	50	43	51	土器・褐釉
0659SK	G18	隅丸方形	有段状	63	49	38	土器・貝製品	0736P	F18	円形	有段状	21	20	17	土器・石材
0660SK	G18	隅丸方形	U	61	39	45	土器・貝製品	0737SK	F18	不定形	有段状	84	(65)	59	土器・青磁・貝製品
0661P	G18	楕円形	U	34	28	25		0738P	F18	楕円形	U	18	13	13	土器
0662P	G18	不定形	U	(42)	(29)	44		0739P	F18	不定形	U	41	(26)	28	土器
0665P	G18	円形	逆台形	24	22	17		0740P	F18	円形	U	40	(31)	32	石材
0666P	G18	楕円形	U	45	34	41	土器・染付	0741P	F18	円形	U	29	29	31	
0667SK	G18	楕円形	すり鉢	67	(42)	28	土器	0742P	F18	円形	U	35	33	38	土器・チャート
0668SK	G18	円形	すり鉢	(42)	40	23	土器	0743SK	F18	楕円形	すり鉢	60	47	25	染付・石器
0670P	G18	円形	すり鉢	32	28	22		0745P	F18	円形	U	40	40	62	

第44表－5 柱穴・土坑計測一覧

P：柱穴 SK：土坑

遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物	遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物
0746P	F18	円形	U	27	27	26	土器	0820P	E17	不定形	U	51	(33)	28	
0747SK	F18	不定形	U	63	(24)	70		0821SK	E17	楕円形	すり鉢	73	54	27	
0748P	F18	円形	U	26	26	23		0822P	E17	円形	U	39	36	33	
0749P	E18	不定形	U	23	(19)	42		0823P	E17	円形	U	39	37	27	
0750P	E18	不定形	U	25	(14)	20		0824P	E17	円形	U	33	32	35	
0751SK	E・F18	楕円形	U	54	42	35	石材	0825P	E17	隅丸方形	U	22	20	33	
0752P	E・F18	円形	U	44	43	33	貝製品	0826P	E17	不整形	U	33	30	35	
0753SK	E・F18	不定形	U	43	(18)	29		0827P	E17	隅丸方形	U	35	(23)	22	
0754P	F18	円形	U	39	35	36		0828SK	E17	楕円形	U	43	44	34	
0758SK	E18	円形	U	42	23	35	土器	0829P	E17	楕円形	すり鉢	29	24	15	
0759SK	E18	楕円形	有段状	76	45	31		0830P	E17	楕円形	U	30	25	31	
0761P	E18	円形	すり鉢	33	32	17		0831P	E17	楕円形	U	41	37	30	
0763SK	F18	楕円形	U	69	(48)	44		0833SK	E17	楕円形	すり鉢	59	30	14	
0764SK	F18	不定形	U	77	76	73		0834P	E17	円形	すり鉢	40	33	20	
0765SK	F18	不定形	逆台形	60	(47)	37	貝・褐釉	0835P	E17	円形	U	35	33	32	土器
0766P	F18	楕円形	U	37	30	24		0836P	E17	円形	U	27	24	26	
0767P	F18	楕円形	U	47	33	33		0837P	D・E17	楕円形	すり鉢	47	37	24	
0768P	F18	不定形	不定形	43	(27)	45	青磁	0838SK	E17	不定形	逆台形	48	(44)	28	
0769P	F18	楕円形	U	34	29	20	褐釉	0839P	E17	不定形	すり鉢	38	(18)	24	
0770P	F18	楕円形	U	46	35	23		0841P	E17	不定形	すり鉢	28	(12)	17	
0771P	F18	円形	U	32	29	23		0843P	E17	円形	U	26	25	18	
0772SK	F18	円形	U	59	52	41		0844P	E・F17	楕円形	逆台形	33	26	14	
0773P	F18	楕円形	U	27	20	16		0845P	F17	円形	すり鉢	25	22	13	
0774P	F17・18	楕円形	U	43	35	30	石材	0846P	F17	円形	逆台形	32	31	16	
0775SK	F18	不定形	すり鉢	(101)	(43)	17	土器・染付・貝製品	0847P	E17	円形	逆台形	42	39	20	
0776P	F17・18	円形	逆台形	(42)	41	17	土器	0848P	E・F17	円形	U	38	35	29	
0777SK	F17・18	不定形	U	48	(38)	42	土器・貝製品	0849P	F17	楕円形	有段状	39	31	30	
0778SK	F18	不定形	U	46	(31)	56	土器	0850P	F17	楕円形	U	45	36	35	
0779P	F18	不定形	U	27	(21)	27		0851P	F17	隅丸方形	U	36	29	28	
0780P	F18	不定形	U	21	(16)	15		0852P	E・F17	楕円形	U	43	31	29	土器
0781P	E・F17・18	円形	U	32	30	28		0853P	E17	不定形	U	29	(24)	28	
0782P	E18	楕円形	U	26	20	18		0854P	F17	円形	U	29	28	31	
0783P	E18	円形	U	32	30	37		0855P	F17	円形	逆台形	36	35	14	
0785P	E18	楕円形	すり鉢	47	33	14		0856P	F17	楕円形	すり鉢	74	47	14	
0786P	E18	円形	U	28	23	20		0858P	F17	円形	逆台形	37	35	20	
0787P	E18	楕円形	U	28	22	22		0859P	F17	楕円形	すり鉢	40	35	16	
0788P	E18	楕円形	U	53	38	29	土器・石材	0860P	F17	楕円形	すり鉢	34	(26)	13	
0790P	E18	不定形	U	34	(29)	38	貝製品	0861SK	F17	円形	U	47	40	47	土器
0791P	E18	楕円形	U	37	29	45		0862P	F17	楕円形	U	(32)	31	37	
0792P	E18	円形	U	37	(26)	23		0863P	F17	楕円形	U	39	28	23	
0793P	E18	円形	U	42	37	31	石材	0864P	F17	楕円形	すり鉢	38	(24)	23	
0794P	E18	円形	U	25	21	33		0865P	F17	円形	U	27	23	18	
0795P	E18	円形	U	29	29	26	石材	0866P	F17	円形	U	31	30	32	
0796P	E18	円形	逆台形	38	35	16		0867P	F17	円形	逆台形	29	27	17	
0797P	E18	円形	すり鉢	34	31	22	土器	0868SK	F17	不定形	不定形	58	57	39	褐釉
0798SK	E18	楕円形	不定形	57	38	35	貝製品	0869P	F17	不定形	U	30	(20)	26	
0799P	E18	円形	U	28	26	28	貝製品	0870SK	F17	不定形	有段状	52	(40)	38	褐釉・貝
0800P	E18	円形	U	24	24	25		0871SK	F17	楕円形	有段状	50	43	45	貝製品
0801P	E18	円形	逆台形	45	38	28		0872P	F17	円形	U	43	39	41	
0802P	E18	楕円形	U	32	26	18		0873P	F17	円形	逆台形	24	22	12	
0803P	E18	円形	逆台形	46	45	27	貝製品	0874P	F17	隅丸方形	逆台形	41	40	26	
0804P	E18	楕円形	すり鉢	43	33	23	土器	0875P	F17	不定形	U	24	22	29	褐釉
0804P	E18	楕円形	すり鉢	43	33	23	土器	0876P	F17	楕円形	U	32	25	33	
0805P	E18	円形	U	47	39	49	貝製品・石材	0877P	F17	楕円形	U	(30)	28	23	
0806P	E18	楕円形	逆台形	50	(47)	23		0878P	F17	不定形	U	44	44	31	褐釉
0808P	E18	円形	すり鉢	49	(39)	25		0879P	F17	円形	U	35	34	24	
0809P	E18	不定形	U	41	(19)	33		0880P	F17	円形	すり鉢	34	32	20	
0810P	E18	楕円形	U	34	23	26		0881P	F17	円形	U	24	22	22	
0811P	E18	円形	有段状	47	44	24		0882P	F17	隅丸方形	逆台形	32	31	23	
0812P	E17・18	円形	U	40	(37)	47		0883SK	F17	不定形	逆台形	49	42	29	石材
0814P	E17	楕円形	U	(35)	(30)	46	土器	0884P	F17	楕円形	U	44	(29)	28	
0815P	E17・18	楕円形	逆台形	24	23	25		0885P	F17	不定形	U	35	(24)	28	
0816P	E17	円形	U	32	29	38		0886P	F17	円形	すり鉢	35	33	24	
0817P	E17・18	円形	逆台形	38	36	24		0887P	F17	楕円形	U	44	34	36	
0818P	E17	隅丸方形	U	32	29	30		0888P	F17	楕円形	U	43	(30)	29	
0819P	E17	楕円形	すり鉢	46	29	21		0889P	F17	楕円形	U	38	29	25	

第44表－6 柱穴・土坑計測一覧

P：柱穴 SK：土坑

遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物	遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物
0890P	F17	楕円形	U	40	30	25		0964P	G17	円形	すり鉢	25	23	14	
0892SK	E17	円形	すり鉢	46	41	28		0965P	G17	円形	逆台形	37	33	30	
0893P	E16	円形	U	39	33	31		0966P	G17	隅丸方形	U	40	(30)	31	土器
0894P	F16	楕円形	U	57	40	35		0967P	G17	円形	U	38	38	35	土器・貝製品
0895P	F16・17	円形	U	30	28	25		0968P	G17	円形	U	41	38	30	土器・貝・石器
0897P	D18	円形	逆台形	27	25	15		0969P	G17	円形	逆台形	27	25	18	
0898P	D18	円形	U	31	30	23		0970P	G17	楕円形	V	38	31	21	
0899P	D18	楕円形	すり鉢	42	36	22		0971P	G17	楕円形	すり鉢	24	21	9	土器
0900P	D18	円形	逆台形	28	26	16		0972P	G17	円形	すり鉢	40	(22)	16	
0901P	D17	楕円形	すり鉢	53	34	25		0973P	G17	楕円形	すり鉢	38	30	11	
0902P	F・G17	楕円形	U	31	(20)	23	土器	0974P	G17	円形	すり鉢	40	(29)	21	
0903P	F17	楕円形	逆台形	55	39	23		0977P	G17	不定形	すり鉢	24	(20)	13	
0904P	F・G17	不定形	U	42	35	45	石材	0978P	G17	不定形	すり鉢	(31)	(23)	22	
0905P	G17	不定形	すり鉢	38	(25)	18		0979P	G17	円形	U	23	23	30	
0906P	G17	円形	U	24	23	30	土器	0980P	G17	円形	U	16	16	14	
0907P	G17	円形	有段状	32	24	35	土器・焼土	0981P	G17	円形	U	23	19	16	
0908SK	G17	楕円形	不定形	69	(19)	23		0982P	G・H17	円形	U	30	26	44	青磁
0909SK	G17	円形	U	48	(44)	37		0984P	H17	円形	U	23	21	17	土器
0910P	F17	楕円形	逆台形	37	27	20		0985P	G・H17	楕円形	すり鉢	(22)	19	16	
0911P	F17	円形	逆台形	33	29	15		0986P	G17	楕円形	すり鉢	34	21	21	
0912P	F17	円形	U	35	28	33		0987P	H17	楕円形	U	30	24	26	土器
0913P	F17	楕円形	U	31	24	23		0988P	H17	楕円形	U	40	31	44	土器・貝製品
0914P	F17	不定形	U	(41)	21	22		0989P	H17	円形	U	23	20	16	
0915P	F17	円形	U	38	38	27		0990P	H17	円形	U	24	24	14	
0916P	F・G17	円形	U	26	23	23		0991P	H17	楕円形	逆台形	37	29	12	土器
0917P	F17	楕円形	U	46	37	30		0992P	H17	楕円形	U	38	30	48	石器
0918P	F17	楕円形	U	56	37	31		0993P	H17	楕円形	V	47	(25)	52	土器・染付
0919P	F17	不定形	不定形	27	(12)	30		0994P	H17	円形	すり鉢	34	(28)	11	土器
0920P	F17	隅丸方形	U	28	23	28		0995SK	H17	不定形	すり鉢	46	(22)	25	土器
0922P	F17	楕円形	U	33	25	26		0996SK	H17	楕円形	W	83	37	27	染付
0923P	F17	楕円形	V	42	32	38	貝製品	0997SK	H17	不定形	不定形	93	36	39	
0924P	F・G17	楕円形	すり鉢	(39)	29	26	褐釉	0999P	H17	円形	V	28	26	31	
0925P	F17	円形	U	32	30	37		1000P	H17	円形	U	37	(25)	27	
0927P	G17	円形	V	38	35	36	土器・褐釉	1002P	H17	円形	U	21	18	16	
0928P	G17	楕円形	U	30	24	16		1004SK	H17	楕円形	U	52	35	27	土器・青磁
0929P	G17	楕円形	U	42	33	30		1005P	H17	隅丸方形	U	43	27	28	
0930P	G17	円形	U	24	27	20		1006P	H17	隅丸方形	すり鉢	37	26	21	
0931P	G17	楕円形	すり鉢	35	26	22	土器	1008P	H17	隅丸方形	U	33	32	25	土器
0933P	G17	楕円形	U	47	32	33		1009P	H17	円形	U	39	37	65	土器・貝
0934P	G17	楕円形	U	41	33	26		1010P	H17	楕円形	V	31	22	20	貝製品
0935P	G17	隅丸方形	U	29	27	27	土器	1011P	H17	円形	逆台形	48	41	22	
0936P	G17	円形	U	31	28	39		1012SK	H17	楕円形	すり鉢	61	34	21	
0937P	G17	楕円形	すり鉢	34	20	21	土器	1013P	H17	楕円形	U	28	20	18	青磁
0938P	G16	楕円形	すり鉢	25	21	7	土器・褐釉・貝	1014P	H17	不定形	U	27	24	20	
0939P	G16・17	円形	U	22	21	22	土器	1015P	H17	円形	U	22	20	21	
0940P	G17	楕円形	すり鉢	43	25	12	土器	1016P	H17	不定形	すり鉢	47	33	26	
0942P	G17	楕円形	U	34	24	28		1017P	H17	不定形	すり鉢	29	(27)	27	
0943P	G17	円形	U	32	(25)	29		1019SK	H17	楕円形	すり鉢	56	31	16	
0944P	G17	円形	U	22	20	19		1020P	H18	円形	U	18	15	20	
0945P	G17	楕円形	U	26	23	24		1021P	H17	楕円形	U	51	31	29	青磁
0946P	G17	楕円形	逆台形	43	26	25		1022P	H17	不定形	すり鉢	41	(31)	26	
0947P	G17	円形	すり鉢	29	26	14		1023P	H17	楕円形	U	29	26	29	
0948P	G17	円形	U	22	22	19		1024P	H17	楕円形	U	20	18	26	
0949P	G17	楕円形	U	34	29	20		1025P	H17・18	楕円形	すり鉢	38	27	16	
0950P	G16・17	不定形	すり鉢	56	30	46		1028P	H17・18	円形	U	17	17	23	
0951P	G17	円形	U	30	27	25	土器	1030P	H17	楕円形	U	33	27	22	
0952P	G17	円形	逆台形	31	30	20	土器	1031SK	H17	不定形	逆台形	96	83	76	土器・青磁・褐釉
0953SK	G17	楕円形	U	63	(34)	48	土器・貝	1032SK	H18	隅丸方形	U	53	29	56	
0954P	G17	楕円形	すり鉢	50	30	15		1034P	H18	円形	すり鉢	31	30	19	
0955P	G17	隅丸方形	U	24	24	20	土器	1036P	H17	楕円形	U	25	22	16	
0956P	G17	円形	U	35	34	36	土器・青磁	1038P	H17	楕円形	すり鉢	34	29	17	
0957P	G17	楕円形	U	26	21	16		1039P	H17	不定形	U	30	(24)	26	
0959P	G17	円形	U	31	30	41	土器	1040P	H17	不定形	逆台形	22	(14)	20	
0960P	G17	円形	U	18	17	17		1042P	H17	円形	すり鉢	33	30	13	土器
0961P	G17	楕円形	U	38	31	29		1043P	H・I17	楕円形	すり鉢	23	20	12	土器
0962P	G17	楕円形	V	28	20	9		1046P	H16・17	円形	U	23	20	17	土器
0963P	G17	楕円形	不定形	(29)	24	17	土器・褐釉	1047P	H16	不定形	逆台形	(36)	32	22	土器

第44表－7 柱穴・土坑計測一覧

P：柱穴 SK：土坑

遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物	遺構名	グリッド	平面形状	断面形状	長辺幅 (cm)	短辺長さ (cm)	深さ (cm)	遺物
1049P	H16	楕円形	U	29	24	20	土器・貝製品・石材	1134P	H17	楕円形	U	40	30	19	土器
1050P	H16	不定形	逆台形	31	13	20	土器	1137P	H16	楕円形	すり鉢	33	30	19	青磁
1051SK	F16	円形	すり鉢	47	38	26	貝製品	1138P	I17	不定形	U	28	(13)	26	
1052SK	F16	円形	逆台形	55	46	19		1139P	I17	円形	U	22	21	44	
1053P	G16	円形	U	28	25	19		1140P	I17	不定形	U	39	(21)	24	
1054P	J18	円形	逆台形	34	32	28		1141P	H18	円形	すり鉢	26	25	15	
1055P	G17	楕円形	すり鉢	47	27	20		1142P	G18	不定形	逆台形	56	(21)	23	
1056P	K18	不定形	U	(38)	(27)	47		1143P	G18	不定形	逆台形	59	(41)	37	土器
1057SK	J18	不定形	不定形	102	(45)	52	土器	1144P	G18	円形	U	33	32	26	
1058SK	J18	隅丸方形	有段状	59	(48)	58		1145P	I・J16・17	円形	皿	44	40	9	土器・青磁
1059P	E18	不定形	V	(30)	(12)	20		1147P	D14	不定形	すり鉢	30	(19)	8	
1060SK	D17・18	楕円形	すり鉢	209	157	50	土器・陶質・貝製品・白磁・褐釉・石材	1148P	D9	円形	U	40	35	26	
1061SK	D17	不定形	すり鉢	128	109	88	土器・青磁	1149P	D9	円形	U	34	30	46	
1063P	D18	-	U	30	(18)	23		1150P	G18	不定形	U	25	(24)	18	土器・沖無
1064P	H18	円形	U	21	18	32		1151P	J17	円形	すり鉢	42	36	22	
1065SK	H18	円形	逆台形	49	(39)	17	土器・褐釉	1152P	J17	不定形	すり鉢	27	(16)	15	
1067P	F18	円形	U	32	27	29		1153P	I・J17	楕円形	逆台形	58	35	8	
1068P	F18	円形	U	30	30	24		1154P	J17	不定形	U	31	(17)	30	
1070P	H18	楕円形	U	26	24	31	土器	1155P	J17	不定形	すり鉢	29	(18)	14	
1071P	K・L17	不定形	不定形	44	(36)	24		1156P	J17	不定形	すり鉢	18	(12)	11	土器・青磁
1072SK	K・L17	不定形	U	(57)	(49)	27		1157P	J17	楕円形	U	37	25	23	
1074P	K18	円形	U	25	25	24	土器	1158P	J17	不定形	U	(34)	22	34	
1075P	K18	不定形	すり鉢	25	(20)	17	土器・焼土	1164SK	J17	不定形	不定形	151	(136)	32	
1076P	J17	円形	U	23	21	19		1165SK	J18	楕円形	すり鉢	(118)	93	37	
1078P	K16	円形	逆台形	33	31	15		1166SK	J・K18	楕円形	逆台形	(72)	54	18	
1080P	J・K16	楕円形	U	38	26	16		1167P	K18	不定形	U	32	(29)	48	
1081SK	K16	楕円形	すり鉢	76	38	15	土器・貝製品・焼土	1168P	J18	円形	U	34	31	28	
1082SK	J16	楕円形	不定形	64	50	33	土器・染付・褐釉・瑠璃釉	1169P	J18	不定形	U	(42)	27	25	
1085SK	J16	隅丸方形	すり鉢	58	51	14	染付	1170P	J18	楕円形	U	41	31	37	
1086P	E18	楕円形	U	39	30	31		1171P	J17	円形	U	41	34	36	
1087P	E18	円形	U	24	21	37		1172P	J18	隅丸方形	U	43	(29)	27	
1088P	E18	円形	U	46	45	38	土器	1173P	J18	円形	U	32	30	24	土器
1089SK	E・F18	楕円形	すり鉢	(78)	65	31	褐釉	1174P	K17	円形	U	35	33	48	石器
1090P	J17	楕円形	逆台形	27	19	10	貝製品	1212SK	K・L16	円形	すり鉢	81	78	28	
1091P	E18	円形	すり鉢	38	36	16		1258P	K・L16	不定形	U	(19)	(14)	42	
1092P	F18	円形	U	47	(35)	38		1259P	K・L17	楕円形	U	37	30	20	
1093P	F17	楕円形	不定形	31	(16)	15		1389P	K・L17	隅丸方形	U	36	28	39	
1096P	J18	楕円形	U	60	37	36	石器	1393P	L17	楕円形	U	41	31	46	
1098P	J16	楕円形	U	28	20	16		1426P	K・L17	楕円形	U	44	35	53	土器・瓦質
1100P	J16	円形	U	(15)	13	21	土器	1428P	K・L17	不定形	U	28	(21)	22	染付
1101P	J16	不定形	U	21	12	26	土器・褐釉・円盤状製品・沖施	1465SK	K・L18	隅丸方形	U	65	42	39	
1102SK	J16	楕円形	有段状	53	35	34		4046P	K・L18	不定形	逆台形	(26)	(20)	24	
1103SK	J16	楕円形	すり鉢	53	35	12		4068P	K・L18	不定形	U	27	(18)	23	
1104P	J16・17	円形	U	29	29	40		4402SK	C17・18	不定形	U	126	79	89	土器・青磁
1105SK	J16・17	不定形	U	41	(35)	47	土器・青磁	4403SK	C17	円形	逆台形	136	132	65	土器・鉄・石材・青磁・白磁・褐釉
1108P	I16	不定形	U	30	(17)	27		4406P	C18	円形	U	31	24	24	
1109P	K17	円形	U	35	31	44	土器	4414P	C17	円形	U	34	29	17	
1110P	J18	楕円形	U	28	26	26		4415P	C17	楕円形	すり鉢	42	34	23	土器
1111P	I17	不定形	U	32	(22)	27	三彩	4416P	C17	円形	逆台形	38	34	27	
1112P	H16	楕円形	すり鉢	31	25	14		4417P	C17	円形	U	29	25	36	
1113P	H16	円形	すり鉢	31	27	12		4418P	C17	隅丸方形	U	44	39	27	
1115P	H・I16	楕円形	すり鉢	40	38	26		4419P	C17	楕円形	有段状	37	35	22	貝製品
1117SK	J16	楕円形	V	58	38	28	青磁	4420P	C17	楕円形	逆台形	53	44	26	土器
1121SK	G・H18	不定形	すり鉢	72	(46)	20		4421P	C17	円形	逆台形	48	47	29	
1122SK	G・H17	不定形	有段状	157	(93)	47	土器・褐釉・貝製品	4423P	D17	円形	逆台形	44	42	22	
1123P	G17	不定形	U	(37)	(14)	22		4426SK	C18	不定形	逆台形	87	50	19	
1124P	G18	楕円形	U	53	44	56	土器・青磁	4427SK	C18	不定形	有段状	78	71	74	土器・貝・鉄・青磁
1125P	G17・18	円形	すり鉢	18	18	7		4435P	C18	円形	逆台形	27	25	17	
1126P	G17	楕円形	U	28	23	24		4444P	C17	楕円形	逆台形	39	32	18	
1127P	G17	不定形	U	31	(13)	30	土器・石器	4445P	D17	円形	U	44	40	39	土器
1128P	G17	楕円形	U	57	(35)	40	土器	4447P	D17	円形	U	33	31	24	
1129P	G17	円形	U	44	40	34	土器・石材	4448P	D17	円形	U	32	27	19	
1132SK	G17	隅丸方形	逆台形	53	39	28	土器	4449P	C17	楕円形	すり鉢	36	29	18	

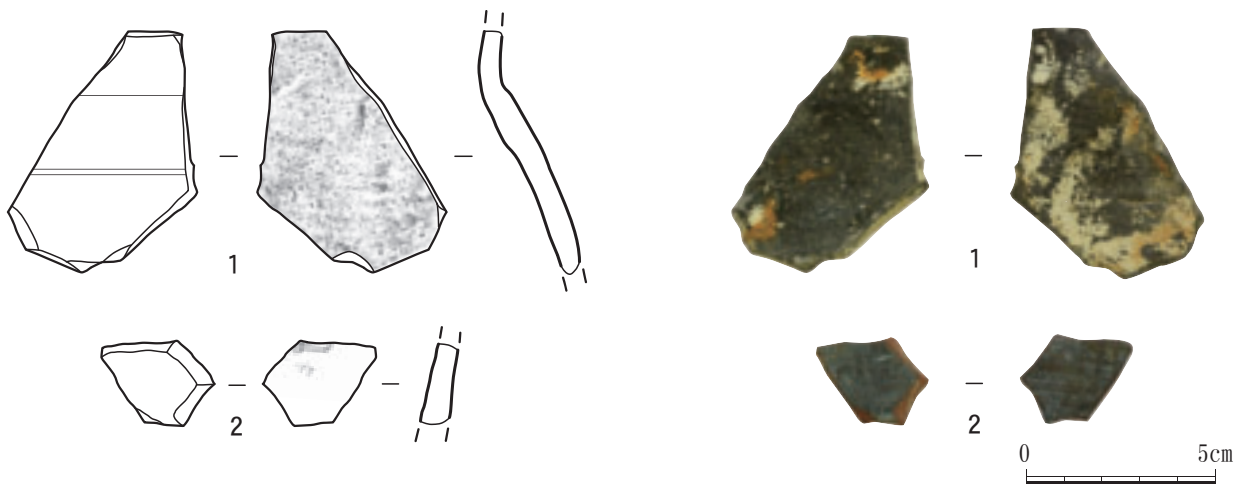
2. 出土遺物

グスク時代の遺物は、カムイヤキ、白磁、青磁、染付、瑠璃釉、褐釉陶器（中国産・タイ産）、三彩、瓦質土器、焼土、銭貨が出土した。出土量が最も多いのは、青磁（639点）、褐釉陶器（中国産489点・タイ産150点）639点である。以下、各々の遺物について概略する。

（1）カムイヤキ

カムイヤキと思われる資料が2点得られた。肩部片（図1）と胴部片（図2）であった。

図1は肩部片で頸部が斜位に立ち上がる。外面の器面調整は丁寧なナデ調整で、内面は丸いあて具による敲きが見られる。素地は、中心部は褐色素粒子で内外面の表面は淡黒色である。胎土は細かい白色微粒子が見られる。図2は胴部片である。外面はナデ調整、内面は格子状の敲きが施されている。素地は褐色の素粒子で胎土に細かい白色砂粒子が含まれている。J18 II層。



第66図・図版51 カムイヤキ

（2）白磁

中国産白磁は118点得られた。器種は主に碗、皿、杯、瓶、壺の5種類で、器種ごとに記述する。個々の詳細については第46表の観察表に記した。

1. 碗

第67図1は口縁部を玉縁状に肥厚する、いわゆる玉縁口縁碗である。逆「八」の字状に開くと思われる。口縁部は折り曲げることで肥厚する。口縁下部は削りを入れている。

図2は口縁部が直口する碗である。口縁部は逆「八」の字状に開く。外面は轆轤痕が残る。口唇部は方形状を呈する。図3は胴部片で見込み部は露胎する。外面に轆轤回転の際に砂粒による線条溝痕が廻る。図4は口縁部が外反する薄手の小碗である。

図5～8は底部片である。図5は畳付が三角状に尖る。畳付から外底は露胎する。図6は見込みと腰部より外底は露胎する。図7は内外面の腰部まで施釉する。高台は台形状で高台外面に溝が廻る。図8の高台は台形状を呈する。見込みと高台脇から外底は露胎する。高台脇は削りが入り腰部に明瞭な稜を呈する。内面は腰部に抉りを入れ胴部は立ち上がる。

2. 皿

図9は直口口縁の浅い皿で高台は4カ所にアーチ状の抉りを入れる。口縁部外端は丸みを帯び端は稜を呈する。図10は薄手の外反口縁皿である。口唇部は尖る。

図 11 は平底の厚手の直口口縁を呈する浅い皿である。口唇部に煤痕が見られることから灯明皿と思われる。外底は上げ底状を呈する。図 12 は薄手の外反口縁皿である。口唇部は丸みを帯びる。図 13 は薄手の直口口縁皿である。口縁部内面に釉垂れが見られる。口唇部は方形状を呈する。

図 14 は薄手の皿底部である。全面施釉するが高台脇に雑さが見られる。胴部は底部より丸みを帯びて立ち上がる。高台は方形状を呈し、畳付内端が尖る。畳付の一部と高台内面に目砂が残る。

図 15 は皿底部である。胴部の器壁は薄く、底部より緩やかに立ち上がる。見込みは目跡である。高台は外端を斜位に削り尖る。高台脇より外底は無釉である。

図 16 はやや薄手の直口口縁皿である。内外面の口縁下に釉垂れが見られる。図 17 は平底皿で外底は上げ底状である。外面は無釉で内面は施釉する。

3. 杯

図 18 は直口口縁で逆「八」の字状に開くやや厚手の杯である。内面胴部に釉が掛かる。外面は口縁下部に幅 9mm の凹みが巡り、口縁部は方形状に肥厚する。

図 19 は薄手の杯の底部で、碁笥底を呈する。胴部は底部よりやや直に立ち上がる。底径が小さく小型の杯である。図 20 は胴部が開く杯の底部である。底径が小さく小型の杯である。

図 20 は直口口縁で口唇部舌状である。口径が小さく小型である。

4. 瓶

図 22 は瓶の底部である。くびれ平底で胴部は逆「八」の字状に開き立ち上がると思われる。底部は厚手である。図 23 は胴部の丸みの部位で外面は篋彫りによる蓮弁文が施される。

図 24 は瓶又は壺の胴下部である。内面に轆轤痕が残り釉が掛かる。

5. 壺

図 25 は壺胴上部片である。内面に轆轤痕が明瞭に残る。外面は轆轤回転の際に砂粒による線條溝が廻る。

第45表 白磁出土量

層位	器種	碗			皿				杯		小碗 or 杯	瓶			壺	瓶 or 壺	不明			合計	
		口縁部	胴部	底部	口縁部	口縁部	底部	口 く 底	口縁部	口縁部		底部	口縁部	胴部			底部	胴部	胴部		口縁部
I								1						1							2
II		3		5	2	4	8	1	3	2	1	1	1			1	1	29			62
II (遺構)		2	1	1		4	1							3				5			17
III		3	2			3		1					1	1	2			2			15
III (遺構)		3		2	1	2	2	1	2	1	1			1				2			18
V b (III)			1				1											1	1		4
合計		11	4	8	3	13	12	2	4	4	3	1	1	2	2	6	1	1	39	1	118
器種別計		26			31				7		1	5			6	1	41				

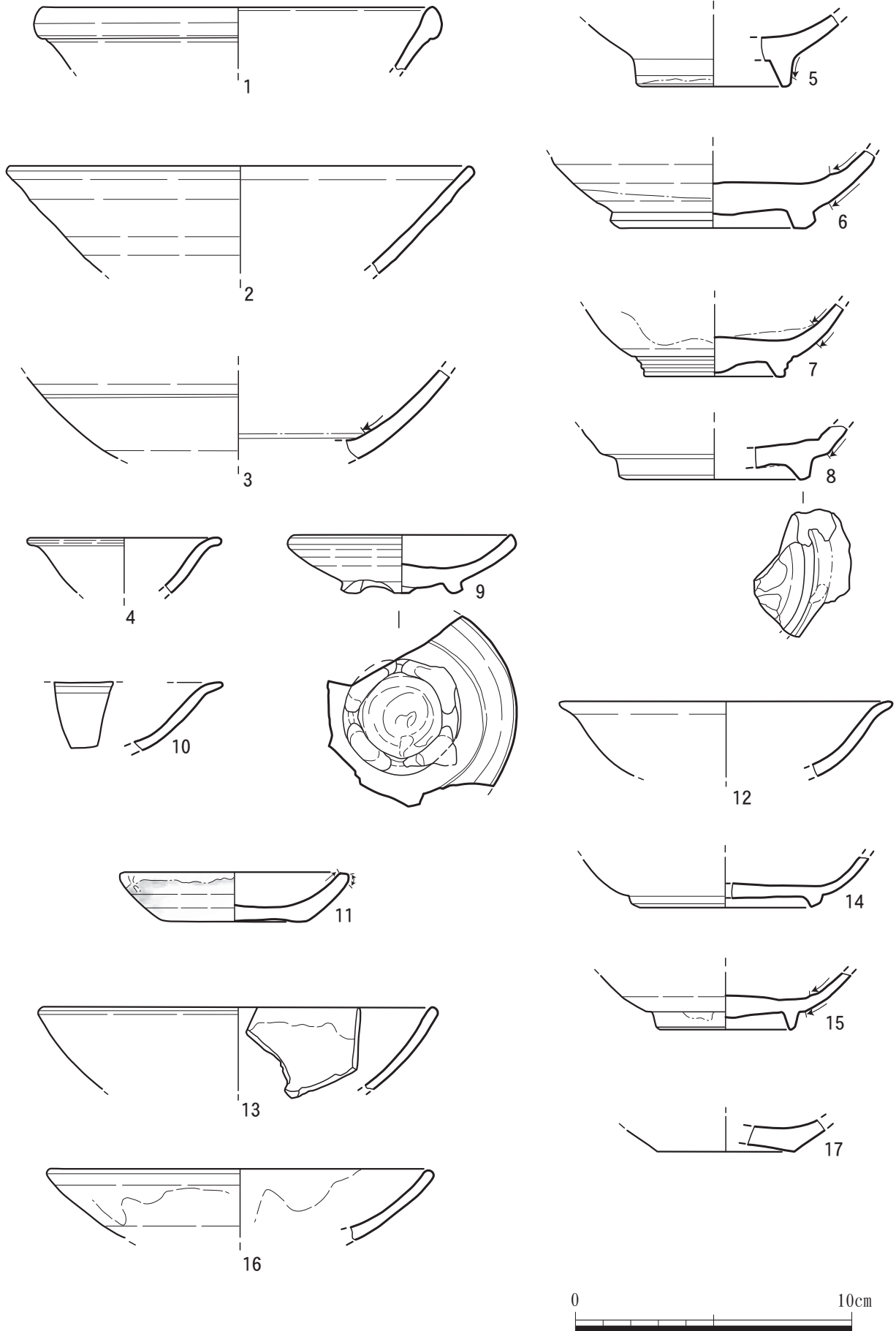
II (遺構) : (SF) 0008. (SZ) 0350.0586

III (遺構) : (P) 0252.0262.0325.0364.0537.0676

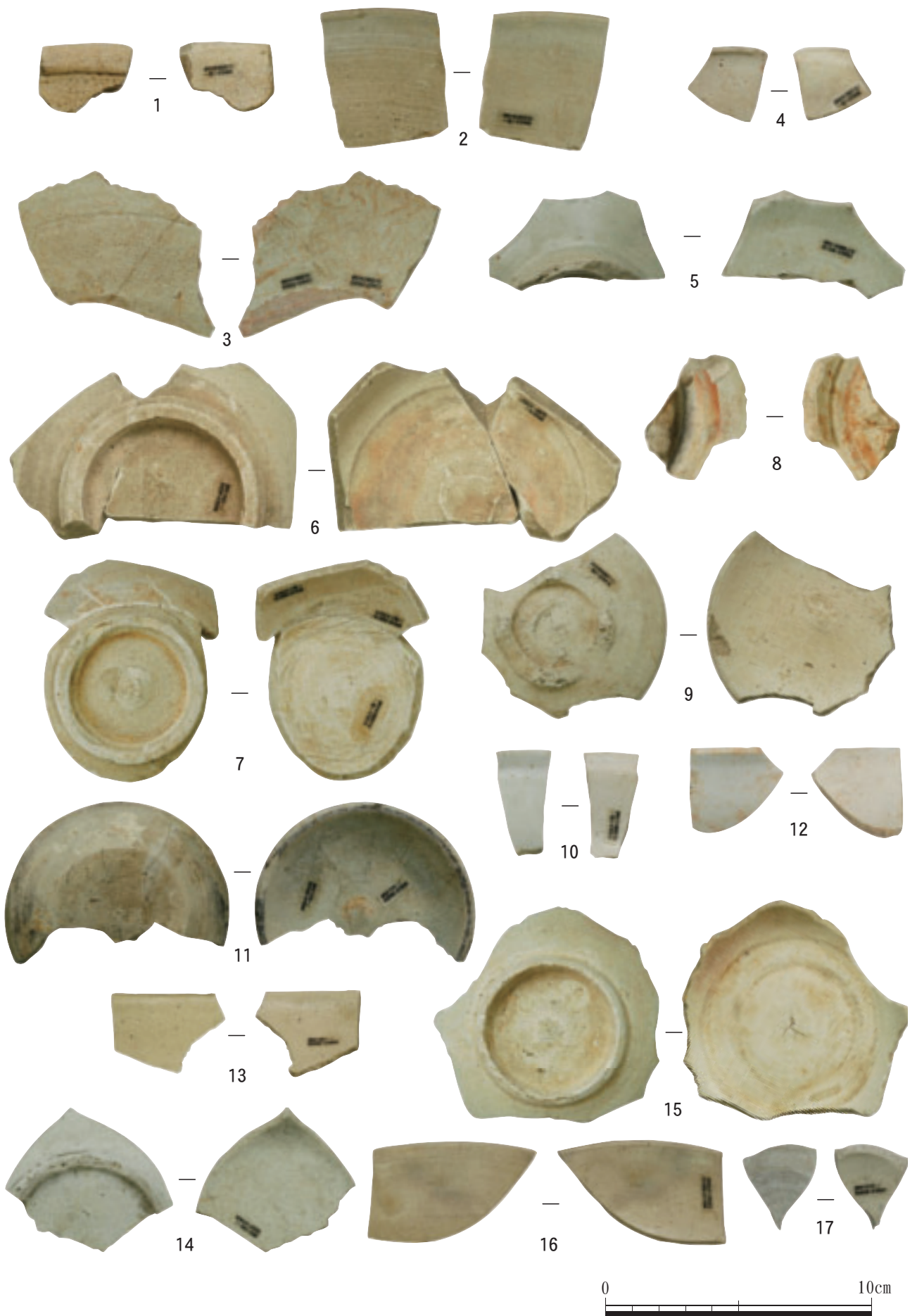
(SK) 0294.0312.0326.0328.0329.0386.0513.0641.4403.1060

第46表 白磁観察一覧

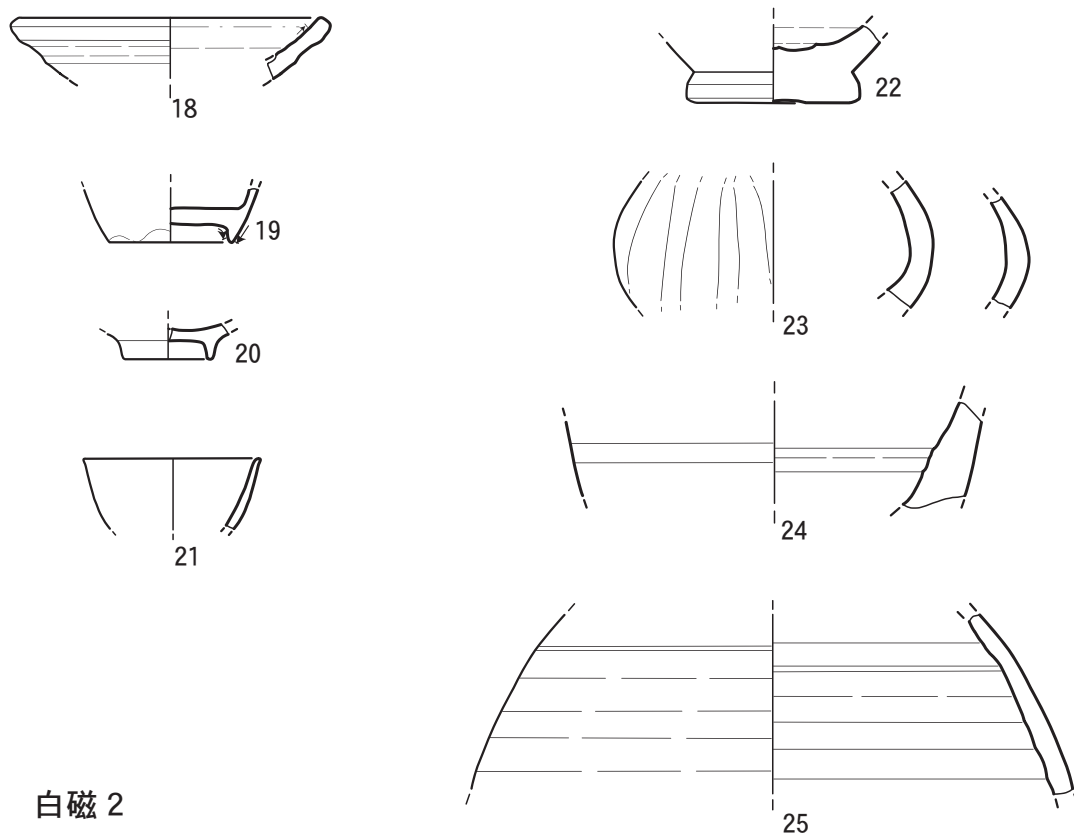
第図 図版	図 番号	器種	部位	口径 (cm) 器厚 (mm) 底径 (cm)	観察事項	出土地
第 67 図 ・ 図 版 52	1	碗	口縁部	14.0 4~8 -	逆「ハ」の字状に開く器形。素地は乳白色微粒子。釉色は白濁色で貫入は細かい。玉縁の肥厚幅は1.2cm。厚さは0.9cm。	G17 Ⅱ層 台 262
	2	碗	口縁部	17.0 4~5 -	逆「ハ」の字状に開く器形。口唇部は方形状を呈する。外面は轆轤痕が残る。素地は淡灰色微粒子で緻密。釉色は透明釉で貫入は荒い。	G18 Ⅲ層 台 452
	3	碗	胴部	- 4~7 -	逆「ハ」の字状に開く器形。見込みは露胎する。外面は轆轤による細く浅い溝が廻る。素地は灰色で、釉は淡灰色で発色が悪い。外面に小さな「ハ」状が見られる。	D16 Ⅱ層 0350SZ 台 970
	4	碗	口縁部	7.0 4.0 -	口縁部は外反する薄手の小碗である。素地は白色で釉色は乳白色である。貫入は見られない。	F18 Ⅱ層 台 417
	5	碗	底部	- 5~9 5.6	高台はやや尖る。畳付外端は削り、内端は付く。畳付から外底は露胎する。素地は白色で釉色は淡青白色である。貫入は細かい。見込みに圏線?が見られる。	J18 Ⅲ層 0513SK 台 1458
	6	碗	底部	- 5~12 7.4	見込み及び腰部から外底まで露胎する。畳付は台形状で外端を斜位に削る。素地は白色微粒子で釉色は白色である。貫入は見られない。	J16 Ⅲ層 0325P 台 1882
	7	碗	底部	- 4~13 5.2	内外面の腰部まで施釉する。素地は白色微粒子で釉色は白色、貫入は細かい。	D18 Ⅱ層 台 633
	8	碗	底部	- 6~8 7.0	高台は台形状を呈する。高台脇は削りを入れ腰部は角張る。見込みは腰部に挟りを入れる。見込みと高台脇から外底は露胎する。素地は白色微粒子で釉色は淡青色を呈する。貫入は細かい。	G16 Ⅱ層 台 222
	9	皿	口~底	7.8 4~8 4.4	挟り入り高台皿。畳付は無釉。内底に目跡はみられない。素地は白色粗粒子で釉色は淡黄白色である。器高:2.1cm。	F17 Ⅲ層 台 895
	10	皿	口縁部	- 3~4 -	薄手の外反口縁皿で口唇部は尖る。素地は灰色微粒子で釉色は淡灰白色である。	E15 Ⅲ層 台 710
	11	皿	口~底	8.2 5~8 5.2	平底で厚手の直口口縁の浅い皿である。口唇部は露胎する。口縁部外面下に部分的に施釉がみられるが外底まで露胎となっている。口唇部は煤が残る。外底はやや上げ底状を呈する。	J17 Ⅲ層 0328SK 台 1724
	12	皿	口縁部	12.0 3~4 -	薄手の外反口縁皿で口唇部は丸みを帯びる。素地は白色微粒子で細かい黒色鉱物を含む。釉色は白色である。	G12 Ⅱ層 0008SF 台 108
	13	皿	口縁部	14.4 3~4 -	薄手の直口口縁皿である。素地は乳白色粗粒子で、薄い淡灰白色の釉を施す。口縁部内面に釉垂れがある。貫入は細かい。	J17・18 Ⅲ層 0294SK 台 1661
	14	皿	底部	- 3~5 6.8	薄手の皿である。高台は台形状で畳付外端を斜位に削るため内端が付く。畳付の一部と高台内面に目砂が残る。全施釉で高台脇の釉掛は雑である。素地は淡灰色微粒子で淡青白色の釉を施す。貫入は見られない。	J18 Ⅲ層 0262P 台 1240
	15	皿	底部	- 3~8 5.2	胴部は薄手で高台より緩やかに立ち上がる。底部は肉厚がある。高台は畳付外端を斜位に削り尖る。見込みは目跡で、高台脇より外底は無釉である。貫入は細かい。	E15 Ⅱ層 台 741
	16	皿	口縁部	14.0 3~5 -	やや薄手の直口口縁皿である。口唇部は丸みを帯びる。内外面の口縁部下に釉垂れが見られる。素地は乳白色微粒子で釉色は淡灰色で貫入は細かい。	H16 Ⅱ層 0350SZ 台 1077
	17	皿	底部	- 5~8 5.0	平底の底部で外底は上げ底状である。素地は灰色微粒子で釉色は外面は露胎、内面は透明釉である。	I17 Ⅲ層 0386SK 台 1573
第 68 図 ・ 図 版 53	18	杯	口縁部	8.2 4~5 -	直口口縁で逆「ハ」の字状に開くやや厚手の杯である。素地は灰白色微粒子で、釉は内面胴部に透明釉が掛かる。	H17 Ⅱ層 台 333
	19	杯	底部	- 2~5 3.2	碁笥底の底部で畳付は舌状を呈する。薄手の杯である。素地は淡灰白色微粒子で釉色は乳白色である。畳付は露胎する。底径が小さく小型である。	I17 Ⅱ層 台 206
	20	杯	底部	- 3~4 2.4	口縁部が開く杯の底部と思われる。底径が小さく小型である。素地は淡灰白色微粒子で釉色は乳白色である。	E18 Ⅱ層 台 478
	21	杯	口縁部	4.6 2~3 -	直口口縁で口唇部は舌状である。素地は白色微粒子で釉色は乳白色である。	F17 Ⅱ層 台 423
	22	瓶	底部	- 7~15 4.6	くびれ平底の底部で胴部は逆「ハ」の字状に開き立ち上がると思われる。素地は灰色素粒子で釉色は外面は露胎、内面は灰色で貫入は細かい。	E11 Ⅰ層 0001SZ 台 35
	23	瓶	胴部	- 3~7 -	丸みのある胴部で外面は篋彫りによる蓮弁文が施される。素地は白色微粒子で釉は内外面施され、釉色は淡青白色で貫入は細かい。	E14 Ⅲ層 台 712
	24	瓶	胴部	- 8~12 -	瓶又は壺の底部片である。内面に轆轤痕が残る。素地は淡灰色粗粒子で内面に灰白色の釉が施される。外面は露胎である。	J18 Ⅱ層 台 211
	25	壺	胴部	- 3~4 -	薄手の壺胴部片である。内面に轆轤痕が明瞭に残る。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡灰青色で貫入は細かい。	J18 Ⅲ層 0513SK 台 1458



第67図 白磁 1



図版52 白磁 1



第68図 白磁 2



図版53 白磁 2

(3) 青磁

青磁は総数 634 点出土している。器種は主に碗・皿・鉢・盤で、碗が 471 点と主体である。

A. 碗

1. 蓮弁文碗

蓮弁文碗は鎬蓮弁文、無鎬蓮弁文、線刻細蓮弁文がある。それぞれを前者よりⅠ群～Ⅲ群とした。

- Ⅰ群：鎬蓮弁文碗で胴部片が得られている。片切り彫りによる蓮弁で、弁は稜を有する（図 1）
- Ⅱ群：無鎬蓮弁文碗で外面は片切り彫りによる幅広の蓮弁文を施す。底部は見込みに圏線とその内側に印花文を施す。高台は畳付外面を削り畳付内端が畳に付く。外底は蛇の目釉剥ぎである（図 2～4）
- Ⅲ群：線刻細蓮弁文碗で篋描きによる蓮弁文を施す。底部は見込みに印花文、内面腰部に花文が施される。高台は畳付内外端を削るため舌状または丸みを呈する（図 5～9）

2. 雷文帯碗

口縁部の形態はほぼ直口口縁であるが 1 点は不明である。文様の有無等により 3 種類に分けた。

- a：口縁部の内外面下に雷文帯を廻らし、内面に人形手が施される（図 10・11・14）
- b：外面の口縁部に雷文帯を廻らす（図 12）
- c：外面に崩れた雷文帯を廻らしその下位に蓮弁文を施す（図 13）と崩れた雷文のみがある（図 15）

3. 有文碗

内外面に花文を施すものである。口縁部の形態が外反するものと直口するものがある。

- Ⅰ種：外反口縁碗で外面に片切り彫りによる花文もしくはラマ式蓮弁文を施す。内面も同様に片切り彫りによる花文を施す（図 16）
- Ⅱ種：直口口縁碗でⅠ種同様の文様を施す。（図 17・18）

4. 無文碗

口縁部の形態が直口口縁を呈するもので、大振りの碗と小振りの碗がある。また、底部資料の内外面に文様が見られないことからここで取り扱った。底部は見込みに印花文を施すものと無文がある。

- ① Ⅰ類：大振りの碗である（図 19）
- ② Ⅱ類：小振りの碗である（図 20・21）
- ③ 碗底部は施釉方法により以下のように分けた。
 - ア：外底面は無釉である。全面施釉後に外底面のみ掻き取るか、高台内面まで施釉し外底面は無釉とする（図 23・24・31）、高台外面まで施釉し、畳付より外底面まで無釉とする（図 25）、内外底面とも無釉である（図 29）
 - イ：外底面が蛇の目釉剥ぎである（図 22・26～28・30）

B. 鉢

鉢は1点図化した。直口口縁で口縁部は肥厚する（図32）

C. 皿

1. 口折皿

鍔縁の皿で外面に片切り彫りによる無鎬の幅広蓮弁文を施す。見込みに印花文を施し、外底面は蛇の目釉剥ぎを施す（図33）

2. 外反皿

口縁部が外反する皿で口縁部の形態や文様より細分を行なった。

I種：外反口縁皿。

a：内面に篋彫りによる蓮弁文を、外面は片切り彫りによる蓮弁文を施す（図34）

b：外面に片切り彫りによる蓮弁文を施す（図38・39）

c：内外面ともに花文を施す（図35）

d：内外面ともに無文と思われる。見込みに圈線が見られる（図37）

II種：外反する口縁で、口唇部を刻む稜花皿である。内面に花文を施す（図36）

3. 直口皿

直口口縁で口唇部の形態より分けた。

I種：口唇部に刻みを施す輪花皿（図40）

II種：直口口縁。文様の有無により細分した。

a：内面に篋彫りによる蓮弁文を施す（図41）

b：無文（図42）

D. 猪口

猪口は口縁部資料が1点得られた（図43）

E. 盤

鍔縁の盤で口唇部の形態より分けた。

I種：鍔を平坦にし、口唇端部を上方へ上げる。内面に篋彫りによる蓮弁文を施す。底部は高台外面より逆「ハ」の字状に開く（図44・45）

II種：鍔を平坦にし、口唇部を稜花状に成形する。鍔に稜花を施し、内面に篋彫りによる蓮弁文を施す（図46）

F. 壺

壺は小型と中型が見られる。また、蓋（図47）も得られた。

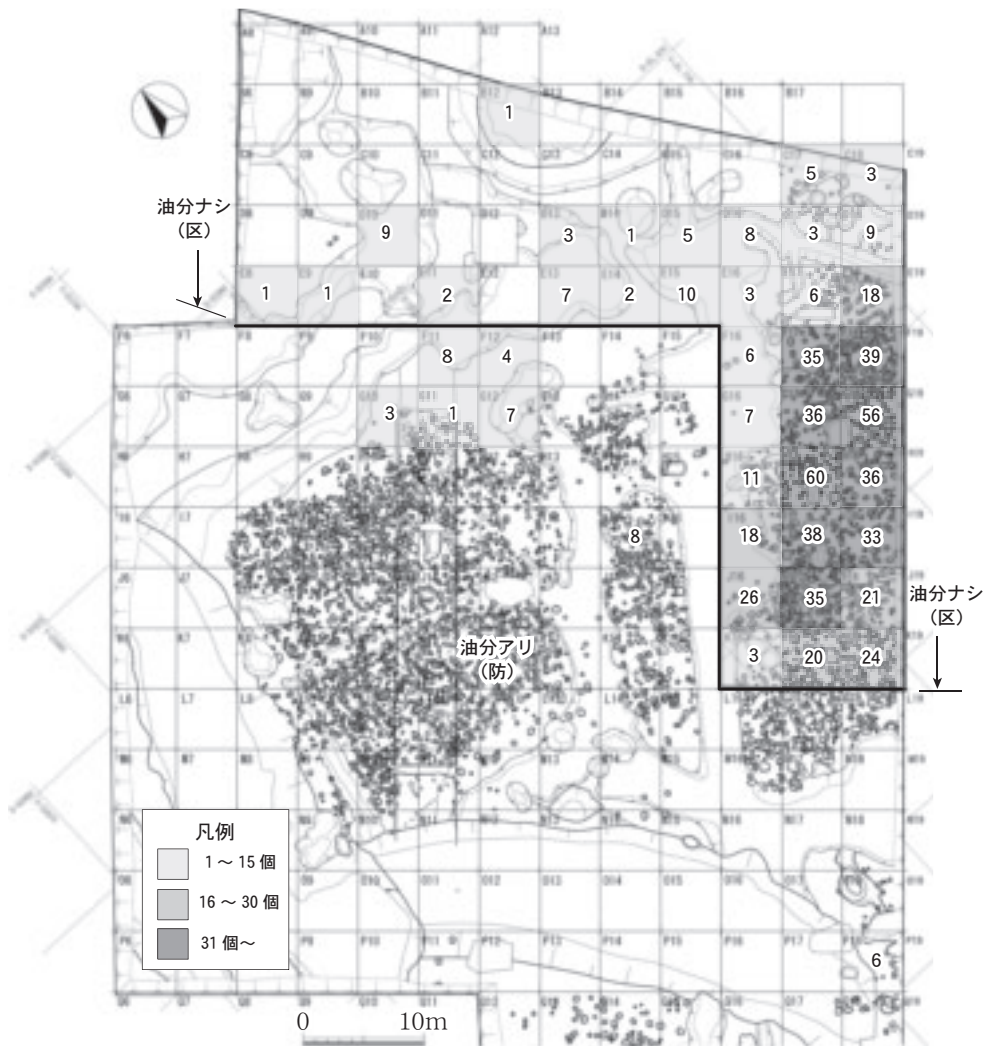
I種：小型の壺で口唇部は無釉で露胎する。胴部は丸みを帯びる（図48～50）

II種：中型の壺で胴部片である。瓶の可能性もある（図51）

第47表 青磁出土量

器種分類 部位 層位	碗											皿												盤			壺		壺・瓶		瓶		不明		合計										
	蓮弁文			雷文帯			有文		無文		その他			鉢			口折		稜花		外反		直口		蓮弁文		その他		猪口			菱花		鈷緑		その他									
	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部		胴部	蓋	胴部	胴部	胴部	底部				
I			1								1																																5		
II	18	30	3	10	2	1	3	7	1	1	3	51	100	23	6		3	1		7	2	1	9	2	1	3	2		15	13		2	1	1	1	1		1	1	2	3	5	1	337	
II (遺構)	3	7	1	5	2		1	1			4	6	13	7					3				2	1			4	1						1		1				2		65			
III	10	17	3	7	4		1	11	1		2	14	31	4	2		1		7			3	1	1	2		1	7	1		3				1			1	5	3		144			
III (遺構)	13	5	1	4	2			2				9	16	3	2	1	1	1	4				1	2	3			2		1		1					1	1				77			
IV (遺構)											1																															1			
Vb (Ⅲ)		1										2																	1													4			
不明																																										1			
合計	44	61	8	27	11	1	5	21	2	1	10	82	160	38	10	1	4	2	1	22	2	1	12	4	6	9	2	1	28	16		1	5	2	1	2	2	1	3	1	4	9	10	1	634
器種別計	471											111												1			12		5		4		9		11										

II (遺構) : (SF) 0008 (SL) 0019 (SZ) 0350.0410.0586.1035.1120
 III (遺構) : (P) 0045.0134.0135.0148.0155.0195.0217.0218.0256.0327.0336.0554.0566.0638.0642.0685.0693.0711.0768.0956.0982.1013.1021.1124.1137.1156
 (SK) 0021.0022.0101.0105.0199.0250.0265.0294.0303.0308.0312.0318.0319.0326.0328.0372.0387.0615.0624.0627.0641.0679.0687.0704.0737.1004.1031.1105.1117.1145.
 4402.4403.1060.1061.4427. (SS) 0656
 IV (遺構) : (SX) 4409 (1層)



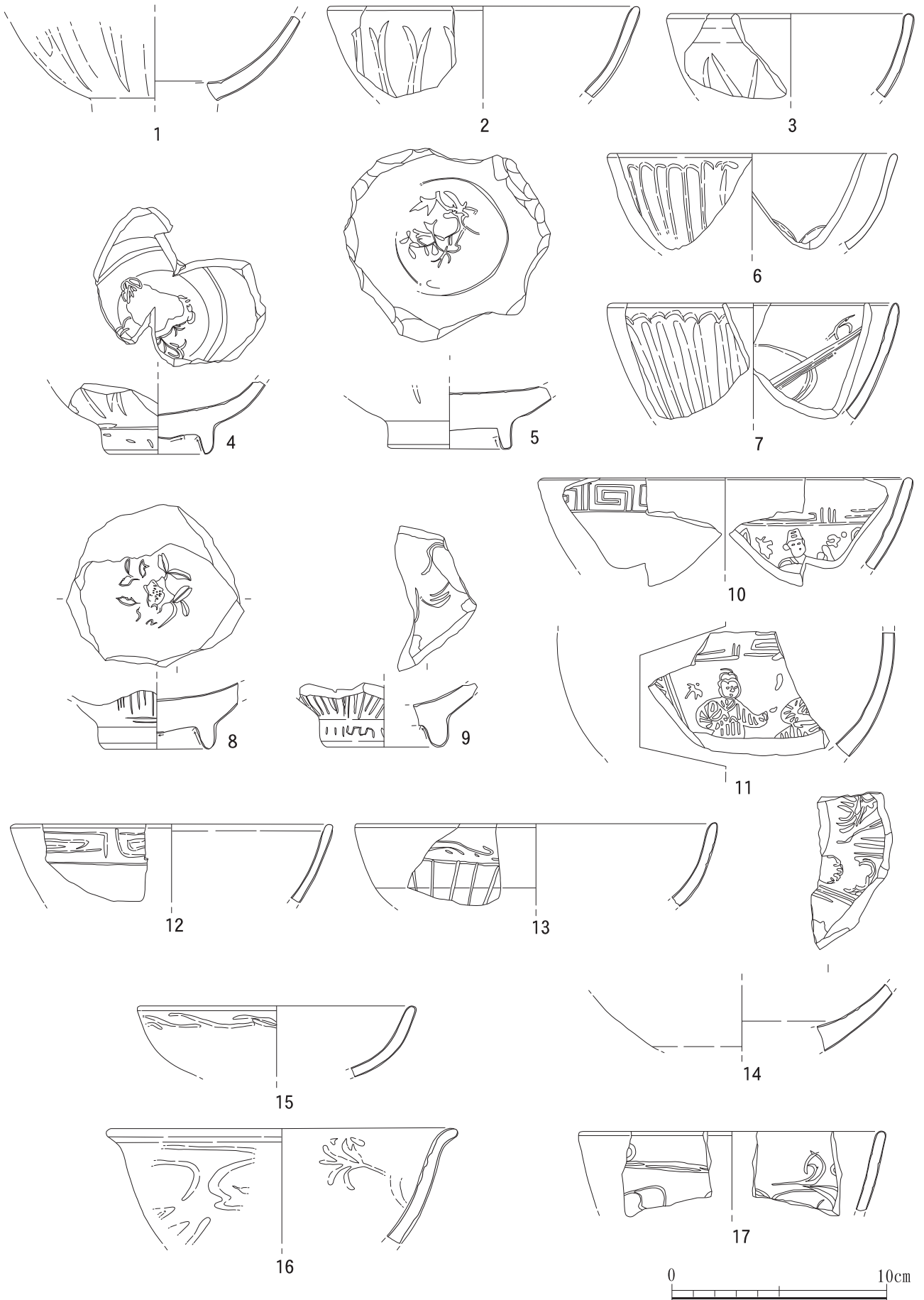
第69図 青磁平面分布

第48表－1 青磁観察一覧

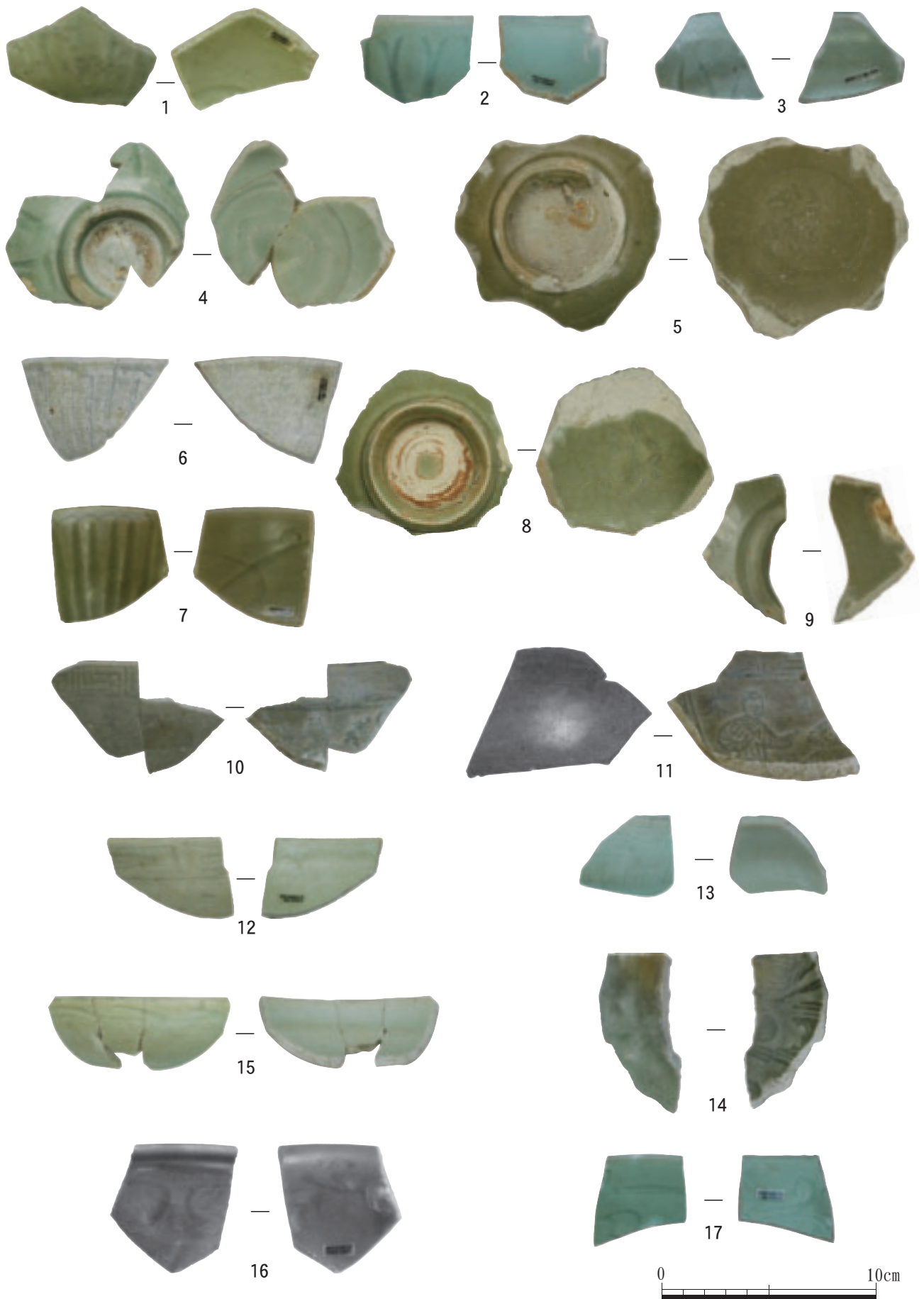
第図 図版	図 番号	器 種	分 類	部 位	口径 (cm) 底径 (cm) 器高 (cm)	観察事項	出土地
第 70 図 ・ 図 版 54	1	碗	I	胴部	—	鎬蓮弁文碗。片切り彫りによる蓮弁文で弁に稜を有する。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡灰緑色である。貫入は見られない。	H17 Ⅲ層 台 930
	2		II	口縁部	14.6 — —	無鎬蓮弁文碗。片切り彫りによる幅広の蓮弁である。弁先は開く。素地は白色微粒子で釉色は緑色である。貫入は見られない。	D16 Ⅱ層 台 437
	3			口縁部	11.4 — —	無鎬蓮弁文碗。片切り彫りによる幅広の蓮弁である。弁先は開く。素地は淡灰白色微粒子で釉色は灰緑色である。貫入は見られない。	不明 Ⅱ層 台 8
	4		III	底部	— 5.2 —	無鎬蓮弁文碗。片切り彫りによる幅広の蓮弁である。見込みは圏線とその中に印花文が施される。素地は白色微粒子で釉色は淡緑色である。貫入は見られない。外底面は蛇の目釉剥ぎである。	H18 Ⅱ層 台 259
	5			底部	— 5.8 —	無鎬蓮弁文碗。腰部に弁尻が見られる。見込みは圏線とその内側に印花文が施される。素地は淡灰白色微粒子で釉色は暗灰緑色。貫入はやや細かい。外底は目跡である。	E9 Ⅲ層 台 972
	6			口縁部	13.6 — —	線刻細蓮弁文碗。直口口縁で口縁下部より蓮弁が施される。内面には花文が施される。素地は灰色微粒子で釉色は淡緑色が僅かに残るが色が褪せている。貫入は見られない。	E15 Ⅱ層 台 741
	7		III	口縁部	13.6 — —	線刻細蓮弁文碗。直口口縁で口縁下部より蓮弁が施される。内面は花文が施される。素地は灰色微粒子で釉色は濃灰緑色である。貫入は見られない。	H16 Ⅱ層 台 244
	8			底部	— 5.6 —	線刻細蓮弁文碗。高台脇に弁尻が残る。内底面は印花文が施される。素地は白色微粒子で釉色は淡緑色で貫入は粗い。外底は蛇の目釉剥ぎである。	D16 Ⅱ層 台 437
	9			底部	— 6.0 —	線刻細蓮弁文碗。高台脇には弁尻が残る。高台外面に篋描きの際の施文跡が残る。内体に花文を施す。素地は淡灰色微粒子で釉色は濃灰緑色である。貫入は見られない。	E15 Ⅲ層 台 798
	10		a	口縁部	17.0 — —	雷文帯碗。直口口縁で内外面口縁下部に雷文帯を廻らす。内面は更に体部に人形手が施される。素地は淡灰色微粒子で釉色は暗灰緑色。貫入は粗く、部分的にアバタが見られる。	F17 Ⅲ層 台 821
	11			胴部	—	雷文帯碗。内外面口縁下部に雷文帯を廻らす。内面は更に体部に人形手が施される。素地は淡灰色微粒子で釉色は暗灰緑色。貫入は粗い。	F17 Ⅲ層 台 895
	12		b	口縁部	15.0 — —	雷文帯碗。外面口縁下部に雷文帯を廻らす。素地は淡灰色微粒子で釉色は淡緑色。貫入は粗い。	G18 Ⅲ層 台 596
	13		c	口縁部	16.8 — —	雷文帯碗。外面口縁下部に雷文帯、その下には線刻蓮弁文を施す。素地は淡灰色微粒子で釉色は淡白緑色。貫入は見られない。	E13 Ⅱ層 0586SZ 台 861
	14		a	胴部	—	雷文帯碗と思われる。内体面に人形手の文様が施される。素地は灰色微粒子で釉色は暗灰緑色で貫入は粗い。	I16 Ⅱ層 台 181
	15		c	口縁部	13.0 — —	雷文帯碗。外面の雷文帯は崩れ簡略化されている。素地は白色微粒子で釉色は白緑色で貫入は見られない。	H17 Ⅱ層 台 253
	16		I	口縁部	16.4 — —	有文碗。外反口縁で、内面に篋彫りによる花文が施される。素地は淡灰白色微粒子で釉色はオリブ色。貫入は見られない。	J16 Ⅱ層 0350SZ 台 1517
	17		II	口縁部	14.4 — —	有文碗。直口口縁で、内外面に片切り彫りによる花文が施される。素地は白色微粒子で釉色は緑色。貫入は見られない。	F18 Ⅲ層 台 819
18	胴部	—		有文碗。外面に篋彫りによる花文もしくはラマ式蓮弁文と思われる。素地は淡灰色微粒子で釉色は淡灰緑色。貫入はやや細かい。	G18 Ⅲ層 台 773		
第 71 図 ・ 図 版 55	19	碗	I	口縁部	15.0 — —	無文碗。直口口縁。素地は白色微粒子で釉色は淡緑色。貫入は細かい。	G18 Ⅲ層 台 812
	20		II	口縁部	12.8 — —	無文碗。直口口縁。外面に轆轤痕が残る稜が顕著である。素地は白色微粒子で釉色は淡灰色。貫入は見られない。	H17 Ⅱ層 台 333
	21			胴部	—	無文碗。外面腰部まで施釉される。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡黄色。貫入は細かい。	J18 Ⅱ層 台 327
	22		イ	底部	— 6.2 —	外底は蛇の目釉剥ぎ。見込みは圏線とその内側に印花文を施す。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡灰緑色。貫入は見られない。	H16 Ⅱ層 0350SZ 台 990
	23		ア	底部	— 5.4 —	見込みに印花文が施される。外底面は釉を掻き取る。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡緑色である。貫入は粗い。	B12 Ⅳ層 4409SX (1層) 台 4562
	24			底部	— 6.2 —	見込みは圏線とその内側に文字が施される。外底面は釉を掻き取る。素地は淡灰色微粒子で釉色は淡灰緑色。貫入は見られない。	E15 Ⅱ層 台 741
	25			底部	— 5.0 —	見込みは印刻が施される。高台外面まで施釉する。素地は灰色微粒子で釉色は淡青緑色。貫入は見られない。	G17 Ⅲ層 台 927

第48表－2 青磁観察一覧

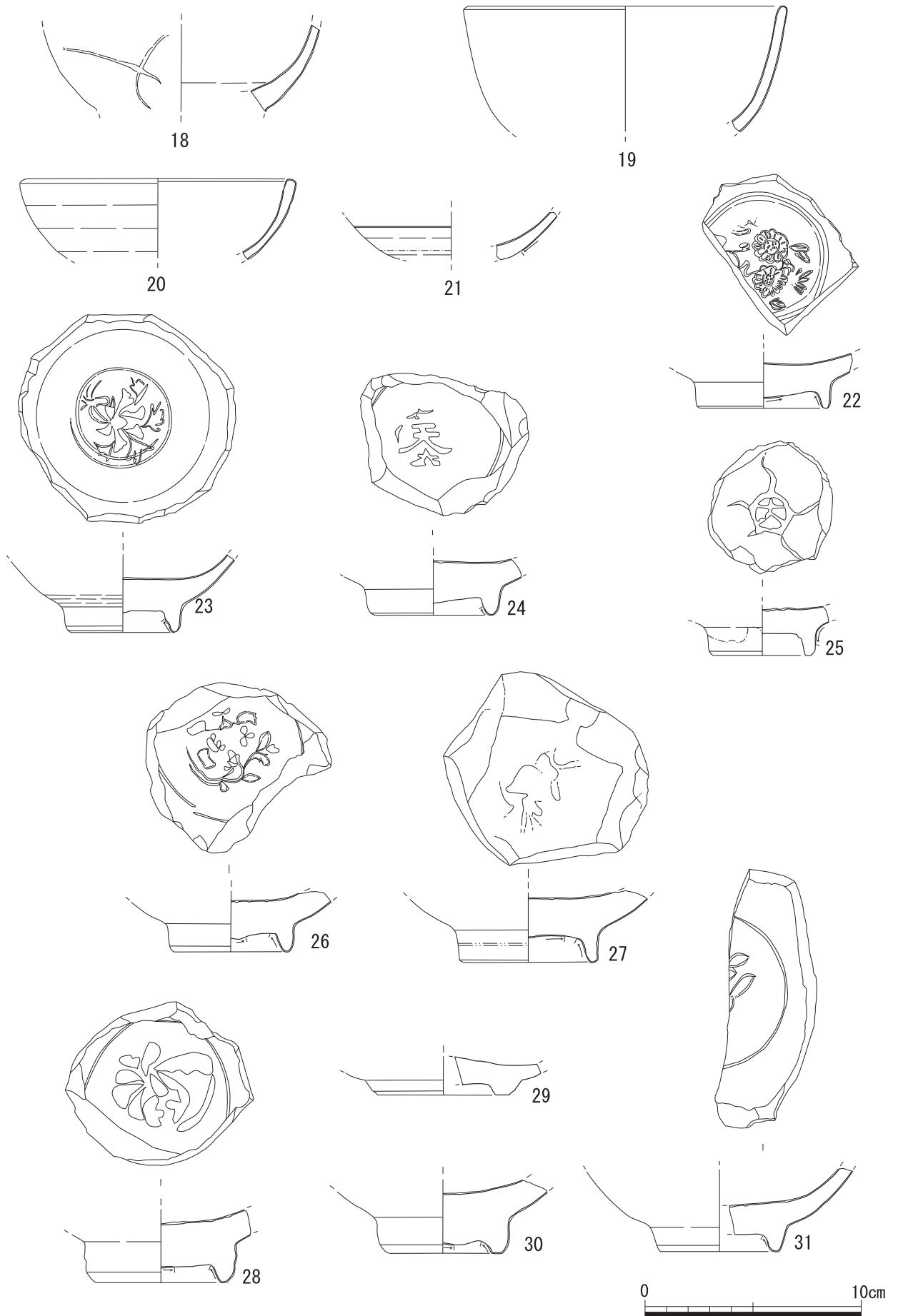
第図 図版	図 番号	器 種	分 類	部 位	口径 (cm) 底径 (cm) 器高 (cm)	観察事項	出土地
第 71 図 ・ 図 版 55	26	碗	イ	底部	— 5.8 —	見込みは圈線とその内側に印花文が施される。釉は高台内面まで施釉し、外底は蛇の目釉剥ぎである。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡灰緑色。貫入は荒い。	F12 II層 0008SF 台 84
	27		イ	底部	— 6.4 —	見込みは印花文が施される。高台内は蛇の目釉剥ぎ。素地は灰色微粒子で釉色は暗灰緑色。貫入は見られない。	E13 II層 台 511
	28		イ	底部	— 7.0 —	見込みは印花文が施される。高台内は蛇の目釉剥ぎ。素地は淡黄白色微粒子で釉色は淡黄緑色。貫入は細かい。	E13 II層 0586SZ 台 861
	29		ア	底部	— 4.8 —	内外底ともに露胎である。素地は淡灰茶色微粒子。	E16 II層 台 441
	30		イ	底部	— 6.0 —	底部の器厚は厚い。外底面は蛇の目釉剥ぎ。素地は淡灰色微粒子で釉色は暗灰緑色。貫入は粗い。	D・G10～12 II層 0008SF (ピーチロッ ク道) 台 4534
	31		ア	底部	— 6.0 —	見込みは圈線とその内側に印花文が施される。外底面は蛇の目釉剥ぎか？貫入は細かい。	G17 III層 台 886
第 72 図 ・ 図 版 56	32	鉢	—	口縁部	24.1 — —	直口口縁で口縁部は肥厚する。口縁部は轆轤痕が残る。素地は白色微粒子で釉色は淡青緑色。貫入は細かい。	J17 III層 0328SK 台 1724
	33	皿	—	半完形	11.0 5.8 2.7	口折皿。外面に幅広の篋描による蓮弁文を施し、内底面は印花文が施される。外底面は蛇の目釉剥ぎである。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡灰緑色。貫入は見られない。	H17 III層 取 38 X35933.761 Y25735.360 Z3.086 1031SK 台1492
	34		I a	口縁部 ～底部	12.0 6.4 3.1	外反皿。外面に篋描きによる蓮弁文、内面は篋彫りによる蓮弁文を施す。素地は淡灰色微粒子で釉色は淡灰緑色。貫入は見られない。	H17 II層 台 333
	35	皿	I c	底部	— 6.0 —	外反皿。内外面ともに花文を施す。素地は灰色微粒子で釉色はオリーブ釉。貫入は見られない。	D13 II層 0586SZ 台 897
	36		II	口縁部	13.6 — —	稜花皿。口縁部は外反する。内面口縁部に三条の稜花文、内面は片切り彫りによる花文を施す。素地は淡緑色。貫入は粗い。	F17 III層 台 821
	37		I d	底部	— 6.0 —	外反皿底部。外底面の釉は掻き取り？素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡灰緑色。貫入は粗い。	G18 III層 0679SK 台 1875
	38		I b	底部	— 6.7 —	外面は蓮弁文。見込みは目跡状で印花文を施す。その印花文に若干釉が掛かる。外底は基本露胎であるが高台内に一部釉が掛かる。	E15 III層 台 798
	39		I b	底部	— 6.4 —	高台脇に弁尻が見られる。見込みに花文が施される。外底面は目跡と思われる。素地は淡灰色微粒子で釉色は緑色。貫入は見られない。	K17 II層 台 171
	40		I	口縁部	10.0 — —	直口口縁で口唇部は輪花状を呈する。口縁部外面に釉垂れ見られる。素地は白色微粒子で釉色は淡緑色。貫入は見られない。	J16 III層 1117SK 台 1772
	41	II a	口縁部	8.8 — —	直口口縁。外面口縁部下は若干凹み口縁部は肥厚する。内面に篋彫りによる蓮弁文を施す。素地は淡灰色微粒子で釉色は色褪せている。	H17 III層 台 381	
	42	II b	口縁部	9.2 — —	直口口縁。外面は轆轤痕が残る。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡緑色。貫入は見られない。	E8 III層 台 985	
	43	猪口	—	口縁部	5.2 — —	口唇部は露胎する。口縁部が僅かに外反する。素地は白色微粒子で釉色は淡青緑色。貫入は見られない。	G18 III層 1145SK 台 1950
	44	盤	I	口縁部	20.6 — —	鈔縁盤。平たい篋彫りによる蓮弁文を施す。素地は淡灰白色微粒子で釉色は緑色である。貫入は見られない。	K16 II層 台 152
	45			底部	— 9.8 —	内面は篋彫りによる蓮弁文を施す。素地は白色微粒子釉色は緑色、一部分色褪せている。	I17 II層 台 206
	46		II	口縁部	23.2 — —	稜花盤。口縁に沿って稜花を施す。内面は幅約1cmの篋彫りによる蓮弁文を施す。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡茶緑色。貫入は細かい。	G17 III層 台 644
47	—	—	蓋	10.8 — —	小さめで器壁の薄い蓋である。蓋上面は淡灰緑色釉で端部の直下まで施釉する。内面は露胎である。	J17 II層 台 163	
48	壺	I	口縁部	10.6 — —	口唇部は露胎で、頸部の屈曲は緩い。肩部から胴部上部より底部へ至るようである。無文である。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡灰色である。貫入は見られない。	D・G10～12 II層 0008SF (ピーチロッ ク道) 台 4534	
49			胴部	—	丸みのある壺で胴部中央は片切り彫りによる花文、胴下部に蓮弁文を施す。素地は淡灰白色微粒子で淡灰緑色。貫入は見られない。内面に轆轤痕が残る、露胎である。	G17 III層 台 886	
50			胴部	—	胴下部。文様は見られない。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡青緑色。貫入は細かい。内面に轆轤痕が残る露胎である。	I16 II層 台 149	
51			II	胴部	—	胴下部あたりである。文様は見られない。素地は淡灰白色微粒子で釉色は淡灰緑色。内面に轆轤痕が残る、露胎である。	不明



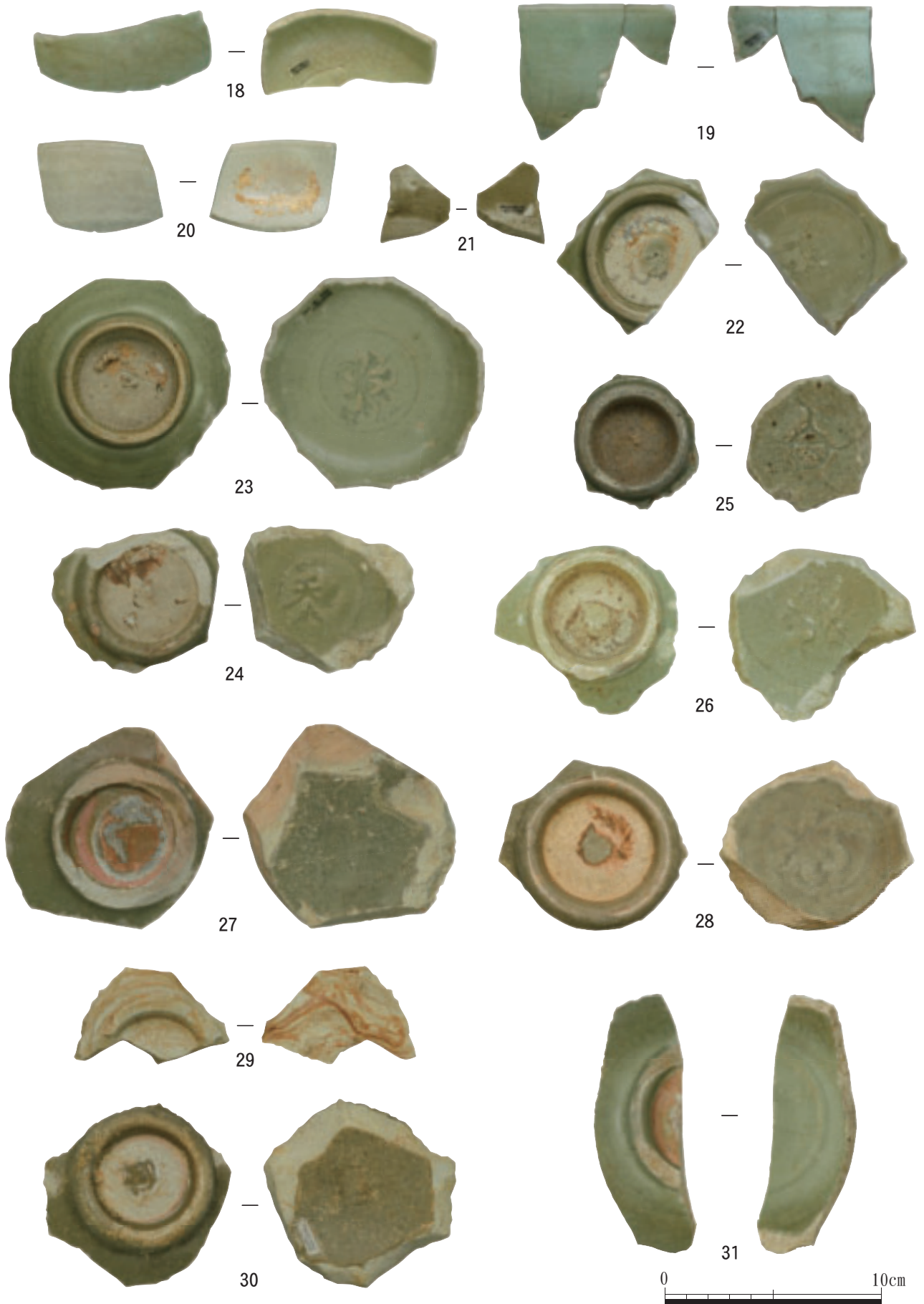
第70図 青磁 1



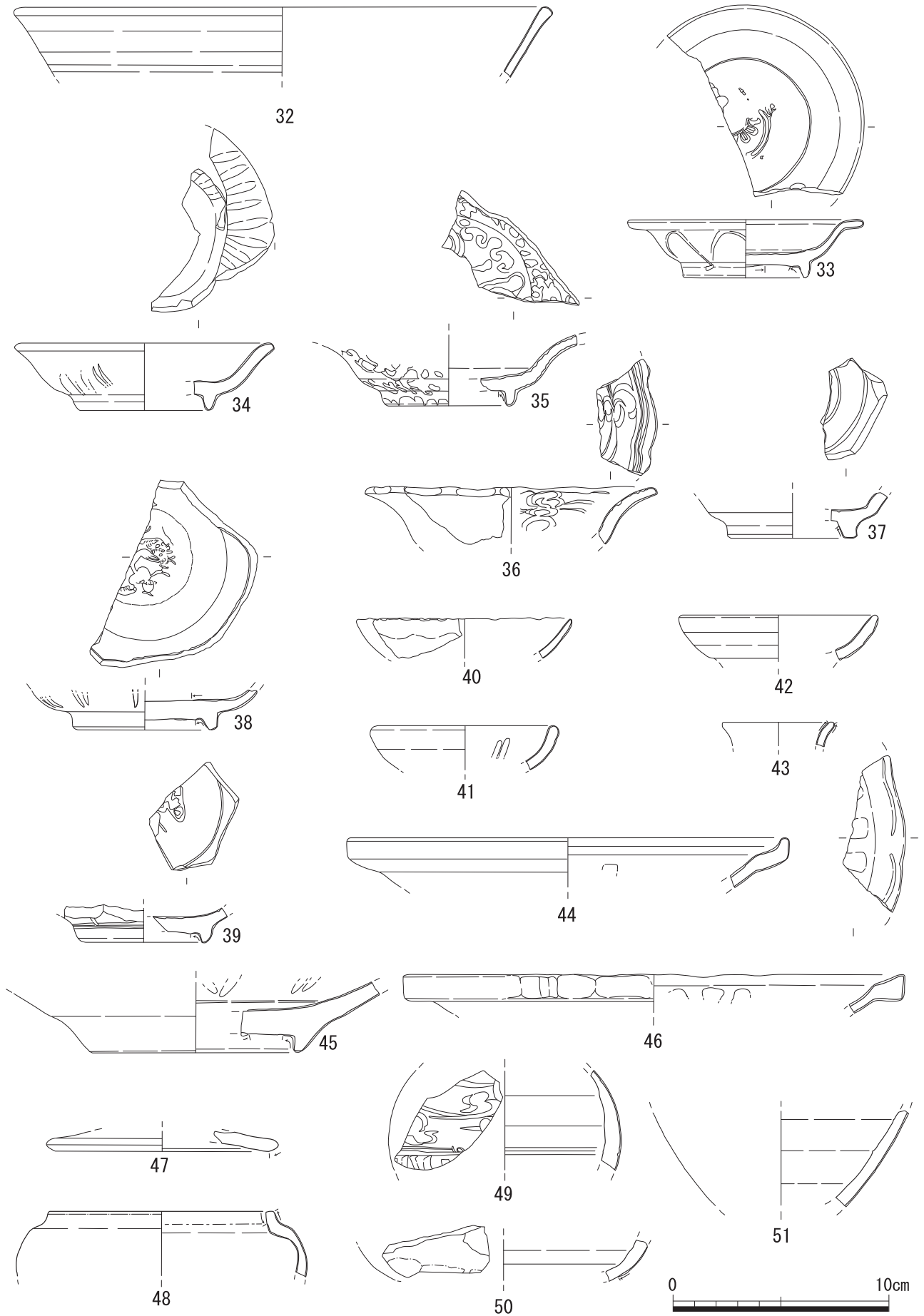
図版54 青磁 1



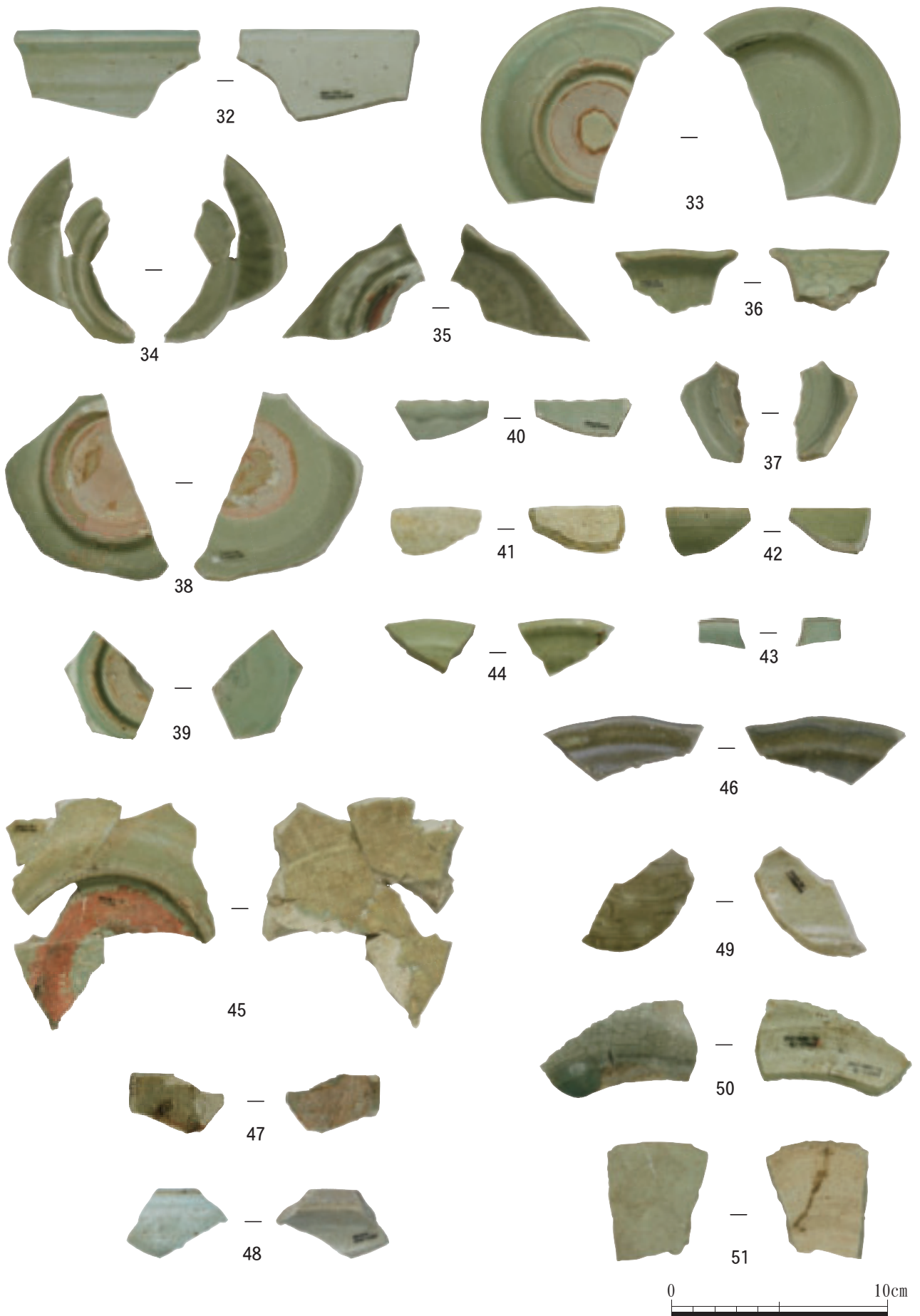
第71図 青磁 2



图版55 青磁 2



第72図 青磁 3



图版56 青磁 3

(4) 染付

染付は284点出土している。得られた器種は碗・小碗・皿・杯・小杯・瓶の6種類である。殆どの資料が破片であり全形の窺える資料は得られなかった。出土数は碗が最も多く次いで皿、小碗、瓶、杯、小杯となっている。

以下、各器種の器形より分類を行ない個々の詳細については第50表の観察表に記した。

1. 碗

碗は口縁部と胴部片の器形より以下のように分けた。

I類：腰部より屈曲し胴部は開きながら口縁部へ至る(図1・15)

II類：腰部より緩やかに立ち上がり口縁部へ移行する。口縁部の形状より3種類に分けた。

A種：直口口縁である(図2～8)

B種：外反口縁である(図9～14)

C種：口縁部の形状が不明(図16～18)

その他に底部が得られている。高台内削りが深く高台は方形状で高い図19、高台内削りはやや深めで高台は台形状または方形状を呈する図20～23がある。いずれも畳付は露胎する。

2. 小碗

小碗は2点図化した。胴部は緩やかに立ち上がり口縁部で外反するものである(図24・25)

3. 皿

皿は器形により3種類に分けた。

I類：底部は基筈底である。胴部は丸味を帯びながら立ち上がり口縁部は直口口縁となる(図26～29)

II類：底部の高台内削りが浅く胴部が緩やかに立ち上がる(図30～34)。口縁部の形状より2種類に分けた。

A種：直口口縁である(図35・36)

B種：外反口縁である(図37・38)

III類：底部の高台内削りは深い。胴部は緩やかに立ち上がるが口縁部の形状は不明(図39)

4. 杯

杯は器形により2種類に分けた。

I類：高台を有し短筒型の形状を呈する(図40・41)

II類：底部が基筈底状を呈するように高台外面より立ち上がる(図42)

5. 小杯

小杯は口縁部が外反するものである(図43)

6. 瓶

瓶は高台造りで2種類得られている。

I類：高台を有し胴部は丸味を帯びる(図44)

II類：高台は基筈底状を呈し、胴部は高台外面より斜位に立ち上がる(図45・46)

(5) 瑠璃釉

瑠璃釉は3点得られている。全て小破片で1点図化した(第76図47)。瓶の可能性がある。外反口縁部で厚みがあり、頸部は薄い。口縁部は外反し、外面口唇部が破損している。外面に瑠璃釉が施され、内面は白色である。素地は白色微粒子である。

第49表 染付出土量

層位	碗			小碗			皿			杯			小杯	瓶		不明	合計	
	口	胴	底	口	胴	底	口	胴	底	口	胴	底	口	胴	底	胴		
I	4	1	3	1	3		1		1						2		1	17
II	46	43	13	4	14	1	8	3	19	2	1	2			6	2	8	172
II (遺構)	6	2	2		3		1	1	3			1			2	2		23
III	19	11	3	1			1		2	1		1	1		1			41
III (遺構)	9	6	3		4		2		2	2					2		1	31
合計	84	63	24	6	24	1	13	4	27	5	1	4	1	13	4	10		284
器種別計	171			31			44			10			1	17		10		

II (遺構) : (SZ) 0160.0350.0410.0586. (SF) 0008

III (遺構) : (SK) 0105.0119.0212.0265.0278.0311.0318.0319.0326.0353.0387.0388.0510.0743.0775.0996.1082.1085

(P) 0146.0235.0241.0364.0429.0474.0478.0544.0578.0609.0666.0993.1428



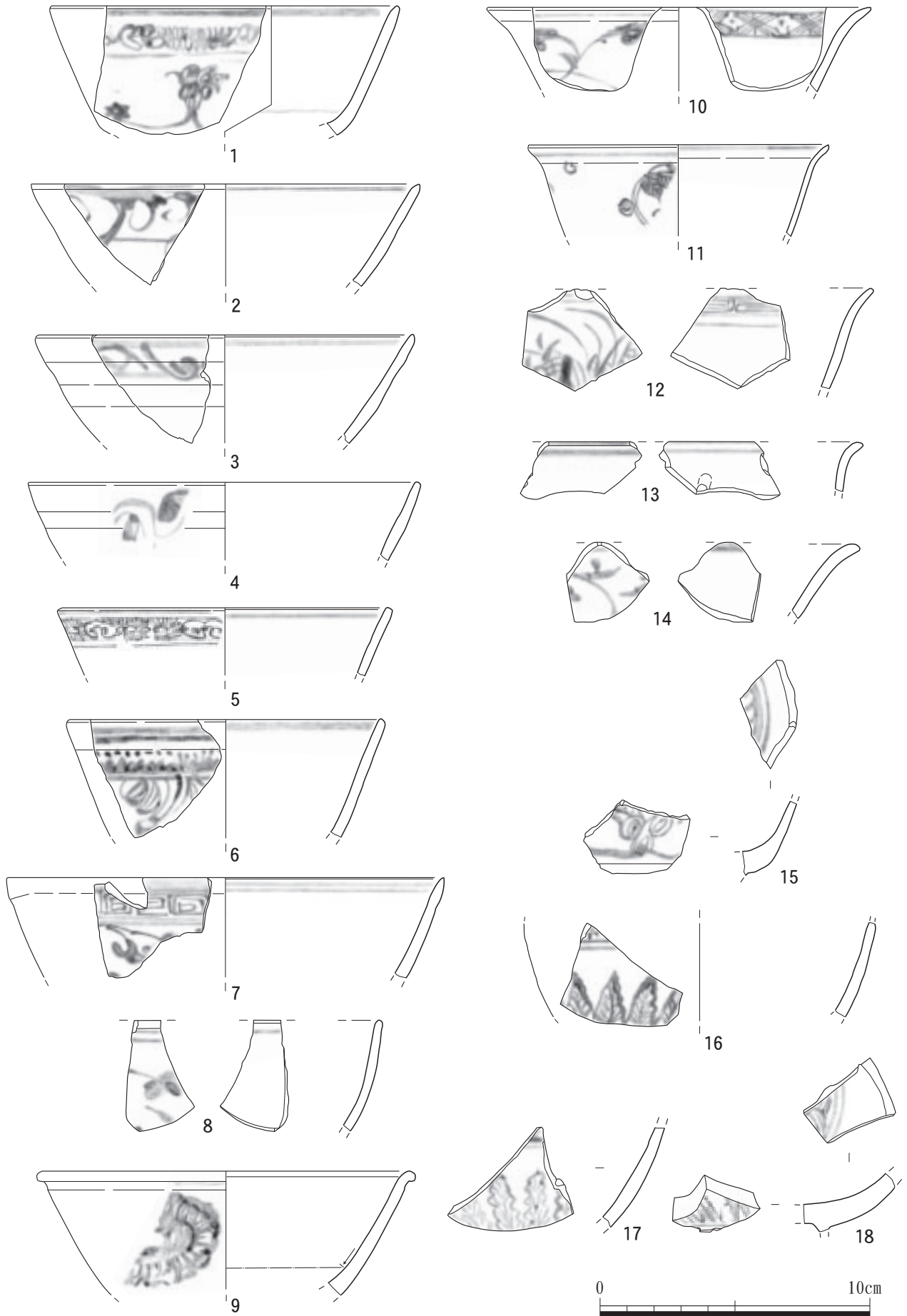
第73図 染付平面分布

第50表－1 染付観察一覧

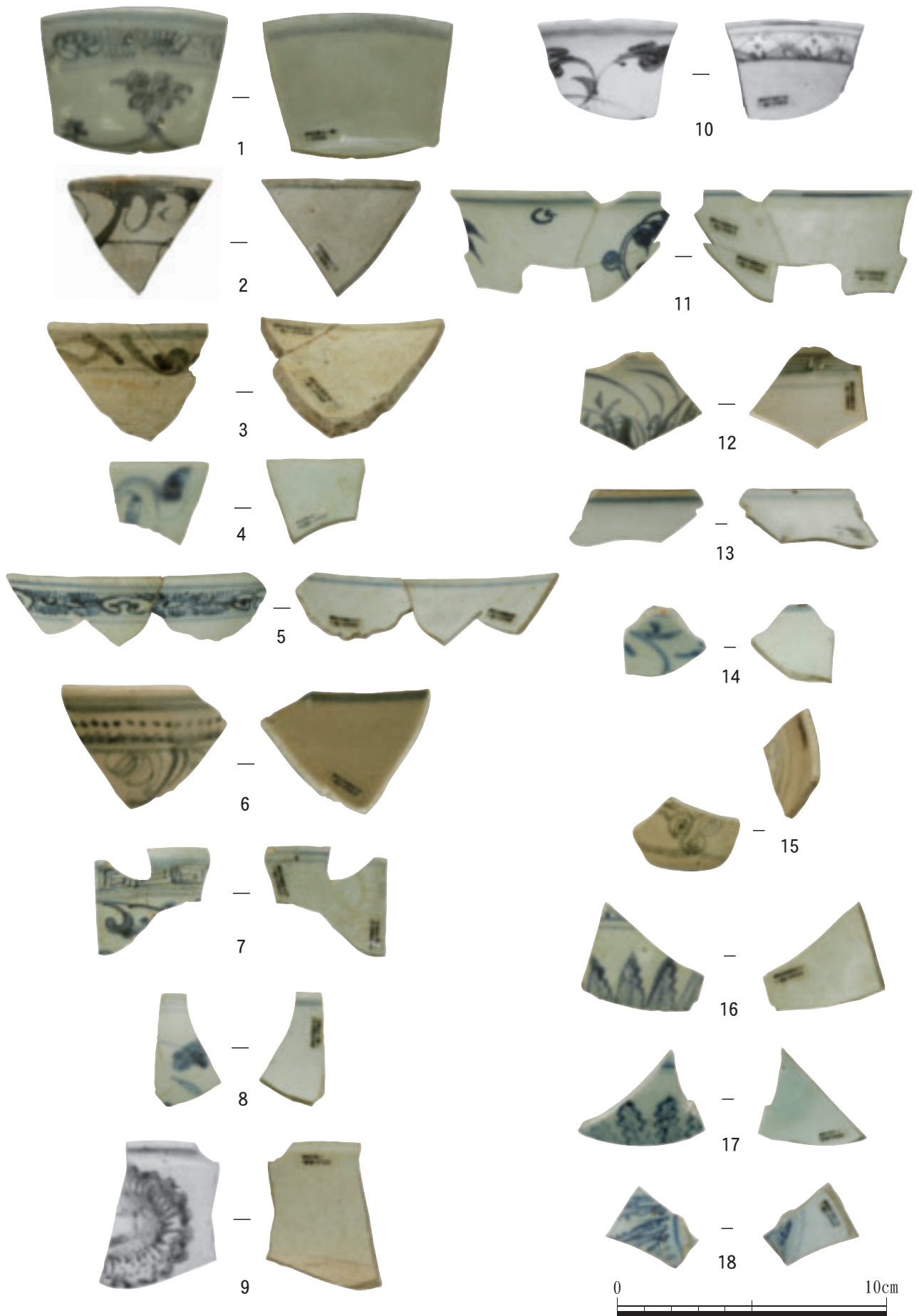
第図 図版	図 番号	器種	部位	口径 (cm) 底径 (cm) 器厚 (mm)	観察事項	出土地
第 74 図 ・ 図 版 57	1	碗	口縁部	13.0 — 4.0	直口口縁碗。腰折れタイプ。外面は口縁部に圏線で波濤文帯を囲み、胴部はアラベスク文。内面は口縁下に圏線を廻らす。呉須の発色は悪く黒灰色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。15C 未～16C	I 層 台 2
	2	碗	口縁部	14.4 — 4.0	直口口縁碗。外面は口縁部に圏線で波濤文帯を囲む。内面は口縁下に圏線が廻る。呉須の発色は悪く黒色である。素地は灰色微粒子で貫入は見られない。福建。	K17 II 層 台 2000
	3	碗	口縁部	14.0 — 5.0	直口口縁碗。外面は口縁部に圏線で波濤文帯を囲む。内面は圏線を廻らす。呉須の発色は悪く短灰黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。福建。	G18 III 層 台 452
	4	碗	口縁部	14.6 — 4.0	直口口縁碗。外面は唐草文。呉須の発色は淡く淡青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	I・J17 II 層 0410SZ 台 1596
	5	碗	口縁部	12.4 — 3.0	直口口縁碗。外面は口縁部に圏線で波濤文帯を囲む。内面は口縁下に圏線を廻らす。呉須の発色はやや鮮明で青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	J17 II 層 台 163
	6	碗	口縁部	11.8 — 4.0	直口口縁碗。外面は口縁部下に 2 本の圏線を廻らし、その下に波濤文帯で更にその下に圏線を廻らす。胴部は唐草文。内面は圏線を廻らす。呉須：淡・黒灰→福建。	H18 III 層 台 732
	7	碗	口縁部	16.2 — 5.0	直口口縁碗で大振りである。外面口縁部に雷文帯、胴部に唐草文。内面に 2 本の圏線。呉須の発色は悪く淡黒色である。素地は白色微粒子で貫入は荒い。	E15 III 層 台 798
	8	碗	口縁部	— — 3.0	直口口縁碗。外面口縁下に 2 本の圏線、胴部に唐草文。内面口縁下に圏線。呉須の発色は淡く淡青色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	E18 II 層 台 478
	9	碗	口縁部	14.0 — 5.0	外反口縁碗。外面は菊文。内面腰部下は露胎。呉須の発色は悪く淡青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は細かい。福建。	I 層 台 5106
	10	碗	口縁部	14.2 — 3.0	外反口縁碗。外面口縁下に圏線、胴部は唐草文。内面口縁部に圏線及び四方禰文。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	I18 III 層 台 572
	11	碗	口縁部	11.1 — 2.0	外反口縁碗。外面口縁下に圏線、胴部に唐草文。内面口縁下に圏線。呉須の発色は鮮明で濃青色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。器厚 2 ミリと薄手。	H18 III 層 台 732
	12	碗	口縁部	— — 3.0	外反口縁碗。外面に草花文。内面口縁部に雷文帯と圏線。呉須の発色は悪く濃青色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	D18 II 層 台 633
	13	碗	口縁部	— — 3.0	外反口縁碗。内外面口縁下に圏線。口唇部に鉄釉。呉須の発色は淡く淡青色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	E8 III 層 台 985
	14	碗	口縁部	— — 4.0	外反口縁碗。外面口縁下は圏線、胴部は草花文。内面口縁下に圏線。口唇部は鉄釉？呉須の発色は鮮明で淡青黒色。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	K18 II 層 台 198
	15	碗	胴部 (底付近)	— — 4～8	腰折れタイプ。外面はアラベスク文。内面腰部に圏線、底面に唐草文？。呉須の発色は悪く淡黒灰色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	G17 III 層 台 644
	16	碗	胴部	— — 4.0	外面は口縁下に波濤文帯と 2 本の圏線が見られる。胴部には芭蕉文。呉須の発色は薄く淡青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	G17 III 層 台 886
	17	碗	胴部	— — 5.0	外面は圏線と芭蕉文が見られる。呉須の発色は淡く淡青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	I16 III 層 0364P 台 1527
	18	碗	胴部 (底付近)	— — 7.0	外面は芭蕉文、高台脇に圏線。内面腰部に圏線、底面に唐草文？。呉須の発色は淡く淡青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	I18 III 層 台 317
第 75 図 ・ 図 版 58	19	碗	底部	— — 6.43～5	外面胴部に唐草文と円文。腰部と高台外面に圏線が廻る。内面腰部に 2 本の圏線。見込み中央部に文様が見られるが構図は不明。呉須の発色は鮮明で青色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	I 層 台 4269
	20	碗	底部	— — 6.0 5～10	見込みは十字花文。呉須の発色は淡く青色。素地は淡灰白色微粒子で貫入は見られない。	不明 II 層 台 14
	21	碗	底部	— — 5.0 5～8	外面高台脇に圏線。胴部に文様が有るが構図は不明。見込みは圏線で中心部にジグザグ文？。呉須の発色は淡く黒色である。素地は白色微粒子で貫入は細かい。	H18 III 層 台 617
	22	碗	底部	— — 5.0 5～8	外面胴部に文様を施すが構図は不明。腰部と高台脇に圏線を廻らす。見込みは圏線と花文。呉須は鮮明で濃青色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	I 層 台 4269
	23	碗	底部	— — 7.4 6～8	外面に文様を施すが構図は不明である。高台外面に圏線。呉須の発色は鮮明で濃青色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	H16 III 層 0474P 台 1885

第50表－2 染付観察一覧

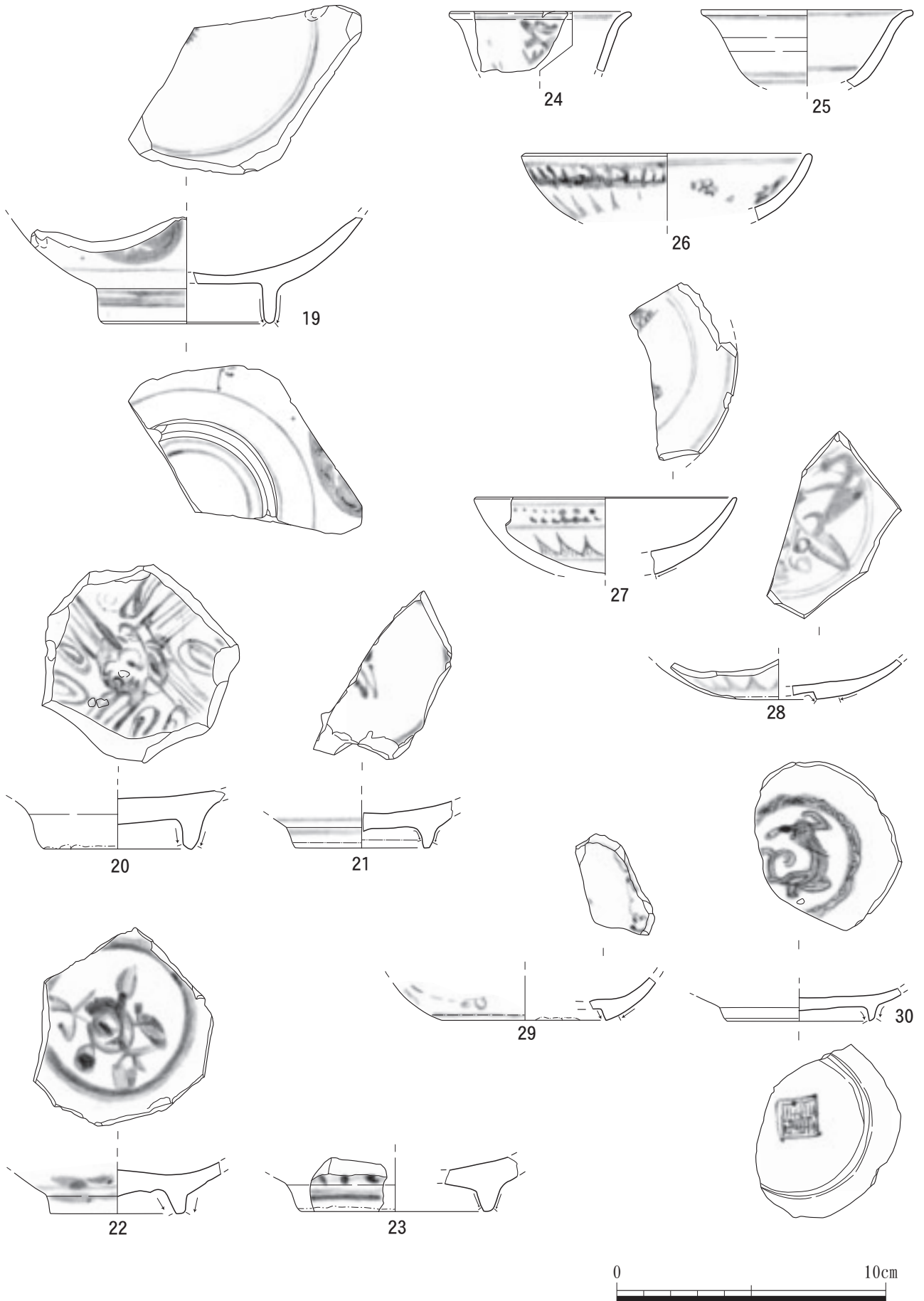
第図 図版	図番 号	器種	部位	口径 (cm) 底径 (cm) 器厚 (mm)	観察事項	出土地
第 75 図 ・ 図 版 58	24	小碗	口縁部	6.8 — 3.0	外反口縁碗。外面口縁下に圈線、胴部は山水？。内面口縁下に圈線。呉須の発色悪く青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	F17 Ⅲ層 台 489
	25	小碗	口縁部	7.8 — 4.0	外反口縁碗。外面口縁下に1本、腰部に2本の圈線。内面口縁下と腰部に圈線。呉須の発色は悪く淡青黒色である。素地は淡灰白色微粒子で貫入は見られない。	J17 Ⅱ層 台 167
	26	皿	口縁部	10.8 — 4.0	直口口縁皿。外面口縁部は波濤文？胴部は芭蕉文。内面口縁下は圈線、胴部は草花文、腰部に圈線。呉須の発色は鮮明で青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	H18 Ⅱ層 台 334
	27	皿	口縁部	9.8 — 4.0	直口口縁皿。外面口縁下は波濤文、胴部は芭蕉文。内面口縁下と腰部に圈線、見込みは芭蕉文？。呉須は鮮明で青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	E16 Ⅱ層 台 526
	28	皿	底部 (碁笥底)	— 2.8 3～6	外面は波濤文。見込みは圈線と草花文？。呉須の発色は鈍く淡黒色である。素地は淡灰白色微粒子で貫入は見られない。	E12 Ⅱ層 0586SZ 台 876
	29	皿	底部 (碁笥底)	— 6.0 4.0	外面腰部に圈線。内面胴部は唐草文？。呉須の発色は悪い。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	F16 Ⅱ層 台 358
	30	皿	底部	— 5.6 4.0	見込みに獅子文。外底に銘文字あり。呉須の発色は鮮明で濃青黒色。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	D14 Ⅱ層 台 520
第 76 図 ・ 図 版 59	31	皿	底部	— 6.4 4.0	外面胴部は唐草文、高台外面に圈線。見込みは圈線と獅子文？呉須の発色は淡く青黒色。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	E11 Ⅱ層 0008SF 台 65
	32	皿	底部	— 6.0 5.0	外面に文様があるが構図は不明。高台外面に圈線。見込みに圈線と唐草文？。呉須の発色は淡く青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	G18 Ⅱ層 台 351
	33	皿	底部	— 6.8 4～5	外面胴部は篋彫りによる蓮弁文を施す。高台外面に圈線。見込みの文様の構図は不明。呉須の発色はやや鮮明で青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	J 16 Ⅱ層 台 493
	34	皿	底部	— 5.2 5.0	外底に圈線を廻らしその内側に銘文字？呉須の発色は淡い青色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	K17 Ⅱ層 台 145
	35	皿	口縁部	11.2 — 3.0	直口口縁皿。外面口縁下に圈線。内外面腰部は露胎である。呉須の発色は淡く薄青色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	H17 Ⅱ層 台 256
	36	皿	口縁部	10.6 — 5.0	直口口縁皿。内外面胴部下は露胎である。内面口縁部は樺文？。呉須の発色は悪く淡黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	J・K17 Ⅲ層 0119SK 台 1909
	37	皿	口縁部	11.2 — 3.0	外反口縁皿。外面口縁下に圈線、胴部に草花文。内面口縁下と腰部に圈線。呉須の発色は淡く青色である素地は白色微粒子で貫入は見られない。	K18 Ⅱ層 台 198
	38	皿	口縁部	— — 3.0	外反口縁皿。外面口縁下に圈線、胴部に草花文。内面口縁下及び腰部に圈線。呉須の発色は淡く青色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	H16 Ⅱ層 台 244
	39	皿	底部	— 4.4 3～4	外面胴部は山水図？腰部と高台外面に圈線。見込みは圈線と草花文。外底面に銘文字？。呉須の発色は鮮明で青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	K18 Ⅱ層 台 198
	40	杯	胴部	7.6 (胴径) — 5.0	短筒型の杯である。腰部で屈曲し垂直に立ち上がり口縁部へ移行する。素地は淡灰白色微粒子で貫入は荒い。福建。	J17 Ⅱ層 台 188
	41	杯	胴部	— 7.4 3.0	短筒型の杯である。腰部で屈曲し垂直に立ち上がり口縁部へ移行する。外面は草花文？、腰部で2本の圈線。呉須の発色はやや鮮明で淡青黒色である。素地は淡白色微粒子で貫入は見られない。	E18 Ⅱ層 台 478
	42	杯	底部	— 5.4 4～6	底部は碁笥底状を呈し高台外面より斜位に立ち上がり口縁部へ移行する。胴部に文様が施されるが構図は不明。下部に2本圈線。呉須の発色は鮮明で濃青色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	F11 Ⅱ層 0008SF 台 57
43	小杯	口縁部	4.6 — 3.0	外反口縁である。内面腰部に圈線？。呉須の発色は淡い青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。器厚は薄い。	H17 Ⅲ層 台 375	
44	瓶	底部	— 7.8 5.0	胴下部に2本の圈線、腰部にラマ式蓮弁文を廻らす。呉須の発色淡く淡青黒色である。素地は白色微粒子で貫入は見られない。	D・G10～12 Ⅱ層 0008SF (ピーチロック 道) 台 4655	
45	瓶	底部	— 6.4 4～5	底部は碁笥底状を呈し高台外面より斜位に立ち上がり口縁部へ移行する。外面はラマ蓮弁文とその下部に圈線。呉須の発色は薄く淡黒色である。素地は淡灰白色微粒子で貫入は見られない。	D・G10～12 Ⅱ層 0008SF (ピーチロック 道) 台 4534	
46	瓶	底部	— — 8.0	胴部は高台外面より斜位に立ち上がる。腰部にラマ式蓮弁文。内面は露胎。呉須の発色はやや鮮明で濃青色である。素地は白色微粒子で貫入は細かい。	I16 Ⅱ層 台 160	



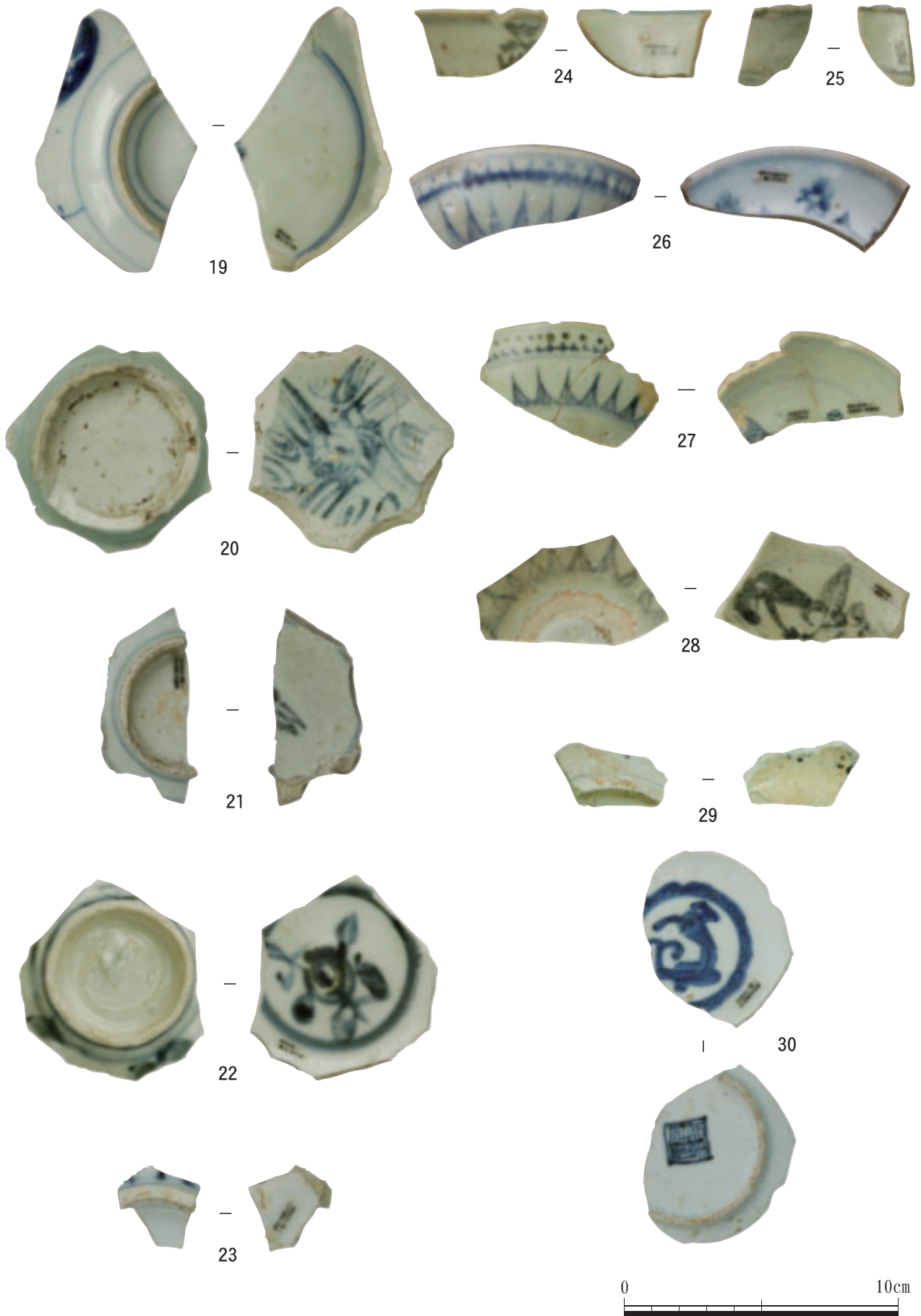
第74図 染付 1



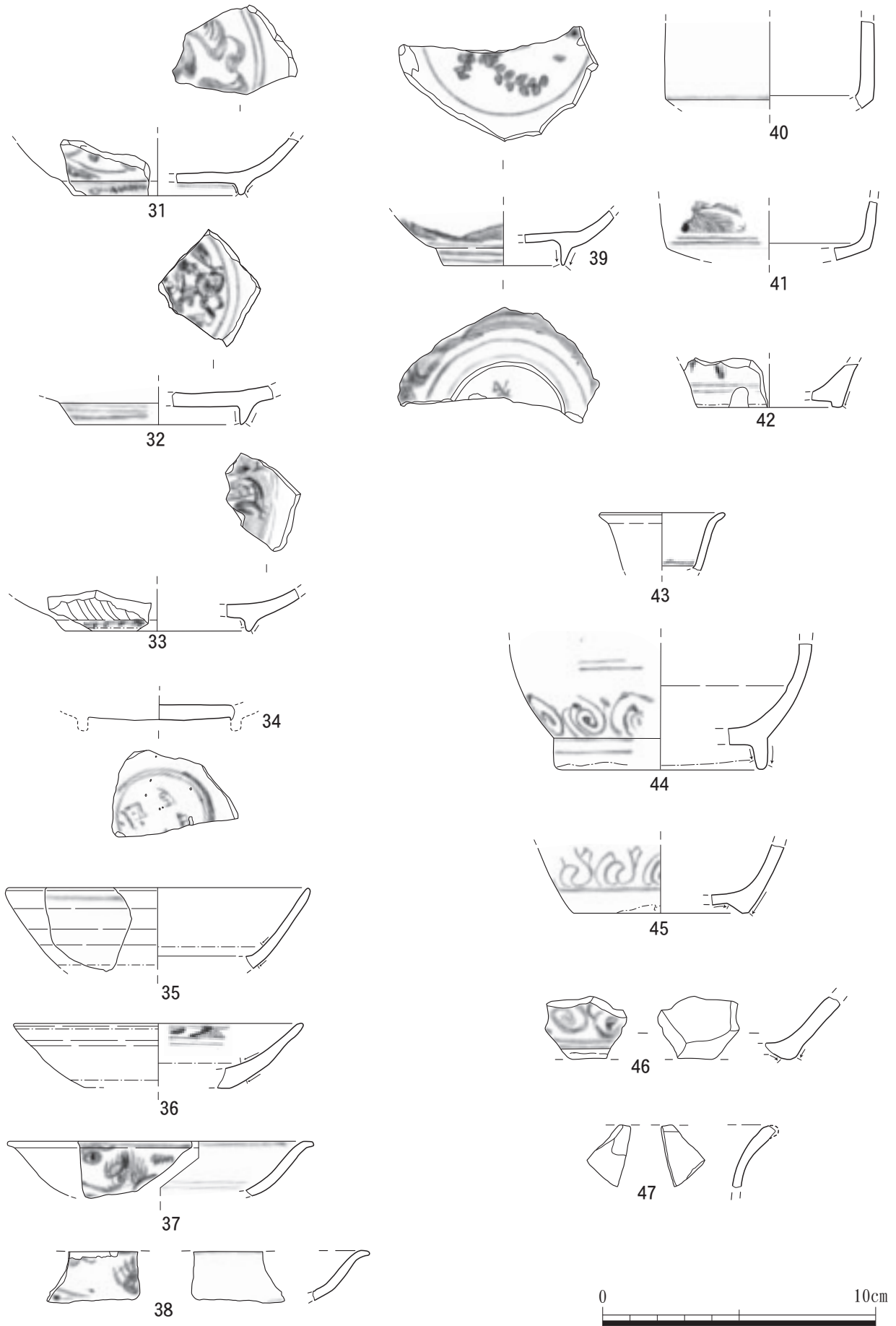
図版57 染付 1



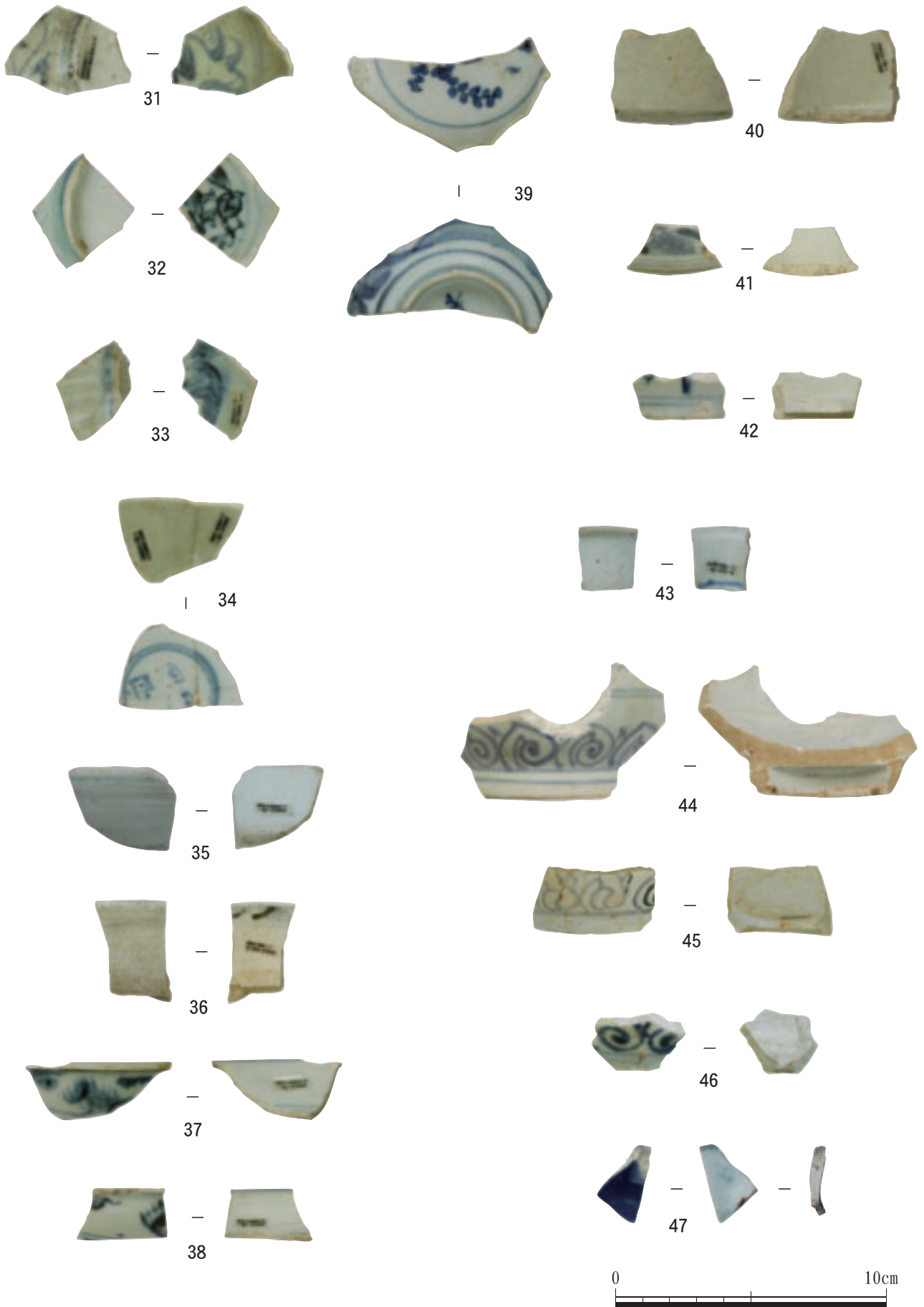
第75図 染付2



図版58 染付2



第76図 染付3・瑠璃釉



図版59 染付3・瑠璃釉

(6) 褐釉陶器

褐釉陶器は中国産とタイ産（半練を含む）が得られた。総数 639 点得られ、量的には前者が多く（その他を含む）489 点の出土である。

中国産褐釉陶器の器種は壺・瓶・急須の3種類で、壺が最も多く出土している。産地別に紹介し、個々の詳細については第52表の観察表に記した。

A. 中国産

中国産褐釉陶器は壺・瓶・急須・不明が得られた。壺が最も多く出土している。器種別に記述する。

1. 瓶

瓶は口縁部を図化した。図1は口縁部が肩部より緩やかに窄まり直口となる。口唇部は丸みを帯びる。

2. 壺

壺は最も多く出土している。口縁部の形状よりⅠからⅢ類に分け、更に口唇部の断面により細分した。胴部と底部は丸みを帯びるものをA、胴長を呈するものをBとした。

・口縁部

Ⅰ類：器形は肩部の張り出しが弱く、胴部の最大径は口径より僅かに大きいと思われる。口縁部の断面は隅丸方形に肥厚する（図2）

Ⅱ類：器形は肩部が強く張り出す。口縁部の断面は台形状を呈する（図3）

Ⅲ類：器形は口縁部よりナデ肩を呈する。口縁部の形状よりa種とb種の2種類に細分した。

a種：口縁部の断面が三角形を呈する（図4）

b種：口縁部の断面が逆「フ」の字状を呈する（図5）

・胴部及び底部

A種：丸みを帯びる壺（図6～9）

B種：胴長を呈する壺（図10～20）

3. 急須

急須は口縁部（図22）、底部（図23）、蓋（図21）が得られている。口縁部は口唇部が隅丸方形を呈し、肩部はナデ肩である。把手は口縁部直下位置するが破損しているため形状は不明。

B. タイ産

タイ産褐釉陶器は総数 150 点出土している。うち、半練が3点出土した。得られた器種は瓶・壺の2種類で後者が多い。半練は壺の底部である。器種別に記述する。

1. 瓶

図24は頸部から肩部にかけての資料である。口縁部に向かって窄まるようで口径は小さくなると思われる。

2. 壺

壺は部位別に記述する。

・口縁部

壺は頸部が窄まり、口縁部が大きく外反する。口唇部の断面は丸味帯びる図25と宝珠状に肥厚する図26・27がある図27は肩部が張るようである。

・胴部

図28は肩部片で横耳を有していたようである。器壁も厚く大型の壺が想定される。図29は胴長の壺である。胴下半部で外面に釉垂れの状況が確認できることから全体的に施釉するのではなく胴部の半分あたりまで施されたようである。器壁が厚いことから大型の壺が想定される。図30・31も胴長の壺である。両資料とも胴下半部まで施釉する。器壁が薄いことから中型の壺が想定される。

・把手

得られた把手は全て横位に貼付けるものである（図37～39）。

・底部

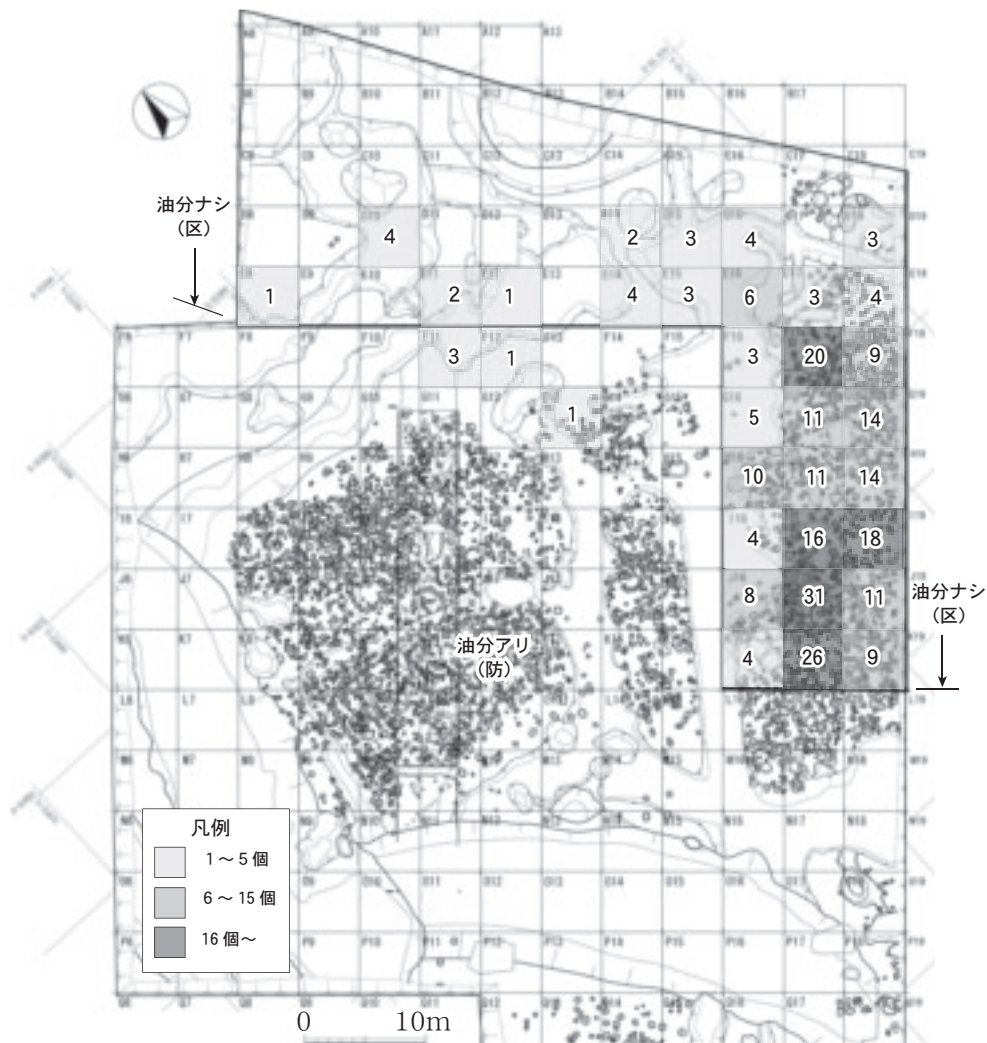
底部は底径が20cm以下の小型から中型の壺と、20cm以上の大型の壺がある。

図32は底部から反りながら立ち上がる。図33・34は底部から斜位に胴部へ立ち上がる。

図32～34の外面に釉及び釉垂れは見られない。図35は底部よりやや丸味を帯びながら立ち上がる。外面には釉垂れが見られる。図36は底部から斜位に胴部へ立ち上がる。外面には所々に釉が見られる。また、内面胴下半部に横位に薄く施されている。

3. 半練

半練は底部片が2点（図40・41）、胴部片が1点計3点出土している。底部より斜位に胴部へ立ち上がる。底径が20cm以下であることから小型から中型の壺が想定される。素地が茶色または橙色である。



第77図 褐釉陶器平面分布

第51表 褐釉陶器（中国産・タイ産）出土量

層位	産地 器種	中国産											その他			小計	タイ産					半練		小計	合計
		瓶			壺				須急			不明	瓶	壺	不明		瓶	壺				壺			
		口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	把手	口縁部	底部	蓋	胴部	胴部	胴部	胴部		口縁部	胴部	底部	把手	胴部	底部			
I					2	1					3			1	7			2						2	9
II		1	7	3	132	8	4	1	1	1	45	2	2	29	236		2	48	10	2			1	63	299
II (遺構)			1	3	45	5					11			11	76		1	22	2	1	1			27	103
III			3	5	68						16			2	94		1	34	5	1			1	42	136
III (遺構)			1	1	61	2					9		1	75	1		13	1	1					16	91
V b (Ⅲ)											1			1										0	1
合計		1	12	1	11	308	16	4	1	1	85	2	3	43	489	1	4	119	18	5	1	2	150	639	
器種別計		14			339				3			85	2	3	43	146					3		150	639	

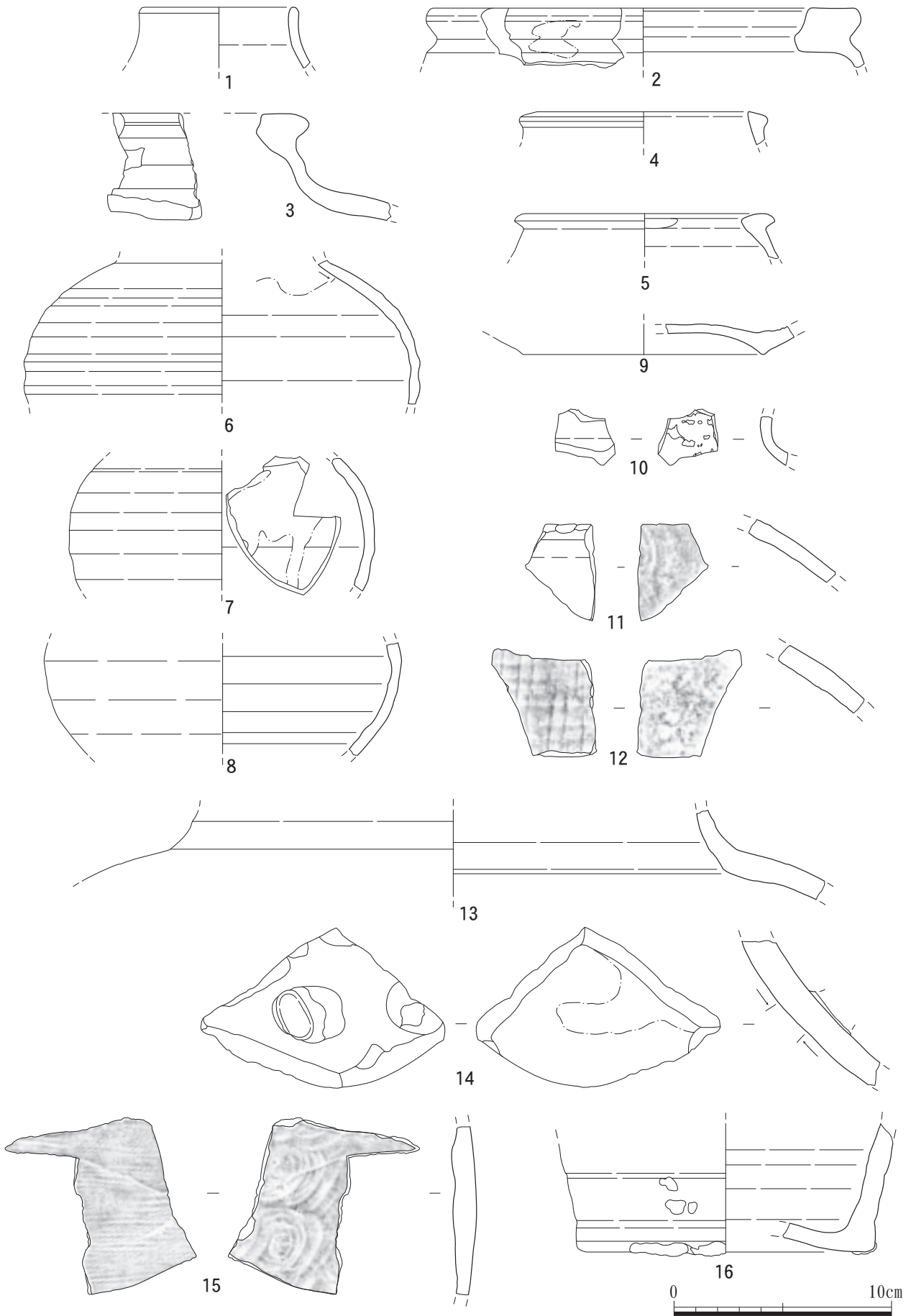
II (遺構) : (SF) 0008, (SK) 0313.0572, (SZ) 0350.0410.0586.1120.1035, (SL) 0019
 III (遺構) : (SK) 0090.0250.0264.0292.0294.0302.0311.0312.0313.0318.0360.0372.0386.0387.0389.0391.0627.0646.0735.0765.0868.0870.1031.
 1065.1082.1089.1122.4403.1060
 (P) 0045.0103.0133.0146.0150.0155.0241.0262.0309.0325.0349.0370.0404.0478.0498.0514.0546.0570.0619.0621.0732.0769.0875.0878.
 0924.0927.0938.0963.1101

第52表 - 1 褐釉陶器観察一覧

第図 図版	図 番号	産地	器種	分類	部位	口径 (cm) 器高 (cm) 底径 (cm)	観察事項	出土地	
第 78 図 ・ 図 版 60	1	中国産 陶器	壺	瓶	—	口縁部	6.0 — —	口縁部は直口する。釉色は外面は淡茶褐色で内面は黒褐色。素地は淡灰色細粒子で細かい白色鉱物を含む。	不明 II層 台 8
	2			I	口縁部	20.0 — —	頸部の器厚は薄く、口縁部は隅丸形状で厚くなる。釉色は色褪せや釉剥ぎがみられる。素地は灰色細粒子で細かい赤色と白色鉱物を含む。	D15 II層 台 547	
	3			II	口縁部	— — —	肩部より緩やかな傾斜で口縁部は立ち上がる。口縁部の断面は台形状を呈する。釉は茶褐色で貫入がみられる。素地は灰色細粒子である。	E13 III層 0586SZ 台 844	
	4			III a	口縁部	11.4 — —	頸部より斜位に窄まるように口縁部へ移行する。口縁部断面は三角形を呈する。口唇部は平坦である。釉は内外面ともに淡茶褐色。素地は淡紫色細粒子。	F18 III層 台 555	
	5			III b	口縁部	12.0 — —	頸部は縮まり口縁部外端部が突出し「フ」の字状を呈する。釉は淡茶褐色。素地は灰色細粒子で細かい白色鉱物を含む。	D13 II層 0586SZ 台 897	
	6			A	胴部	—	丸味を帯びる胴部片で内外面ともに轆轤痕が残る。外面と内面上部に淡茶色の釉が施されるが褪せている。素地は淡茶色細粒子で細かい白色鉱物を含む。	K18 II層 台 335	
	7			A	胴部	—	丸味を帯びる胴部片で外面は轆轤痕が残る。内面も轆轤痕が残る。釉は外面は黒褐色で、内面上部にも掛かる。素地は灰色細粒子。	F17 III層 0878P 台 1596	
	8			A	胴部	—	外面はナデ調整が行なわれている。内面は轆轤痕が残る。釉は外面に薄い茶褐色を施す。内面は露胎。素地は淡橙色細粒子で赤色鉱物を含む。	E17 III層 台 804	
	9			A	底部	— — 11.0	外底面は上げ底で外底端部より大きく開きながら胴部へ移行する。内外面ともに露胎である。素地は灰色細粒子で細かい白色鉱物を含む。	I18 III層 台 317	
	10			B	胴部	—	頸部と思われる。現破片より壺か瓶かは不明である。釉は黒褐色で貫入がみられる。素地は淡灰茶色細粒子で白色鉱物を含む。	F18 III層 台 779	
	11			B	胴部	—	肩部あたりと思われる。内面は円形状の敲き調整痕が残る。釉は外面は薄い赤橙色で、内面は露胎である。	K17 II層 台 171	
	12			B	胴部	—	外面に四角形の敲き痕が密に見られる。内面も凸凹を有することから敲きによる調整が行なわれたと思われる。釉色は外面は淡茶褐色、内面は褐色。素地は茶褐色細粒子で赤色や白色の細かい鉱物を含む。	K18 II層 台 198	
	13			B	胴部	—	肩部より頸部に至る部分で、頸部は内側に斜位に立ち上がる。内外面ともに淡緑褐色でザラザラ感がある。素地は淡灰色細粒子で赤色鉱物を含む。	I17 II層 台 183	
	14			B	胴部	—	肩部片で横耳は破損し、貼付け痕が残る。釉色は内外面ともに淡灰茶色で外面は部分的に貫入がみられる。素地は赤褐色細粒子。内面に粘土帯がみられる。	H17 II層 台 333	
	15			B	胴部	—	外面に横位に線条痕が全体的に施される。内面は波濤文状の敲きが施される。釉は内外面ともに淡茶色。素地は灰色で細かい黒色鉱物を含む。	G17 II層 台 409	
	16			B	底部	— — 13.8	外底面は上げ底を呈する。外底端部に溶着砂が付着する。外底より直に立ち上がり、緩やかに開きながら胴部へ移行する。内面は轆轤痕が残る。外面は篋割りによる調整が行なわれる。素地は淡紫色細粒子で白色鉱物を含む。外面は淡緑褐色釉が施される。	E11 I層 0001SZ 台 23	
第 79 図 ・ 図 版 61	17			B	底部	— — 13.3	底部より斜位に立ち上がり胴部へ移行する。外面は褐色釉が施され部分的に釉垂れが見られる。内面は淡褐色釉が施される。素地は淡灰白色細粒子。	D14 II層 台 672	

第52表－2 褐釉陶器観察一覧

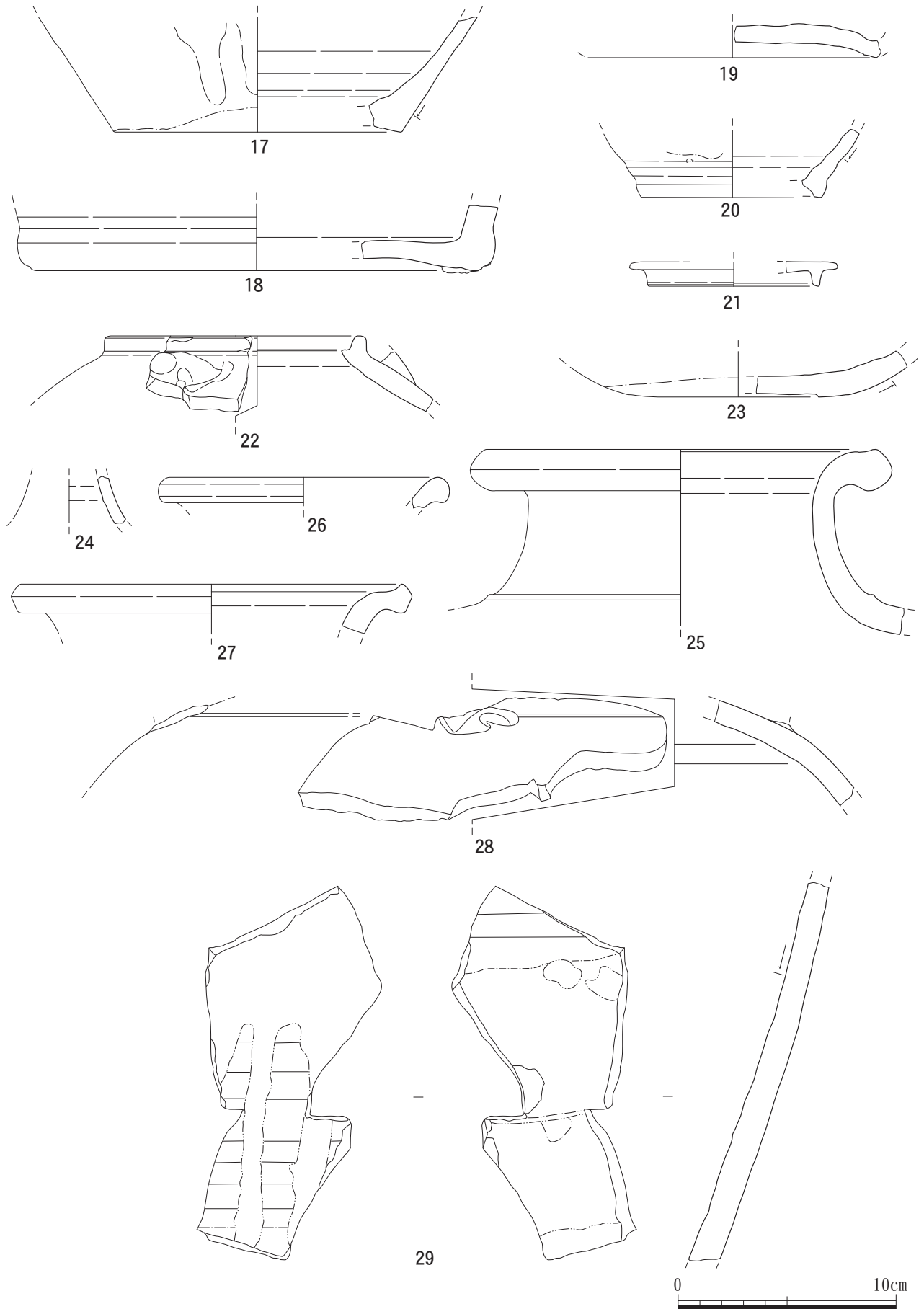
第図版	図番号	産地	器種	分類	部位	口径 (cm) 器高 (cm) 底径 (cm)	観察事項	出土地	
第79図・図版61	18	中国産陶器	壺	B	底部	— — 21.8	外底はやや上げ底。外底端部に溶着砂が付着する。外面は暗緑褐色で貫入が見られる。内面は茶褐色釉が施される。素地は淡灰色細粒子で白色鉱物と細かい赤色鉱物が含まれる。	D14 Ⅱ層 台 520	
	19			B	底部	—	外底は上げ底である。素地は灰色細粒子で白色鉱物を含む。	E13 Ⅱ層 0586SZ 台 861	
	20			B	底部	— — 8.3	底部より開きながら胴部へ移行する。外面下部まで淡茶色釉が、内面は淡茶黒色釉が施される。内面は轆轤痕が残る。	F11 Ⅱ層 0008SF 台 59	
	21		—	蓋	—	—	蓋の端部の部分である。外面は釉が剥がれ露胎する。内面は淡茶色で薄い。素地は淡灰茶色。大小の赤色鉱物を含む。	K17 Ⅱ層 台 145	
	22		急須	—	口縁部	12.0 — —	口縁部で、把手は破損している。口縁部は隅丸形状を呈する。内面口縁部下は突出する。釉色は内外面とも淡茶色。素地は内外器面は灰色で芯部は淡褐色細粒子。細かい赤色鉱物と白色鉱物を含む。	G17 Ⅱ層 台 262	
	23		—	底部	— — 8.4	外底は基筒底状を呈する。底部より丸味を帯びながら胴部へ移行する。外面底部付近まで淡茶褐色釉が施される。素地は茶褐色細粒子で細かい白色鉱物を含む。	E18 Ⅱ層 台 478		
	24		瓶	—	頸部	— — —	頸部部分で口縁部に向かって窄まる。釉色は内外面ともに淡緑黒色。素地は灰色細粒子で細かい赤色鉱物を含む。	H16 Ⅲ層 0478P 台 1639	
	25		—	口縁部	19.4 — —	頸部より垂直に口縁部に移行し、口縁は大きく外反する。口唇部断面は宝珠状を呈する。釉色は外面は茶褐色、内面は灰茶色。素地は淡灰紫色細粒子で細かい赤色と白色鉱物、1mm弱の黒色鉱物を含む。	F17 Ⅲ層 取14 X35941.564 Y25739.956 Z3.524 台 802		
	26		—	口縁部	11.2 — —	外反する口縁部で丸味を帯びる。釉は黒褐色で貫入がみられる。素地は暗紫色細粒子で白色鉱物を含む。	G-17 Ⅱ層 台 262		
27	—	口縁部	16.0 — —	外反口縁部で断面は宝珠状で特に口唇部内端部は凸部が強調される。釉は内面は淡灰緑褐色で、外面は淡茶褐色。素地は褐色細粒子	I16 Ⅱ層 0350SZ 台 960				
28	—	胴部	—	—	肩部片で、横耳を有すると思われるが破損している。耳貼付け上部より肩部上部を二条の沈線が廻る。釉色は外面が黒褐色で一部アバタ状を呈する。内面は露胎で轆轤調整痕が残る。素地は灰色細粒子で赤色鉱物を含む。	G18 Ⅲ層 0627SK 台 1630			
29	—	胴部	—	—	器厚があり大型の壺と思われ、胴下部あたりである。外面は暗茶褐色釉が施され、釉垂れもみられる。内面も部分的に釉がみられる。素地は淡灰色細粒子で細かい赤色鉱物を含む。	D・G10～12 Ⅱ層 0008SF (ピーチロック道) 台 4534			
第80図・図版62	30	タイ産陶器	壺	—	胴部	—	胴中央部から下部あたりと思われる。内面は轆轤痕が明瞭に残る。外面は胴上部は淡緑褐色の釉が褪せ、白色化粧土が露胎する。素地は淡紫褐色細粒子で、細かい白色と赤色鉱物を含む。	H18 Ⅲ層 台 617	
	31			—	胴部	—	胴中央部から下部あたりと思われる。胴上部は淡茶色釉で下部は露胎。素地は灰色細粒子で細かい赤色鉱物を含む。	G17 Ⅲ層 台 644	
	32			—	底部	— — 13.0	外底面が僅かに浮く。底部よりやや直線的に胴部へ立ち上がる。外面、外底面ともに露胎。内底面に僅かに暗褐色の釉がみられる。素地は淡灰色細粒子で細かい白色鉱物を含む。	G18 Ⅱ層 台 351	
	33			—	底部	— — 11.3	底部より緩やかに斜位に立ち上がる。外面は露胎。内面は釉が掛かるが色褪せている。素地は灰色細粒子である。	I18 Ⅱ層 台 234	
	34			—	底部	— — 10.8	底部より緩やかに斜位に立ち上がる。外面に刷毛状工具による調整痕が見られる。内面は轆轤痕が残る。素地は茶褐色細粒子で細かい赤色鉱物が含まれる。	J18 Ⅱ層 台 224	
	35			—	底部	— — 25.4	底部より緩やかに斜位に立ち上がる。器壁が厚く重量感があることから大型壺が想定される。外面は刷毛目状工具による調整が行なわれている。釉垂れが見られる。内面は淡黒褐色釉が施される。素地は淡紫色細粒子で細かい白色、赤色鉱物を含む。	E16 Ⅱ層 0350SZ 台 938	
	36			—	底部	— — 26.8	底部より緩やかに斜位に立ち上がる。外面は茶褐色で内面は淡緑褐色である。素地は褐色細粒子で白色鉱物を含む。	E12 Ⅱ層 0586SZ 台 876	
	37			—	把手	—	—	横耳。釉色は淡黒緑色である。素地は灰色細粒子である。	F17 Ⅱ層 台 423
	38			—	把手	—	—	横耳。太いことから大型壺が想定される。外面部は黒褐色釉で内側は露胎。素地は暗茶褐色である。	H16 Ⅲ層 0478P 台 1639
	39		—	把手	—	—	横耳で胴部に貼り付いた状態である。胴部の器壁はやや薄いことから中型壺が想定される。灰緑色釉が色褪せ白色を呈する。素地は灰褐色で細かい赤色鉱物を含む。	I16 Ⅱ層 台 138	
	40		半練	—	底部	— — 13.0	底部より緩やかに斜位に立ち上がる。内外面ともに露胎である。素地は茶色細粒子で細かい黒色鉱物を含む。	J17 Ⅱ層 台 167	
41	—	底部	— — 18.8	底部より緩やかに斜位に立ち上がる。内外面とも露胎で煤痕が見られることから火を受けたと思われる。素地は橙色細粒子で細かい赤色鉱物を含む。	G18 Ⅲ層 台 596				



第78図 褐釉陶器 1



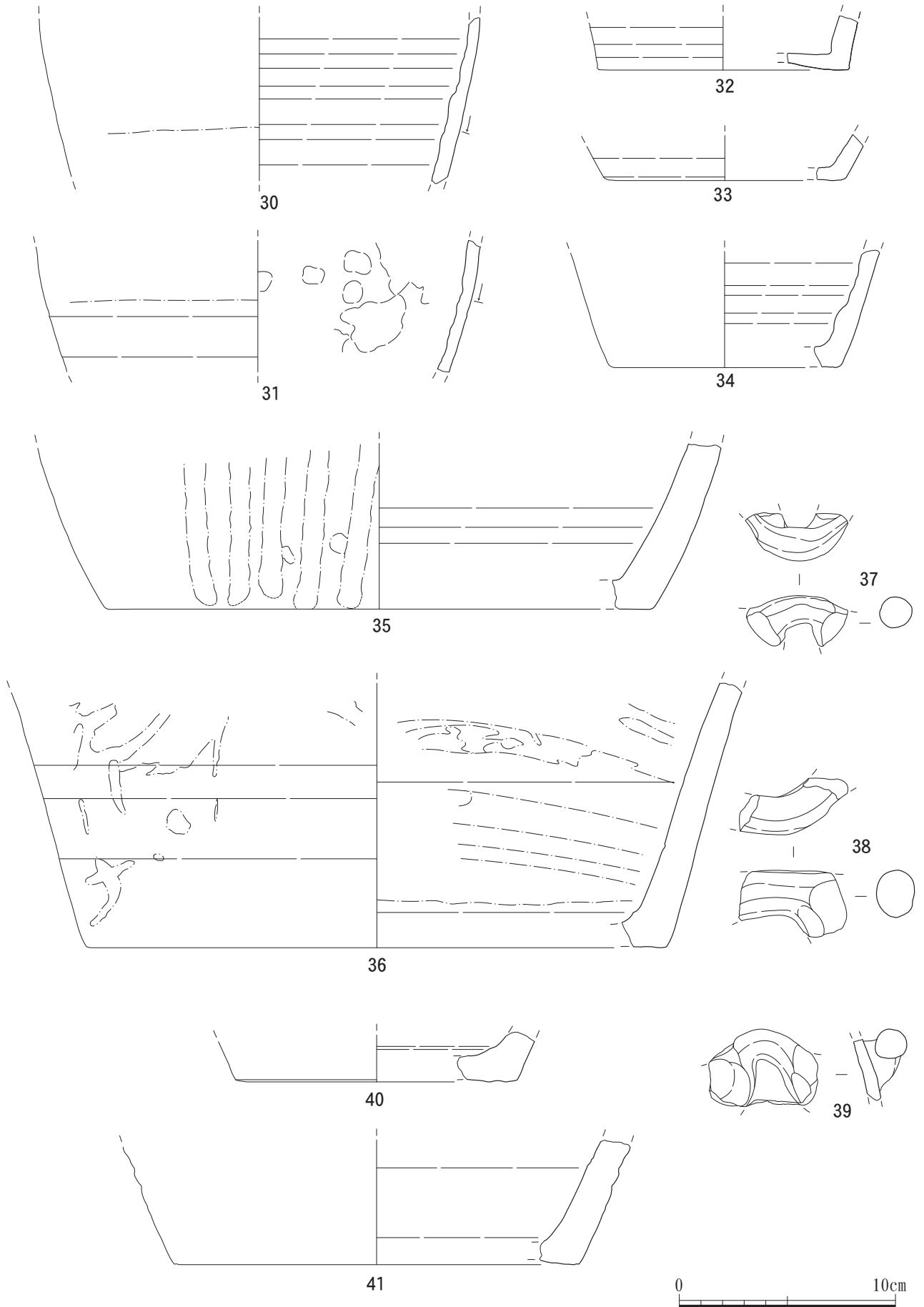
図版60 褐釉陶器 1



第79図 褐釉陶器 2



図版61 褐釉陶器 2



第80図 褐釉陶器 3



图版62 褐釉陶器 3

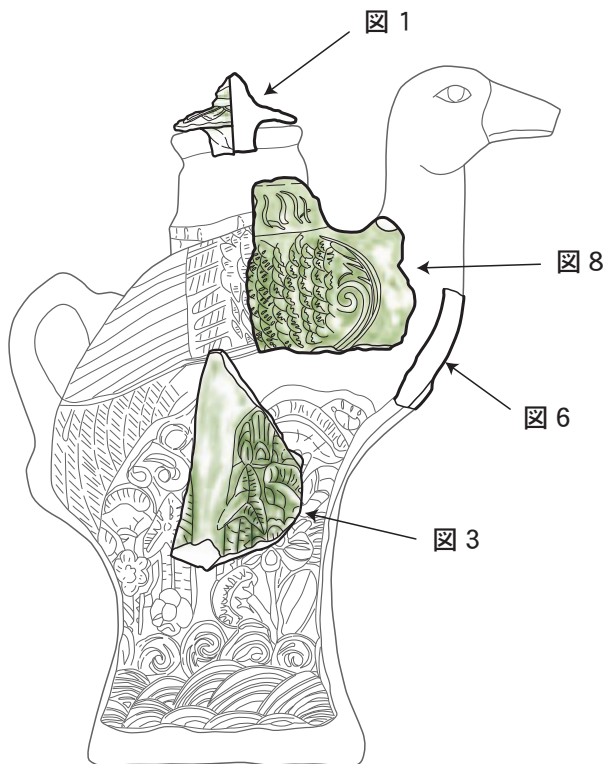
(7) 三彩

三彩は8点得られた。小破片の資料が殆どで全形を窺えるのは得られなかった。器種は水注と思われる。個々の詳細な特徴は第54表、出土量は第53表に記述した。

第53表 三彩出土量

層位	器種 部位	水注			合計
		口	胴	蓋	
Ⅱ		1	2	1	4
Ⅲ		1	1	1	3
Ⅲ (遺構)			1		1
合計		2	4	2	8

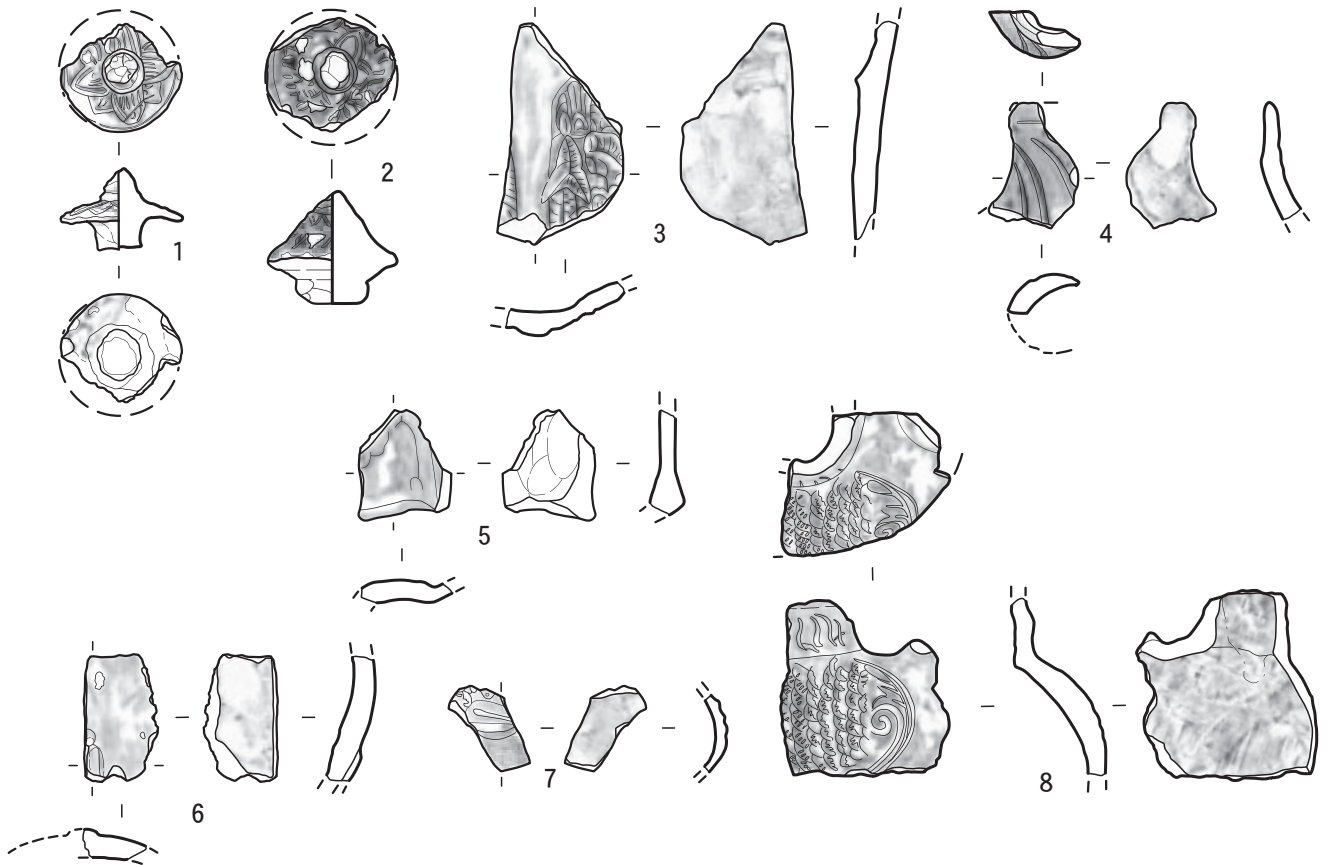
Ⅲ (遺構) : (P) 1111



第81図 鶴型水注の出土部位

第54表 三彩観察一覧

第図 図版	図番 号	器種	部位	重量 (g)	観察事項	出土地
第 82 図 ・ 図 版 63	1	水注	蓋	13.39	表面は花文を施す。撮み部は宝珠状で花文の一部でもあり文様が施される。素地は淡橙色素粒子で釉色は緑色で裏面にも部分的に掛かる。指圧痕が顕著に見られる。鏝の部位は器壁が薄い。	H17 Ⅲ層 台 930
	2	水注	蓋	36.28	表面は花文を施す。蓋の形状は宝珠状を呈する。素地は淡灰色素粒子で釉色は緑色である。重量感のある撮みである。	H17 Ⅱ層 台 219
	3	水注	胴部	23.42	鶴型水注で鶴の胸下辺りの部分と思われる。花文が施される。素地は濁白色粗粒子で外面は緑色釉が施される。内面はナデや指圧による調整痕が残る。器壁はやや厚い。	H17 Ⅲ層 台 918
	4	水注	口縁部	7.99	鶴又は鴨型水注の口縁部と思われる。頸部は片切彫りによる斜位の沈線を施す。口唇部は舌状を呈する。素地は淡灰白色素粒子で釉色は口唇部は黄色釉、頸部は緑色釉を施す。内面は露胎で指ナデや指圧痕が見られる。器壁は口唇部は薄く、頸部はやや厚い。	H18 Ⅲ層 台 738
	5	水注	胴部	9.53	詳細な部分は不明。素地は淡灰白色素粒子で白色の鉱物が含まれている。釉色は外面に緑色釉を施す。内面は露胎で指ナデや指圧痕が見られる。器壁は薄い。	I18 Ⅱ層 台 238
	6	水注	胴部	11.3	詳細な部分は不明。素地は白濁色素粒子で釉色は外面は緑色釉を施すが薄いため白化粧土の露出が部分的に見られる。内面は露胎で指圧痕が残る。縦位の接合面より剥離している。器壁はやや厚いが指圧痕により薄い部分も見られる。	H17 Ⅱ層 台 333
	7	水注	胴部	2.63	鴨・鶴型等の羽文部位と思われる。素地は白濁色粗粒子で外面は上部は黄色釉、下部は緑色釉が施される。器壁は全体的に薄い。内面は露胎で指圧痕や指ナデ調整痕が残る。	I17 Ⅲ層 1111P 台 1815
	8	水注	口縁部	44.47	鶴型水注の羽文部分及び口縁部(注入)の部位である。口縁部下には「S」字状の沈線が縦位に施される。素地は白濁色素粒子で外面は緑色釉が施される。内面は露胎であるが、口縁部内に部分的に薄く緑色釉が見られる。指圧痕や指ナデ調整痕が残る。器壁は厚い。	G17 Ⅱ層 取4 X:35939.55 Y:25736.238 Z:3.236 台 279



第82図・図版63 三彩

(8) 瓦質土器

瓦質土器は鉢2点、すり鉢1点、瓶1点、器種不明の胴部2点の計6点出土した。

鉢は口縁部、すり鉢は底部、瓶は頸部破片である。第83図、図版64に示した。図示を割愛した不明破片2点は、0008SF（ビーチロック道）、J 17で各1点出土した。

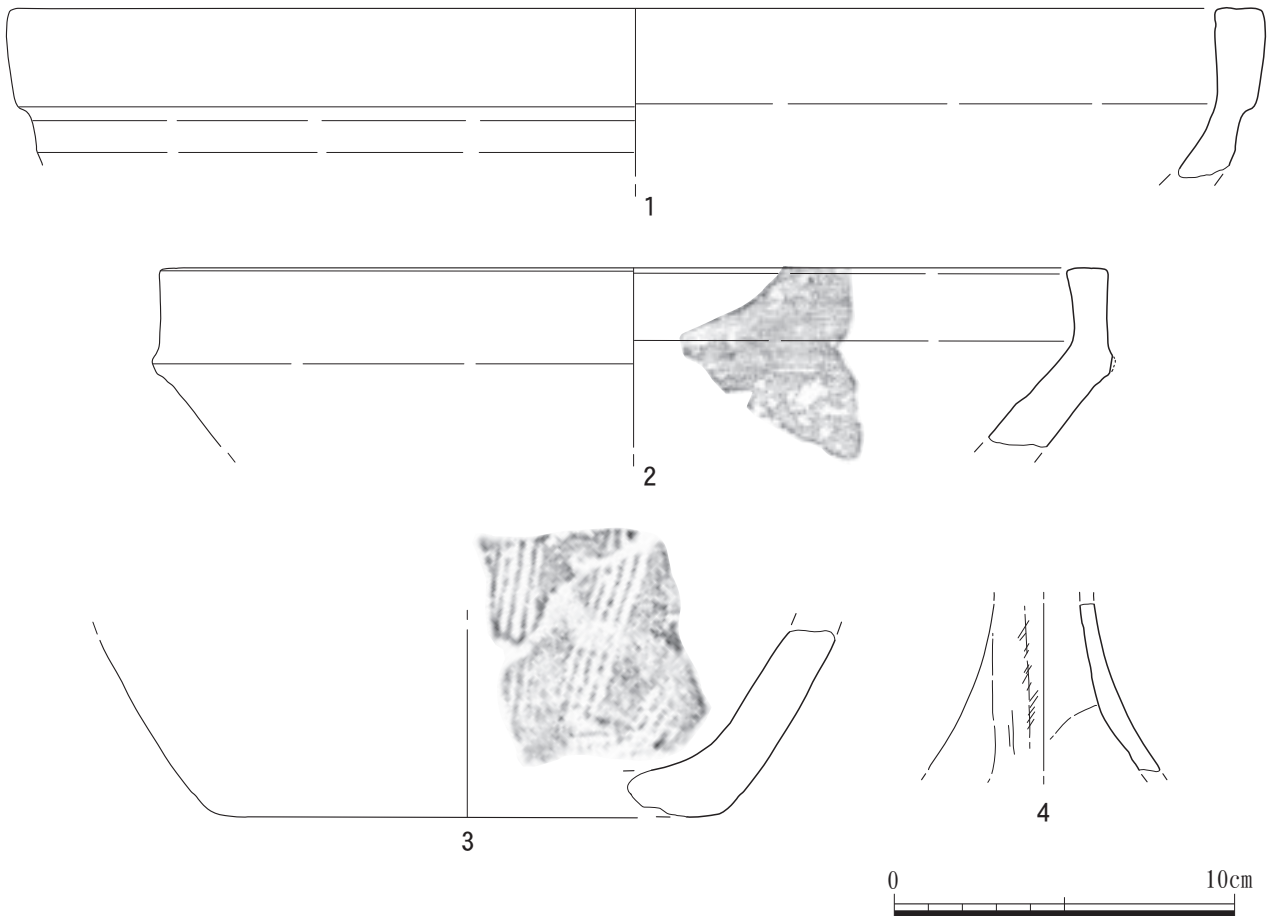
図1は鉢の口縁部で、直口の肥厚口縁、肥厚帯中央部から下部にかけて僅かに厚さを減じる。器面調整は口唇部にナデ調整が見られ、僅かに窪む。肥厚帯幅は約3cm、口唇部幅1.3～1.4cm。器厚は肥厚帯直下で約8mmであるが、胴部は約1.1cm。器色は外面が灰褐色、口唇部から内面にかけて褐色味を帯びる。胎土は灰色、黒色粒子や白色粒や小片を僅かに含む。口径約36.8cm。重量36.49g。G 18Ⅲ層出土。

第55表 瓦質土器出土量

層位	器種部位	鉢	すり鉢	瓶	不明	合計
		口縁部	底部	頸部	胴部	
Ⅱ			1		1	2
Ⅱ (遺構)					1	1
Ⅲ		2				2
Ⅲ (遺構)				1		1
合計		2	1	1	2	6

Ⅱ (遺構) : (SF) 0008

Ⅲ (遺構) : (P) 1426



第83図 瓦質土器

図2は鉢の口縁部、逆「八」字状に口縁部に向かって開く胴部は逆「く」字状に屈曲し直口となるが、内面はやや内傾し、口唇部は平坦である。屈曲部外面に凸状の稜を有しているが欠損する。器面調整は内面に横ナデが見られる。屈曲部から口唇部までの幅約3cm。器厚は屈曲部から口唇部で約1～1.3cm、屈曲部から下位は1.3～1.5cm。器色は内外面ともに灰茶褐色、胎土はやや暗い灰色を呈し白色粒を含む。口径27.8cm、重量44.51g。I 18 III層出土。

図3はすり鉢の底部である。外底からの立ち上がりは丸みを帯びている。すり目は4条1組で幅約1.5cm、1条の幅は約2～3mm、内底からの立ち上がりまで見られ、同部位のすり目間は約1cm、破片上部では約1.8cmを測る。

器面調整は外面の残存部に丁寧な部分が見られる。器厚は約1.4～1.5cm。器色は内外面ともに、鈍い赤橙色を呈するが部分的に明赤灰色を呈する部分も見られ、胎土も同様な色調を呈し、暗茶褐色粒や白色粒を僅かに含む。底径14.4cm。重量98.16g。D 14 II層出土。

図4は瓶の頸部破片。器面調整は外面には右上がりのナデと縦方向のナデ、内面の上部に横ナデが見られ、器厚は約4～5mm、破片中央部付近は約7mm、器厚が太くなる部分の内面の整形・調整は丁寧でない。器色は外面が灰褐色、内面は灰色。胎土は灰色を呈し暗灰色や白色粒を含む。頸部破片上端の径は約3.0cm、重量11.17g。K・L 17、1426 P（柱穴）出土。



図版64 瓦質土器

(9) 焼土

出土総数 226 点、総重量 1530.5 g である。焼土には成形面の有無があり、図1の平坦面、図2の曲面を有するものがある。前者をa、後者をbとし分類し第56表に出土状況、特徴的なものを第85図に示す。大きさは、1 cm 以下から図1の約 9 cm の破片で、色調は

褐色、橙褐色、赤茶褐色、暗灰色などが見られる。土質には泥質と砂質があり、白色粒が含まれる。また、直径約 1.5mm の管状の孔（図版5）や、幅約 2 mm の連続するスジ状痕等（図版3）を有するものが見られることから、草など植物を混ぜた可能性があるものと思われる。

層別の出土分布を見ると、Ⅱ層では、ほぼD～K 16～18で出土し、0350SZが位置するグリッド出土も見られる。Ⅲ層は、0350SZ 東側のD～Iの範囲に見られ、Ⅱ層期の耕作によって削平されたと見られるJ～Kグリッド出土は見られない。

遺構では、前述のJ～Kで検出されたPが17基、SKが12基である。

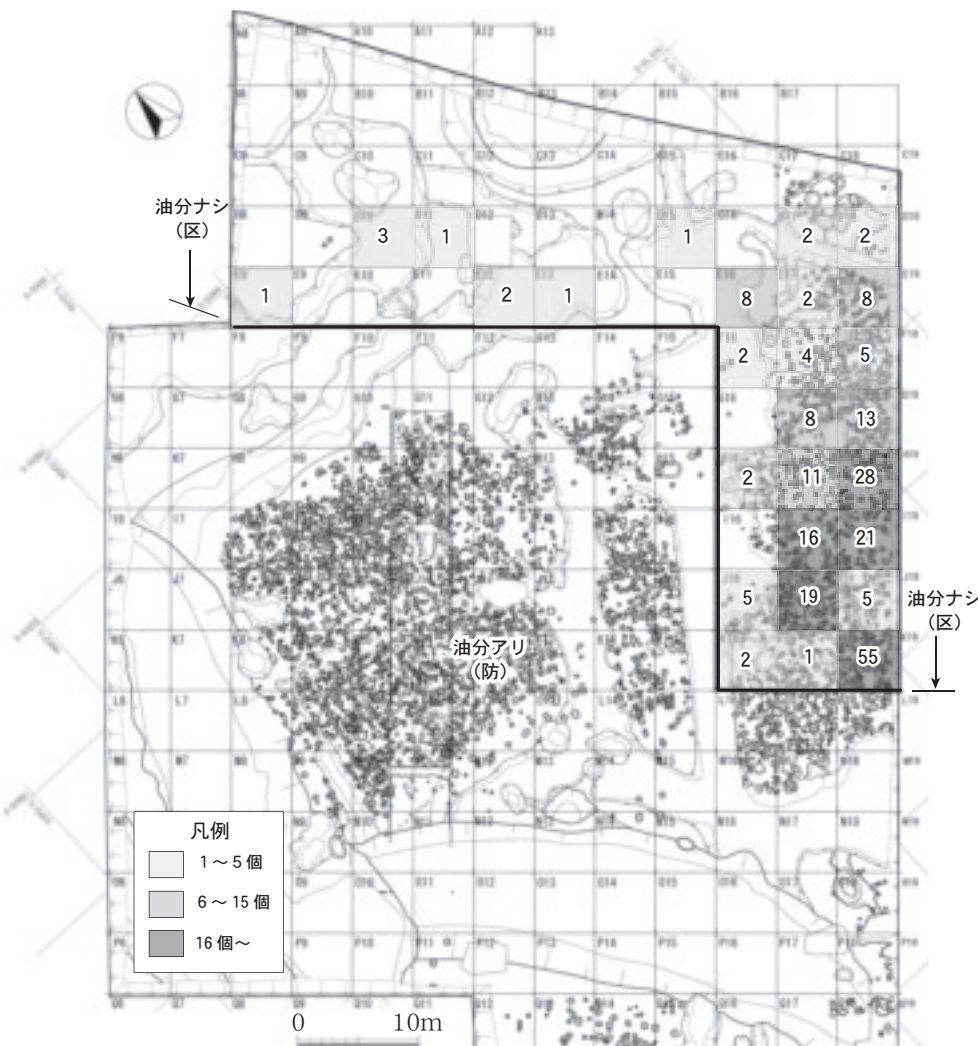
第56表に示す層序、遺構別の出土個数と重量の割合を見ると、層別では、Ⅲ層が個数、重量ともにⅡ層より多い。遺構別ではSKとPの出土個数は、ほぼ同じである。

焼土は、範囲確認調査（2008）出土資料と同様に炉址に関連する性格と考えられるが、本調査で炉は検出されていない。類例資料や民俗事例等も加味し検討の必要がある。

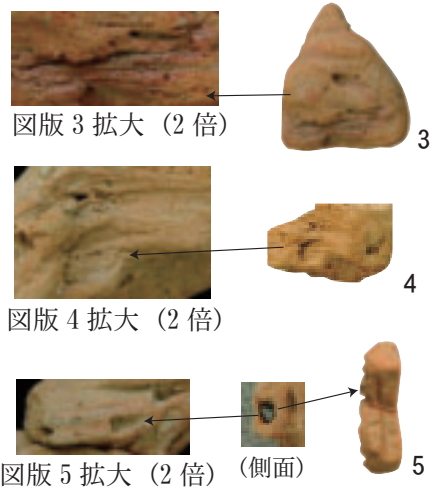
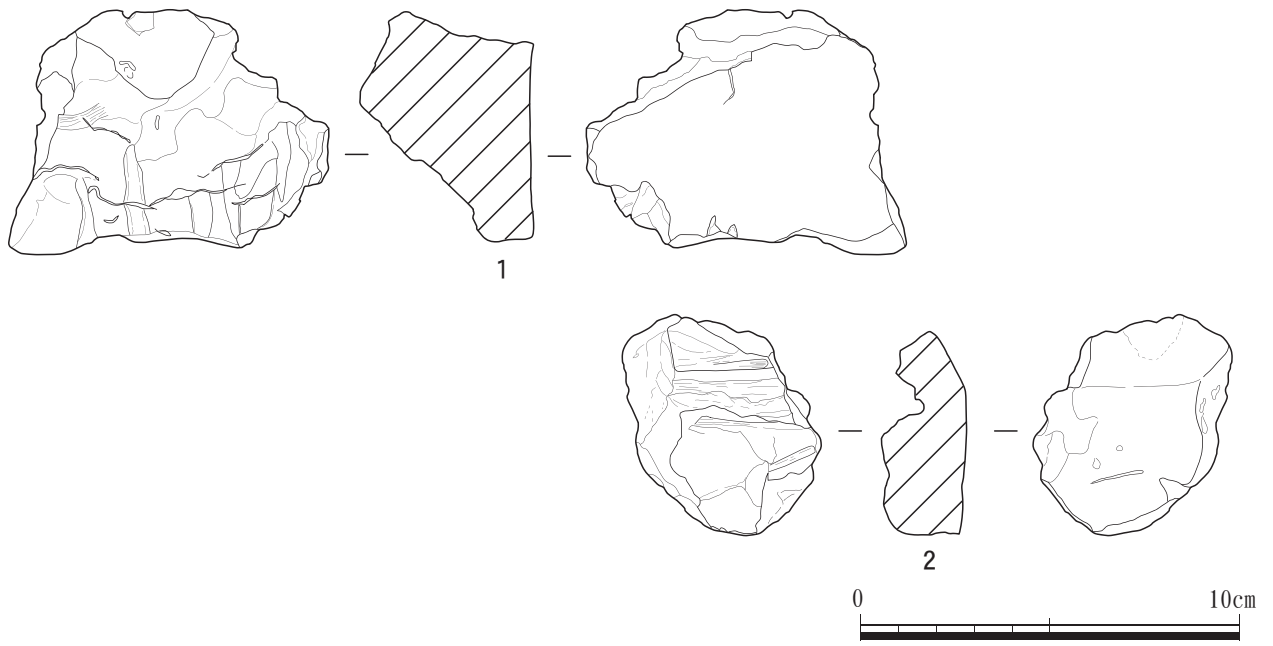
第56表 焼土出土量

器種 層位	a				b				数量計	重量計 (g)
	孔		-		孔		-			
	数量	重量(g)	数量	重量(g)	数量	重量(g)	数量	重量(g)		
Ⅱ			10	118			49	275	76	393
Ⅱ (遺構)			1	12	2	8	8	82	11	102
Ⅲ			5	48			73	339	61	387
Ⅲ (遺構)	1	3	15	189	1	6	58	440.5	75	638.5
V b (攪乱)							3	10	3	10
合計	1	3	31	367	3	14	191	1146.5	226	1530.5

Ⅱ (遺構) : (SF) 0008 (SZ) 0350.0410.0586
 Ⅲ (遺構) : (P) 0031.0043.0141.0146.0148.0194.0249.0256.0306.0379.0425.0498.0521.0546.0570.0907.1075 (SK) 0105.0128.0138.0216.0222.0250.0264.0317.0326.0329.0353.1081



第84図 焼土平面分布



第85図・図版65 焼土

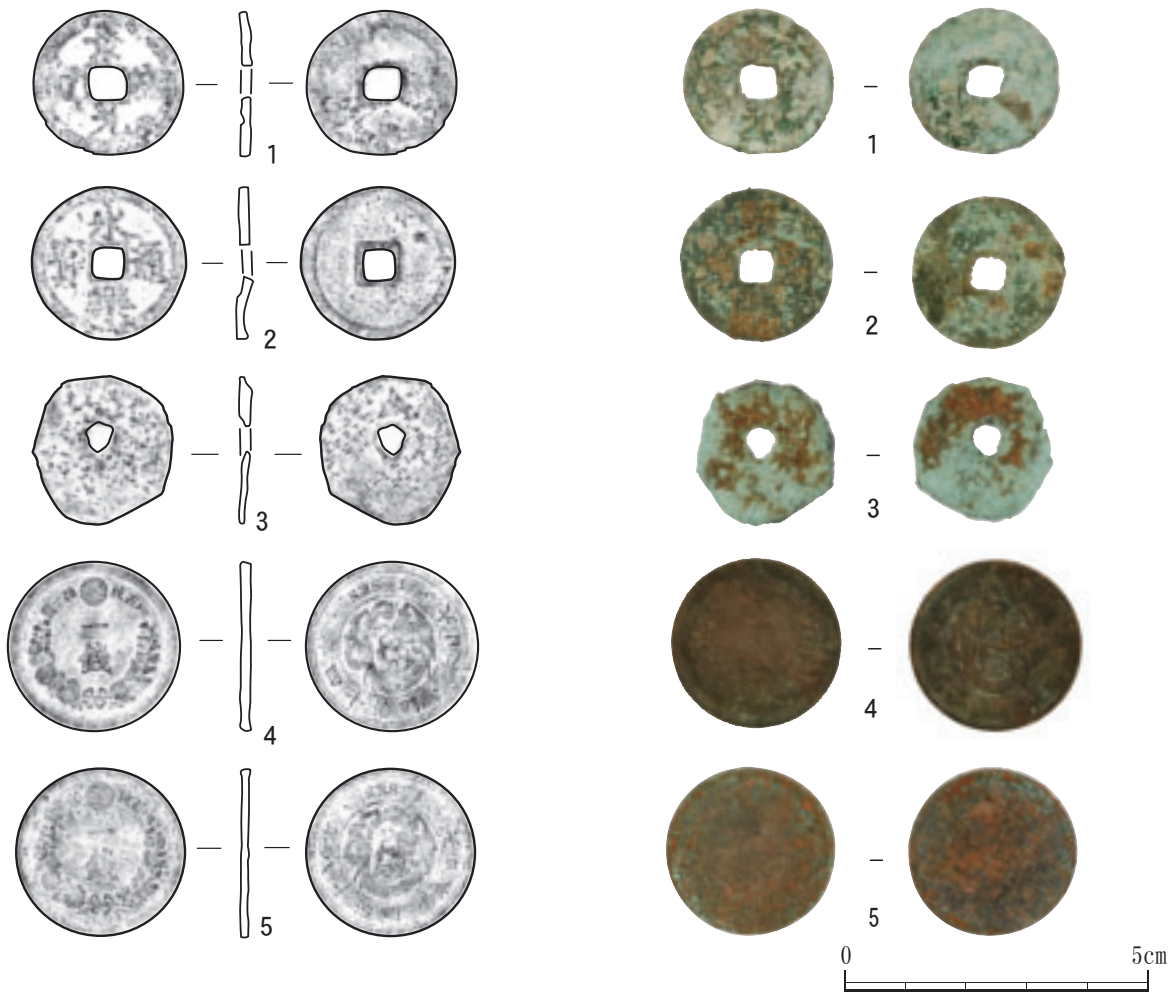
(10) 銭貨

銭貨は、合計5枚。景德元寶、永樂通寶、銭文不明、一銭である。景德元寶、永樂通寶は古手の資料である。第86図、図版66、第57表に観察一覧を示す。

図1は、銭文は不明瞭だが、残存する文字の形状から「景德元寶」と見られる。図2は「永樂通寶」で「樂」の文字部分が湾曲する。図3は楕円形状を呈するもので、不定形の孔が中心からずれた位置にあり、縁辺に整形等の痕跡は見られず、表裏面ともに無文である。図4・5は近代遺物の「一銭」で、図4は表裏面ともに良好な状態である。図5は表裏面の銭文や文様がやや不鮮明である。

第57表 銭貨観察一覧

第図 図版	図 番号	種類 銭貨名 (銭文)	完/破	背 文	時 代 初铸年代	外縁外径 外縁内径 (cm)	外縁厚 内面厚 (mm)	孔形	孔径 横×縦 (cm)	重量 (g)	出土地
第86 図・ 図版 66	1	景德元寶	完	無し	1004年	2.3 1.9	1.5 1.0	四角	0.5×0.5	4.40	F16 II層 0350SZ 台 941 - 2
	2	永樂通寶	完	無し	1408年	2.6 2.1	1.5 1.0	四角	0.55×0.5	3.75	F17 III層 取 24 0656SS X : 35941.993 Y : 25739.495 Z : 3.580 台 987
	3	無し	完	無し	-	2.6 -	- 1.0	不定形	0.4×0.45	2.61	F18 III層 取 11 X : 35939.619 Y : 25744.879 Z : 3.518 台 640
	4	一銭 (以百枚換一圓)	完	大日本・ISEN 明治十四年	-	2.8 2.6	1.5 1.0	無し	-	6.98	G17 II層 台 391
	5	一銭 (以百枚換一圓)	完	大日本・ISEN 明治十八年	-	2.8 2.6	1.5 1.0	無し	-	6.92	G11 II層 0008SF 台 71



第86図・図版66 銭貨

第6節 近・現代

1. 遺構

Ⅱ層の遺構としては0008SF（ビーチロック道）、0019SF（石列）SZ（攪乱）が検出された。

（1）0008SF（第89図、図版67～71）

本遺構は、調査区の北西隅（B 8・9、C 8～10、D・E 10・11、F 10～12、G 12）で北西から南東方向に長さ約32 m、最も広い部分で約5 m、狭い部分は約0.6～1 mを測る不定形に並ぶ石列・石敷遺構である。

範囲確認調査（2008）4トレンチで検出された石敷遺構、水路①・②、石列①・②は本遺構の一部で、今回の調査で複合した遺構であることが判明した。さらに、F 11では後述する0019SL（石列遺構）が直交して検出された。

本遺構の構築材は石灰質砂岩やビーチロック、サンゴ等が主なことから、調査時にビーチロック道と仮称した。

0008SF、0019SLと4442・4439SZの検出状況（第89図）、各層の検出面（a：Ⅱ層面、b：Ⅲ層面）での位置と上下関係（第6図）、遺構検出状況（図版67～71）、調査区北側端のA～C 8の堆積（巻首図版5・下）、本遺構と米軍上陸前（1945年2月）の米軍撮影写真の合成図（第87図）（註1）、調査区と1945年の遺跡一帯の合成図（第88図）、遺物の出土一覧（第58表）を示す。



第87図 伊礼原D遺跡と戦前集落

以下、複合する各遺構別に述べるが既報告の名称を水路①・②、石列①・②については踏襲し、後述する石列②は縁石状のもののみとした。

a) 石敷遺構

本遺構は水路①②を境に北側と南側で異なる状況が見られ、北側の石敷は大型礫と小型礫のまじり、南側の石敷は大型礫と2列の縁石状遺構の石列①・②、それに直交する0019SL（石列）が交わる。

北側の石の大きさをみるとB 8、C・D 10・11では約1 mの大型のもの、C 9では約10～30 cmの小型のものが目立ち、さらに南側のE・F 11では再度、大型のものが目立つ。

東壁1の層序（第6図①）をみると大型礫を含むⅡ層ハの堆積は厚く、同層の最上位の層番号8（第2表）は路面層と見られ（第三章第3節）、Ⅱ層ハの下位には、4439、4442SZ（第89図）が石敷の位置と重なって検出された。

この重なりを断面で見ると、4439SZのD10ではⅥ層（砂層）上の検出状況（巻首図版5・中）、段差の低い部分にあたるB 8南西側からC 8にかけて礫の集中が密でない4442SZの底面で検出されており（図版68）、A～E 8壁面に見られる4442SZの断面の埋土中に本遺構に関連するものと見られる礫が検出された（巻首図版10）。

b) 石列

石列は、水路南側のE 10・11、F 10・11で石の面を揃えた石列が南側に並行して2列検出さ

れ、F 10・11 では間隔を狭める。石列①は面取された石がほぼ水平に検出され、石列②は石列①と平行する幅 2 m の石列として報告されているが、本報告では石列①に類似する縁石状に配したものとのみとし、石敷遺構と分けて捉えた。両石列ともに約 0.3 ～ 0.4m の石を用いており、約 1.5 m の間隔で並行し、南側では大型礫を用いた石敷遺構に達している。

石列①は、E・F 10、F 11 で南北方向に検出され、長さ約 8.5 m、幅約 70cm である。米軍埋設管の敷設 (0017SZ) によって途切れているが、F 10・11 では、前回の調査で検出された並びの下端、E 10 では、その続きが水路に達した状態で検出された。

石列②は、E 10 で石敷遺構に沿うように検出され、長さ約 3.4 m、幅約 0.3 ～ 0.4m である。

c) 水路

水路①は、長さ約 5 m、幅は約 0.3 m、並列する石列をまたぐ礫が検出されたことから、道路下を潜る暗渠と判断され、本遺構の長さは 0008SF の幅を示しているものと考えられる。

水路①は 2 つの縁石状の石列を大型礫が両端で検出され、本遺構の東側端の前面では、これに垂直方向となるように並ぶ 12 本の木杭がやや離れた位置で約 10cm 間隔に検出され、水路②では木杭が 1 本検出されているが、今回の調査では、水路に伴うと考えられる木杭、C・D 11 で南東方向に並ぶ水路②の広がりには検出されていない。

(2) 0019SL

第89図、巻首図版10に示すように、G 9～G 11、F 11 で検出された。前述した 008SF (ピーチロック道) に直交する石列で、東西方向に長さ約 12 m、G 9・10 では幅約 0.4 ～ 0.7m、約 0.1 ～ 0.3m の石灰岩の小礫が用いられ、G 10 の東隅から G 11、F 11 では幅 0.7 ～ 0.9m、約 0.4 ～ 1 m の石灰岩礫が用いられている。

小結

0008SF は石敷遺構、水路 (暗渠)、石列が複合する遺構で、石敷遺構は、東壁 1・2 の堆積でみると SZ が下位で検出されたこと、第87・88図から 1945 年の道路の位置にあり、本遺跡の北西側をナガサ (註1) が流れていたことがわかった。これらを考慮すると 0008SF は川沿いの軟弱な地盤を考慮して設けられた耕作地内を通る道路築造の際の基礎と考えられる。

水路①は、前述した木杭の検出面の土色は灰色を呈し、第88図に示した河川が沖積低地に達したあたりの地目に水田が見られ、本遺跡北側に水車 (方言名: ミジグルマ) が見られる (第88図) ことから、暗渠や間隔を開けて列を成す木杭や水路①・②は水田に関連する利水を目的としたものと考えられる。また、水路①西側に突出した部分から北側に続く礫が見られないこと、水路②を境にした南側と北側は水田に利用されたと推察される。本遺跡南側を流れるナルカー (河川) 周辺の地目にも水田が見られ河川を利用したことがわかる。

石列①・②は、「段差をもつ通路のようなものと思われる」と報告 (範囲確認調査 2008) されており、石の形状や配置から水路と同時期の区画的な機能が考えられ、石敷遺構の大型礫が見られる F 11 で石列①との間隔が狭まっており、水路から南側に平坦な空間が設けられていた可能性があると思われる。同グリッドでは、0008SF に直行する 0019SL が検出されており、同石列も区画的性格を有するものと考えられる。

0019SL の南東側ではグスク期の柱穴群が検出されたが、石を用いた構築物は検出されないことから 0008SF、0019SL は柱穴群より新しい遺構であると考えられる。しかし、範囲確認調査 (2008) の 4 トレンチで 3 基の石囲い炉が検出され、15 ～ 16 世紀の遺構と報告されており 0019SL との関連性については今後検討を要する。

0008SF 出土の沖縄産陶器、瓦、本土産陶磁器等は道路築造の時期を示しているものと考えられ、大正頃までは遡れるものと見られる。また、同遺構下位で検出された 4442SZ に遺物の出土が見られないこと、0008SF 東側で検出された 4409SX に見られる堆積と遺物の出土状況から 4442SZ とこれに連続して検出された 4439SZ は比較的新しいものと考えられる。

0008SF の出土遺物を第58表に示した。これによると近世～現代、グスク期、貝塚時代後期（第4節参照）の遺物等があり、0008SF 築造の際に含まれたものと考えられる。また、同遺構出土土器の中に、第20図に示した縄文時代中期の船元系土器が見られることは、本遺跡の北東側に立地する伊礼原遺跡（2007）では暴浪または津波の痕跡、やや離れた東側の伊礼原E遺跡（2010）で、津波の痕跡が報告されていることから、本遺跡が立地する砂丘はその後に形成されたものと考えられ、貝塚時代前期の遺物が散布して包蔵されていることに起因するものと考えられる。

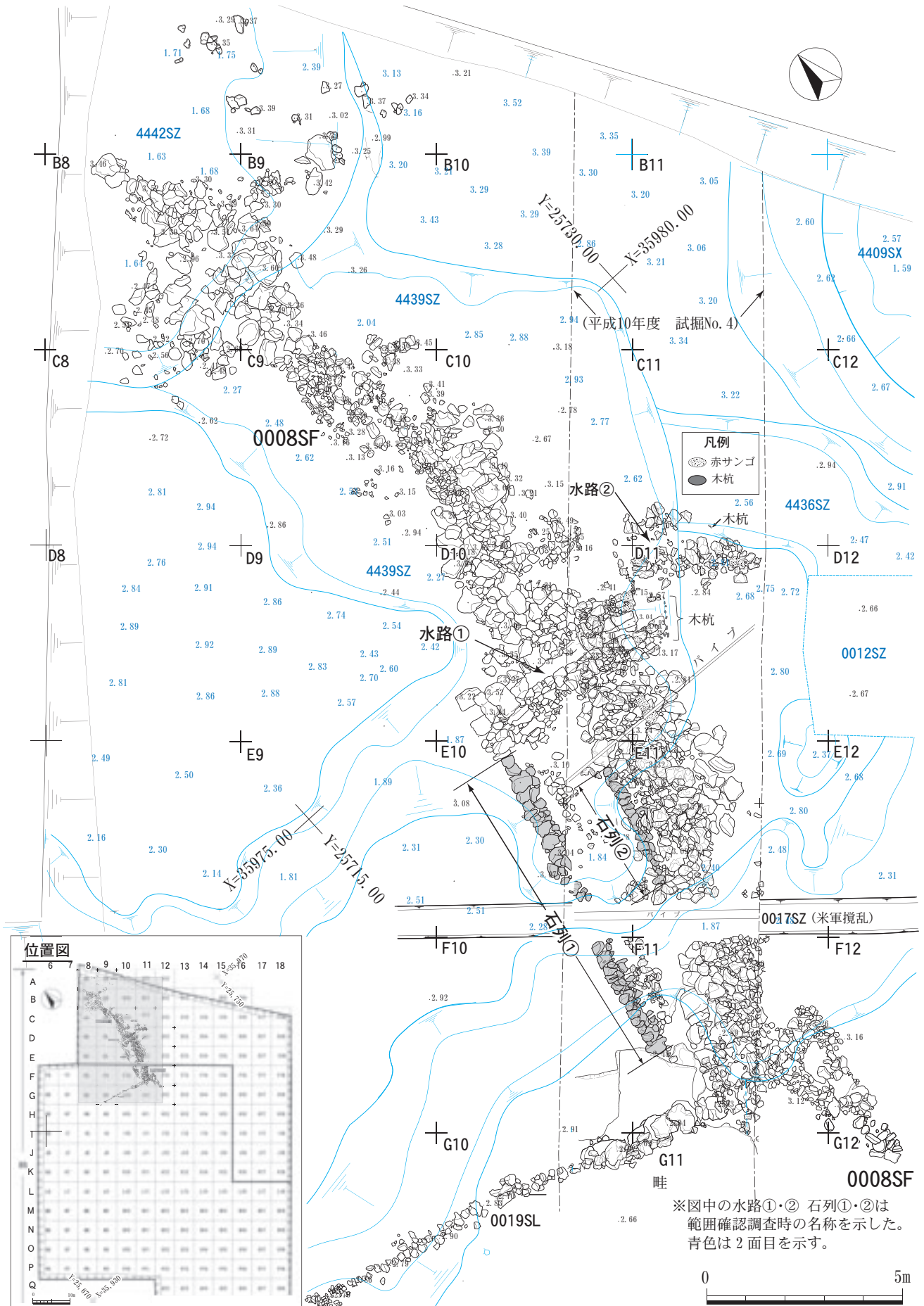
第58表 0008SF 遺物出土量

遺物 層	土器	石器	貝製品	青磁	染付	白磁	褐釉陶器	施釉陶器	沖縄産 無釉陶器	沖縄産 有釉陶器	円盤状製品	本土産陶器	石材	瓦	陶質土器	本土産磁器	焼土	軽石	瓦質土器	銭貨	合計	
Ⅱイ	2		1	1			1	1	1	1	1	1										9
Ⅱロ				11	5	4	17	8	26				1	5	3	2		3	1	1		87
Ⅱハ	203	5	2	16	2	2	20	14	28			2	6	10	12	4	3					329
合計	205	5	3	28	7	6	38	23	55		1	3	7	15	15	6	3	3	1	1		425



第88図 平安山・伊礼の戦前集落（『北谷町の地名』に調査区範囲を加筆）

註1：名嘉順一・東恩納みさき・八田夕香 2006『北谷町の地名－戦前の北谷－』北谷町文化財調査報告書 第24集



第89図 0008SF 平面図



図版67 0008SF 検出状況 (北東より)



図版68 4442SZ と 0008SF の検出状況
(南西より)



図版69 水路①・②検出状況 (東側より)

範囲確認調査 (2008)



図版70 水路① (東側より)



図版71 F10・11 検出状況 (南東より)

範囲確認調査 (2008)

2. 出土遺物

近・現代の遺物は沖縄産（施釉・無釉）陶器、陶質土器、本土産陶磁器、先島系土器、木製品、円盤状製品、瓦、簀、煙管、人形、金属製品、軽石製品が出土した。

出土量の多いのは沖縄産無釉陶器（281点）、沖縄産施釉陶器（162点）、本土産磁器（88点）、陶質土器（83点）などの生活容器である。

その出土地をみるとD～G10、E18、F・G17～18、J18で多く得られた。D～G10は前述の008SF（石列遺構）に関連するもので、それ以外のグリッドは貝塚時代後期土器の出土量の多い場所と重なることから、おそらく砂丘の形成や川跡などの自然地形から推測すると生活地として継続的に良好な場所と思われる。

第59表 近・現代遺物出土量

器種 グリッド	沖縄産 施釉陶器	沖縄産 無釉陶器	陶質土器	本土産陶器	本土産磁器	先島系土器	木製品	円盤状製品	瓦	簀	煙管	人形	金属製品	軽石製品	合計
C12						1									1
C17		1						1							2
C18						1							1		2
D・G10～12	12	21	5	1	2				10						51
D 9			1												1
D10	1	2	1	1	1										6
D11	1	2													3
D14		1													1
D15	1		1			2									4
D16	2	4						1	2						9
D17	2	1			1	2									6
D17・18			1												1
D18	4	6	2	1	1	1			1						16
E・F11	1	4				3									8
E10					1			2							3
E11		8							2						10
E12		2	1												3
E13		2		1			1								4
E15		2													2
E16	8	13	2		2	1			1						27
E17	2	7	4		3				2						18
E18	7	11	8	2	3				5						36
F11	3	9													12
F12	2	6	1						3				1		13
F・G16.17		1													1
F16	3	4	3		3			1	1						15
F17	17	9	10	3	17	1		2	1						60
F18	9	8	7		4	2			2						32
G10					1										1
G11	3	5	2		1				3	1					15
G12	2	8	5	1	2										18
G16	4	3			1										8
G17	11	17	6	1	5	1		1	4						46
G18	12	20	5		6			1	6						50
H16	1	3			1	1					1				7
H17	5	10	2		1				2				1		21
H18	6	11	3		5	4		1							30
I16	1	4			4				1						10
I17	6	10	2		2	4			1					1	26
I18	6	5	1		4	8			2						26
J16・I16					1										1
J16	1	6		1	3	1	1	1	2						16
J17	4	14	1		2	3			2						26
J17.18	1			1											2
J18	10	13	5	1	2	3			2						36
K16	1	3			1				1						6
K17	2	10	2		1	1							1		17
K18	1	9	1	1	2	1					1				16
不明	10	6			1				3						21
試掘			1		1				2			1			5
合計	162	281	83	16	88	38	2	11	61	1	2	1	4	1	751

(1) 沖縄産施釉陶器

今回の調査で総数 162 点が得られた。器種を見ると碗、小碗、皿、鉢、壺、急須、瓶など多種多様な遺物が出土し、詳細は第60表に示した。器種では碗の出土量が最も多く、範囲確認調査(2008)においても同様である。遺物の平面分布状況から、D・G 10～12で検出された近世遺構である0008SFとF・G 17・18を中心とする2箇所遺物のまとまりが見られた。0008SFからはいろいろな種類の遺物が出土しており、沖縄産施釉陶器は碗や小碗、鉢など23点が得られた。詳細は近世遺構の項にて述べる。もう一つのまとまりを見せたF・G17・18は、他の遺物も大半がその周辺で得られることから、遺跡の中心地であったことが窺える。層位的に見るとⅡ層からの出土がほとんどで、Ⅲ層からの出土は僅か8点のみである。

以下、特徴的な資料を第91・92図、図版72・73に図示し、それぞれ器種別に略述する。個々の詳細は第61表の観察一覧に示した。小破片の器種は第60表に出土状況のみを示した。

①碗

碗は口縁部30点、胴部21点、底部21点の計72点が出土したが、全形を窺える資料は得られなかった。口縁部の形状を見ると、僅かに外反するものと直状するものがあり、全体的には前者が多い。底部は高台脇から直線的に立ち上がるものと、丸みを持って立ち上がるものがある。施釉の仕方と合わせて見ると、前者は灰釉碗に見られる形状で、後者はほとんどの碗に見られる。小破片が多く形状での分類が難しいことから、施釉の違いによって記述する。

釉薬の使用には灰釉、鉄釉、透明釉などが見られる。透明釉を使用するものには白化粧を施すものがほとんどである。灰釉碗、鉄釉碗、掛け分け碗、白化粧碗の順で記述する。

灰釉碗は20点が出土し、口縁部1点と底部5点を図示した。白化粧碗に次いで多い。

図1は口縁部で、上部がやや外反する。外面には鉄釉で曲線文の絵付けが施されている。

図2～6は底部で、高台脇に僅かな段を有するものと有しないものがある。ほとんどの資料はフィガキー手法のため、器体下半部と高台は露台となる。形状を見ると、図2は高台脇からの立ち上がりが直線的だが、他はやや丸い。図2の内面見込みと畳付には目砂が付着している。図6の外面には鉄釉などによる絵付けが施されている。

鉄釉碗は13点が出土し、4点を図示した。

図7は口縁～底部近くまであり、口縁は直状を呈する。両面とも轆轤痕が顕著である。底部までは施釉しないフィガキー手法を用いている。

図8～10は鉄釉碗の底部で、図8・9は高台脇に段を有する。図8は内面見込みに鉄釉で丸文を絵付けし、図9・10は蛇の目釉剥ぎによる丸文となる。

掛け分け碗は5点の出土で、図11の口縁部1点を図示した。外面は黒釉、内面は鉄釉である。図示は省略したが、他の掛け分けに黒釉・鉄釉と透明釉の組み合わせも見られる。

白化粧を施した後に透明釉をかける碗は32点と最も多く出土した。図12～18の7点を図示した。

図12～15は口縁部で、図12～14は口縁が外反する形状を呈するが、図14は外反が弱い。図12は口唇に鉄釉、図13は外面に印花文が施されている。図16の胴部も外面に印花文が見られる。図15は筒状の碗と思われるもので、口縁は直状となる。やや丸みを持つ形状から蓋の可能性も考えられる。口唇上と内面上端は施釉せず、白化粧のままであり、外面には線彫りの後に呉須と鉛釉で彩色をしている。

図17・18は底部で、どちらもほぼ丸みを持った形状で、内面見込みは両方とも蛇の目釉剥ぎが

見られる。

図 19 の底部は白化粧をせずに直に透明釉を施すもので、釉垂れも見られる。外面には鉄釉による絵付けが見られ、内外面の見込みにも施釉されている。同図は他の遺物と胎土や施釉の仕方などが異なるが、1点のみの出土であり、本項で扱った。

②小碗

推算口径や底径から小碗に分類出来るものを図示した。図示した3点のみの出土である。

図 20 は口縁部で、両面とも鉄釉の後に緑釉を絵付けしている。外面には緑釉の釉垂れが見られ、底面は両面とも無釉で、フィガキー手法によるものと思われる。

図 21 は口縁部で、外面は黒釉、内面は白化粧の後に透明釉と掛け分けている。

図 22 は底部で、両面とも白化粧後に透明釉を施す。内底面には蛇の目釉剥ぎが見られる。

③皿

皿は図 23 に図示した1点のみの出土で、胴部の小破片である。内面の絵付けなどから皿に分類した。白化粧後に透明釉を施し、内面には呉須と飴釉で絵付けが施されている。

④鉢

鉢は10点が得られ、3点を図示した。

図 24 はやや内彎する口縁部で、上部が若干厚く、丸みを呈する。

図 25 は高台を持つ底部で、高台内側に7mm程の刻みが約3mm間隔で施され、その後に打ち割りをを行っている痕跡が見られる。さらに、高台途中に径4mmの孔が穿たれており、貫通している。

図 24 の外面は黒釉、図 25 は鉄釉、内面は白化粧後に透明釉と掛け分けである。

図 26 は底部で、内面は白化粧を塗布するが、施釉は行われず、砂が付着している。外面下部の一部には鉄釉垂れが見られることから、上部には施釉されていたことが窺える。高台からの立ち上がりを見ると、皿の器形にも似ている。

⑤壺

壺は5点が出土し、2点を図示した。

図 27 は底部で、高台から丸みを持って立ち上がる。内面は無釉で、外面は黒釉が施されている。油壺の可能性が考えられる。

図 28 は底部で、高台から一端段を作ってやや丸みを持ちながら立ち上がる。内面は無釉で、外面には幅が6mm前後の鉄釉が施されている。図 26 と胎土や施釉の仕方が類似している。

⑥急須

急須は23点が得られ、特徴的な9点を図示した。

図 29～31 は口縁部で、3点とも口縁が直状し胴部で丸くなる形状である。図 29・30 は外面に線彫りした後に呉須などで彩色し、図 31 は両面とも鉄釉を施している。

図 32・33 は胴部で、口縁部と同じく線彫り後に彩色が施されている。

図 34～37 は底部である。図 35 は底面に煤が見られず、脚部の残存部と思われる箇所があることから、急須に分類した。図 37 は他に比べて脚部が大きく、器厚も厚いことから、香炉の可能性も考えられる。

⑦瓶

瓶は9点が得られ、3点を図示した。

図 38・39 は口縁で、両者とも外反し、両面に鉄釉を施している。図 40 は頸～胴部で、「ハ」字

状に開く。内面は無釉で、外面は鉄釉を施している。

⑧火炉

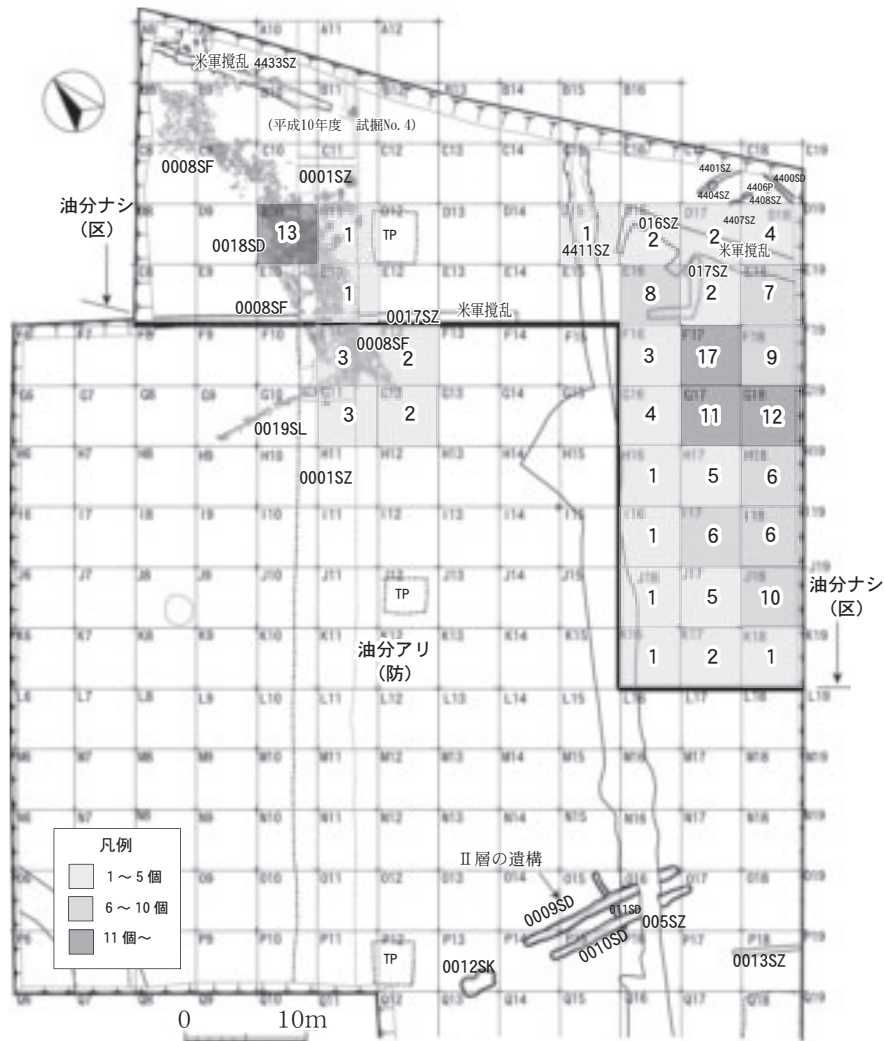
火炉は2点の出土で、図41の口縁部1点を図示した。口唇は無釉で、内面の上部と外面には鉄釉が施されている。

その他、小破片のために図示は割愛したが、酒器や蓋も僅かに出土している。

第60表 沖縄産施釉陶器出土量

層位	碗			小碗		皿		鉢			急須			鍋		壺			火炉			瓶			酒器			蓋			不明	合計	
	口	胴	底	口	底	胴	口	胴	底	口	胴	底	底	口	胴	底	口	胴	底	口	胴	底	口	底	口	底	口	底					
I	1																														1	2	
II	24	18	11	1		1	3	4		2	12	4	3	1	1	1	2	2	5	1	1	1							1	22	2	123	
II (遺構)	4	1	9		1		1		2		2	1			1	1			1		1										25		
III	1	1								1																		1	2	6			
III (遺構)																													2	2			
不明		1	1	1							1																				4		
合計	30	21	21	2	1	1	4	4	2	3	15	5	3	1	2	2	2	2	6	1	2	1	1	1	1	1	1	27	2	162			
器種別計	72			3		1		10			23			3		5			2			9			3			1			30		

II (遺構) : (SZ)0350.(SF)0008
 III (遺構) : (P)0028.(SK)0294



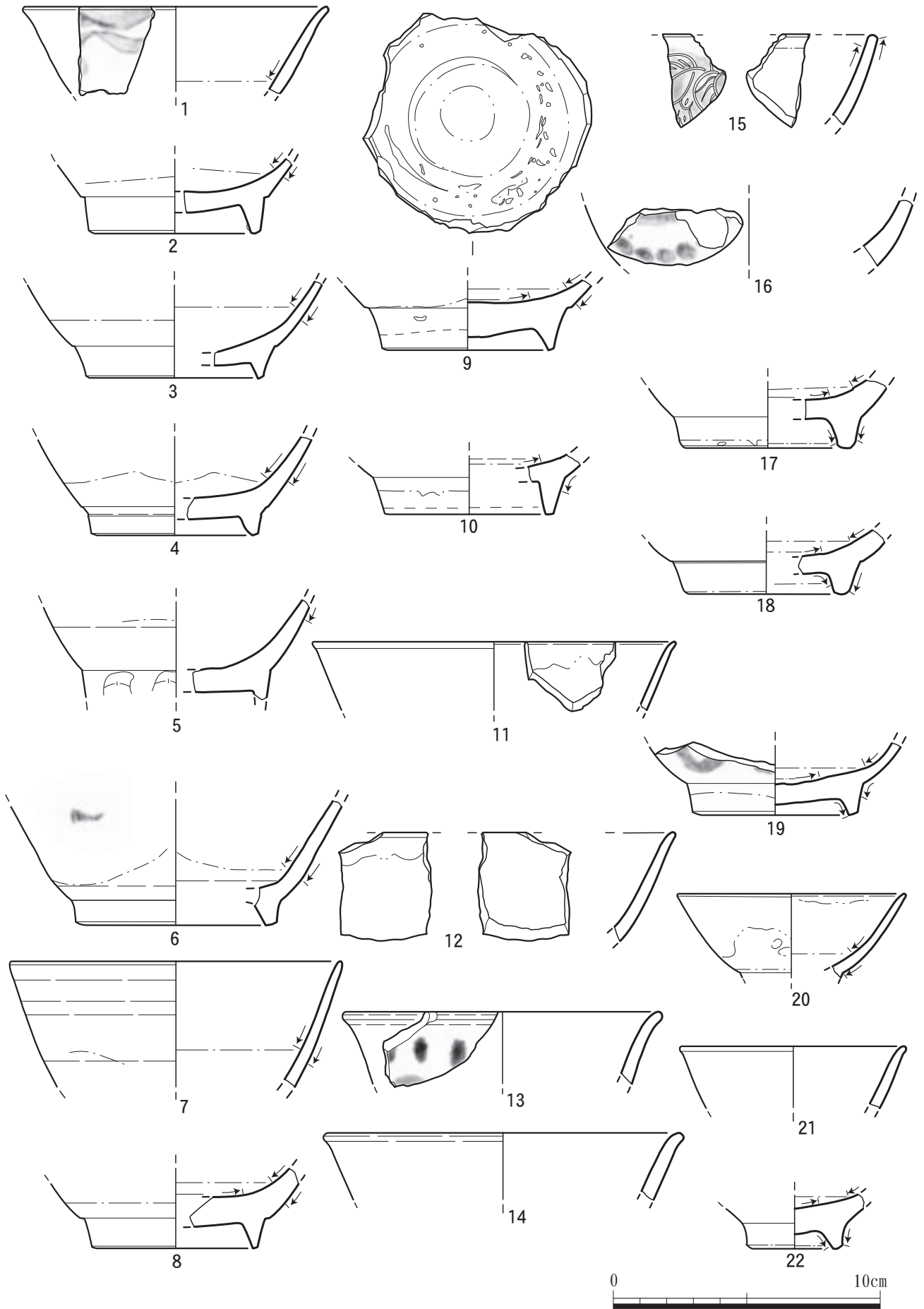
第90図 沖縄産施釉陶器平面分布

第61表－1 沖縄産施釉陶器観察一覧

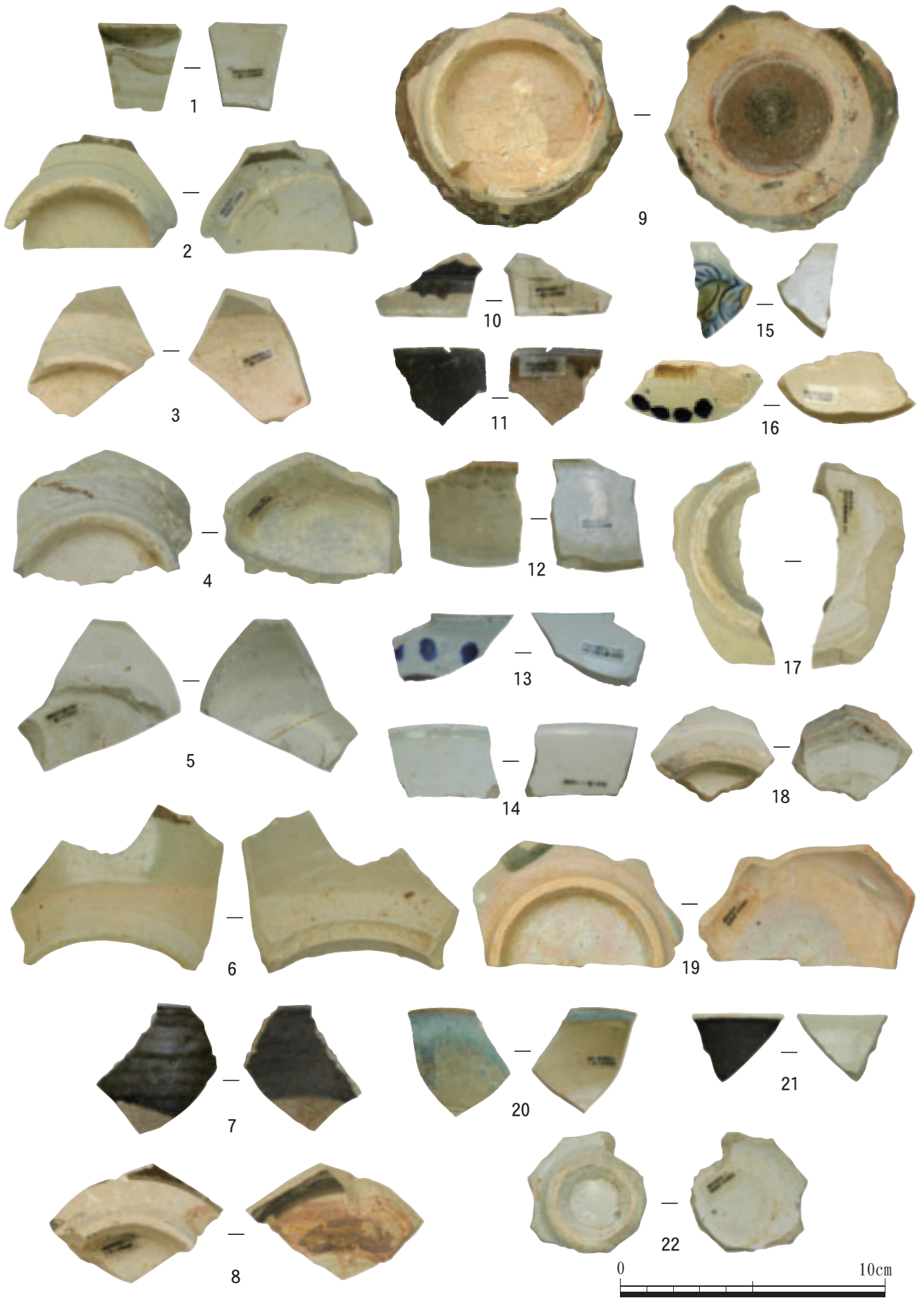
第図 図版	図 番号	器種	部位	分類	口径 (cm) 器高 (cm) 底径 (cm)	観察事項	出土地
第 91 図 ・ 図 版 72	1	碗	口縁部	灰釉	11.4 — —	形状：口縁上部はやや外反、両面：灰釉・外面に鉄絵（口縁部直下に鉄絵）、素地：灰白色、器厚：4mm、重量：7.59g	G16 II層 台 222
	2	碗	底部	灰釉	— — 6.4	形状：高台脇で段を有し直線的に立ち上がる、両面：灰釉、畳付と内底：目砂附着、フィガキー手法、素地：淡灰色、器厚：3mm、底厚：7mm（外底面中央部は膨らむ）、重量：34.18g	D・G10～12 II層 0008SF（ビーチロック道） 台 4534
	3	碗	底部	灰釉	— — 6.6	形状：高台脇で段を有し丸みを持って立ち上がる、両面：灰釉、フィガキー法、素地：淡灰色、器厚：3mm、底厚：4mm、重量 19.92g	D18 II層 台 464
	4	碗	底部	灰釉	— — 6.2	形状：高台脇で段を有し丸みを持って立ち上がる、両面：灰釉、素地：灰色、フィガキー手法、器厚：4mm、底厚：7mm、重量：49.13g	G17 II層 台 409
	5	碗	底部	灰釉	— — 6.8	形状：高台脇から丸みを持って立ち上がる（畳付は破損）、両面：灰釉、フィガキー手法、素地：淡灰色、器厚：3mm、底厚：8mm、重量：34.77g	J18 II層 台 211
	6	碗	底部	灰釉	— — 7.6	形状：高台脇から丸みを持って立ち上がる、両面：灰釉・鉄絵（外面に鉄絵）、フィガキー手法、素地：灰白色、器厚：3mm、重量：42.69g	不明
	7	碗	口縁部	鉄釉	12.6 — —	形状：口縁部は直状、両面：鉄釉・轆轤痕明瞭、フィガキー手法、素地：灰褐色、器厚 3mm、重量：9.30g	D・G10～12 II層 0008SF 東側攪乱 （ビーチロック道） 台 4539
	8	碗	底部	鉄釉	— — 6.8	形状：高台脇で段を有し立ち上がりは丸みを持つ・畳付は平ら、両面：鉄釉（内底に鉄釉で丸文）、素地：黄灰色、器厚：7mm、底厚：10mm、重量：28.04g	D16 II層台 437
	9	碗	底部	鉄釉	— — 6.4	形状：高台脇で段を有し立ち上がりはやや直線的・畳付は平ら、内外面：鉄釉（内底は蛇の目釉剥ぎ）、素地：黄灰色、器厚：3mm、底厚：11mm（外底は膨らむ）、高台・内底に白色土有り、重量：104.75g	D・G10～12 II層 0008SF（ビーチロック道） 台 4534
	10	碗	底部	鉄釉	— — 6.4	畳付は平ら（目砂附着）、両面：鉄釉（内底は蛇の目釉剥ぎ）、素地：淡黄灰色、器厚：6mm（底部近く）、底厚：6 mm、重量：8.38g	I17 II層 台 206
	11	碗	口縁部	掛け分け	13.6 — —	形状：口縁上部はやや外反、外面：黒釉・内面：鉄釉、素地：淡灰色、器厚：3mm、重量：4.34g	I17 II層 台 206
	12	碗	口縁部	白化粧	— — —	形状：口縁上部はやや外反・胴下部やや丸み、素地：淡灰色、両面：白化粧の後に透明釉（口唇部は鉄釉）、器厚：4mm、重量：12.56g	D・G10～12 II層 0008SF（ビーチロック道） 台 4534
	13	碗	口縁部	白化粧	12.0 — —	形状：口縁上部は外反、素地：淡灰色、両面：白化粧の後に透明釉（外面に呉須と飴釉で印花文）、器厚：4mm、7.97g	E・F11 I層 0001SZ 台 16
	14	碗	口縁部	白化粧	13.6 — —	形状：口縁上部は外反、両面：白化粧の後に透明釉、素地：灰白色、器厚：5mm、重量：8.68g	不明 II層 台 8
	15	口縁部	胴部	白化粧	— — —	形状：口縁部は直状（筒形碗または蓋の可能性）、素地：淡灰色、両面：白化粧の後に透明釉（外面に草葉文の線彫り後に呉須と飴釉で彩色）、器厚：4mm、重量：3.98g	F17 II層 台 423
	16	碗	胴部	白化粧	— — —	形状：胴部片で丸みを持つ、両面：白化粧の後に透明釉（外面に呉須と飴釉で印花文）、素地：黄白色、器厚：5mm（下部は 8mm と厚手）、重量：10.34g	K16 II層 台 293
	17	碗	底部	白化粧	— — 6.2	両面：白化粧の後に透明釉、内底：蛇の目釉剥ぎ、素地：黄灰白色、器厚：8mm（底部近く）、底厚：7mm、重量：35.62g	D・G10～12 II層 0008SF 東側攪乱 （ビーチロック道） 台 4539
	18	碗	底部	白化粧	— — 6.4	両面：白化粧の後に透明釉、内底：蛇の目釉剥ぎ、素地：黄灰白色、器厚：7 mm、底厚：7 mm、重量：17.91g	G12 II層 0008SF 台 105
	19	碗	底部	透明釉 （白化粧無）	— — 6.2	形状：底部から丸みを持って立ち上がる、両面：白化粧無しの透明釉（薄い）、外面：鉄釉で文様、内底：丸文（薄い透明釉）、素地：淡橙色、器厚：3mm、底厚：6 mm、重量：43.73g	D・G10～12 II層 0008SF（ビーチロック道） 台 4534
	20	小碗	口縁部	掛け分け	8.6 — —	形状：口縁部がやや外反・胴下部がやや膨らみを持つ、両面：鉄釉・口縁部に緑釉、素地：淡灰白色、器厚：3 mm、重量：6.59g	G18 II層 台 387

第61表－2 沖縄産施釉陶器観察一覧

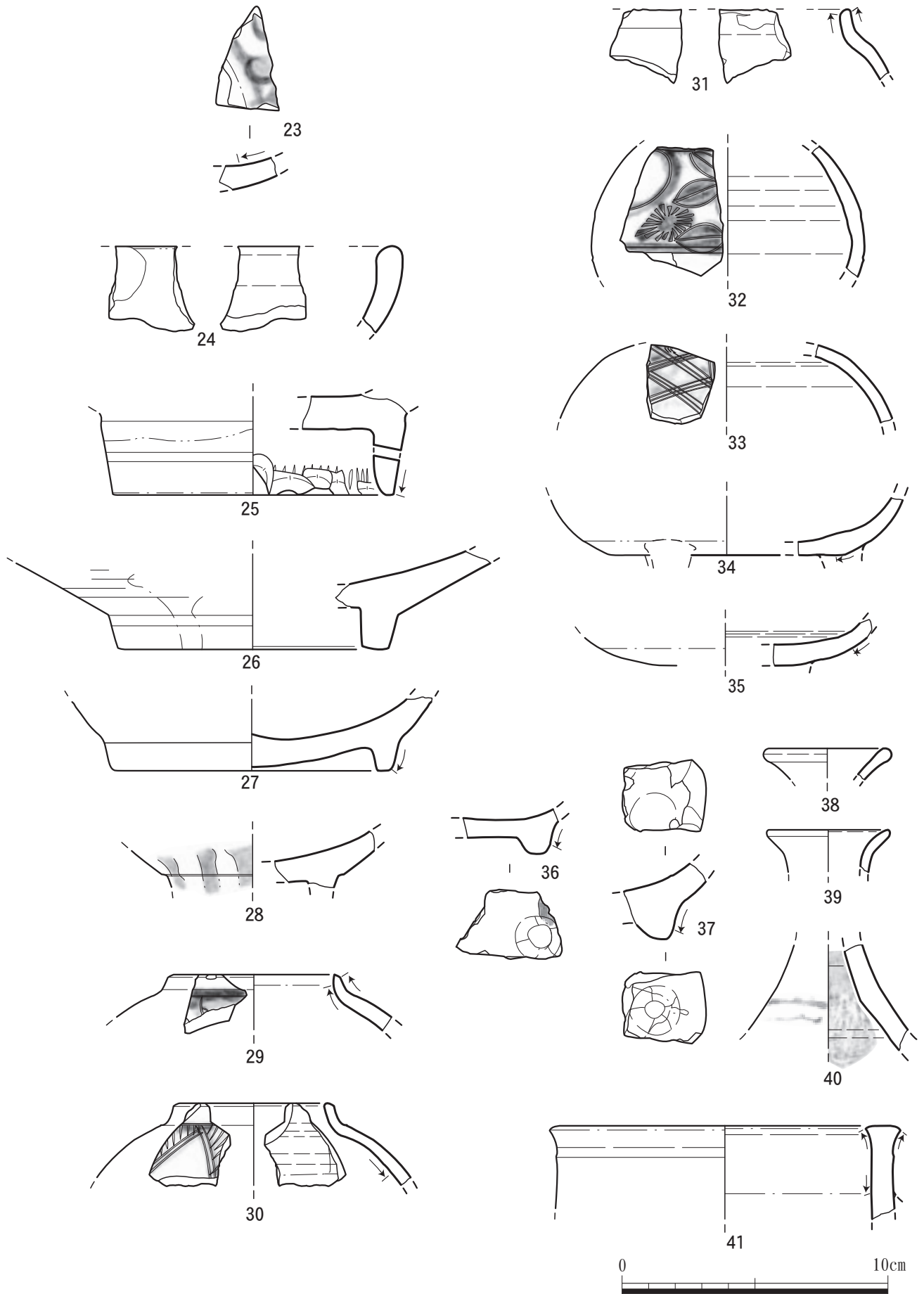
第図 図版	図 番号	器種	部位	分類	口径 (cm) 器高 (cm) 底径 (cm)	観察事項	出土地
第 91 図 ・ 図 版 72	21	小碗	口縁部	掛け分け	8.2 — —	形状：口縁部やや外反、外面：黒釉・内面：白化粧の後に透明釉、素地：淡灰色、器厚：3 mm、重量：3.84g	不明 排土 台 5106
	22	小碗	底部	白化粧	— — 3.6	内底：蛇の目釉剥ぎ、両面：白化粧の後に透明釉、素地：淡灰色、器厚：不明、底厚：8 mm、重量：32.36g	D・G10～12 II層 0008SF (ビーチロック道) 台 4534
第 92 図 ・ 図 版 73	23	皿	胴部	—	— — —	両面：白化粧の後に透明釉、内面：呉須と鉛釉で文様・蛇の目釉剥ぎ、素地：淡黄灰色、器厚：5 mm (底部近くは8 mmと厚手)、重量：6.72g	不明 II層 表採 台 8
	24	鉢	口縁部	—	— — —	形状：口唇部は丸・やや内彎、外面：黒釉・内面：白化粧の後に透明釉、素地：淡灰色、器厚：8 mm、重量：10.21g	F17 II層 台 423
	25	鉢	底部	—	— — 10.6	高台途中に径4 mmの孔有り (貫通・鉄釉塗布)・高台内側に約3mm間隔で刻み有り (長さ7 mm程)、素地：淡黄灰色、外面：鉄釉・内面：白化粧の後に透明釉、底厚：10mm、畳付幅：4 mm、重量：87.24g	D・G10～12 II層 0008SF (ビーチロック道) 台 4534
	26	鉢	底部	—	— — 10.2	外面：鉄釉垂れ有り・内面：白色土のみで釉葉は無し・内底に砂付着、素地：赤橙色、器厚：8mm、底厚：7 mm、畳付幅：10mm、重量：128g	D10 II層 0008SF 台 47
	27	壺	底部	—	— — 10.2	高台から丸みを持って立ち上がる、外面：黒釉 (高台脇まで)、内面：無釉、素地：灰色、底厚：9 mm、畳付幅：7 mm、重量：93.75g	F12 II層 0008SF 台 84
	28	壺	底部	—	— — —	形状：高台脇で段を有し丸みを持って立ち上がる、外面：幅6mm前後の鉄釉を縦に1 cm間隔で施す、素地：淡茶色、器厚：3mm、底厚：7mm、重量：16.64g	F17 II層 台 423
	29	急須	口縁部	—	6.4 — —	両面：白化粧の後に透明釉、外面：線彫り後に呉須で彩色、素地：淡灰色、器厚：5 mm、重量：3.28g	I18 II層 台 234
	30	急須	口縁部	—	6.0 — —	両面：白化粧の後に透明釉、外面：線彫り後に呉須と鉛釉で彩色、素地：淡灰色、器厚：3～5 mm、重量：18.02g	F18 II層 台 417
	31	急須	口縁部	—	— — —	両面：鉄釉 (口唇部は無釉)、素地：茶灰色 (白・黒粒混入)、器厚：3 mm、重量：5.14g	H18 III層 取7 X:35934.290 Y:25739.483 Z:3.335 台 634
	32	急須	胴部	—	— — —	両面：白化粧の後に透明釉、外面：線彫り後に呉須で草花文、器厚：3 mm、最大胴径：10.2cm、重量：13.51g	G16 II層 台 222
	33	急須	胴部	—	— — —	外面：白化粧の後に線彫り・その後、緑釉と透明釉を施釉、内面：無釉、素地：淡灰色、器厚：4 mm、重量：7.18g	F17 II層 台 423
	34	急須	底部	—	— — 8.8	両面：白化粧の後に透明釉 (外底面は施釉無し)、素地：黄灰色、器厚：4 mm、底厚：5 mm、重量：14.81g	D・G10～12 II層 0008SF (ビーチロック道) 台 4534
	35	急須	底部	—	— — 5.4	外面：鉄釉 (底面は無釉)、内面：無釉、素地：淡橙黄色、器厚：5 mm、底厚：8 mm、重量：15.50 g	G18 II層 台 387
	36	急須	底部	—	— — —	両面：白化粧の後に透明釉、外面：緑釉・高さ6mmの脚部有り、素地：淡灰色、底厚：5 mm、重量：8.45g	I18 II層 台 248
	37	急須	底部 (脚)	—	— — —	両面：白化粧の後に透明釉、外底面に脚部・内底中央に円形の白色土 (蛇の目釉剥ぎ?)、素地：淡灰色、器厚：9 mm、底厚：11mm、重量：14.06g、香炉?	F18 II層 台 455
	38	瓶	口縁部	—	4.8 — —	形状：口縁部は玉縁状・外反、両面：鉄釉、素地：灰色、器厚：2 mm、重量：2.71g	J17 II層 台 163
	39	瓶	口縁部	—	4.6 — —	形状：口縁部は外反、両面：鉄釉、素地：淡灰色、器厚：3 mm、重量：1.63g	H18 II層 台 331
	40	瓶	頸部	—	— — —	外面：鉄釉・内面：無釉、素地：淡灰色、器厚：7 mm、頸部の径：3.2cm、重量：18.23g	J18 II層 台 212
	41	火炉	口縁部	—	11.0 — —	両面：鉄釉 (内面は口唇より2.5cm以下のみ施釉) 素地：淡黄白色、器厚：8 mm、重量：18.02g	F17 II層 台 423



第91図 沖縄産施釉陶器 1



図版72 沖縄産施釉陶器 1



第92図 沖縄産施釉陶器 2



図版73 沖縄産施釉陶器 2

(2) 沖縄産無釉陶器

「荒焼」と称される沖縄産の無釉陶器が281点出土した。大型の貯蔵容器である壺や甕、日常雑器である鉢や瓶などの器種が見られたが、施釉陶器に比べると種類は少ない。最も多く得られた器種は壺で、第62表に器種ごとの出土量を示した。層位的にみると、Ⅱ層からの出土が遺構も含めて257点と91%以上の割合を示し、0008SFの遺構からは55点と最も多く出土した。その他、F 17・18やH 17・I 17などでも多くの出土が見られた。また、Ⅲ層の遺構である0313SKから3点、0330 P、0609 P、0613 Pからそれぞれ1点ずつ出土し、H 18の1160SSとF・G 16・17の0656SSからも1点ずつ得られたが、Ⅱ層時の攪乱であろうと考えられる。遺物の詳細は第63表に示し、主な遺物について第94～96図、図版74～76に示した。以下、それぞれ器種別に記述する。

①鉢

鉢は38点が出土し、播鉢や「ミジクブサー」と呼称される水鉢などが見られた。播鉢は27点を得られたが、大半が胴部破片であり、形状のわかる口縁部3点を図1～3に図示した。口縁部が逆「L」字状を呈し底部まで直線的なものと、口縁部直下が「く」字状に屈曲して稜を持つものがある。また、器色や形状などから、古手の喜名焼・知花焼と思われるものもある。

図1は口縁部直下が「く」字状に屈曲するもので、屈曲部の稜は二つ見られる。上部の稜は明瞭で、下部の稜は不明瞭である。口唇部は8mmと幅細で、縁は丸みを呈する。器色は外面が暗褐色、内面は青灰褐色を呈し、カキ目も重複しない。以上のことから、安里氏らの播鉢編年のⅠ式(註)に相当するものと思われる。内面のカキ目は本数が不明である。

図2・3も「く」字状に屈曲する播鉢で、屈曲部の稜は一つである。口唇部の幅は両者とも15mm前後と大きく、安里氏らによる播鉢編年のⅡ式に相当するものと考えられる。前者のカキ目数は9本1組、後者は不明であるが、どちらも図1と同じく重複はしない。前者の外面にはマンガン掛けが施されていて暗褐色を呈する。その他、小破片のために図示は省いたが、口唇部が幅広の逆「L」字状で、Ⅲ式やⅣ式と思われるものも得られている。

図4～7は小振りの鉢である。図4～6の3点は「ミジクブサー」と呼称される水鉢で、口唇部を強調し、胴部が膨らむ形状である。図4・5は両面ともマンガン掛けが施されており、外面には櫛描きによる数本の波状沈線文が見られる。図6の外面には1条の圈線が施されている。図7は口唇部が丸く、やや内彎状の形状になる鉢である。外面にはマンガン掛けが施されている。大きさは上記とほぼ同じである。図8・9は底面からの立ち上がりが外側へ大きく開くことから鉢の底部に分類した。底径を見ると、図8は4.8cm、図9は9.0cmと前者が小さい。図9の内面には釉垂れ(マンガン釉?)が見られる。

②鍋

鍋は、図10に図示した底部1点のみの出土である。外底面には煤が付着し、内面には泥釉が見られる。底面からの立ち上がりはやや丸みを呈する。

③火取

火取も図示した図11の1点の出土である。口縁部から直線的な形状をなし、底部近くで屈曲する。器厚が7mmであるのに対し、口唇は1cmと若干幅広である。外面の胴半分と内面の口縁部上端のみマンガン掛けが施されている。

④火炉

火炉は7点を得られ、4点を図示した。図12・13は口縁部で、両方とも逆「く」字状に屈曲するタイプである。前者は有孔の把手を持ち、孔径は約9mmである。把手の下にも4mm程の小さ

な孔が穿たれており、貫通している。図14は火炉の把手で、上面観は台形状を呈する。把手には10mm程度の孔が穿たれている。図15は底部で、立ち上がり部を削り、ほぼ直状の形状である。

⑤瓶

瓶は6点が得られ、3点を図示した。図16は頸部近くで、「ハ」字状に開き、外面にはマンガン掛けが施されている。図17・18は胴部の破片で、最大径は前者が胴下半部、後者は胴上部にあり、形状の異なる瓶である。

⑥壺

壺は74点が出土し、他の器種に比べてかなり多い。口縁部5点、底部3点、頸部～底部近くまで窺える資料1点を図示した。図19・20は逆「L」字状の口縁部を呈し、頸部はほぼ直に立ち上がる。図20は口縁部の折れ曲がった縁の部分の打ち欠いており、肩部には窯印が施されている。

図23も逆「L」字状の口縁部を呈するものであるが、上記2点と形状が異なり、無頸壺である。口唇に2条の圈線、口縁直下の内側に1条の細い圈線が施されている。同図はカムイヤキにも類似しているが、カムイヤキの特徴であるタタキなどがみられないことから、沖縄産無釉陶器に分類した。

図21・22はいずれも蒲鉾状の口縁部を呈するが、前者は内側、後者は外側に折り曲げて製作するなど、若干の違いが見られる。図24～26は底部で、いずれも内面の轆轤痕は明瞭である。図25は胴下部途中から口縁部に向かって僅かに内彎し、瓶の可能性も考えられる。図26は底径が大きく、器厚も厚いことから甕の底部の可能性もある。図28は口唇部と底面が破損しているが、ほぼ全体的な形状がつかめる。頸部は窄まり、胴部は張る。肩部には7条の圈線が施され、所々に鉄が付着している。

⑦甕

甕は8点の出土で、1点を図示した。図29は直状する口縁部で、頸部から胴部にかけて膨らむタイプである。口唇部は平らで2.2cmと幅広い。

⑧器種不明

器種が断定出来ないものをここで扱った。図27は底部で、低めの高台を持ち、皿状に立ち上がる。内底は轆轤痕が明瞭である。

註：「挿鉢編年からみた近世琉球窯業の展開」安里進他 名護博物館紀要『あじま』・3 1987

第62表 沖縄産無釉陶器出土量

層位	器種 部位	挿鉢			水鉢		鉢			鍋	火取		火炉		瓶	壺			甕			壺 or 甕	器種不明				合計		
		口縁部	胴部	底部	口縁部	底部	口縁部	胴部	底部	底部	口 く 胴	口縁部	底部	把手	胴部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	胴部	口縁部	胴部	底部	耳			
I																	3	1			1	1				2	1		9
II		5	13	1	3	1	1	2	2	1	1	1	1	2	7	38			2	2	15	1	83	2	1	185			
II (遺構)		2	5	1					1				3	1	3	1	16	3	1		2	11		17	4	72			
III								1								1	1						1	2		6			
III (遺構)																	2						1	3		6			
不明														1		1								1		3			
合計		7	18	2	3	1	1	3	3	1	1	4	1	2	6	9	61	4	1	2	5	27	3	108	7	1	281		
器種別計		27			4		7			1	1	7		6	74			8			27	119							

II (遺構) : (SF)0008.(SZ)0160.0350.0586.1120

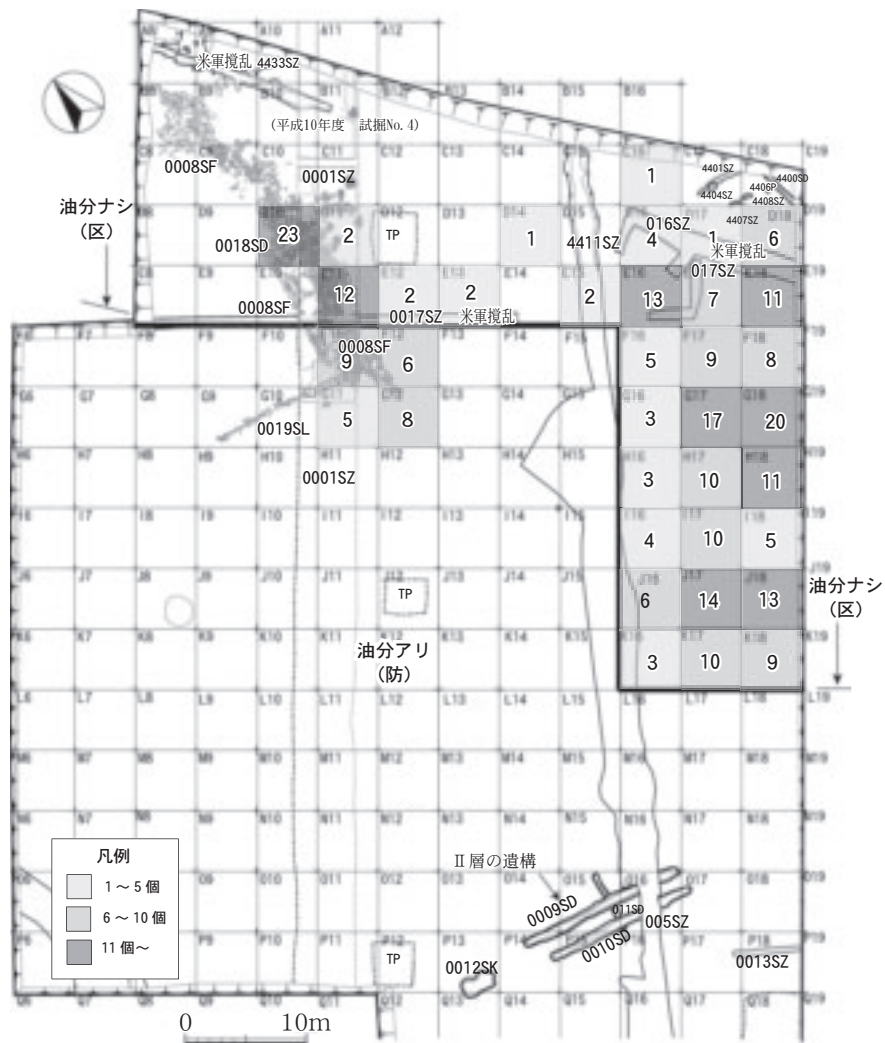
III (遺構) : (SK)0313.(P)0330.0609.0613

第63表－1 沖縄産無釉陶器観察一覧

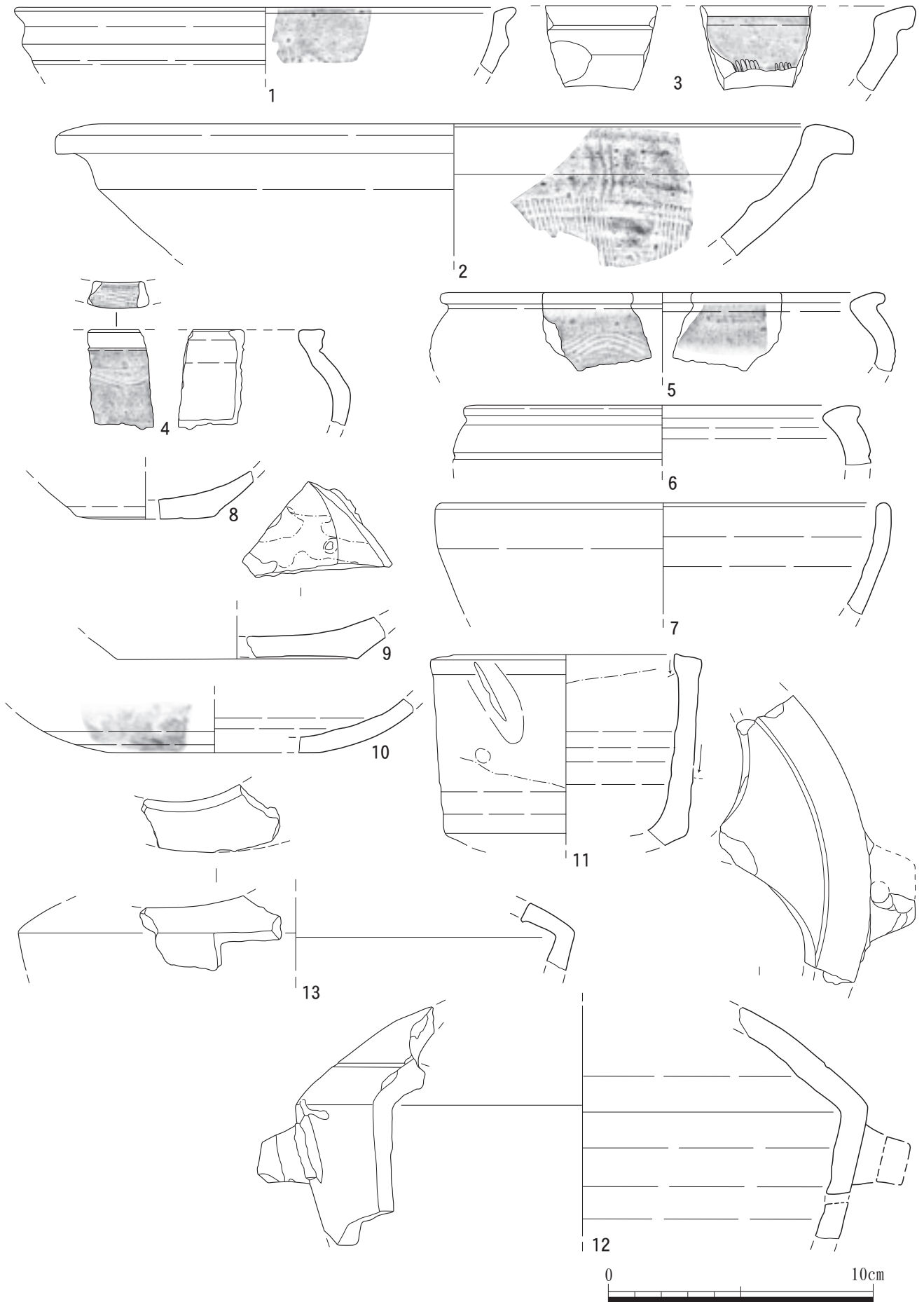
第図 図版	図 番号	器種	部位	口径(cm) 器高(cm) 底径(cm)	観察事項	出土地
第 94 図 ・ 図 版 74	1	播鉢	口縁部	18.6 — —	形状：断面形は逆「L」字状・口唇直下は横ナデにより凸帯・口唇幅は8mm、器色：外面－暗褐色・内面－灰褐色、器厚：6mm、カキ目数：不明（4本は確認出来る）・カキ目間は重複しない、重量：11.49g	F18 Ⅱ層 台 505
	2	播鉢	口縁部	30.2 — —	形状：断面形は逆「L」字状・口唇直下は横ナデにより稜が1条・口唇幅は16mm、器色：外面－暗褐色・内面－茶赤色、器厚：10mm、カキ目数：9本1組、カキ目間は重複しない、重量：87.0g	F11 Ⅱ層 0008SF 台 59
	3	播鉢	口縁部	— — —	形状：逆「L」字状・口唇幅は13mm・口唇直下にシャープな稜が1条、器色：外面－淡暗黄褐色・内面－淡暗黄褐色、器厚：8mm、カキ目数：不明（5本は確認出来る）、カキ目間は重複しない、重量：24.14g	K18 Ⅱ層 台 198
	4	水鉢	口縁部	— — —	形状：内彎・湾曲、口唇肥厚、口唇幅：10mm、文様：外面と口唇に波状の圏線、器色：両面とも暗褐色、器厚：6mm、重量：12.73g	E16 Ⅱ層 台 441
	5	水鉢	口縁部	16.6 — —	形状：内彎・口唇肥厚、口唇幅：13mm、文様：外面に波状の圏線、器色：両面とも暗褐色、器厚：7mm、重量：16.66g	G17 Ⅱ層 台 262
	6	水鉢	口縁部	14.8 — —	形状：内彎・口唇肥厚、口唇幅：14mm、文様：外面に横位の圏線、器色：両面とも暗褐色、器厚：10mm、重量：11.16g	H18 Ⅱ層 台 334
	7	鉢	口縁部	16.6 — —	形状：やや内彎、口唇は丸、器色：両面とも茶褐色（外面はマンガン釉）、器厚：6mm、重量：13.10g	D18 Ⅱ層 台 633
	8	鉢	底部	— — 4.8	形状：底面からの立ち上がりは外側へ開く、器色：外面－赤褐色・内面－灰褐色、底厚：7mm、器厚：5mm、重量：15.35g	K18 Ⅱ層 台 198
	9	鉢	底部	— — 9.0	形状：底面からの立ち上がりは外側へ開く・内面に釉垂れ（マンガン釉？）、器色：灰褐色、底厚：7mm、器厚：8mm、重量：21.11g	I18 Ⅱ層 台 234
	10	鍋	底部	— — 8.0	形状：立ち上がり部は丸みを呈する。外面：無釉、内面：自然釉、外底面に煤が付着、素地：赤褐色、底厚：5mm	F・G16.17 Ⅱ層 (0656SS) 台 1065
	11	火取	口～胴部	10.2 — —	形状：直状・口唇部は平らでやや厚い、外面胴部と内面の口縁部直下にマンガン釉・口唇部は無釉、器色：外面－灰茶褐色・内面－赤褐色、器厚：7～10mm、重量：53.43g	G17 Ⅱ層 台 262
	12	火炉	口縁部	— — —	形状：逆「く」字状屈曲・有孔の把手（孔径約9mm）と器面（孔径約4mm）、文様：口縁上面に幅2mmの圏線が1条、最大胴径：21.7cm（屈曲部）、器色：外面－暗茶褐色。内面－灰褐色、器厚：10mm、重量：177g	F11 Ⅱ層 0008SF 台 74 G12 Ⅱ層 0008SF 台 118
第 95 図 ・ 図 版 75	13	火炉	口縁部	—	形状：逆「く」字状屈曲、最大胴径：21.0cm（屈曲部）、器色：両面－灰茶褐色、器厚：7mm、重量：15.37g	I16 Ⅱ層 0350SZ 台 960
	14	火炉	把手	—	形状：逆「く」字状屈曲・有孔の把手（孔径は約10mm）、最大胴径：屈曲部に有り、器色：外面－暗茶褐色・内面－赤褐色、器厚：7mm、重量：24.27g	G12 Ⅱ層 0008SF 台 105
	15	火炉	底部	— — 9.5	形状：全体形は筒状・立ち上がりは横ナデにより稜を持つ、器色：両面とも暗褐色、底厚：8mm、器厚：6mm、重量：30.53g	F12 Ⅱ層 0008SF 台 70
	16	瓶	胴部（頸）	—	形状：「ハ」字状に開く、器色：外面－暗灰褐色・内面－灰褐色、器厚：5mm、内面：轆轤痕顕著、重量：6.59g	試掘
	17	瓶	胴部	—	形状：胴部はあまり張らない・胴下半部で急に窄まる、最大胴径：6.8cm、器色：外面－暗褐色・内面－暗茶褐色、器厚：6mm、重量：13.93g	H18 Ⅱ層 台 334
	18	瓶	胴部	—	形状：胴部はあまり張らない、最大胴径：12.4cm、器色：外面－暗茶褐色・内面－赤褐色、器厚：5mm、重量：56.06g	D・G10～12 Ⅱ層 0008SF (ビーチロック道) 台 4534
	19	壺	口縁部	14.4 — —	形状：口縁は逆「L」字状・直・胴部は張る・口唇幅は14mm、文様：外面頸部に圏線、器色：両面－暗褐色、器厚：5～7mm、重量：127g	E11 Ⅱ層 0008SF 台 65
20	壺	口縁部	9.6(内径) — —	形状：口縁は直状・胴部は張る・口唇は平ら・「L」字状部分を打割、文様：頸部に窯印・圏線1条有り、器色：外面－暗茶褐色・内面－赤褐色、器厚：9mm、重量：1278g	H18 Ⅱ層 (1160SS) 台 1983	
21	壺	口縁部	13.8 — —	形状：蒲鉾状の口縁（折り曲げ）、器色：両面－橙色、器厚：7mm、重量：15.13g	G18 Ⅲ層 台 596	

第63表－2 沖縄産無釉陶器観察一覧

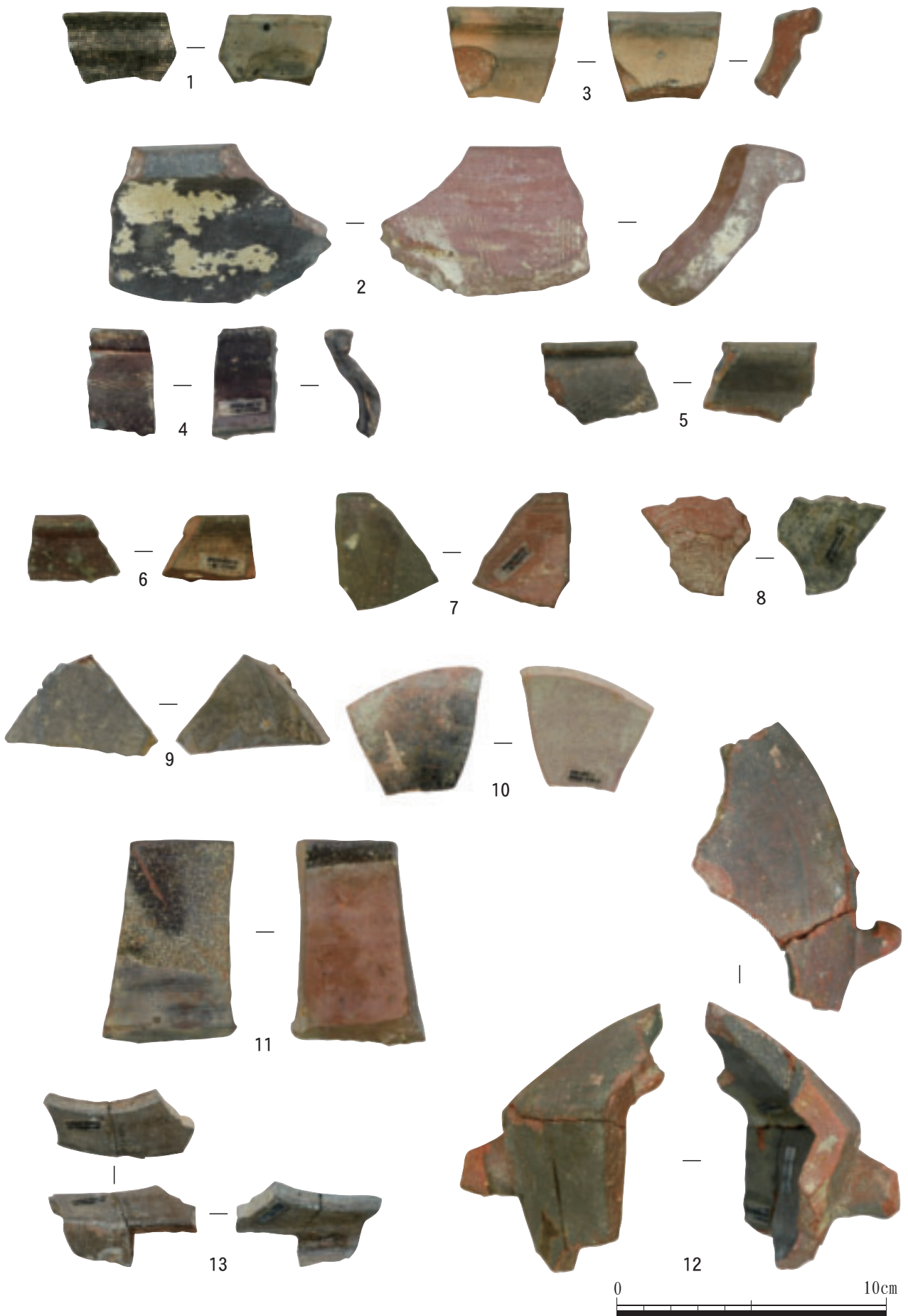
第図 図版	図 番号	器種	部位	口径(cm) 器高(cm) 底径(cm)	観察事項	出土地
第95 図 ・ 図 版 75	22	壺	口縁部	18.8 — —	形状：蒲鉾状の口縁（折り曲げ）、器色：外面－暗褐色・内面－暗茶褐色、器厚：5mm、重量：39.31 g	J18 II層 台 211
	23	壺	口縁部	18.6 — —	形状：逆「L」字状・無頸で外反・口唇幅は13mm、文様：口唇－圏線2条・内－口唇直下に細圏線1条、器色：暗褐色、器厚：8mm、重量：30.20 g	南側 II層 台 51
	24	壺	底部	— — 7.0	形状：立ち上がりはやや外反・若干上げ底、内面：轆轤痕明瞭、器色：外面－橙色・内面－青灰褐色、底厚：14mm、器厚：12mm、重量：165 g	D10 II層 0008SF 台 47
	25	壺	底部	— — 8.6	形状：胴下半部に最大径を有する、器色：外面－暗褐色・内面－暗褐色、内面：轆轤痕明瞭、底厚：12mm、器厚：6mm、重量：282g	D・G10～12 II層 0008S 東側攪乱 (ビーチロック道) 台 4539
	26	壺	底部	— — 16.0	形状：底面から外側へ開く・立ち上がり角は削り、器色：外面－暗茶褐色・内面－赤褐色、底厚：10mm、器厚：14mm、重量：89.57 g	D・G10～12 II層 0008SF (ビーチロック道) 台 4534
	27	不明	底部	— — 9.2	形状：高台有り（4mmと低い・畳付幅は9mm）・底面からの立ち上がりは外側へ開く、内面：轆轤痕明瞭、器色：両面とも暗褐色、器厚：7mm、重量：15.6g	E・F11 I層 0001SZ 台 16
第96 図 ・ 図 版 76	28	壺	頸部～底部近く	— — —	形状：頸部がくびれる・口縁は外反、文様：くびれ部下に圏線、最大胴径：24.7cm、器厚：6～15mm、器色：両面とも黄茶褐色、重量：1742 g	G18 II層 1120SZ 台 1937
	29	甕	口縁部	31.2 — —	形状：口縁部は直状・胴部は張る・口唇は平ら（口唇の幅は22mm）、文様：外面の口縁部に圏線2条と凸帯が1条、器色：外面－黄釉・内面－赤橙褐色、器厚：11～24mm、重量：333g	D16 II層 0350SZ 台 1024



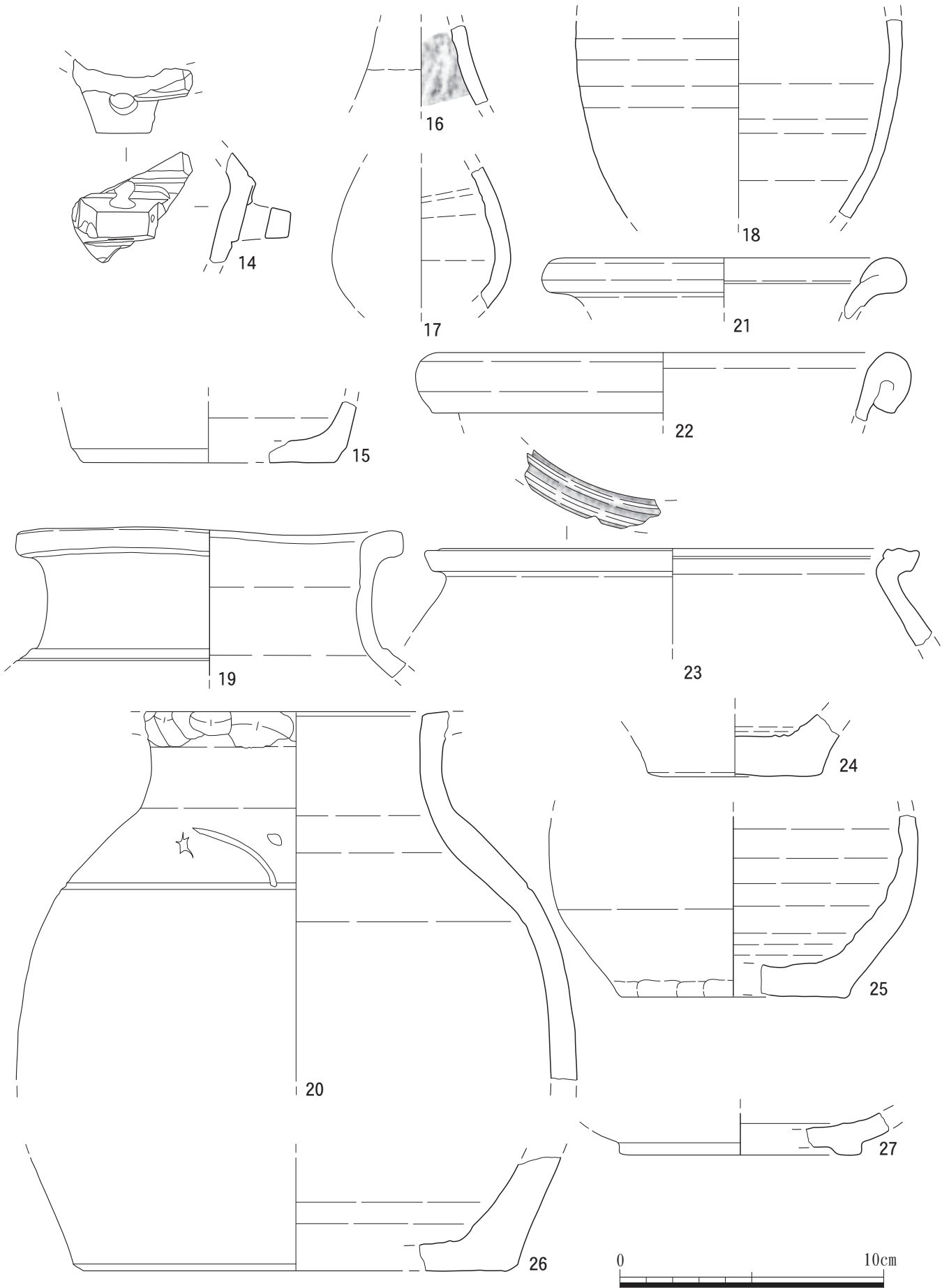
第93図 沖縄産無釉陶器平面分布



第94図 沖縄産無釉陶器 1



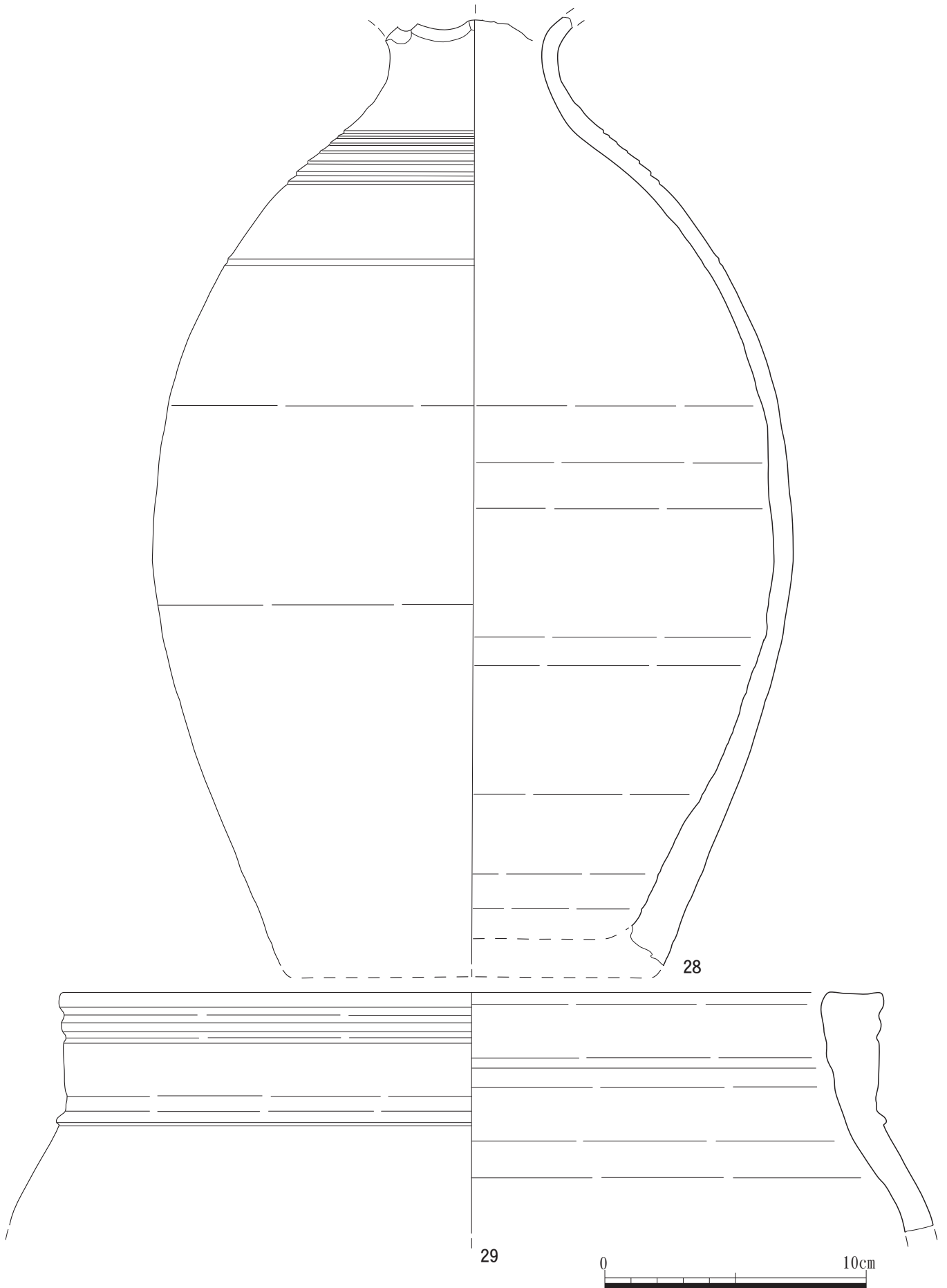
図版74 沖縄産無釉陶器 1



第95図 沖縄産無釉陶器 2



図版75 沖縄産無釉陶器 2



第96図 沖縄産無釉陶器 3



図版76 沖縄産無釉陶器 3

(3) 陶質土器

今回の調査で 83 点の陶質土器が得られた。手に触れると素地の粉末が付着するものが多い。軟質と硬質のものがあり、前者は薄手の鍋や急須などに見られ、後者は火炉など厚手の器種に多く見られた。硬質のものは素地や器色、混和材に雲母類が含まれる特徴などから陶質土器に分類した。第64表に出土状況を示したが、破片が多く、器種不明が多い。器種がわかるものでは鍋や火炉など直接火にかけるものも多く得られた。出土地別に見ると、F 17 で 10 点と最も多く得られ、次いで周辺のグリッドからの出土が多い。層序的にはⅡ層からの出土がほとんどを占め、Ⅲ層からの出土は 4 点である。

遺構出土の遺物は、範囲確認調査（2008）で確認された 0008SF から 15 点が出土し、他に沖縄産陶器や青磁・白磁・染付・石器などが得られている。詳細は遺構の項で述べる。D 17・18 にある 1060SK からは壺の耳が 1 点得られている。

主な遺物について第97図、図版77に示し、それぞれの遺物の詳細を第65表の観察一覧に記した。以下、形状のわかるものについて略述する。

①鍋

鍋は 29 点を得られ、陶質土器の中では最も多い。図 1～3 の 3 点を図示した。

図 1・2 は 薄手の口縁部で、上部は「く」字状に折れ曲がる。両者とも器色は橙色を呈する。図 2 は内面の上部を受け皿状に成形する。

図 3 は底部で、立ち上がり部が丸みを呈する。外底面には煤、内底面には白土が付着する。器色は茶橙色で、全体的に薄手である。

②鉢

鉢は 9 点の出土で、形状のわかる 1 点を図示した。

図 4 は口縁部で、推算口径が 13.9cm を測る。口唇部は丸みを呈し、やや内彎気味である。

③火炉

火炉は 15 点の出土で、鍋に次いで多い。図 5～10 の 6 点を図示した。

図 5 は口縁部で、口唇部は平垣に成形し、内面上部は僅かに膨らむ。左縁部には火窓が僅かに残り、胎土には雲母や赤色粒を含む。

図 6・7 は胴部が逆「く」字状に折れ曲がるもので、口縁部は両者とも破損している。前者は厚手で 2 条の圈線が施されており、内面には煤が付着している。後者は薄く、素地の焼成は軟質である。

図 8 は上面観が台形状の把手で、角は丸みを呈する。有孔で、径 9 mm の孔が穿たれている。素地は硬質で、0008SF 出土である。

図 9・10 は底部で、前者は低い高台を持ち、くびれて立ち上がる。高台底は 2.5cm と幅広である。後者は底径が 12.8cm を測り、直線的に立ち上がる。立ち上がり部は削りが見られる。両者とも厚手で、雲母類を含む。図 10 は 0008SF 出土である。

④壺

壺は図 11 の 1 点のみで、1060SK からの出土である。厚手で、外面には横耳が貼付されている。胴部にかけて張り出すものと思われる。

⑤急須

急須は僅か 1 点の出土で、図 12 に図示した。同図は急須の外耳で、径約 6 mm の孔が上から下へ穿たれている。

⑥蓋

蓋は5点の出土で、図13の1点を図示した。蓋の撮みの部分である。上部に煤が付着していることから、直接火にかけて使用した土瓶の蓋と思われる。

第64表 陶質土器出土量

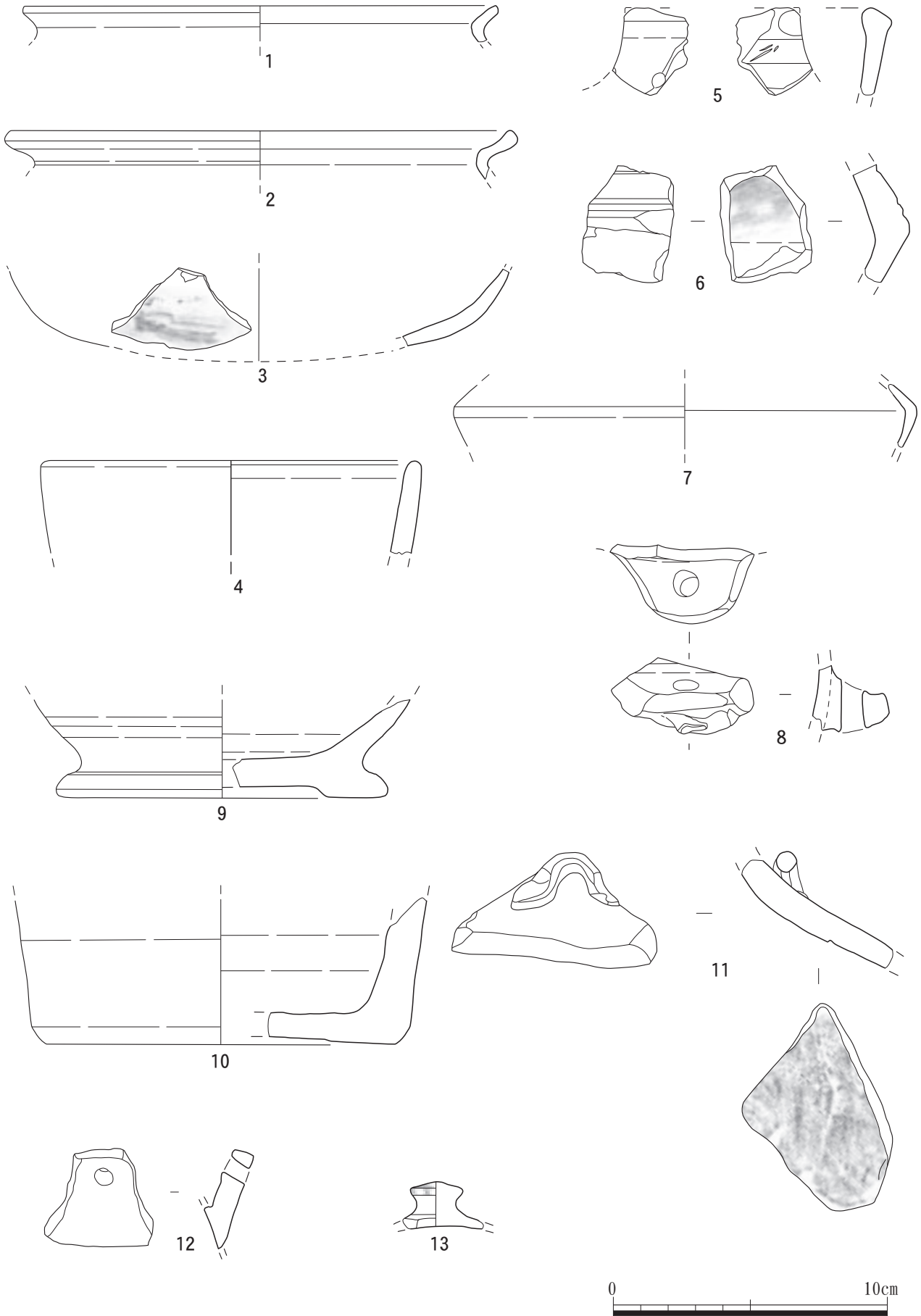
層位	鍋				鉢		火炉				壺	急須	蓋	不明			合計
	口	胴	底	耳	口	胴	口	胴	底	把手	耳	外耳	撮み	口	胴	突	
II	3	12	7	1	1	7	2	8	1	1		1	4	1	13	1	63
II (遺構)	4	1		1		1		1	1	1			1		5		16
III															3		3
III (遺構)											1						1
合計	7	13	7	2	1	8	2	9	2	2	1	1	5	1	21	1	83
器種別計	29				9		15				1	1	5	23			

II (遺構) : (SF)0008.(SZ)0586

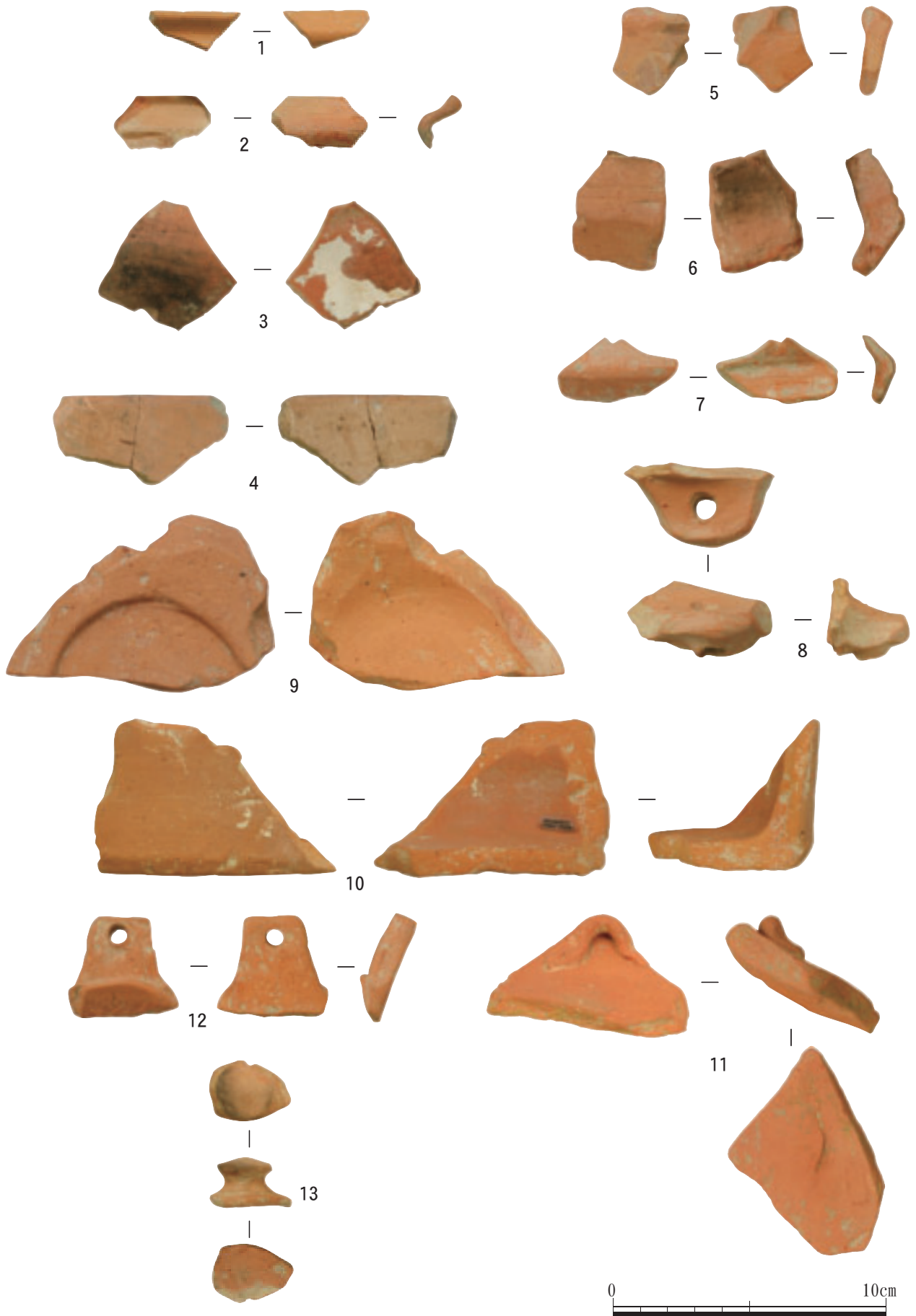
III (遺構) : (SK)1060

第65表 陶質土器観察一覧

第図 図版	図 番号	器種	部位	口径(cm) 器高(cm) 底径(cm)	観察事項	出土地
第 97 図 ・ 図 版 77	1	鍋	口縁部	17.2 — —	形状：口縁上部は「く」字状に折れ曲がる・やや舌状、器色：両面とも橙色、器厚：3mm、重量：2.19 g	F16 II層 台 363
	2	鍋	口縁部	18.1 — —	形状：口縁上部は「く」字状に折れ曲がり、外面口縁は僅かに膨らむ・内面口縁は僅かに内彎（蓋受け）、器色：淡橙色、器厚：3～5mm、重量：3.97 g	G17 II層 台 394
	3	鍋	底部	— — 14.0	形状：立ち上がり部が丸い、外底面：煤付着、内底面：白土付着、器厚：2.5～6mm、底厚：3 mm、重量：10.96 g	F17 II層 台 423
	4	鉢	口縁部	13.9 — —	形状：口唇部は丸・やや内彎・やや厚手・硬質、器色：淡橙色、器厚：7mm、重量：19.39 g	F18 II層 台 417
	5	火炉	口縁部	— — —	形状：口唇部は平ら・内面上部は僅かに肥厚・左縁部に火窓の一部が残る、器色：橙色、器厚：5～10mm、重量：6.08 g	J18 II層 台 211
	6	火炉	胴部	— — —	形状：逆「く」字状に折れ曲がる・厚手・横位の圏線が2条（幅約2mm）、器色：橙茶色、両面とも上部に煤付着、器厚：7～12mm、重量：18.71 g	D・G10～12 II層 0008SF（ビーチロック道） 台 7
	7	火炉	胴部	— — —	形状：逆「く」字状に折れ曲がる・薄手、器色：橙色、胴径：16.9cm、器厚：2～4 mm、重量：4.06 g	G18 II層 台 351
	8	火炉	把手 (有孔)	— — —	上面観は台形状、器厚：4mm、器色：橙色、厚さ：5mm、孔：上から下へ穿つ・孔幅：9mm、重量：21.16 g	D・G10～12 II層 0008SF（ビーチロック道） 台 4534
	9	火炉	底部	— — 12.1	形状：立ち上がり部はくびれる・高台・厚手、両面：轆轤痕明瞭、器色：橙色、器厚：7mm、底厚：10mm、重量：85.36 g	E16 II層 台 526
	10	火炉	底部	— — 12.8	形状：底面から直線的に立ち上がる・角は削り・若干上げ底・厚手、両面：轆轤痕明瞭、器色：茶橙色、器厚：13mm、底径：12.8cm、底厚：9 mm、重量：109.23 g	D10 II層 0008SF 台 96
	11	壺	胴部 (耳付)	— — —	形状：外側に張り出す・横耳貼付（幅約7 mm）・厚手、器色：赤橙色、器厚：8～11mm、重量：48.33 g	D17・18 III層 1060SK 台 1242
	12	急須	外耳 (有孔)	— — —	器厚：3mm、器色：橙色、把手の厚さ：8mm、孔幅：6mm・上から下へ穿つ、重量：13.35 g	J18 II層 台 224
	13	蓋	撮み	— — —	撮み上部に煤付着、撮み幅：19mm、撮み高：16mm、器厚：3mm、重量：6.62 g	E17 II層 台 506



第97図 陶質土器



圖版77 陶質土器

(4) 本土産陶器

本土産陶器は碗4点、皿2点、播鉢7点、瓶1点、壺又は甕1点、器種不明1点の合計16点出土した。皿は唐津焼、播鉢は備前焼が出土した。

特徴的なものを第98図、図版78に示し、第67表に観察一覧、第66表に出土状況を示した。

Ⅱ層からの出土が多く、Ⅲ層からは皿、瓶が出土。Ⅱ層期の遺構は0008SF、Ⅲ層期の遺構0250SKの出土である。

播鉢は、口縁部破片と胴部破片が出土し、口縁形態は縁帯が直口するもので、図3は縁帯下部の鏝状の突出はやや弱い。

図1・2の縁帯外面には沈線が見られ、図2は内面の胴上部に轆轤痕、櫛目は7本1組と見られる。

図1は口唇部内面に凸帯状の轆轤成形が見られ、9本1組の櫛目が胴上部で間隔を開けて施されるもので、範囲確認調査(2008)第44図1と同一個体と思われる。

図5の皿は、内面に象嵌と刷毛目が施された底部である。残存形態や欠損部に摩滅が見られることから円盤状製品の可能性もあるものと思われる。

第66表 本土産陶器出土量

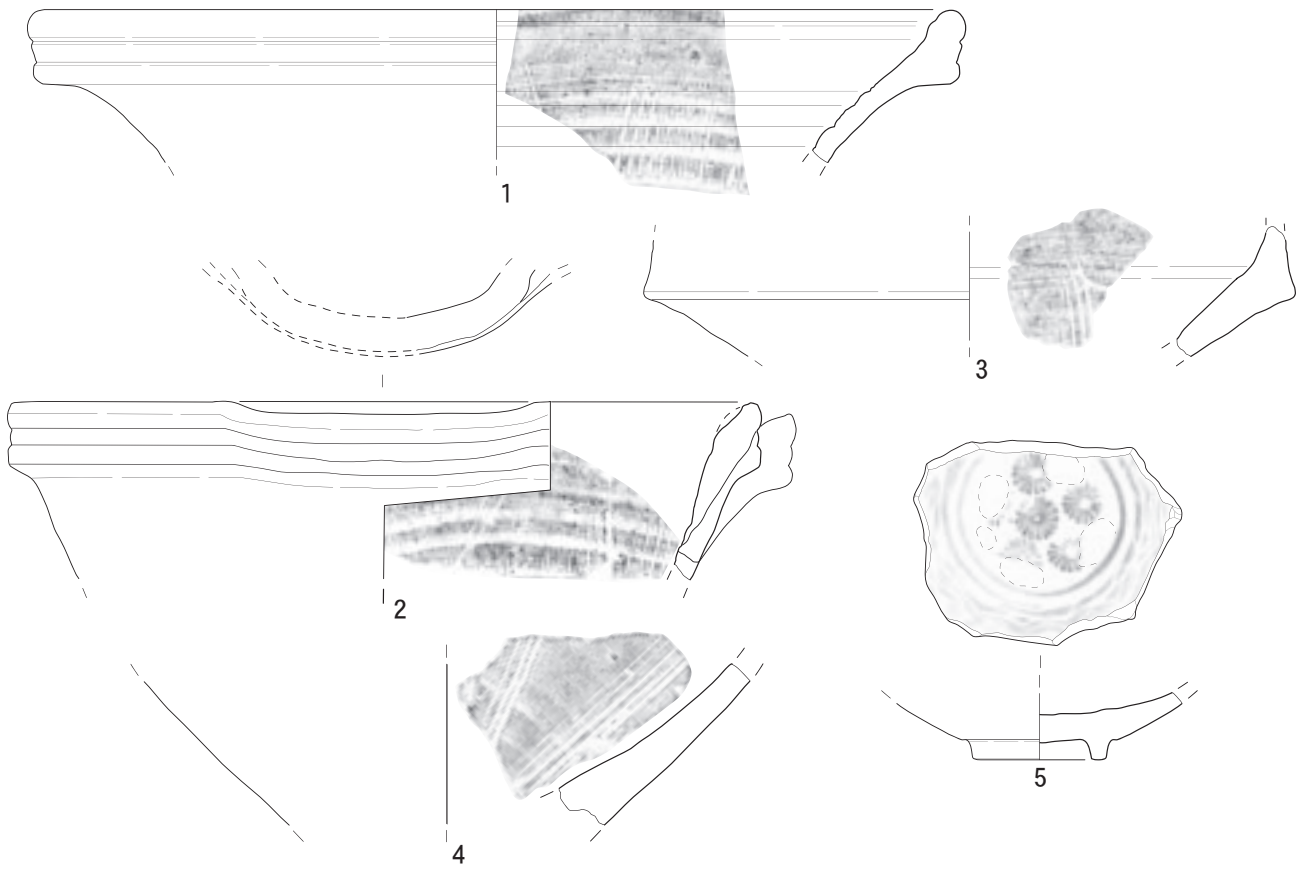
層位	碗			播鉢			皿			瓶	壺 or 甕	不明	合計
	口	胴	底	口	胴	底	口	胴	底	底	胴		
I												1	1
II	1	1	2	1	3				1		1		10
II (遺構)				2	1								3
III									1				1
III (遺構)										1			1
合計	4			7			2			1	1	1	16

II (遺構) : (SF)0008

III (遺構) : (SK)0250

第67表 本土産陶器観察一覧

第図 図版	図 番号	器種	部位	口径(cm) 器高(cm) 底径(cm)	観察事項	出土地
第 98 図 ・ 図 版 78	1	播鉢	口縁部	31.0 — 124.0	縁帯は直口、縁帯の外面に2条の沈線。内面の櫛目は9本、放射状。器色は縁帯部外面は橙色、口唇部から縁帯肥厚部下面までである。外面胴部と内面は灰色。素地は淡灰色、黒・白色粒を含む。器表面に轆轤痕見られる。範囲確認調査(2008)備前すり鉢の図1と同一個体と思われる。	E13 Ⅱ層 台511
	2	播鉢	口縁部	25.0 — 103.5	片口の口縁部破片、縁帯は直口、縁帯の外面は沈線が見られる。厚みのある縁帯は内側に傾斜し口唇部は舌状を呈す。内面の櫛目は7本1組と見られ、全面に施される可能性がある。櫛目上部の位置に轆轤痕。器色は口唇部のみ淡灰色を呈する、橙色。素地は黒・白色粒を含む。器表面に轆轤痕見られる。	D・G10～12 Ⅱ層 0008SF (ビーチロック道) 台4534
	3	播鉢	口縁部	— — 44.71	口縁部破損品、縁帯下部の鏝状肥厚部。鏝の突出はやや弱い。縁帯の内面立上がり部分に横位のヘラ調整痕が廻る。櫛目は4本1組を放射状に施され、内面下部から口縁部にかけて弧状になるものと見られる。器色は縁帯外面は暗灰色、鏝以下は暗茶褐、内面は暗茶褐色。赤色と白色の粒が混入。器表に轆轤痕。	G12 Ⅱ層 0008SF 台105
	4	播鉢	胴部	— — 71.6	底部近く。櫛目上部には6本目が僅かに見られ、放射状。器色は外面が暗灰色、内面は赤茶褐色。断面内部は中央部が濃灰と内外面側は暗茶褐色。器表面に轆轤痕が見られる。	D10 Ⅱ層 0008SF 台47
	5	皿	底部	— 4.4 86.0	唐津焼。内面のみ有文。文様は見込みに6個の菊花文と2条の沈線による圏線は象嵌が施され、圏線外側に刷毛目による波濤文?を施す。菊花文は、中央の1個を囲むように5個を配する。菊花文には4個の目砂痕が重複する。器色は内外面ともに暗灰色。外器面は無釉、高台は削り出し、部分的に欠損。高台の畳付に目砂痕が2箇所見られる。目砂痕は、見込みでは長さ1.3～1.7cm、幅約0.9～1.0cm、畳み付けでは長さ1.6・1.7cm。素地の色調は暗赤褐色、細かい白色粒を混入する。	D18 Ⅲ層 取300 X:35950.781 Y:25751.424 Z:3.647 台4515



第98図・図版78 本土産陶器

(5) 本土産磁器

本土産磁器は碗 26 点、小碗 30 点、皿 18 点、急須 1 点、蓋 2 点、杯 1 点、湯呑 2 点、花生 1 点、器種不明 7 点の合計 88 点出土した。図示を割愛した小破片に伊万里と見られるものが 3 点出土。

本土産磁器のほとんどがⅡ層の出土である。遺構は 0008SF、0019SL、0621P、0318SK、0350SZ の出土である。特徴的なものは第99図、図版79に示し、第69表に観察一覧、第68表に出土状況を示した。

器種別の施文方法は、碗では型紙刷り、手描があり、戦時統制下の濃い緑色釉を施すものもある。小碗ではゴム印があり、トビガンナによるものがクロム青磁にみられる。皿は型紙刷り、銅版転写、ゴム印、手描が見られ、手描とみられるものに赤絵がある。急須はゴム印、蓋は二彩と手描、杯は吹き付けである。湯飲みは手描きと思われ、文様を黒・緑・橙色で施す。

第68表 本土産磁器出土量

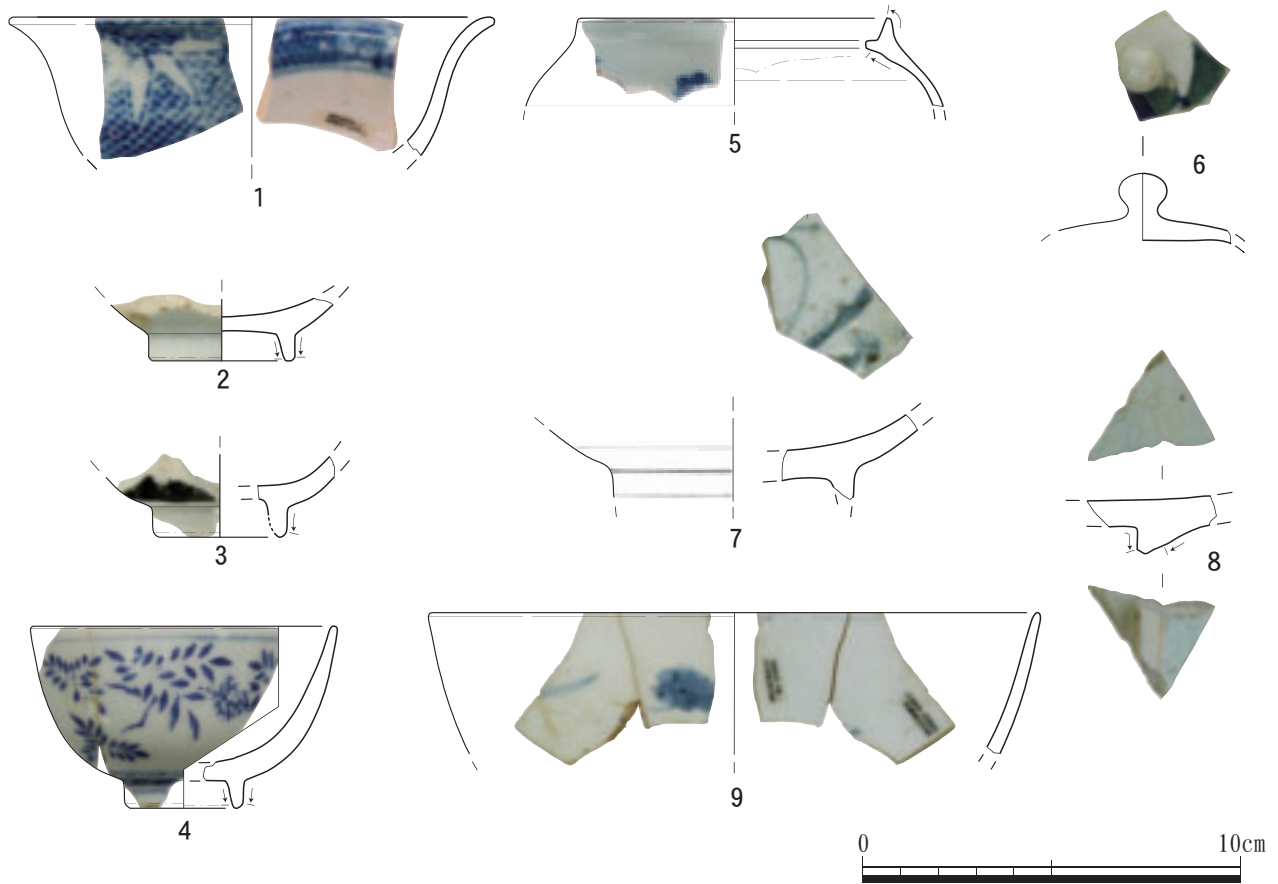
層位	器種	碗			小碗			皿			急須	蓋	杯	湯呑	花生	不明		合計		
		口	胴	底	口 底	口	胴	底	口 底	口	胴	底	口	撮 み	底	胴	口 底		胴	底
I									2					1			1		4	
II		13	7	1	1	11	9	5	1	3	5	5	1			2		3	1	68
II (遺構)		2	2			3	1					1					1	2		14
III (遺構)				1								1								2
合計		15	9	2	1	14	10	5	1	5	5	7	1	2	1	2	1	6	1	88
器種別計		26			30			18			1	2	1	2	1			7		

II (遺構) : (SF)0008.(SZ)0350.(SL)0019

III (遺構) : (P)0621.(SK)0318

第69表 本土産磁器観察一覧

第図 図版	図 番号	器種	口径 (cm) 器高 (cm) 底径 (cm)	観察事項	出土地
第 99 図 版 79	1	碗	12.6 — —	外反口縁、内外面に型紙刷りによる施文が施される。外面は笹文の周囲に点描を配し、内面は口縁下約1cmの幅で点描と花文?を施す。重量:9.74g。	D・G10~12 II層 0008SF (ピーチック道) 台 4534
	2	碗	— — 3.8	底部。文様は見られず、畳付けは露胎。高台の高さは7mm。畳付けは露胎。重量:23.51g。	F17 II層 台 423
	3	小碗	— — 3.5	底部。外面に銅板転写による花文。文様は黒色。高台の高さは8mm。畳付けは露胎。重量:5.68g。	H18 II層 台 334
	4	小碗	8.1 4.9 3.0	直口口縁。外面胴部にゴム印による枝葉と小さな実の文様を施す。高台脇に波濤文。圏線を口唇部下と高台外面に各1条。重量:30.07g。	K16 II層 台 131
	5	急須	8.2 — —	外面胴部にゴム印による草花文。施釉は外面は口唇部から胴部へ施されているが、内面の露胎する部分は、蓋のかかりから胴上部、それ以下は施釉される。重量:6.8g。	F18 II層 台 417
	6	蓋	1.2 (摘み) —	急須の蓋。上面に手描きと見られる文様。二彩(緑・青)が施される。摘みの側面に部分的に緑色が見られる。重量:8.73g。	F16 II層 台 941
	7	碗	— — 6.30	底部。外面は高台脇と胴下部に圏線各1条。見込みに細線と太線による文様、その周りに2条の圏線を施すものと見られる。器厚は胴下部4mm。重量:16.46g。	J17 III層 0318SK 台 1864
	8	皿	— — —	底部。高台外面は胴部と斜めに連続する。畳み付けは高台内側を面取る。見込みに線影による文様を施す。明緑灰色の透明釉が内外器面、高台内に施され、高台の畳み付け周辺は露胎。釉境は薄褐色を呈する。器厚8mm。重量:9.94g。	H18 III層 0621P 台 1904
	9	碗	— — 16.0	直口口縁。外面に葉文?。内面は口唇縁に圏線1条、胴下部に呉須による文様?が見られる。器厚4mm。重量:9.94g。	F17 II層 台 387 G18 II層 台 2072



第99図・図版79 本土産磁器

(6) 先島系土器

外器面の研磨が明瞭で光沢を持ち、白色や赤色の混和材を多量含むもので従来、宮古式土器、パナリ焼と称するものをここにまとめた。

出土総数 38 点、重さ 542.1g と出土数は少なく、H18、I17・18、J17 の南側で他より多く得られている。細片であるが、a～d の 4 種に胎土分類が可能である（第70表）。

第100図に主なものを示した。なお、d タイプは胴部のみのため図化を省いた。

図1は口縁部で、頸部が幅 2.7cm で「く」字状に彎曲するもので、やや肥厚する。器形は登野城遺跡(2011)出土のものと同様であることから大形の壺の可能性が考えられる。器厚は 1.0cm と厚手で、胎土に粗い石灰か貝の白粒を多量混入する。外面は黒色が残りに、煤のあとか加飾が明瞭でない。c タイプに分類される。K18、1075 P の出土。

図2は底部で器厚が 0.6～0.7cm と薄手の底部で、丸底になる。胎土に白色細粒を多量混入、さらに粗い赤粒を含む。外面は研磨され光沢があり、黒褐色を呈する。b タイプに分類される。I18、0498P の出土。

図3は底径 12.8cm の底部で、立ち上がりが緩やかなベタ底である。胎土は白色細粒を多量含むもので、器厚が 0.7cm と薄手で a タイプに属する。I17、0510SK の出土。

第70表 先島系土器胎土分類

分類	器厚	混和材・粒度	器面調整
a	0.7cm 以下	白色（細）	外（磨、黒）
b	0.7cm 以下	白色（細）赤（粗）	外（磨、黒）
c	0.7cm 以上	白色（細～粗）	外（磨）
d	0.8cm 前後	白色（細 or 粗）	外（磨）

第71表 先島系土器出土量

層位	分類	a		b		c		d		合計	
		重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数
Ⅱ		2.5	1	11.0	2	171.4	9	75.2	7	260.1	19
Ⅲ		9.2	1					12.2	2	21.4	3
Ⅲ (遺構)		10.3	1	69.0	3	122.4	4	54.9	7	256.6	15
Ⅳ (遺構)								4.0	1	4.0	1
合計		22.0	3	80.0	5	293.8	13	146.3	17	542.1	38

Ⅲ (遺構) : (P)0330.0478.0498.0514.0570.0617.0851.1075

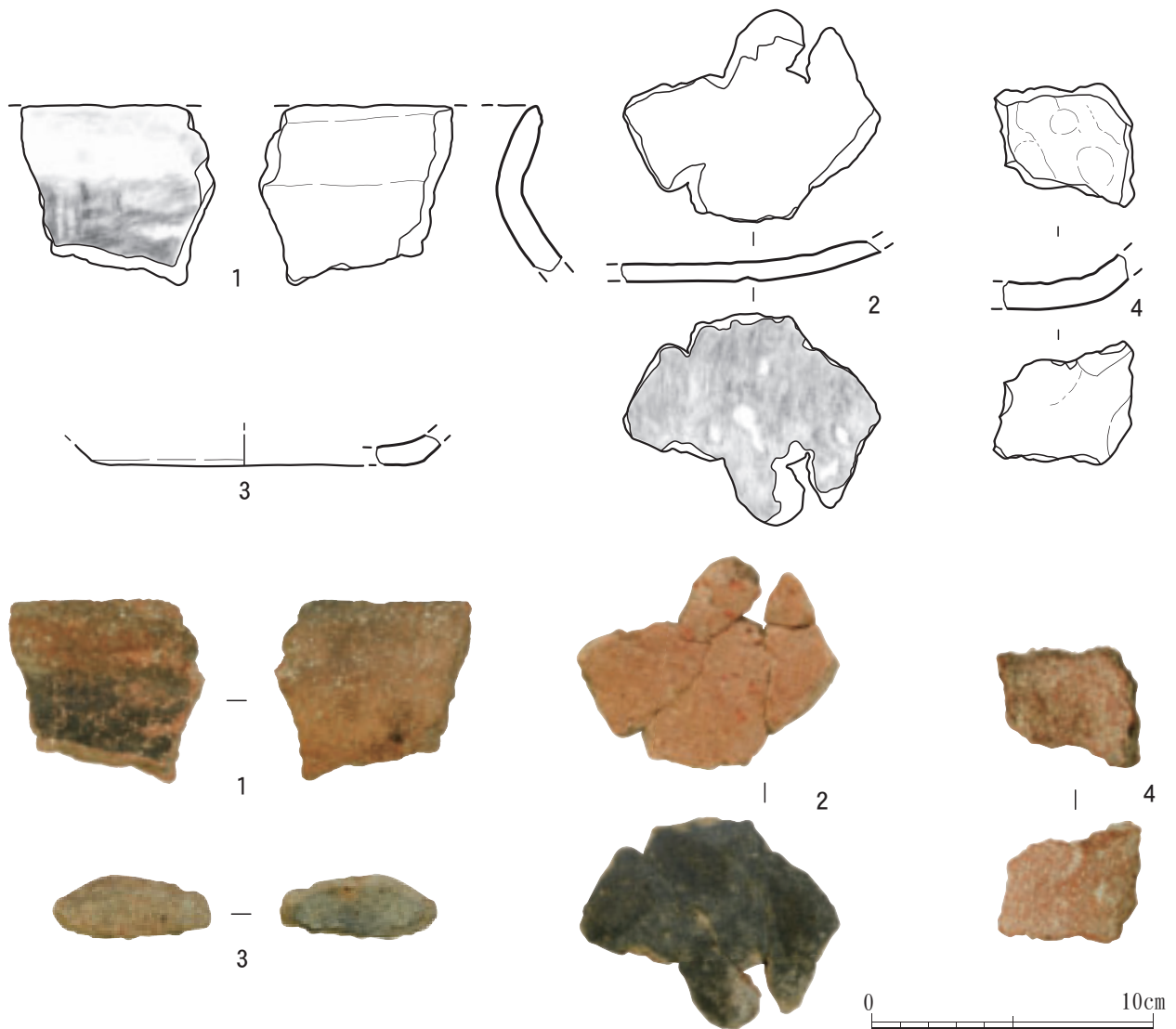
(SK)0144.0510.0548.0699.1082.4427

Ⅳ (遺構) : (SX)4409(1層)

図4は器厚が0.9cm、緩やかに湾曲する丸底である。外面は丁寧に調整され光沢があり、内面は混和材が露出し、器面調整の痕は確認できない。白色粒を含むものでcタイプに属し、焼成良好である。しかし、混和材のほとんどが石英の粗粒で僅かに赤粒を含む。D17 Ⅱ層の出土。出土地及び混和材から先島系土器以外の可能性も考えられるが今回はここに含めておく。

〈参考文献〉

大濱永寛・藤田祐樹 2011 『登野城遺跡』 石垣市文化財報告書 第32集 石垣市教育委員会



第100図・図版80 先島系土器

(7) 木製品

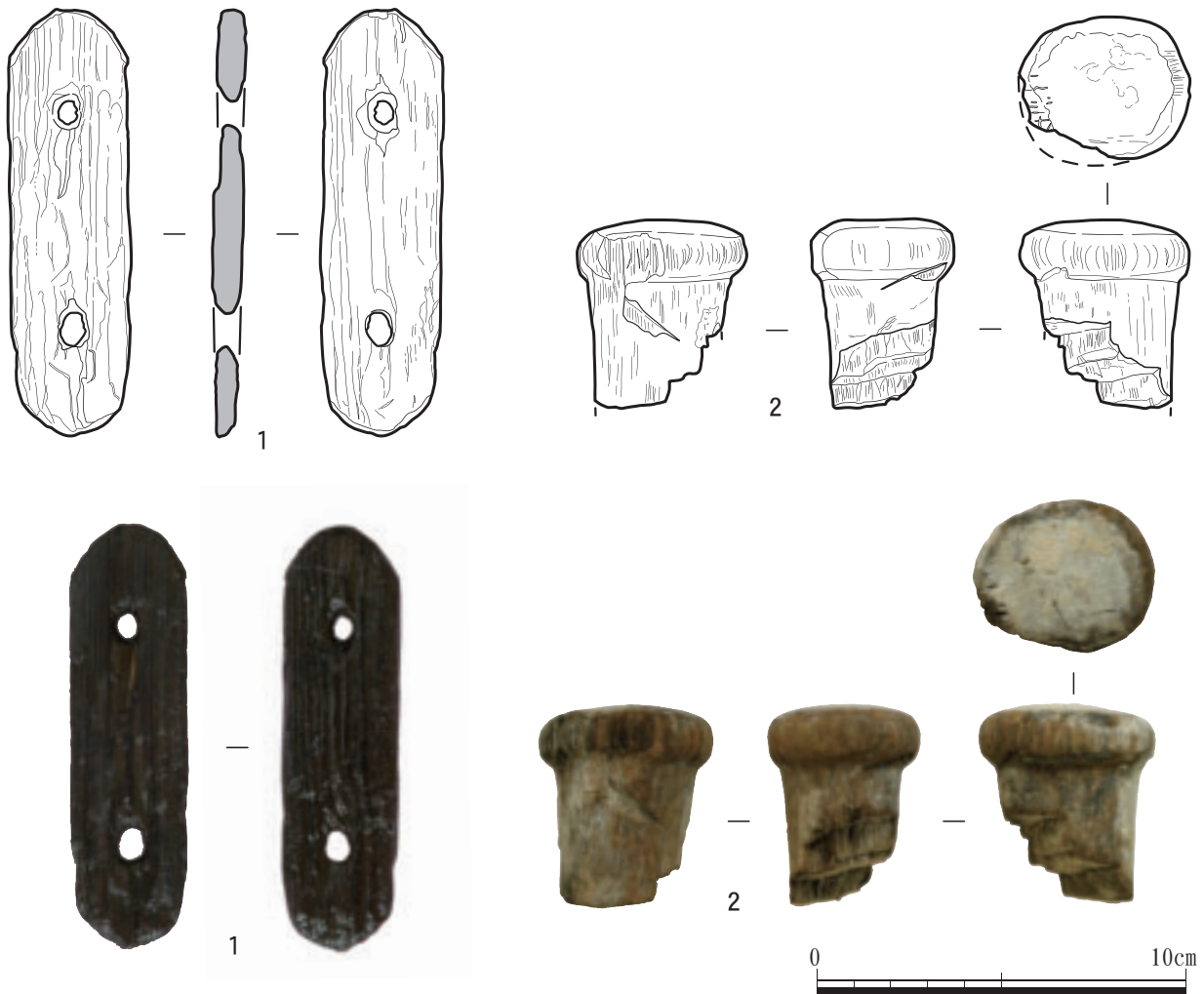
2点得られた。図1は板状、図2は棒状である。

図1は完形品で長さ10.5cm、幅3.2cm、厚さ0.8cmの板状である。4つ角はいずれも丸味を帯び、長楕円を呈し、周縁も丸く削る。内径0.6cmの孔を両側に配する。E 13 0586SZ 攪乱層の出土である。素材は縦位に木目が走り、片側に木目は粗くなる。杉板の類に似る。

図2は頭部が径4.5cm×4.0cm、軸部が径3.8×2.9cmの棒状に加工するものである。残存部の長さは5cmであるが、全形は不明である。J 16 II層の出土である。素材は軽く、縦位に木目が走る。木の種類は小堀原遺跡(2012)出土の木製品に類似する。

他に図2と同じJ 16 II層から木片が出土したが、明瞭な加工は認められない。

また、I 16 II層でやや炭化した杭の破片が出土した。上層の紛れ込みの可能性が高い。



第101図・図版81 木製品

(8) 円盤状製品

本遺跡で出土した円盤状製品は11点である。内訳は完形9点（胴部6点、口～腰部1点、底部2点）破損品2点（胴部1点、底部1点）である。

第72表に示したようにⅡ層から出土した資料は調査区の南側に多くみられる。Ⅱ層は近世層と考えられ円盤状製品は7点の出土、それ以外の遺物は0008SF、0572SK、1101Pからそれぞれ1点ずつの出土である。

個々の資料を観察すると図1は、近世の資料と考えられる本土産磁器で碗の口縁部～腰部を使用している。口縁部を円盤状製品に使うことは稀で、釉薬にクロム青磁を用いている。胴部の外面に「高衛」の文字が呉須で書かれており完形、口径は8cmを呈す。

図2の資料は、沖縄産施釉陶器の胴部の完形である。一部厚みのある箇所がみられ底部に近い腰部と思われる。

図3は、沖縄産無釉陶器の胴部と思われるが、半欠品である。残存資料は正円でなく打割状態も粗く角を多く残す。

図4は、沖縄産無釉陶器の胴部の完形である。形状は略正円のようなが、円になるよう打ち割りをしている。厚みは一定で胴部を使用しているのが判る。

図5も、沖縄産無釉陶器の胴部で完形である。ほぼ正円に近いが、一辺が欠損している。表面からみた打割は細かく打ち割りされており、裏面は若干荒割りの印象がある。

図6は、沖縄産無釉陶器の胴部で完形である。前者3点より厚みが薄く、この資料も正円より若干角を残している。

図7は、沖縄産施釉陶器の底部で完形である。打割の状態は明瞭で、大きく8回で打ち割りされている。内底の見込みには中心部にのみ白化粧が残り周囲をヘラで掻き取った痕跡がみられる。

図8は、沖縄産施釉陶器の底部で完形である。内底の見込みは渦巻き状にヘラで掻き取りをしたのち鉄釉が施されている。打ち割りは高台を残すように打割しているが、2箇所は腰部を残し粗い打ち割りとなっている。裏面の高台部分も2箇所程度破損している。

図9は、青磁の底部で半欠品である。内底の見込みに文様が描かれているが、貫入がみられ明瞭でない。外面は畳み付けまで釉がかけられている。外底は中心部を残し蛇の目釉剥ぎで掻き取られている。

第104図に主な資料9点を示した。図版に示していない資料には、瓦を素材にしたものが2点出土し、1点は表面が破損し、もう1点は長方形を呈すが平瓦、丸瓦の区別が判断不可能なものである。

第72表 円盤状製品出土量

層	素材 種別 部位 完/破	磁器		陶器			瓦	近世磁器	合計	
		青磁		沖縄産施釉陶器		沖縄産無釉陶器		本土産磁器		
		底部		胴部	底部	胴部		胴部		口～腰部
		半欠損		完形		完形	半欠損	完形		完形
I							1	1		
II	1		1	3	1	1		7		
II (遺構)						1		1		
III (遺構)		1	1					2		
合計	1	1	2	3	1	2	1	11		

II (遺構) : (SF)0008

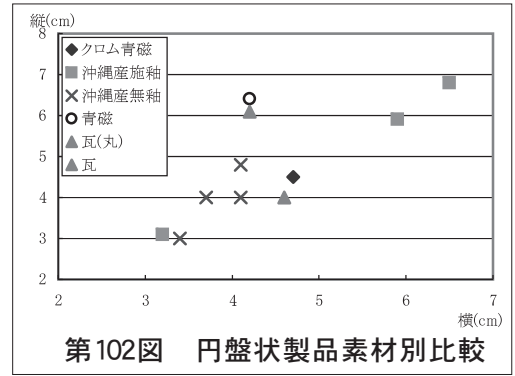
III (遺構) : (SK)0572, (P)1101

第102図に縦、横のサイズを素材、部位別に比較したものを示した。沖縄産施釉陶器をみると胴部に比べ底部の方が高台を利用していることもあり若干大きい傾向にある。底部の出土が少ない為、量的に数があれば、さらに検証可能と考えられる。

本遺跡から出土した円盤状製品は量的に少なく、素材として全体的に沖縄産無釉陶器の胴部が多く用いられていた。

第73表 円盤状製品観察一覧

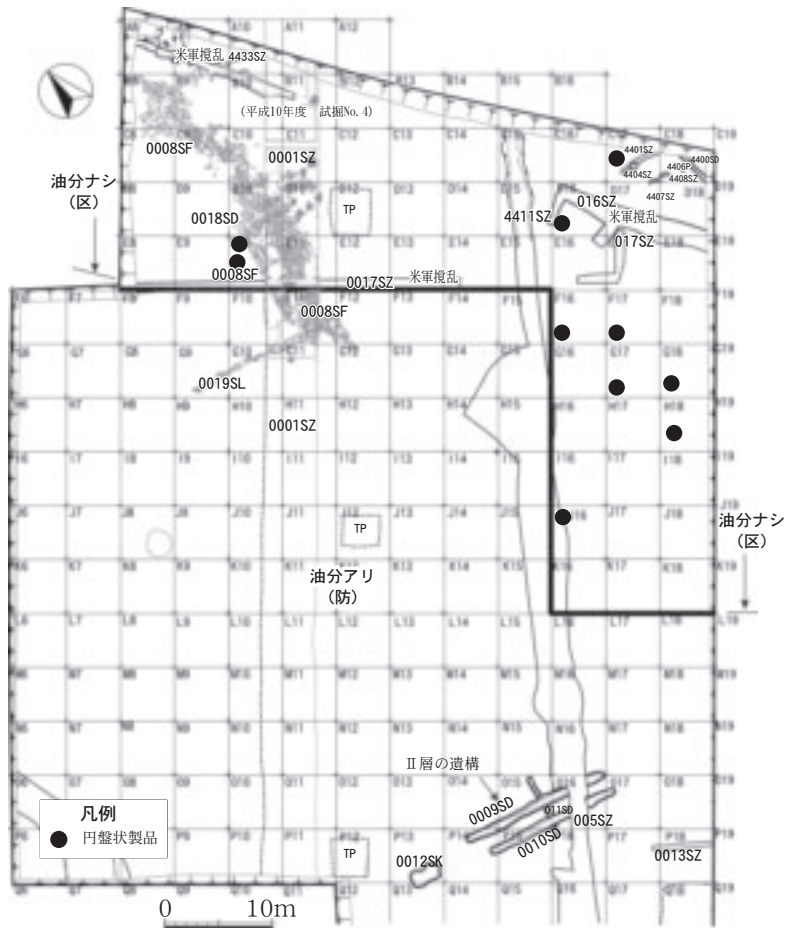
第図 図版	図 番号	素材	部位	完/破	縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	出土地	
第104 図版 82	1	クロム青磁	口～腰部	完形	4.5	4.7	0.2～0.8	—	16.48	E10	I層 0001SZ 台24
	2	沖縄産施釉陶器	胴部	完形	3.1	3.2	0.9	—	7.22	H18	Ⅲ層 0572SK 台1182
	3	沖縄産無釉陶器	胴部	半欠損	4.8	4.1	1.2	—	22.46	F17	Ⅱ層 台423
	4	沖縄産無釉陶器	胴部	完形	4.0	3.7	1.5	—	31.23	G17	Ⅱ層 台394
	5	沖縄産無釉陶器	胴部	完形	4.0	4.1	1.0	—	16.24	F16	Ⅱ層 台363
	6	沖縄産無釉陶器	胴部	完形	3.0	3.4	0.8	—	9.04	C17	Ⅱ層 台4053
	7	沖縄産施釉陶器	底部	完形	5.9	5.9	2.0	5.7	79.32	D16	Ⅱ層 台437
	8	沖縄産施釉陶器	底部	完形	6.8	6.5	2.1	6.0	58.9	J16	Ⅲ層 1101P 台1729
	9	青磁	底部	半欠損	6.4	4.2	1.5	5.9	44.78	F17	Ⅱ層 台423
版図 なし	—	瓦(丸)	胴部	完形	6.1	4.2	1.3	—	40.6	G18	Ⅱ層 台351
版図 なし	—	瓦	胴部	完形	4.0	4.6	1.6	—	24.0	E10	I層 0008SF 台48



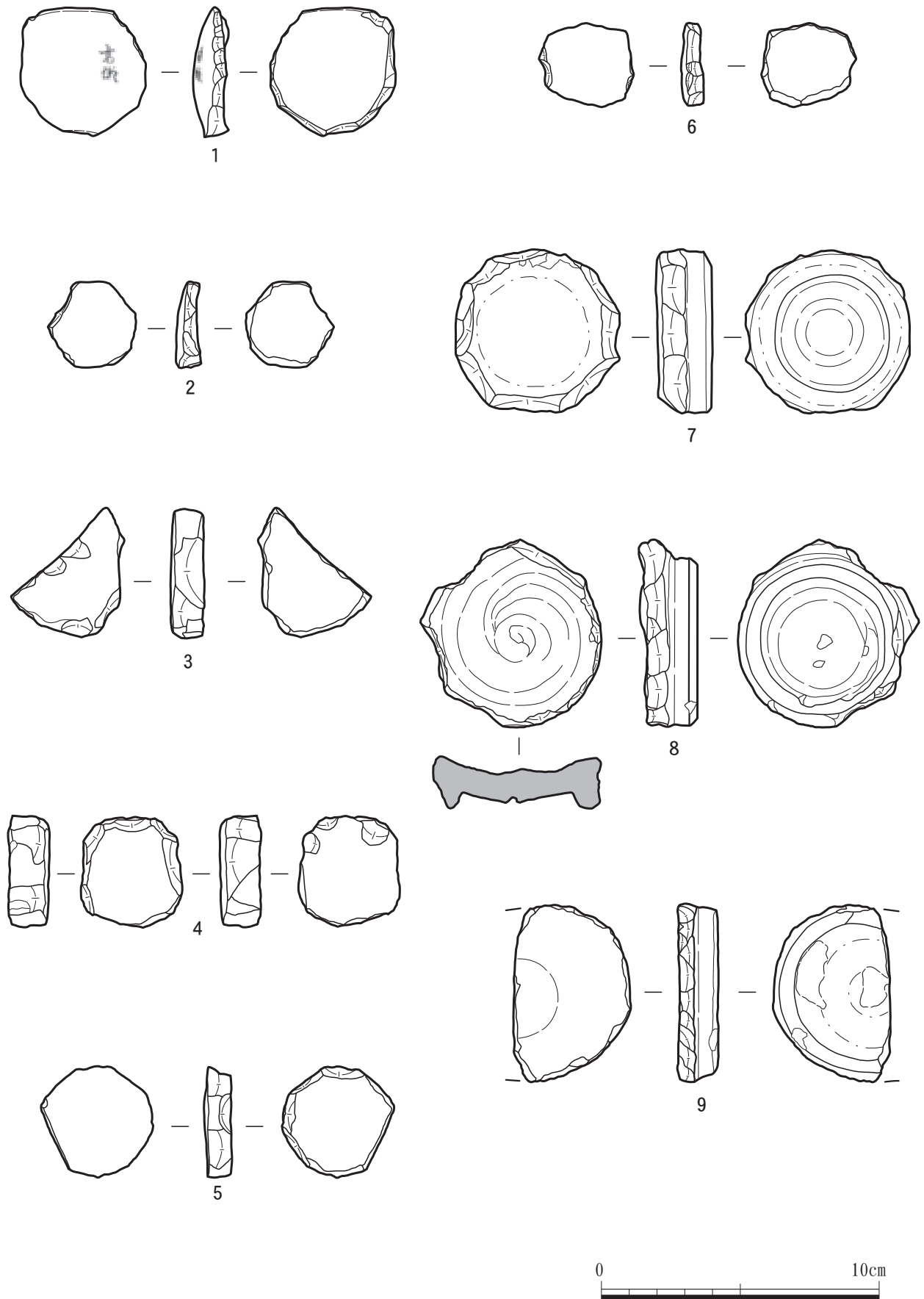
第102図 円盤状製品素材別比較

＜参考文献＞

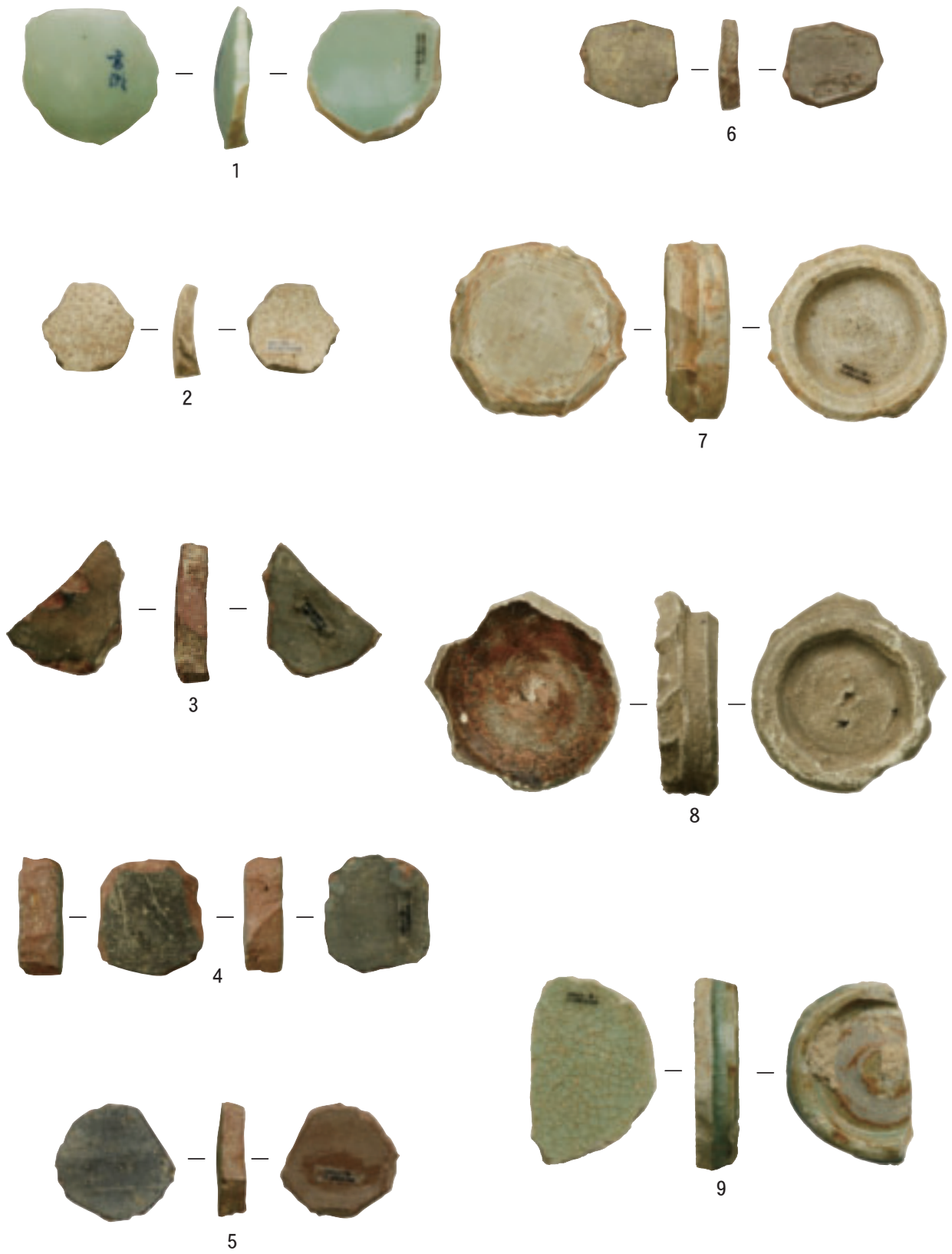
金武正紀・城間千栄子 1994年 那覇市文化財報告書 第26集 「ヒヤジョー毛遺跡」 那覇市教育委員会
 中間留美 1995年 沖縄県文化財報告書 第121集 「湧田古窯跡」(Ⅱ)



第103図 円盤状製品平面分布



第104図 円盤状製品



図版82 円盤状製品

(9) 瓦

瓦は丸瓦7点、平瓦36点、不明破片18点が出土し、いずれもいわゆる赤瓦で、全形の窺える資料は出土していない。第74表に出土状況を示し、以下で略述する。

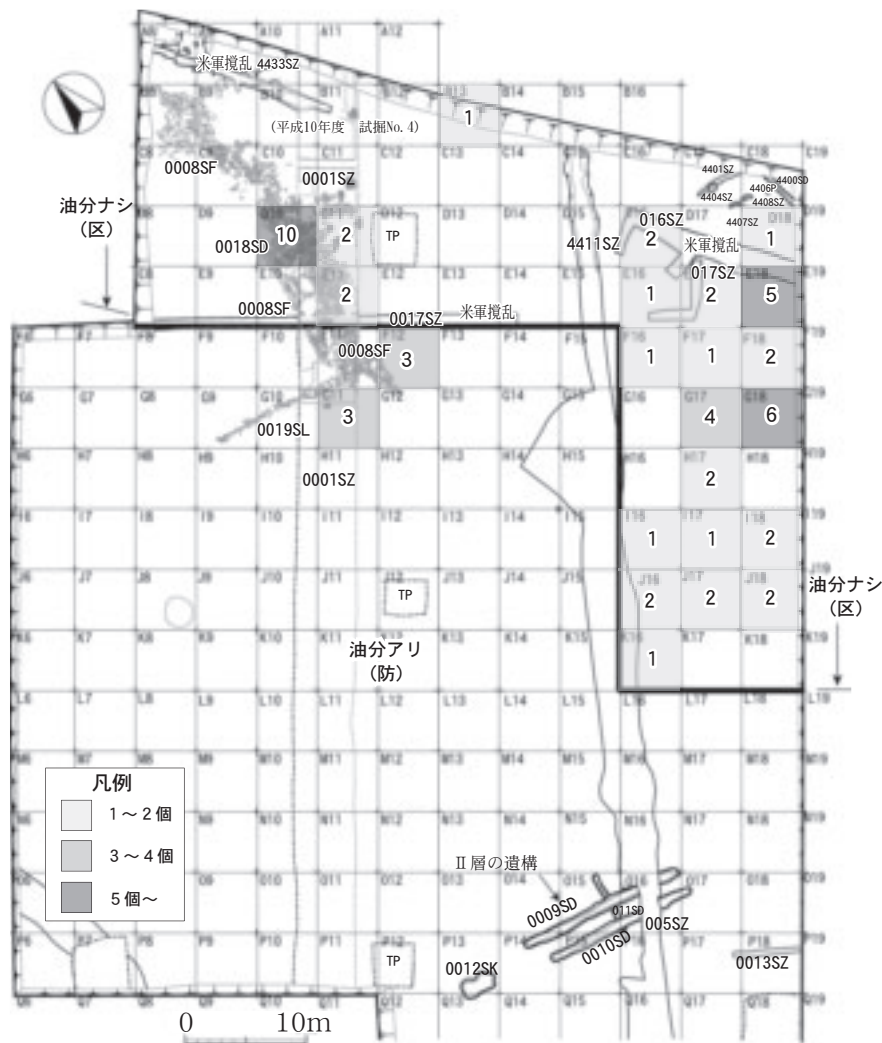
図1は丸瓦の破片である。色調は赤褐色。図2は平瓦で、縁の破片や内面に布目痕と桶板の縫い目糸痕が見られる。色調は赤褐色。図3は、内面が波打った形状を呈するもので、割り棒側と見られるものがある。色調は橙色。

瓦の胎土には、黒色粒(1~3mm)が目立つもの、白色粒が目立つもの、茶褐色粒が目立つものがあり、色調は赤褐色や茶褐色のもの、橙色やにぶい橙色を呈するものがある。前者には黒色粒や白色粒などが見られ、他に比して軽いものでは断面に気泡状のアバタや黒色粒が見られた。橙色系のものに茶褐色粒が目立つものがあり、表面がザラついており焼成は良くない。破片の厚さは約1.4cmが目立ち、約1.7cmのやや厚いものも見られる。

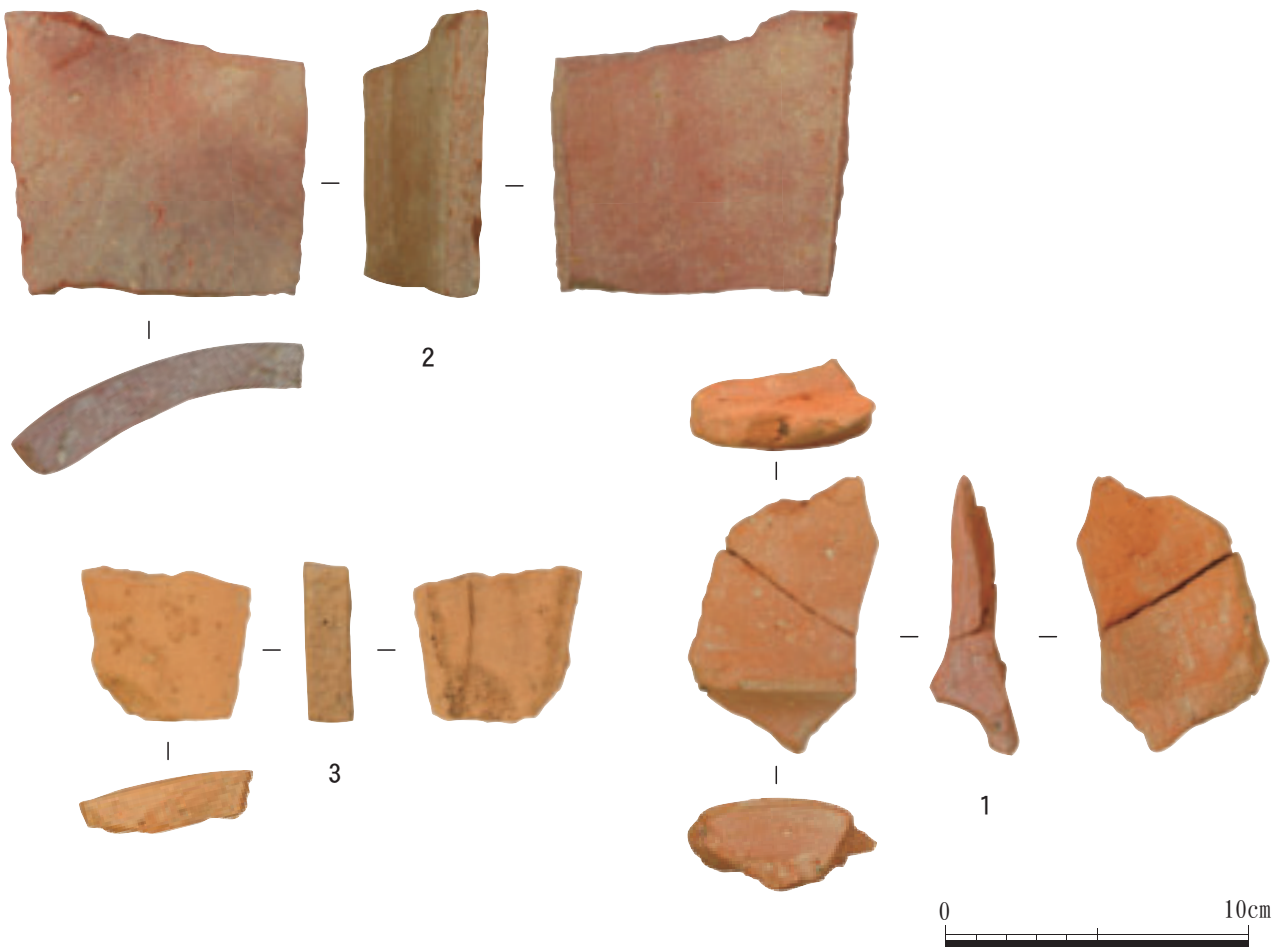
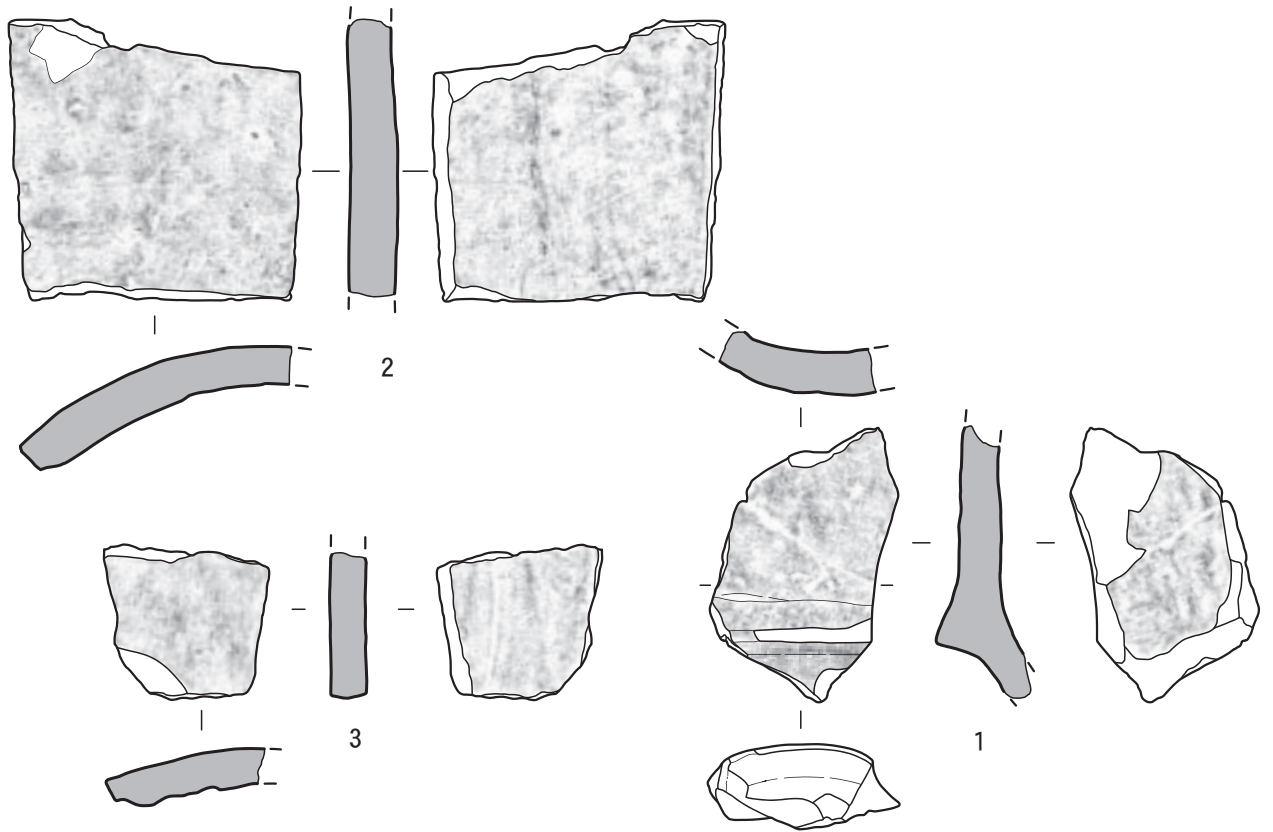
第74表 瓦出土量

層位	丸瓦		平瓦						不明破片	合計	
	破片		縁			破片					
	上 or 下	右 or 左	上	左上	不明	上 or 下	右 or 左	不明			
I								1	1	2	
II	2	2	1		1	2	8	11	13	40	
II (遺構)		3		1	1	1		7	4	17	
III			1							1	
不明								1		1	
合計	2	5	2	1	2	3	8	20	18	61	
器種別計	7		36						18		

II (遺構) : (SF)0008. (SZ)0350



第105図 瓦平面分布



第106图·图版83 瓦

(10) 簪

簪は1点の出土である(第107図・図版84)。男性用で、部位別〔花(ハナ)、首(クビ)、振(ムディ)、竿(ソー)^(註1)〕で見ると、花(簪頭)は水仙花型で花弁は6弁、径は約1.6~1.65cm、厚さ約3mm、花弁内中央の円形の文様は径約6mm、首の長さは約1cm、断面形は六角形で径約3mm、振(ねじり)の長さは約1cm、径約3mmで螺旋痕は幅約0.8mm、竿の長さは約5.2cm、断面形は四角形で、径は4mm。振の部分に青サビが見られる。長さ7.5cm、重さ8.47g。

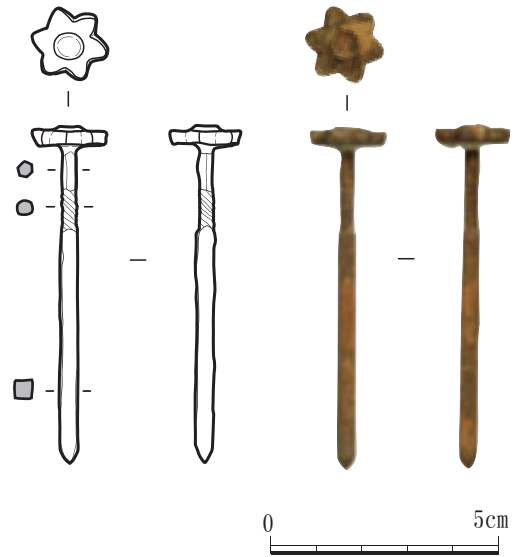
G 11、0008SF 出土。

註1：() 内は方言名。

<参考文献>

『那覇市史』資料篇第2巻中の7第三章八節四 昭和54年

『沖縄大百科事典』沖縄タイムス 1983年

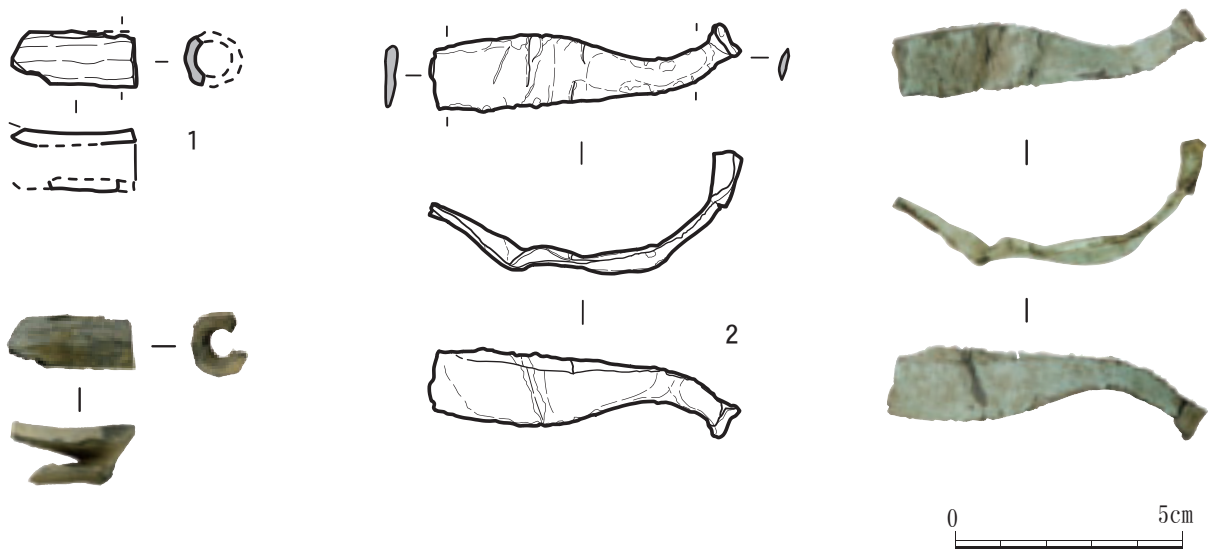


第107図・図版84 簪

(11) 煙管

雁首が1点、吸口が1点出土(第108図・図版85)。図1は陶製の雁首で火皿部と胴の一部が欠損する。外面は3~4mm幅で面取りされ、胴は羅字接続部で僅かに広がり内径約9mm、火皿部に向かって内径は7mmと窄まり、整形時の粘土の溜りが僅かに火皿側に見られる。残存長は2.7cm、推定外径は約1.3cm。色調は灰色。重さ3g。H16、II層出土。

図2の吸口は銅製で全体に青サビがみられ押し潰された状態で、左側裏面に接合部が見られる。形態は螺字接続部から肩部にかけてやや径を広げ口付へ径を減じ、口付は僅かに径を広げる。羅字接続部の径1.2cm、最も細い部分の径6mm、口付は径8mm。5.69g。K 18 出土。

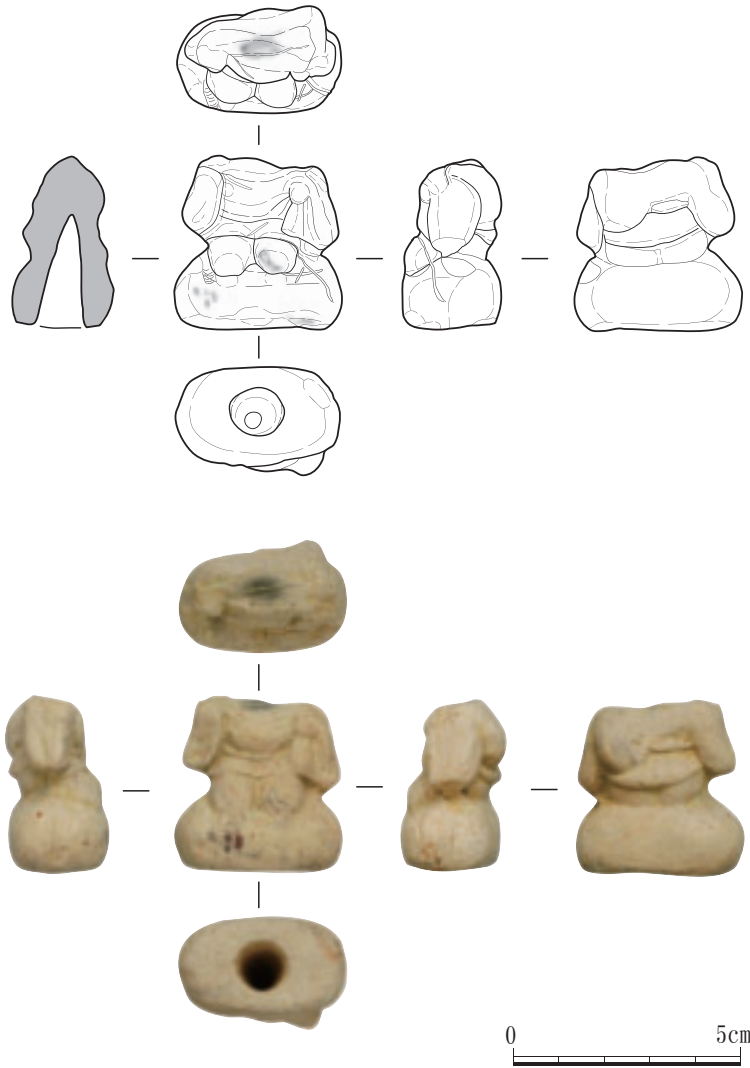


第108図・図版85 煙管

(12) 人形

人形は1点出土(第109図・図版86)。頭部から肩にかけて欠損する。残存する形状から左手に持つ袋を左肩にかけて背負う太っ腹の体形から布袋像と判断される。

左側面に連続する細かいひび割れが見られ、同様な範囲の右側には接合面の整形痕が見られることから型つくりと判断される。下面中央に円錐形の孔を有する。孔径は約1.2cm、深さ2.5cm。欠損する頭部にあたる位置の破損面中央は暗灰色を呈する。瓦質。重さ24.31g。0008SF出土。



第109図・図版86 人形

(13) 金属製品

a. 鉄製品

・刀子

刀子は1点出土(第110図1)。V b層出土で貝塚時代後期である。錆膨れは見られるものの形状は判別しやすい状態である。小型の刀子で峰は茎部より直線的を呈し、切っ先は丸みを帯び尖ると思われる。刃部は弧状を成し、緩やかに茎部に至る。両刃と思われる。

全長約7cm、峰から刃部の幅は約1.5cm、茎部の幅は0.9cmである。厚さは約0.4cm。H17出土。

・鉄釘

鉄釘は2点出土(第110図2・3)。図2は角釘の折損品。先端は片刃を呈する。径約5mm、3.03g。図3は完形と見られ、先端は片刃を呈し、上部の四分の一が「く」の字状に曲がる。径約5mm、11.75g。いずれもC18 4427SK出土。

・分銅

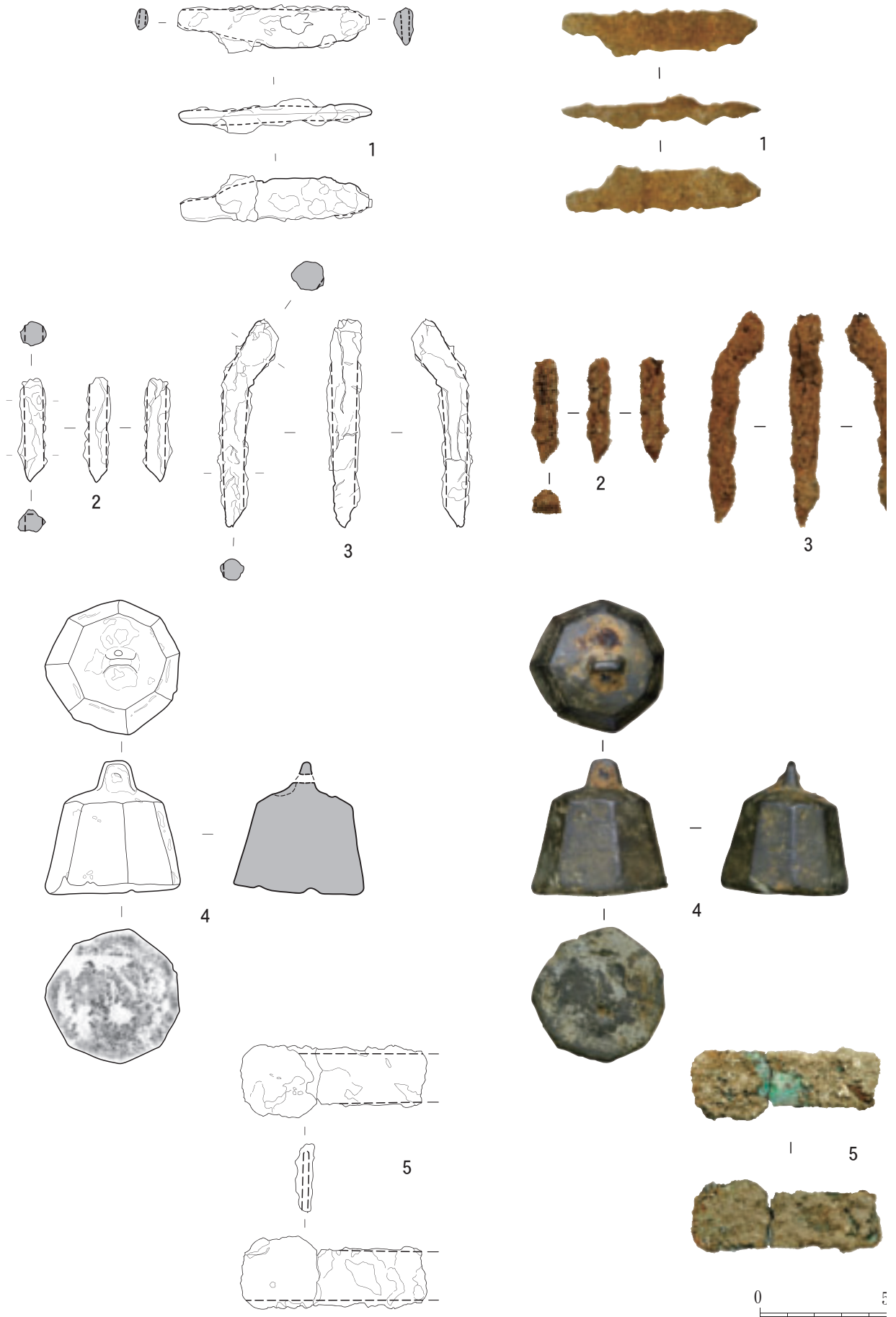
分銅は1点出土(第110図4)。釣鐘型を呈するもので、側面は八面に面取され、上部中央部の突起には、径3mmの吊り下用の孔を有する。

上面と側面の整形は下面に比して丁寧であるがアバタ痕が見られ、下面は縁辺部を約5mm幅で整形するが、その内側は押し潰した状態を呈し、縁辺部との境目は窪む。竿秤の分銅、鉄製、重さ385g。F12 0008SF出土。

b. 銅製品

・器種不明

第110図5は折損品で、上辺を折り目にして、銅板を折り曲げて成形されたもので、下辺は隙間が開く。銅版の厚みは約0.8mm。重さ15.12g。K18 II層出土。



第110図・図版87 金属製品



第111図・図版88 軽石製品

(14) 軽石製品

今回の調査で軽石製品が1点出土した。掌より僅かに大きく中型で形状は不定形だが、側面、横断面からみて原形はおそらく楕円形の形態を呈していたものと推測される。

全体は平坦に整い凹凸箇所などごつごつとした感触はない。側面のみ使用されており対象物を研磨した摩擦による研磨痕が窺える。側面の上下はさらに研磨が激しく面が僅かに傾斜し、すり減り具合が顕著である。

性質は軽石のうちでもスコリア（岩滓）と呼ばれるもので、気孔が粗く多孔質の部分と密になる箇所がみられた。

軽石の色調は一般的に白～灰色～黒色であるが、今回の資料は黒褐色を呈す。これは鉄の含有量によるもので玄武岩質のマグマの場合、噴出物の軽石は黒色を成す。計測値は、縦9.3cm、横6.0cm、厚さ5.8cm、重量163gである。出土地I 17 II層。民俗事例から日常道具の研磨に使用されていたとの口承もあり近世の資料と考えられる。

<参考文献>

- 前田四郎編 沖縄産岩石鉱物図説 1967年 琉球政府立理科教育センター
- 加藤祐三著 奄美沖縄・岩石・鉱物図鑑 1984年 (株)新星図書出版
- 加藤祐三著 軽石－海底火山からのメッセージー 2009年 (株)八坂書房
- 五十嵐俊雄著 考古資料の岩石学 平成18年 パリノ・サーヴェイ株式会社
- 遅沢壮一・渡邊康志著 名護・やんばるの地質 2011年 名護博物館

第IV章 理科学的分析

第1節 貝類遺体

第75表- 1 伊礼原D遺跡出土貝類とその生息場所類型

		生息場 所類型	図版 番号	生息場 所類型	図版 番号
軟体動物門 Mollusca					
腹足綱 Gastropoda					
ヨメガカ目 Nacellidae					
オオベッコウガサ	Cellana testudinaria	I-1-a	1	Cypraea (Erosaria) erosa	I-2-b T-6
ベッコウガサ	Cellana grata	I-1-a	2	Cypraea (Ravitrona) caputserpentis	I-3-a T-7
リュウテン科 Turbinidae				Cypraea (Arabica) arabica	I-2-a T-8
コシダカサザエ	Turbo (Marmarostoma) stenogyrum	I-2-a	3	Cypraea (Arabica) eglantina	II-2-a T-9
チョウセンサザエ	Turbo (Marmarostoma) anguostomus	I-3-a	4	Cypraea (s.s.) tigris	I-2-c T-10
チョウセンサザエ (蓋)	Turbo (Marmarostoma) anguostomus	I-3-a	5	Cypraea (Lyncina) lynx	I-2-b T-11
ヤコウガイ	Turbo (Lunatia) marmoratus	I-4-a	6	Cypraea (Mystaponda) vitellus	I-2-a T-12
ヤコウガイ (蓋)	Turbo (Lunatia) marmoratus	I-4-a	7	Cypraea spp	I T-13
カンギク	Lunella moniliformis	I-1-b	8	タマガイ科 Naticidae	
オオウラウス	Astrarium rhodostoma	I-2-a	9	トミガイ	Polinices tumidus I-2-c 61
ニシキウス科 Trochidae				ヘソアキトミガイ	Polinices flemingianus I-2-c 62
ニシキウス	Trochus (s.s.) maculatus	I-2-a	10	ロウイロトミガイ	Polinices pyriformis I-2-c 64
ムラサキウス	Trochus (s.s.) stellatus	I-3-a	11	リスガイ	Mammilla melanostoma I-2-c 64
ギンタカハマ	Trochus (Tectus) pyramis	I-4-a	12	ホウシュノタマ	Notochoclis gualtieriana II-1-c 65
コシダカギンタカハマ	Trochus (Tectus) triserialis	I-4-a	13	タマガイ科	
サラサバテイル	Trochus (Rochia) niloticus	I-4-a	14	ヤツシロガイ科 Tonniidae	
オキナワイシダタミ	Mondonta labio	II-1-b	15	トンナペリクス	Tonna perdix I-2-c
クモノコガイ	Chlorostoma xanthostigma	I-1-b	16	トンナセバ	Tonna cepa I-2-c 68
サラサダマ	Chlorostoma paradoxum	I-2-c	17	メアラポムム	Malea pomum I-2-c 69
フルヤガイ	Sotmatia phymotis		18	フジツガイ科 Ranellidae	
アマオブネ科 Neritidae				ミツカドボラ	Cymatium (Cymatriton) nicobaricum II-2-c 70
コシダカアマガイ	Nerita (Ritena) striata	I-1-a	19	サツマボラ	Cymatium (Monoplex) aquatile I-2-a 71
マングローブアマガイ	Nerita (Ritena) undulata	III-0-a	20	シノボラ	Cymatium (Gutturinum) muricinum I-2-a 72
リュウキュウアマガイ	Nerita (Ritena) insculpta	I-0-a	21	シノマキ	Cymatium (Monoplex) pileare I-4-a 73
アマオブネ	Nerita (Thelyostyla) albicilla	I-1-b	22	フジツガイ	Cymatium (Lotoria) lotorium I-4-a 74
マルアマオブネ	Nerita (Thelyostyla) squamulata	II-1-b	23	オキニシ科 Bursidae	
オオマルアマオブネ	Nerita (Thelyostyla) chamaeleon	I-1-b	24	オキニシ	Bursa (s.s.) bufonis dunkeri I-3-a 76
ニシキアマオブネ	Nerita (Thelyostyla) polita	I-1-c	25	シロナルトボラ	Tutufa bubo I-4-a 77
アマオブネ科				アツキガイ科 Muricidae	
シマカノコ	Neritina (Vittina) turrita	III-0-e	26	チコレウス	Chicoreus burunneus I-2-a 78
ベニオカイシマキ	Neritodryas dubia	IV-6	28	シラクモガイ	Mancinella armigera I-3-a 79
タニシ科 Viviparidae				テツレイシ	Mancinella aculeata I-1-a 80
マルタニシ	Chipangopaludina chinensis laeta	IV-6	R-1	コイワニシ	Thais (Semiricinula) squamosa II-1-a 81
ヤマタニシ科 Cyclophoridae				ウネレイシダマシ	Cronia margaritcola I-1-b
アオミオカクニシ	Leptopoma vitreum taivanum			ツノレイシ	Mancinella tuberosa I-3-a 83
オキナワヤマタニシ	Cyclophorus turgidus	V-8	R-3	ツノテツレイシ	Mancinella hypocaustanus I-1-a 84
オニノツノガイ科 Cerithiidae				ハナワレイシ	Nassa vexillum I-3-a 85
オニノツノガイ	Cerithium modulosum	I-2-c	29	レイシダマシ	Morula granulata I-1-a 86
コオニノツノガイ	Cerithium columna	I-2-a	30	アカイガレイシガイ	Drupa (Ricinella) rubusidaeus I-3-a 87
ヒメクワノミカニモリ	Cerithium zonatum	II-2-c	31	ムラサキイガレイシ	Drupa (Ricinella) morum I-3-a 88
コマフカニモリ	Cerithium alveolus	I-2-c		アツキガイ科	
カヤノミカニモリ	Clypeomorus bifasciata	I-1-b	33	オニコブシガイ科 Vasidea	
オオシマカニモリ	Clypeomorus subbrevicula	II-1-b		オニコブシ	Vasum ceramicum I-3-a 90
イワ (砂中) カニモリ	Clypeomorus batillariaeformis	II-1-b	35	フトコロガイ科	Vasum turbinellum I-2-a 91
クワノミカニモリ	Clypeomorus chemnitziana	I-1-b	36	フトコロガイ	Euplica vesicolor II-2-d 92
オニノツノガイ科				ムラサキムギガイ?	Mitrella livescens ?
ヘナタリ科 Cerithiidae				エソバイ科 Buccinidae	
カワアイ	Cerithideopsis djadjariensis	III-1-c	38	シシガイ	Engina (Pusiosstoma) mendicaria I-1-a 94
キバウミニナ	Terebralia palustris	III-0-c	39	シマベッコウバイ	Engina (Pusiosstoma) mendicaria I-1-a 95
マドモチウミニナ	Terebralia sulcata	III-1-c	40	オリイレヨフバイ科 Nassariidae	
センニンガイ	Telescopium telescopium	III-0-c	41	イボウバイ	Nassarius coronatus II-1-c 96
ウミニナ科 Batillariidae				ヒメオリイレムシロ	Nassarius sp. cf. nodifer II-2-c 97
リュウキュウウミニナ	Batillaria flectosiphonata	II-1-c	42	アツムシロ	Niotha semisulcata I-1-b 98
イボウミニナ	Batillaria zonalis	III-1-c	43	ゾフバイモドキ	Telesco limnaeiformis II-2-c 99
ゴマフニナ科 Planaxidae				イトマキボラ科 Fasciolaridae	
ゴマフニナ	Planaxis sulcatus	I-0-a	44	イトマキボラ	Pleuroploca trapezium I-2-a 100
トウガタカワニナ科 Thiaridae				ナガイトマキボラ	Pleuroploca filamentosa I-2-a 101
トウガタカワニナ	Thiara scabra	IV-5,6	R-4	リュウキュウツノマタ	Latirus polygonus I-3-a 102
ヨシカワニナ	Stenomelania plicaria	IV-6	R-5	ツノマタモドキ	Latirus belcheri I-3-a 103
カワニナ科 Pleuroceridae				マルニシ	Leucozonia smaragdula I-3-a 104
カワニナ	Semisulcospira bensoni	IV-5,6	R-6	チトセボラ	Fusinus nicobaricus I-2-c 105
タマキビ科 Littorinidae				マクラガイ科 Olividae	
タマキビ科				ジュドウマクラ	Oliva miniacea I-2-c 106
スィショウガイ科 Strombidae				サツマビナ	Oliva annulata I-2-c 107
ムカシタモト	Strombus (Canarium) mutabilis	I-2-c	46	フデガイ科 Mitridea	
ヤサガタムカシタモト	Strombus (Canarium) microureus	I-2-c	47	チョウセンフデガイ	Mitra mitra I-2-c 108
オハダロガイ	Strombus (Canarium) urceum	II-2-c	48	キバフデガイ	Mitra puncticulata 109
フトスジムカシタモト	Strombus labiatus	II-2-c	49	イモフデガイ	Pterygia dactylus I-1-b 110
ネジマガキカイ	Strombus (Gibb.) g. gibbosus	II-1-c	50	チリメンイモフデ	Pterygia crenulata 111
マガキガイ	Strombus (Conomurex) luhuanus	I-2-c	51	フデガイ科	Mitridae, gen. et sp. I
イボソデ	Strombus (Lentigo) lentiginosus	I-2-c	52	ミノムシガイ科 Costellariidae	
マイノソデガイ	Strombus aurisdianae	I-4-c	53	ミノムシガイ	Vexillum balteolatum II-2-c
アツソデガイ	Strombus (Tricornis) thersites	I-4-c	54	オオミノムシ	Vexillum plicarim II-2-c 114
ゴボウラ	Strombus (Tricornis) latissimus	I-4-c	55	イモガイ科 Conidae	
クモガイ	Lambis lambis	I-2-c	56	マダライモ	Conus (Virroconus) ebraeus I-1-a 115
クモガイ幼貝				コマダライモ	Conus (Virroconus) chaldaeus I-1-a 116
ラクダガイ	Lambis truncata seabae	I-4-c	58	サヤガタイモ	Conus (Virroconus) fulgetrum I-1-a 117
スィジガイ	Harpago chiragra	I-2-c	59	ジュズカケサヤガタイモ	Conus (Virroconus) coronatus I-1-a 118
スズメガイ科				キヌカツギイモ	Conus (Virgiconus) flavidus I-2-a 119
カワチドリ	Hippomix foliacea	I-3-a	60	イボシマイモ	Conus (Virgiconus) lividus I-2-a 120
タカラガイ科 Cypraeidae				ヤセイモガイ	Conus (Virgiconus) emaciatus I-2-c 121
キイロダカラ	Cypraea (Monetaria) moneta	I-1-a	T-1	オトメイモ	Conus (Virgiconus) coelinae I-2-c
ハナヒラダカラ	Cypraea (Monetaria) annulus	I-1-a	T-2	イボカバイモ	Conus (Virgiconus) distans I-2-c
ナツメモドキ	Cypraea (Eronea) erronea	I-2-b	T-3	ヤナギシボリイモ	Conus (Rhizoconus) miles I-3-a 124
エダカラ	Cypraea teles			ハイイロミナシ	Rhizoconus rattus I-3-a
ヤナギシボリダカラ	Cypraea isabella	I-2-a	T-5	サラサミナシ	Conus (Rhizoconus) capitaneus I-4-c 126
				イタチイモ	Conus (Rhizoconus) mustelinus I-4-c

第75表- 2 伊礼原D遺跡出土貝類とその生息場所類型

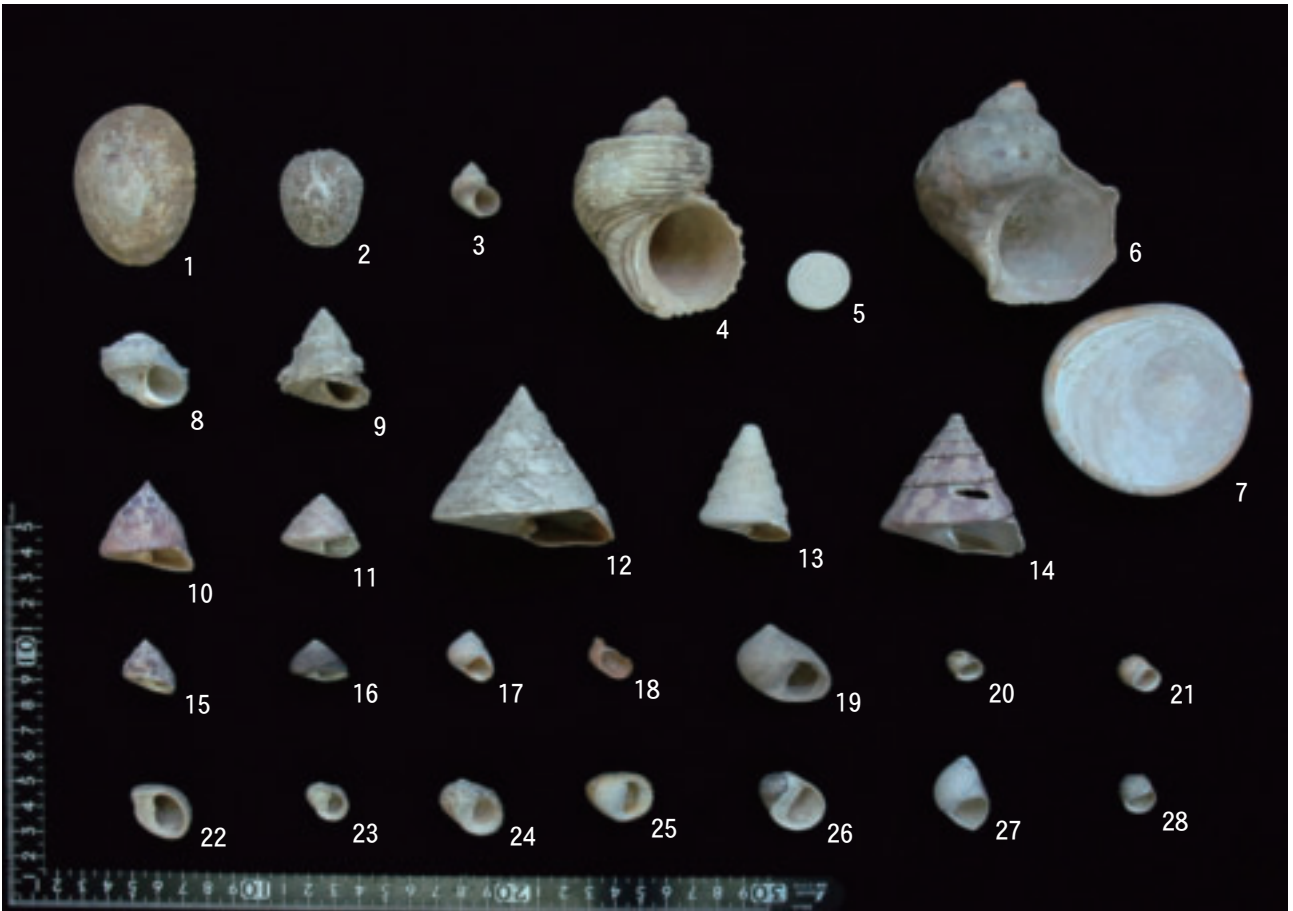
		生息場 所類型	図版 番号			生息場 所類型	図版 番号
カバミナシ	Conus (Rhizoconus) vexillum	I-4-c		キクザル科 Chamidae			
ヤキイモガイ	Conus (Pinoconus) magus	I-2-c	129	シロザル	Chama brassica	I-4-a	33
サラサミナシモドキ	Conus (Darioconus) tivitulinus	I-2-a	130	キクザル類	Chama spp.	I-2-a	34
ヒラマキイモ	Conus (Dauciconus) planorbis	I-2-c	131	ザルガイ科 Cardiidae			
スソムラサキイモ	Conus (Darioconus) scabriusculus			リュウキュウザルガイ	Regozara flavum	II-2-c	35
アジロイモ	Conus (Darioconus) pennaceus	I-2-c	133	カワラガイ	Fragum unedo	II-2-c	36
タガヤサンミナシ	Conus (Darioconus) textile	I-2-c	134	オオヒシガイ	Fragum Fragum	I-2-c	37
ニシキミナシ	Conus (Strioconus) striatus	I-2-c	135	ザルガイ科			
アンボイナ	Conus (Gastriidium) tur****lipa	I-2-c		シャコガイ科 Tridacnidae			
ナンヨウクロミナシ	Conus (s.s.) marmoreus	I-2-c	137	シラナミ類	Tridacna maxima/noae	I-2-a	39
ミカドミナシ	Conus (Rhombus) imperialis	I-2-c	138	ヒレジャコ	Tridacna squamosa	I-2-c	40
アカシマミナシ	Conus (Leptoconus) generalis	I-2-c	139	ヒメジャコ	Tridacna crocea	I-2-a	41
ナガサラサミナシ	Conus (Dancicous) litoglyphus		140	シャコガイ類	Tridacna spp	I-2	
ゴマフイモ	Conus (Puncticulis) pulicarius	I-2-c	141	シャゴウ	Hippopus hippopus	I-2-c	43
コモンイモ	Conus (Puncticulis) arenatus	I-2-c	142	バカガイ科 Mactridae			
ロウソクガイ	Cleobula quercina	I-2-c		リュウキュウバカガイ	Mactra maculata	II-2-c	44
ダイミョウイモ	Conus betulinus			タマキ	Mactra cuneata	II-1-c	45
クロザメモドキ	Conus (Lithoconus) eburneus	I-2-c	145	チドリマスオガイ科 Mesodesmatidea			
アンボンクロザメ	Conus (Lithoconus) litterata	I-2-c	146	イソハマグリ	Atactodea striata	I-1-c	46
クロフモドキ	Conus (Lithoconus) leopardas	I-2-c	147	ナミノコマスオ	Davila plana	I-1-c	47
小型イモガイ科			148	フジノハナガイ科 Donacidae			
中型イモガイ	Conus spp. (middle sizu)		149	リュウキュウナミノコ	Latona faba	I-1-c	48
大型イモガイ	Conus spp. (large sizu)			ニッコウガイ科 Tellinidae			
イモガイ科不明				ニッコウガイ	Tellina virgata	II-2-c	49
タケノコガイ科 Terebridae				ヒメニッコウガイ	Tellinella staurella	II-2-c	50
タケノコガイ	Terebra sudulata	I-2-c	152	ヌノメイチョウシラトリ	Tellina diaphana		51
キジビキガイ科 Acteonidae				リュウキュウシラトリ	Quidnispagus palatam	II-1-c	52
カヤノミガイ	Pupa sulcata			サメザラガイ	Scutarcopagia scobinata	I-2-c	53
ナツメガイ科 Bullidae				モチツキザラ	Cyclotellina remies	I-2-c	54
ナツメガイ	Bulla vernicosa	I-2-a	154	アマサギ	Macalia bruguieri	II-2-c	55
オカミミガイ科 Ellobiidae				アサジガイ科 Semelidae			
マダラヒラシノノミ	Pythia pantherina	V-10	155	サメザラモドキ	Semele carnicolor	II-1-c	56
キセルガイ科 Clausiliidae				イソシジミ科 Psammobiidae			
ノミギセル類			R-7	リュウキュウマスオ	Asaphis violacens	II-1-c	57
ナンバンマイマイ科 Camaenidae				マスオガイ	Psammonea elongata	II-1-c	58
シュリマイマイ	Satsuma (s.s.) m. mercatoria	V-8	R-8	シジミ科 Corbiculidae			
カツレンマイマイ	Satsuma (s.s.) m. katsurenensis	V-7	R-9	シレナシジミ	Geloina erosa	III-0-c	59
シラユキヤマタカマイマイ	Satsuma (Luchu.) largillierii	V-8	R-10	マルスダレガイ科 Veneridae			
アマノヤマタカマイマイ	Satsuma (Luchu.) amanoi.	V-7	R-11	アラヌメガイ	Periglypta puerpera	II-2-c	60
オナジマイマイ科 Bradybaenidae				アラヌメガイ	Periglypta reticulata	I-2-c	61
パンダナマイマイ	Bradybaena circulus	V-8	R-12	カナコアサリ	Glycydonta marica	I-2-c	62
オキナワウスカワマイマイ	Acusta d. despecta	V-8	R-13	ホソスジイナミ	Gafrarium pectinatum	II-1-c	63
陸淡水産腹足類不明				アラスジケマン	Gafrarium tumidum	III-1-c	64
二枚貝綱 Bivalvia				ユウカゲハマグリ	Pitar striatum	II-2-c	65
フネガイ科 Arcidae				イオウハマグリ	Pitar sulfureum	III-1-c	
オオタカノハ	Arca ventricosa	I-2-a	1	ハマグリ類	Pitar sp.	II-2-c	67
エガイ	Barbatia (Abarbatia) lima	I-1-a	2	サラサガイ	Lioconcha fastigiata	I-2-c	68
ベニエガイ	Barbatia (Ustularca) fusca	I-2-a	3	オイノカガミ	Bonartemis histrio	II-2-c	69
リュウキュウサルボオ	Anadara (s.s.) antiquata	II-2-c	4	リュウキュウアサリ	Tapes literatus	II-2-c	70
ハイガイ (セイタカ型)	Anadara (Tegillarca) granosa f. obessa	III-1-c	5	ヒメリュウキュウアサリ	Tapes belcheri	II-2-c	71
タマキガイ科 Glycymerididae				ヒメアサリ	Ruditapes variegata	II-1-c	72
ソメワケグリ	Glycymeris reevei	II-2-c	6	スダレハマグリ	Katelysia japonica	II-1-c	73
イガイ科 Mytilidae				トッドユマリハマグリ	Meretrix sp. cf. lamarcki	II-2-c	74
リュウキュウヒバリ	Modiolus auriculatus	I-1-a	7	ハマグリ類似種	Meretrix sp. cf. lusoria	II-2-c	
クジャクガイ	Septifer bilocularis	I-2-a	8	マツカゼ	Irus mitis		76
シロインコ	Septifer excisus	I-4-a	9	ダテオキシジミ	Cyclina sp. cf. sinensis	III-1-c	77
ウグイスガイ科 Pteriidae				マルスダレガイ科			
ミドリアオリ	Pinctada panasesae	I-1-a	10	不明→二枚貝類不明			
アコヤガイ	Pinctada fusca f. martensii	II-2-b	11	多板綱 Polyplacophola			
クロチョウガイ	Pinctada margaritifera	I-4-a	12	ヒザラガイ科 Chitonidae			
シュモクアオリ科 Isognomonidae				ヒザラガイ類	Acanthopleura sp.	I-1-a	80
シュモクアオリ	Isognomon isognomonum	II-2-b	13				
カイシアオリ	Isognomon perna	I-1-b					
イタヤガイ科 Pectinidae							
リュウキュウオウギ	Comptopallium radula	II-2-c	15				
ミノガイ科 Limidae							
オオユキミノ	Limaria basilanica		16				
ウミギク科 Spondylidae							
メンガイ類	Spondylus sp.	I-2-a	17				
ベッコウガキ科 Picnodontidae							
シャコガキ	Hytossa hyotis	II-2-c	18				
イタボガキ科 Ostreidae							
オハダロガキ	Saccostrea mordax	I-1-a	19				
ニセマガキ	Saccostrea echinata	II-1-b	20				
シマガキ	Saccostrea echinata	II-1-b	21				
シロヒメガキ	Ostrea fluctigera	I-2-c	22				
ノコギリガキ	Dendrostrea sandwichensis	II-2-a	23				
イタボガキ科			24				
ツキガイ科 Lucinidae							
ツキガイ	Codakia tigersa	I-2-c	25				
クチベニツキガ	Codakia punctata	I-2-c	26				
ウラキツキガイ	Codakia paytenorum	II-2-c	27				
ヒメツキガイ	epicodakia bella	I-2-c	28				
カブラツキガイ	Anodontia edentula	II-2-c	29				
ツキガイ科							
カゴガイ科 Fimbridae							
カゴガイ	Fimbria soverbii	II-2-c	31				
トマヤガイ科 Carditidae							
クロフトマヤ	Cardita variegata	I-2-a	32				

生息場所類型 (Habitat)

I : 外洋-サンゴ礁域
 II : 内湾-転石域
 III : 河口干潟-マングローブ域
 IV : 淡水域
 V : 陸域

0 : 潮間帯上部 (I ではノッチ, III ではマングローブ)
 1 : 潮間帯中・下部
 2 : 亜潮間帯上縁部 (I ではイノー)
 3 : 干瀬 (I にのみ適用)
 4 : 礁斜面及びその下部
 5 : 止水
 6 : 流水
 7 : 林内
 8 : 林内・林縁部
 9 : 林縁部
 10 : 海浜部
 11 : 打ち上げ物
 12 : 化石

a : 岩礁/岩盤
 b : 転石
 c : 礫/砂/泥底
 d : 植物上
 e : 淡水の流入する礫底



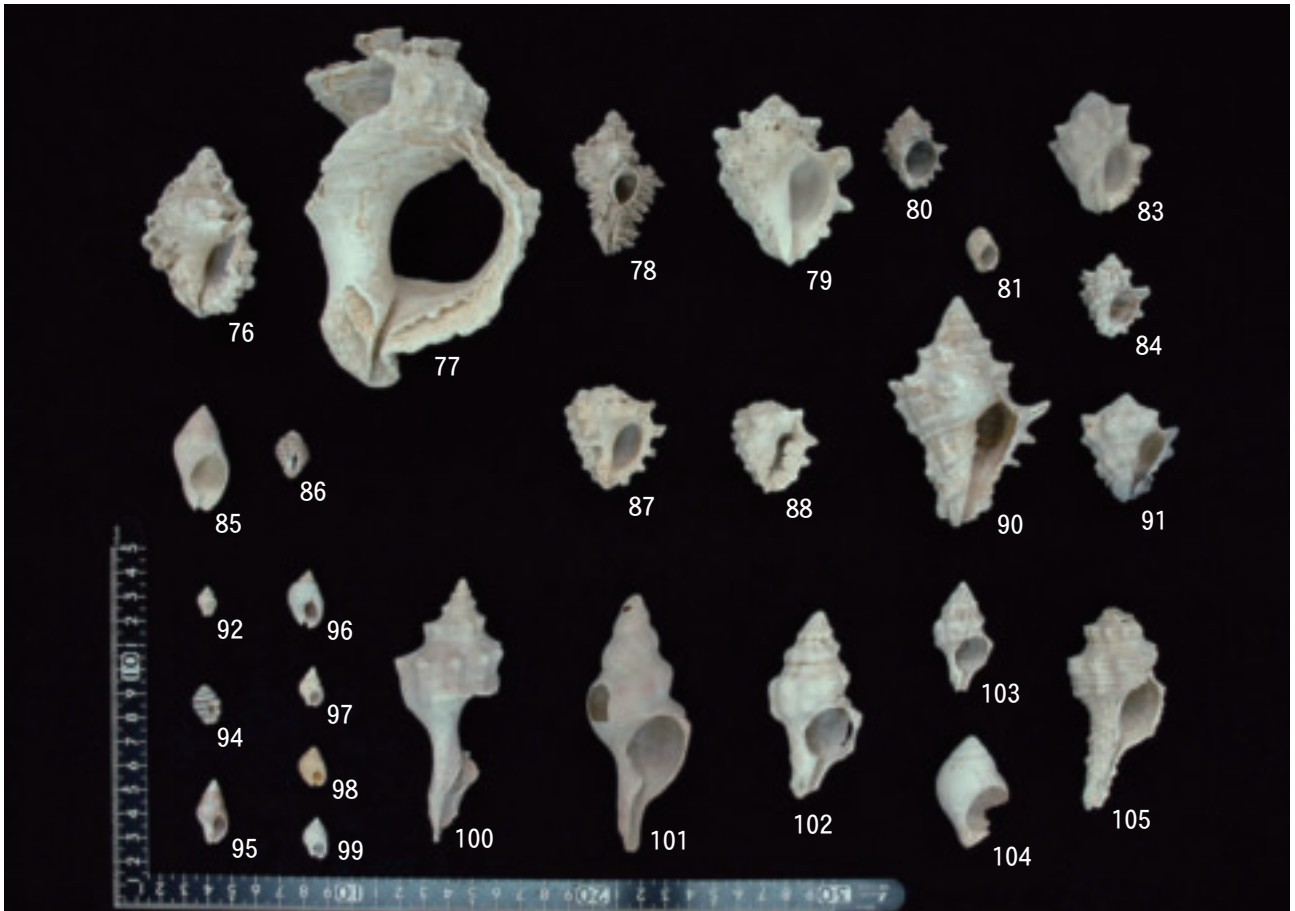
図版89 貝類遺体 1 (巻貝)

(番号は第75表と一致)



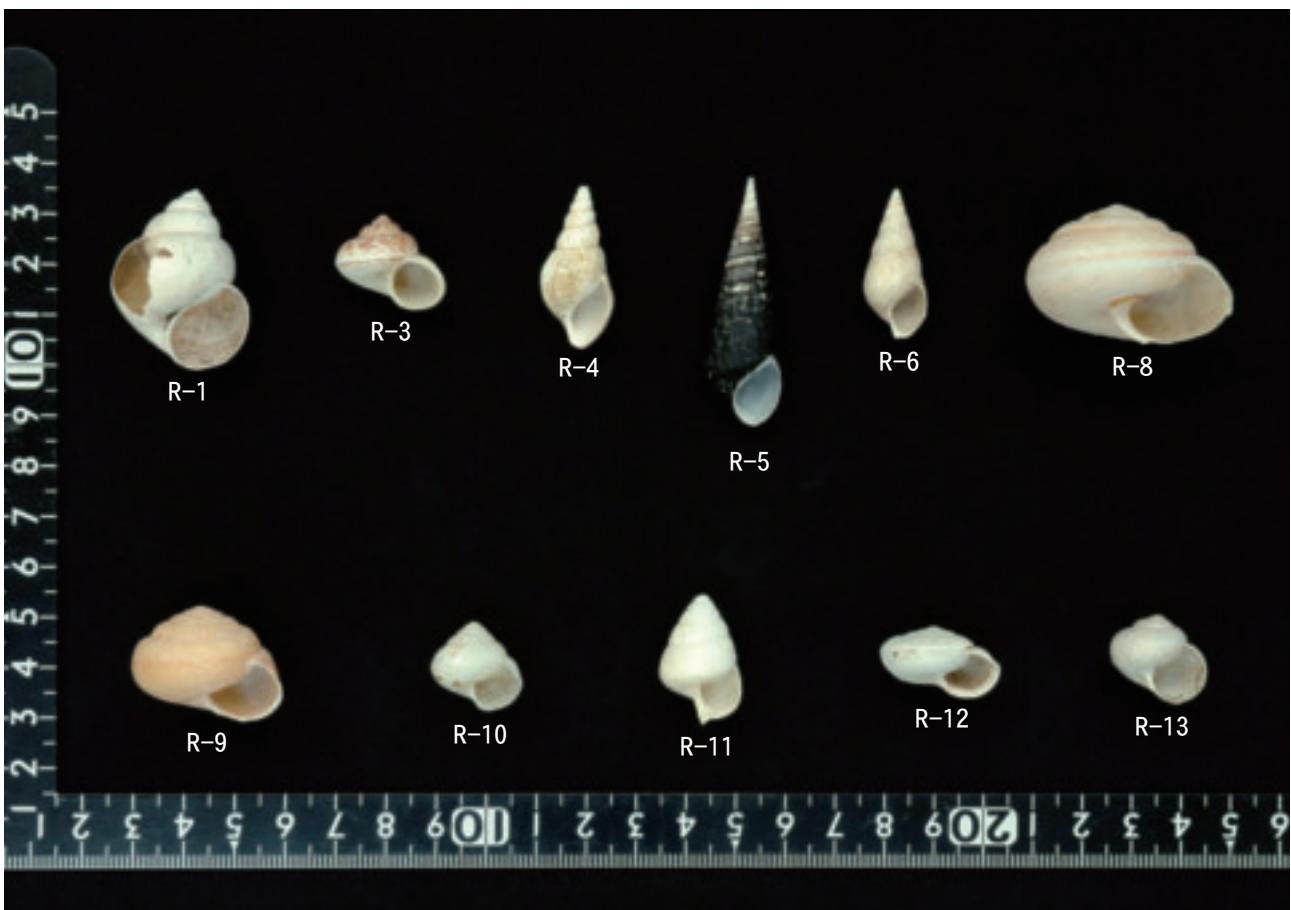
図版90 貝類遺体 2 (巻貝)

(番号は第75表と一致、Tはタカラガイの意)



図版91 貝類遺体 3 (巻貝)

(番号は第75表と一致)



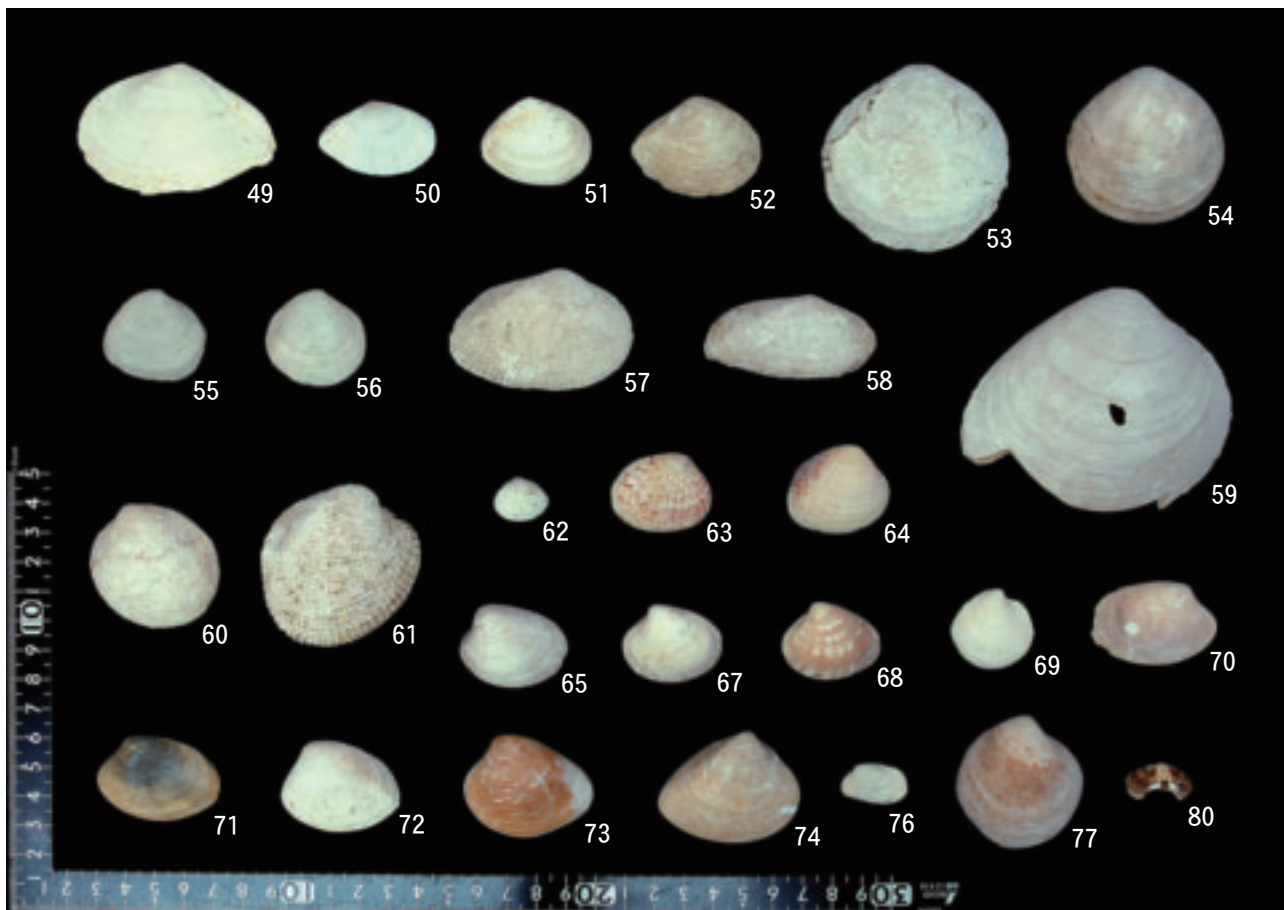
図版92 貝類遺体 4 (上：巻貝・下：陸産貝)

(番号は第75表と一致、Rは陸産貝の意)

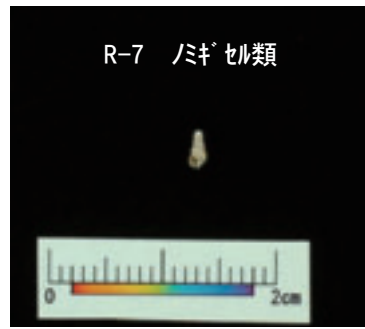


図版93 貝類遺体 5 (二枚貝)

(番号は第75表と一致)



(番号は第75表と一致)



(150%拡大)

図版94 貝類遺体6 (上：二枚貝・下：巻貝、陸産貝)

第2節 脊椎動物遺体

メジロザメ科 1 椎骨

エイ目 2 尾棘

ダツ科 3 前上顎骨(L) 4 前上顎骨(R) 5 歯骨(L) 6 椎骨

ボラ科 7 第一椎骨

ハタ科 ハタ 8 前上顎骨(L)

スジアラ 10 前上顎骨(L・ヤケ)

アジ科 アジ(大) 11 主上顎骨(L) 12 前上顎骨(L) 13 椎骨

クロダイ属 クロダイ 14 上顎(L)

ミナミクロダイ 15 前上顎骨 16 主上顎骨(L) 17 歯骨 18 角骨(L) 19 口蓋骨(L)

ヨコシマクロダイ 20 前上顎骨(L) 21 前上顎骨(R)

フエフキダイ属(ハマフエフキ型) ハマフエフキ 22 前上顎骨(L)

(ハマフエフキ型) フエフキダイ 23 前上顎骨(L) 24 前上顎骨(R・内側) 25 主上顎骨

26 歯骨(L) 27 歯骨(R・内側) 28 角骨(L) 29 角骨(R) 30 口蓋骨 31 方骨(L)

32 椎骨 フエフキダイ属(ハマフエフキ型) ミナミクロダイ or フエフキダイ 33 椎骨 9 角骨(L)

ベラ科 タキベラ 34 下咽頭骨

コブダイ 35 上咽頭骨 36 下咽頭骨

ベラ科A ベラ 37 前上顎骨(L) 38 椎骨

ブダイ科 ブダイ 39 上咽頭骨(L) 40 椎骨

イロブダイ属 イロブダイ 41 前上顎骨(L)

アオブダイ属 アオブダイ 42 前上顎骨 43 歯骨 44 上咽頭骨(R) 45 下咽頭骨

オニオコゼ科 オニオコゼ 46 歯骨(L)

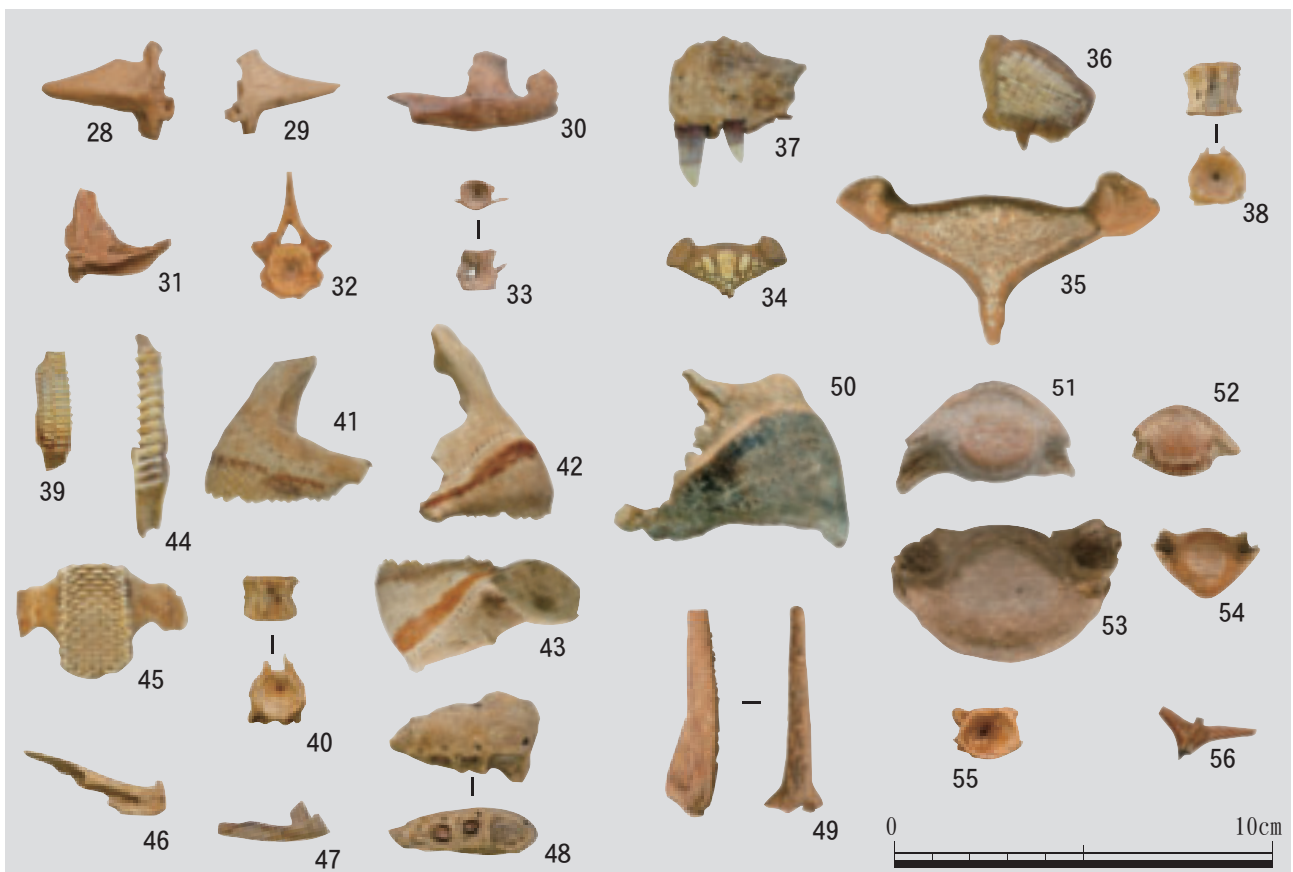
コチ科 コチ 47 上顎骨(L)

モンガラカワハギ科 モンガラカワハギ 48 前上顎骨(R) 49 背鰭棘

フグ科 フグ 50 前上顎骨(L)

ハリセンボン科 ハリセンボン 51・52 上顎骨 53・54 下顎骨 55 椎骨 56 棘

サカナ類部位名称 (図版95)



図版95 脊椎動物遺体 1 (サカナ類)



イルカ類-1 下顎骨切歯 2 椎骨
ウミガメ類-3 上腕骨 (R) 4 大腿骨 (L) 5 中・下腹板 6 橈骨 (L) 7 尺骨 (L) 8 末節骨



図版96 脊椎動物遺体 2 (上面：イルカ、ウミガメ・下面：ジュゴン、クジラ、ヘビ類)
ジュゴン-9 肋骨 クジラ類-10 椎骨 11 椎骨 (連合頸椎) ヘビ類-12 椎骨



1 上顎骨 (R) 2・3 下顎骨 (L) 4 上腕骨 (R) 5 橈骨 (L) 6 橈骨 (R) 7 尺骨 (R) 8 尺骨 (L)
9 第2中手骨 (L) 10 第3中手骨 (L) 11 寛骨 (L) 12 大腿骨 (L) 13 脛骨 (R)



図版97 脊椎動物遺体 3 (上面: イヌ・下面: イヌ、ネコ、ネズミ)

イヌ-14 脛骨 (L) 15 距骨 (L) 16 踵骨 (L) 17 第2中足骨 (L) 18 第3中足骨 (L) 19 第4中足骨
20 第5中足骨 (L) ネコ-1 頭骨 2 肩甲骨 (L) 3 肩甲骨 (R) 4 上腕骨 (L) 5 上腕骨 (R)
6 橈骨 (R) 7 脛骨 (L) 8 脛骨 (R) ネズミ-1 大腿骨



1 上顎切歯 (R) 2 下顎切歯 (R) 3 ウマ or ウシ椎軸 4 肩甲骨 (R) 5 上腕骨 6 橈骨 (R) 7 橈骨 (L)
8 尺骨 (R) 9 寛骨 (L)



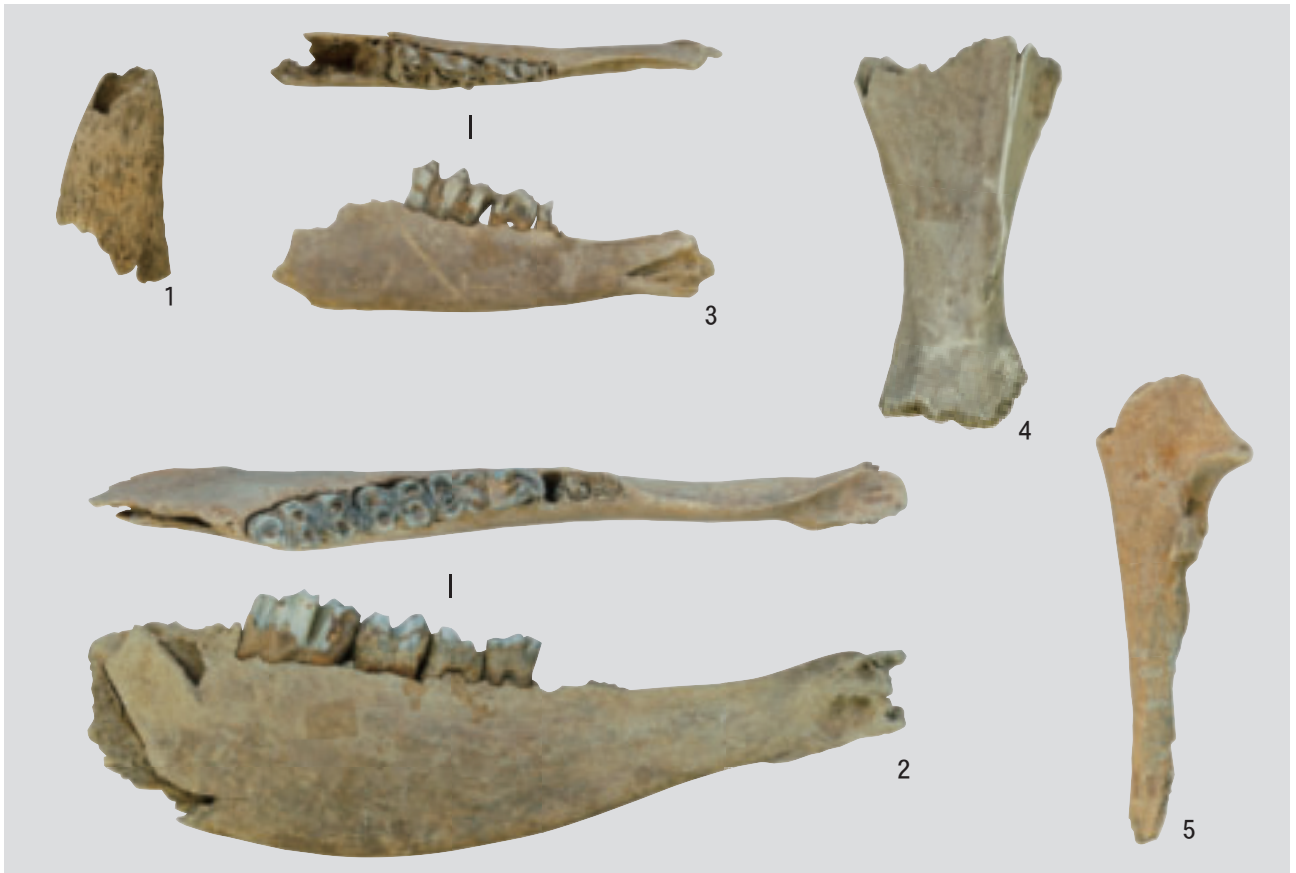
図版98 脊椎動物遺体 4 (ウマ類) 10 大腿骨 (R) 11 脛骨 (L/遠位) 12 脛骨 (L/近位) 13 距骨 (R)
14 踵骨 (L) 15 膝蓋骨 (L) 16 中足骨 (遠位) 17 中足骨 (R/近位) 18 基節骨 19 中節骨 20 末節骨



1・2 上顎骨犬歯（オス） 3・4 下顎骨犬歯（オス） 5 下顎骨切歯（I L₁） 6 下顎骨切歯（I L₂）
 7・8 上顎骨切歯 9～11・13 上顎骨（L） 12 上顎骨（R） 14・16 下顎骨（L） 15・17 下顎骨（R）
 18 環椎 19 腰椎



図版99 脊椎動物遺体 5（イノシシ・ブタ類） 20 肋骨 21 肩甲骨（R） 22 上腕骨（R） 23 橈骨（R）
 24 尺骨（R） 25 寛骨 26 大腿骨（R） 27 脛骨（R） 28 大腿骨（L・骨折完治） 29 腓骨 30 踵骨（R）
 31 距骨（R） 32 中節骨 33 基節骨 34 末節骨 ブタ類-1 上腕骨（R） 2 第4中手骨 3 基節骨



1 角骨 2 下顎骨 (L) 3 下顎骨 (R) 4 肩甲骨 (R) 5 尺骨 (R)



図版100 脊椎動物遺体6 (ウシ類) 6 橈骨 (L) 7 中手骨 (R) 8・9 寛骨 (R) 10 大腿骨 (R)
11 膝蓋骨 (L) 12 中足骨 (L) 13 踵骨 (R) 14 中足骨 15 距骨 (L) 16 基節骨 17 末節骨 (R)

第76表 伊礼原D遺跡から採集された脊椎動物遺体の種名一覧

軟骨魚綱	CHONDRICHTHYES
メジロザメ科	Carcharhinidae
エイ目	Rajiformes
硬骨魚綱	OSTEICHTHYES
ダツ科	Belonidae
ボラ科	Mugilidae
ハタ科 (マハタ型)	Serranidae cf. <i>Epinephelus</i>
ハタ科 (スジアラ型)	Serranidae cf. <i>Plectropomus</i>
アジ科	Carangidae
フエダイ科	Lutjanidae
クロダイ属	<i>Acanthopagrus</i> sp.
ヨコシマクロダイ	<i>Monotaxis grandoculis</i>
フエフキダイ属 (ハマフエフキ型)	<i>Lethrinus</i> cf. <i>L. nebulosus</i>
ベラ科 (シロクラベラ型)	Labridae cf. " <i>Cherodon shoeneinii</i> "
ベラ科 (タキベラ型)	Labridae cf. " <i>Bodianus perditio</i> "
ベラ科A	Labridae A
ブダイ属	<i>Calotomus</i> sp.
イロブダイ属	<i>Balbometopon</i> sp.
アオブダイ属	<i>Scarus</i> sp.
オニオコゼ科?	Synanceiidae ?
コチ科	Platycephalidae
モンガラカワハギ科	Balistidae
フグ科	Tetraodontidae
ハリセンボン科	Diodontidae
爬虫綱	REPTILIA
ヘビ類	Ophidia
リクガメ類 (リュウキュウヤマガメ)	<i>Geoemyda spengleri japonica</i>
ウミガメ科	Cheloniidae
鳥綱	AVES
目不明	Order indet.
哺乳綱	MAMMALIA
ネズミ科	Muridae
ネコ	<i>Felis catus</i>
イヌ	<i>Canis familiaris</i>
ウマ	<i>Equus ferus</i>
イノシシ/ブタ	<i>Sus scrofa</i>
ウシ	<i>Bos taurus</i>
ジュゴン	<i>Dugong dugon</i>
イルカ類	Cetacea (large)
クジラ類	Cetacea (small)

第3節 伊礼原 D 遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

I. 伊礼原 D 遺跡出土樹根の放射性炭素年代測定

はじめに

北谷町に所在する伊礼原遺跡は、沖縄本島中部の東シナ海に臨む海岸低地に位置する。今回調査が行われた伊礼原 D 遺跡では、複数の樹根跡を有する泥炭層が確認され、樹根は上位面と下位面の2面の層位に分かれることが明らかにされた。本報告では、下位面の樹根を対象として放射性炭素年代測定を行い、泥炭層の形成年代に関わる資料を作成する。

1. 試料

試料は伊礼原 D 遺跡の泥炭層より出土した樹根のうち、下位面を構成する樹根より採取した木材1点 (4409SX (3層目) B12) である。

2. 分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C(30分)850°C(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

3. 結果

同位体効果による補正を行った測定結果を表1に示す。試料は950±30BPを示した。第78表には暦年較正結果を示す。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5,730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。較正には北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。また、

暦年較正は測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が 95% の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。測定誤差を σ として計算させた結果、試料の暦年代は、calAD1,024-1,156 であった。確認された泥炭層は、貝塚時代後期後半からグスク時代の頃と想定され、11 世紀初めから 12 世紀半ばの年代値を示していることから、所見と調和した結果と言える。また、年代測定に使用した樹根は、サガリバナと同定された。サガリバナは、マングローブの後背の湿地や河川沿いに生育するような種類であることから、泥炭層の時期にサガリバナを含む湿地林や河畔林が形成していた可能性がある。

第77表 放射性炭素年代測定結果

試料名	採取位置・層位	種類	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
4409SX (3 層目) B12	泥炭層埋没林 下位面樹根群	木材 (サガリバナ)	950 ± 30	-30.22 ± 0.71	1,040 ± 30	IAAA-80233

- 1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
- 2) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68% が入る範囲) を年代値に換算した値。

第78表 暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)								相対比	Code No.
		σ	cal AD 1,028	-	cal AD 1,050	cal BP 922	-	900	0.274		
4409SX (3 層目) B12	950 ± 30	σ	cal AD 1,082	-	cal AD 1,125	cal BP 868	-	825	0.532	IAAA-80233	
		2σ	cal AD 1,136	-	cal AD 1,152	cal BP 814	-	798	0.194		
			cal AD 1,024	-	cal AD 1,156	cal BP 926	-	794	1.000		

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は 68%、 2σ は 95% である。
- 5) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

II . 伊礼原 D 遺跡出土土器付着物の放射性炭素年代測定

はじめに

平成 20 年度に行われた伊礼原 D 遺跡の発掘調査では、貝塚時代後期に属する土器が多く出土している。また二次堆積層と思われる海砂層で、沖縄諸島出土土器にはこれまで認められたことのない燃糸文を有する土器が出土している。発掘調査所見では、当土器は胎土、混入物、器面調整等から在地土器とは異なり、搬入土器である可能性が示唆されているが、詳細は不明なため型式不明土器とされている。

本報告では、船元系とされた土器片の付着物について放射性炭素年代測定を行い、当土器の年代に関わる資料を作成する。

1. 試料

試料は、伊礼原 D 遺跡より出土した型式不明とされた土器片 1 点より採取した土器付着物である。付着物は、土器内面をほぼ一様に覆ういわゆる「オコゲ」と考えられる炭化物である。

2. 分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HC 1 により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC 1 によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30 分）850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO₂ を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO₂ と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃ で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX- II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に ¹³C/¹²C の測定も行うため、この値を用いて δ¹³C を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。暦年較正とは、大気中の ¹⁴C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ¹⁴C 濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴C の半減期 5,730±40 年）を較正することである。暦年較正は、CALIB 5.02 のマニュアルにしたがい、1 年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差 σ、2 σ 双方の値を計算する。σ は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、2 σ は真の値が 95% の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、σ、2 σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代

は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

3. 結果

同位体効果による補正を行った測定結果を第79表に示す。4,450±40BP という年代が得られた。また、その較正暦年代を第80表に示す。測定誤差 σ の年代でみると、概ね 3,300-3,000calBC (5,300-5,000calBP) という暦年代が示唆される。

なお、小林編 (2008) に掲載されている日本の縄文土器編年表には、各時期の概ねの年代観が calBC で示されている。その年代観に従えば、上述した今回の試料の暦年代の幅は、ほぼ縄文時代中期前半に相当する。今後、当土器と共伴した土器および年代観が近似する資料の年代測定を行うことにより、当土器と伊礼原 D 遺跡に関する年代観が具体化されると考える。

第79表 放射性炭素年代測定結果

試料名	土器型式	種類	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (%)	測定年代 BP	Code No.
土器付着物	船元系 (第21図3)	炭化物	4,450±40	-23.49±0.77	4,430±30	IAAA-81059

- 1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
- 2) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68% が入る範囲) を年代値に換算した値。

第80表 暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)								相対比	Code No.		
		σ	cal BC	3,323	-	cal BC	3,234	cal BP	5,273			-	5,184
土器付着物	4,454±35	σ	cal BC	3,222	-	cal BC	3,220	cal BP	5,172	-	5,170	0.004	IAAA-81059
			cal BC	3,172	-	cal BC	3,161	cal BP	5,122	-	5,111	0.052	
			cal BC	3,117	-	cal BC	3,082	cal BP	5,067	-	5,032	0.205	
			cal BC	3,068	-	cal BC	3,026	cal BP	5,018	-	4,976	0.245	
			cal BC	3,338	-	cal BC	3,205	cal BP	5,288	-	5,155	0.451	
		2σ	cal BC	3,195	-	cal BC	3,011	cal BP	5,145	-	4,961	0.532	
			cal BC	2,978	-	cal BC	2,963	cal BP	4,928	-	4,913	0.013	
			cal BC	2,949	-	cal BC	2,943	cal BP	4,899	-	4,893	0.004	

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は 68%、 2σ は 95% である。
- 5) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

< 引用文献 >

小林達雄編, 2008, 小林達雄先生古希記念企画 総覧 縄文土器. 株式会社アム・プロモーション. 1322p.

Ⅲ. 伊礼原 D 遺跡・他出土土器の自然科学分析

はじめに

本報告では、北谷町に所在する遺跡から出土した土器片を対象として、その付着物の放射性炭素年代測定を行うことにより、土器の年代資料を得ることを目的とする。また、土器の材質（胎土）の特性を明らかにすることにより、既知の地質情報等との比較などから、その生産と使用に係わる資料の作成を行う。

1. 試料

試料は、平安山原 B 遺跡（平成 23 年調査）および平安山原 C 遺跡からそれぞれ出土した土器片各 1 点、伊礼原 D 遺跡から出土した土器片 7 点の合計 9 点である（平成 21 年調査）。これらのうち、平安山原 B 遺跡から出土した土器片と平安山原 C 遺跡から出土した土器については、それぞれ 1 点ずつ計 2 点の付着物を採取して、放射性炭素年代測定の試料とした。また、平安山原 B 遺跡から出土した土器片と伊礼原 D 遺跡から出土した土器片の計 8 点については、胎土分析の試料とした。

各試料には、発掘調査者により試料番号が付され、また型式等についての所見が示されている。これらを一覧にして、第81表に示す。

第81表 試料一覧

試料番号	遺跡名	型式など	図番号	備考	分析	
					14C	胎土
1	平安山原 B 遺跡	型式不明	未報告	P2 白砂層一括下層確認トレンチ 3。器壁の厚さ、尖底、器面調整は条痕文顕著。	○	○
2	伊礼原 D 遺跡	スセン當式	第21図 33	脚台があげ底ではなく、空洞となっている。	—	○
3	伊礼原 D 遺跡	平底（搬入）	第21図 27	Ⅱ群Ⅰ類	—	○
4	伊礼原 D 遺跡	船元系	第20図 1	Ⅰ群Ⅰ類、船元系（相美 2011）	—	○
5	伊礼原 D 遺跡	くびれ平底（泥）	第39図 101	Ⅱ群Ⅷ類	—	○
7	伊礼原 D 遺跡	有段・沈線文	第29図 116	Ⅱ群Ⅶ類	—	○
8	伊礼原 D 遺跡	くびれ平底（砂）	第33図 188	Ⅱ群Ⅷ類	—	○
9	伊礼原 D 遺跡	縄文時代晩期系	第22図 39	Ⅱ群Ⅱ類	—	○
10	平安山原 C 遺跡	形式不明	未報告	土器口縁部貝層Ⅴ層。広田下層貝符やゴホウラの腕輪と共伴。	○	—

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HC 1 により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC 1 によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30 分）850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO₂ を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO₂ と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイ

オン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOX- II) とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma; 68%) に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 $5,730 \pm 40$ 年) を較正することである。暦年較正は、CALIB REV6.0.0 のマニュアルにしたがい、1 年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が 95% の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表された値を記す。

(2) 胎土分析

胎土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分けて鉱物組成や岩片組成を求める方法と化学組成を求める方法とがある。前者は粉碎による重鉱物分析や薄片作製などが主に用いられており、後者では蛍光 X 線分析が最もよく用いられている方法である。今回の試料のように比較的粗粒の砂粒を含み、低温焼成と考えられる土器の分析では、前者の方が、胎土の特徴が捉えやすいこと、地質との関連性を考えやすいことなどの利点がある。さらに前者の方法の中でも薄片観察は、胎土中における砂粒の量はもちろんのこと、その粒径組成や砂を構成する鉱物、岩石片および微化石の種類なども捉えることが可能であり、得られる情報は多い。

この情報をより客観的な方法で表現したのとして、松田ほか (1999) の方法がある。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いを見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、ここでは薄片観察法による胎土分析を行う。以下に手順を述べる。

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に 0.03mm の厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて 0.5mm 間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により 200 個あるいはプレパラート全面で行った。なお、径 0.5mm 以上の粗粒砂以上の粒子については、ポイント数ではなく粒数を計数した。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の 3 次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を第82表に示す。平安山原 B 遺跡より出土し、型式不明とされた試料番号 1 の土器付着物からは 1,890±30BP の年代が得られ、平安山原 C 遺跡より出土し、型式不明とされた試料番号 10 の土器付着物からは 1,800±30BP の年代が得られた。

第82表 放射性炭素年代測定結果

試料番号	種類	遺跡名	試料名	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
1	土器付着炭化物	平安山原 B	型式不明 白砂一括 トレンチ 3	1,890±30	-24.60±0.42	1,880±30	IAAA-122319
10	土器付着炭化物	平安山原 C	土器口縁部 貝層 V 層	1,800±30	-22.45±0.57	1,750±20	IAAA-122320

- 1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
- 2) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68% が入る範囲) を年代値に換算した値。

第83表 暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)										相対比	Code No.			
		σ	cal	AD	78	-	cal	AD	130	cal	BP			1,872	-	1,820
1	1,889±25	2 σ	cal	AD	61	-	cal	AD	180	cal	BP	1,889	-	1,770	0.934	IAAA-122319
			cal	AD	188	-	cal	AD	213	cal	BP	1,762	-	1,737	0.066	
			cal	AD	140	-	cal	AD	152	cal	BP	1,810	-	1,798	0.099	
σ	cal	AD	169	-	cal	AD	194	cal	BP	1,781	-	1,756	0.223			
	cal	AD	210	-	cal	AD	255	cal	BP	1,740	-	1,695	0.605			
	cal	AD	304	-	cal	AD	314	cal	BP	1,646	-	1,636	0.073			
10	1,795±26	2 σ	cal	AD	133	-	cal	AD	259	cal	BP	1,817	-	1,691	0.852	IAAA-122320
			cal	AD	284	-	cal	AD	323	cal	BP	1,666	-	1,627	0.148	

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は 68%、2 σ は 95% である。
- 5) 相対比は、 σ 、2 σ のそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

各試料の較正暦年代を第83表に示す。測定誤差を σ の年代でみると、試料番号 1 は 1 世紀後半から 2 世紀前半頃であり、試料番号 10 は 2 世紀中頃から 4 世紀前半までの年代に及ぶ。

(2) 胎土分析

観察結果を第84表、第112～114図、巻首図版20・21に示す。各試料で計数された鈳物片および岩石片の種類構成をみると、8 点の試料はそれぞれ異なる種類構成を示す。以下に各試料の胎土の特徴を述べる。

1) 試料番号 1 平安山原 B 遺跡 型式不明

鈳物片では、石英と斜長石が同量程度で多く含まれ、他に少量の炭酸塩鈳物と微量のカリ長石、単斜輝石、角閃石が含まれる。斜長石の鈳物片は、清澄なものが多く認められる。岩石片は、全体的に微量しか含まれないが、その中では多結晶石英がやや多く、他に凝灰岩や安山岩および風化岩と思われる変質岩などが認められる。

2) 試料番号 2 伊礼原 D 遺跡 スセン當式土器

砂粒の主体は、石英の鈳物片と砂質シルト塊である。砂質シルト塊は、中粒砂以上の粒径が多く、

角礫状を呈することなどから、破碎された土器片である可能性がある。他に砂粒には、チャートの岩石片や多結晶石英、脈石英、変質岩などが伴われる。

3) 試料番号 3 伊礼原 D 遺跡 平底 (搬入)

砂粒の主体は、石灰岩の岩石片と石灰質化石の破片である。石灰質化石には二枚貝や有孔虫、サンゴなどが認められる。他に微量の石英や斜長石および炭酸塩鉱物の鉱物片と多結晶石英が含まれる。

4) 試料番号 4 伊礼原 D 遺跡 船元系

砂粒の主体は、石英の鉱物片である。これに少量の斜長石とカリ長石および多結晶石英が伴われ、極めて微量ではあるが黒雲母の鉱物片も含まれている。

5) 試料番号 5 伊礼原 D 遺跡 くびれ平底 (泥質)

砂粒自体が微量しか含まれない。その中では、石英と斜長石の鉱物片がやや多く、他に角閃石や不透明鉱物の鉱物片、チャートの岩石片や多結晶石英などが含まれる。

6) 試料番号 7 伊礼原 D 遺跡 有段・沈線文

砂粒自体が微量しか含まれない。その中では石英と角閃石の鉱物片が比較的多く含まれ、他に斜長石の鉱物片や凝灰岩、流紋岩・デイサイトなどの岩石片および砂質シルト塊などが含まれる。角閃石の鉱物片は新鮮であり、斜長石の鉱物片にも清澄なものが認められる。

7) 試料番号 8 伊礼原 D 遺跡 くびれ平底 (砂質)

砂粒は全体的に少量である。その中で比較的多い碎屑物は、細粒砂～中粒砂径の粘土塊である。他には石英、斜長石、緑簾石、白雲母、不透明鉱物の各鉱物片、凝灰岩、多結晶石英、珪化岩の各岩石片および砂質シルト塊が含まれる。粘土塊は、基質と同質の赤褐色粘土であるが、砂質シルト塊には斜長石や角閃石などの鉱物片が含まれ、土器の破片である可能性がある。

8) 試料番号 9 伊礼原 D 遺跡 縄文時代晩期系

砂粒の主体は、石英とそれよりやや少ない斜長石の鉱物片である。他に少量の不透明鉱物の鉱物片とチャートと頁岩の堆積岩類の岩石片、多結晶石英および砂質シルト塊や粘土塊などが含まれる。斜長石の鉱物片には清澄なものが認められ、また、砂質シルト塊は土器の破片である可能性がある。

各試料の粒径組成をみると、試料番号 3 は粗粒砂をモードとし、試料番号 1、2、4、8 はいずれも中粒砂をモードとする。さらに、試料番号 6、7 は細粒砂をモードとし、試料番号 5 は粗粒シルトをモードとする。

碎屑物・基質・孔隙の割合では、碎屑物の割合が最も多いグループとして、15～25%の範囲にある試料番号 3、4、8 があげられ、最も少ないグループとして、5%以下の試料番号 5、6 があげられる。他の試料は、その中間的なグループと言える。

4. 考察

(1) 年代について

試料番号 1 とされた土器付着物の年代は、弥生時代中期から後期に相当する。この土器は、器面に確認される明瞭な条痕から、当初、縄文時代前期の条痕文土器が想定された。測定された年代と同時期の浜屋原式土器や大当原式土器と比較しても器壁が厚く、底部の尖底の形状も異なる。一方、土器が出土した最下部の白砂層からは、共伴する遺物が確認されず、相対的な年代の検討が出来なかった。したがって、付着物の由来は必ずしも土器使用時のものと一概には言えず、土器廃棄

後の付着や汚染の影響なども考慮されるべきである。本試料の土器の年代については、現時点での検証が難しく、考古学からの検証も含めて今後の課題とすべきであろう。試料番号10とされた土器については、その付着物から得られた年代からは弥生時代後期から古墳時代初頭までの年代観が示される。供伴する遺物等から推定される年代観とはほぼ整合しているとみることができるから、使用時の年代を示唆している可能性もあると考えられる。

(2) 胎土について

胎土中から検出された鉱物片や岩石片は、胎土の材料となった砂や粘土中に含まれていた碎屑物であるが、その由来は粘土や砂が採取された場所の背後に広がる地質、いわゆる地質学的背景に求めることができる。今回の8点の試料では、胎土における鉱物片・岩石片の種類構成がそれぞれ異なった特徴が示されていることから、いずれも異なる地質学的背景を有する地域で作られた土器であると考えられる。各試料の地質学的背景は以下のように考えられる。

試料番号1の鉱物・岩石組成の特徴は、石英と同程度に多く含まれる斜長石と、岩石片では凝灰岩および安山岩しか認められないということである。斜長石の結晶は清澄であることから、斜長石は凝灰岩や安山岩に由来すると考えられる。したがって、試料番号1の胎土から推定される地質学的背景は、凝灰岩や安山岩が広く分布する山地や丘陵地を考えることができる。一方で、鉱物片には炭酸塩鉱物が少量ながらも含まれていることから、石灰岩の分布も混在すると考えられる。このような地質学的背景を有する地域を具体的に特定することはできないが、木崎編(1985)、日本の地質「九州地方」編集委員会(1992)、日本の地質増補版編集委員会(2005)等による記載からは、少なくとも沖縄本島内では認めることができない。したがって、試料番号1の土器は、沖縄本島内で作られた可能性は低く、沖縄本島以外の異なる地域から平安山原B遺跡に搬入された土器である可能性が高いと考えられる。

試料番号2と試料番号5の2点は、地質を示す手がかりとなる岩石片の量が少ないことにより、組成を十分に把握できない。そのため、推定される地質学的背景も不明瞭である。岩石片ではいずれも細粒砂径のチャートが検出されているが、このような岩石片は、チャートの分布域ではなくても、例えば新第三紀や第四紀の砂岩や礫岩などにも含まれている。したがって、現時点ではその具体的な製作地域に関する推定はできない。なお、ここで試料番号2と試料番号5をまとめて述べているが、両者の製作事情が近いというわけではない。両者の間では、砂質シルト塊の産状と砂全体の粒径組成や割合も異なるから、おそらくその製作事情は大きく異なっていたと考えられる。発掘調査所見でも、試料番号2はスセン當式、試料番号5はくびれ平底という区別がなされており、両者の製作事情の違いは、今回の胎土分析からも支持される。

試料番号3は、肉眼でも明瞭にわかるほど、石灰岩片と石灰質化石片を多量に含んでいる。この組み合わせからは、琉球列島に広くみられる琉球石灰岩とその前面に広がる海岸の砂という地質学的背景が推定される。したがって、その製作地は琉球列島内である可能性は非常に高いと考えられるが、これだけではその中の特定の島を推定することはできない。今後、琉球列島各地における同様の土器の出現傾向をみて検討する必要がある。その際には、石灰岩片や石灰質化石の量比や粒径組成にも着目する必要があると考えられる。

試料番号4の胎土の特徴は、多量の石英の鉱物片であり、地質の手がかりとなる岩石片は認められない。ただし、鉱物片においてカリ長石と斜長石が同じ程度に比較的多く含まれていることと、微量ながらも鉱物片に黒雲母が認められたことから、その地質学的背景は、黒雲母を有色鉱物として含む花崗岩類である可能性がある。その場合、少なくとも沖縄本島では花崗岩類の広く分布する

ような地域はないことから、試料番号4は沖縄本島外からの搬入である可能性のあることが考えられる。船元系とされた発掘調査所見とも整合的と言える。

試料番号7と試料番号8は、ともに鉱物片と岩石片の量が少なく、地質の手がかりとなるような岩石片には凝灰岩が含まれており、それ以外の地質情報となる岩石片は、試料番号7では流紋岩・デイサイトであり、試料番号8には認められない。したがって、両者ともに凝灰岩の広く分布するような地質学的背景を有する地域に由来する可能性があると考えられる。ただし、鉱物片の組成において、試料番号7では角閃石が多く含まれるのに対して、試料番号8では角閃石は認められず、試料番号7では認められない緑帘石と白雲母が検出されている。このことから、両者が同一地域に由来する可能性は低いと考えられる。いずれにしても、凝灰岩が広く分布し、凝灰岩以外の地質の分布がほとんどないような地域は、沖縄本島にはなく、これらも搬入品である可能性があると考えられる。

試料番号9では、岩石片は少量ながらも、チャートと頁岩が多いという傾向が地質学的背景を示唆している。前述したようにチャートの砂粒は、チャートの分布地域でなくとも堆積物中に混在することが多いが、頁岩については、その物理性すなわちチャートに比べると壊れやすいという性質から、砂岩や礫岩を構成する碎屑物中に含まれることは稀である。したがって、土器胎土中に含まれる岩石片として、チャートと頁岩が同程度の割合で含まれていることから、その地質学的背景として、チャートや頁岩により構成されている中生代以前の堆積岩類の分布が推定される。このような地質の分布は、例えば沖縄本島内では本部半島に認められる。現時点で、試料番号9の土器が本部半島で作られたとは判断できないが、可能性のある地域の一つにはなる。

以上述べたように、今回の8点の土器のうち調査所見では試料番号2、試料番号3、試料番号4、試料番号7が搬入土器とされていた。分析の結果では試料番号1、試料番号4、試料番号7、試料番号8については、搬入品である可能性が指摘された。このような土器の産状は平安山原B遺跡や伊礼原D遺跡の性格を考える上でも重要な要素の一つになり得ると考えられ、今後も継続的に土器胎土の特性を蓄積し、検討する必要があると考えられる。

〈引用文献〉

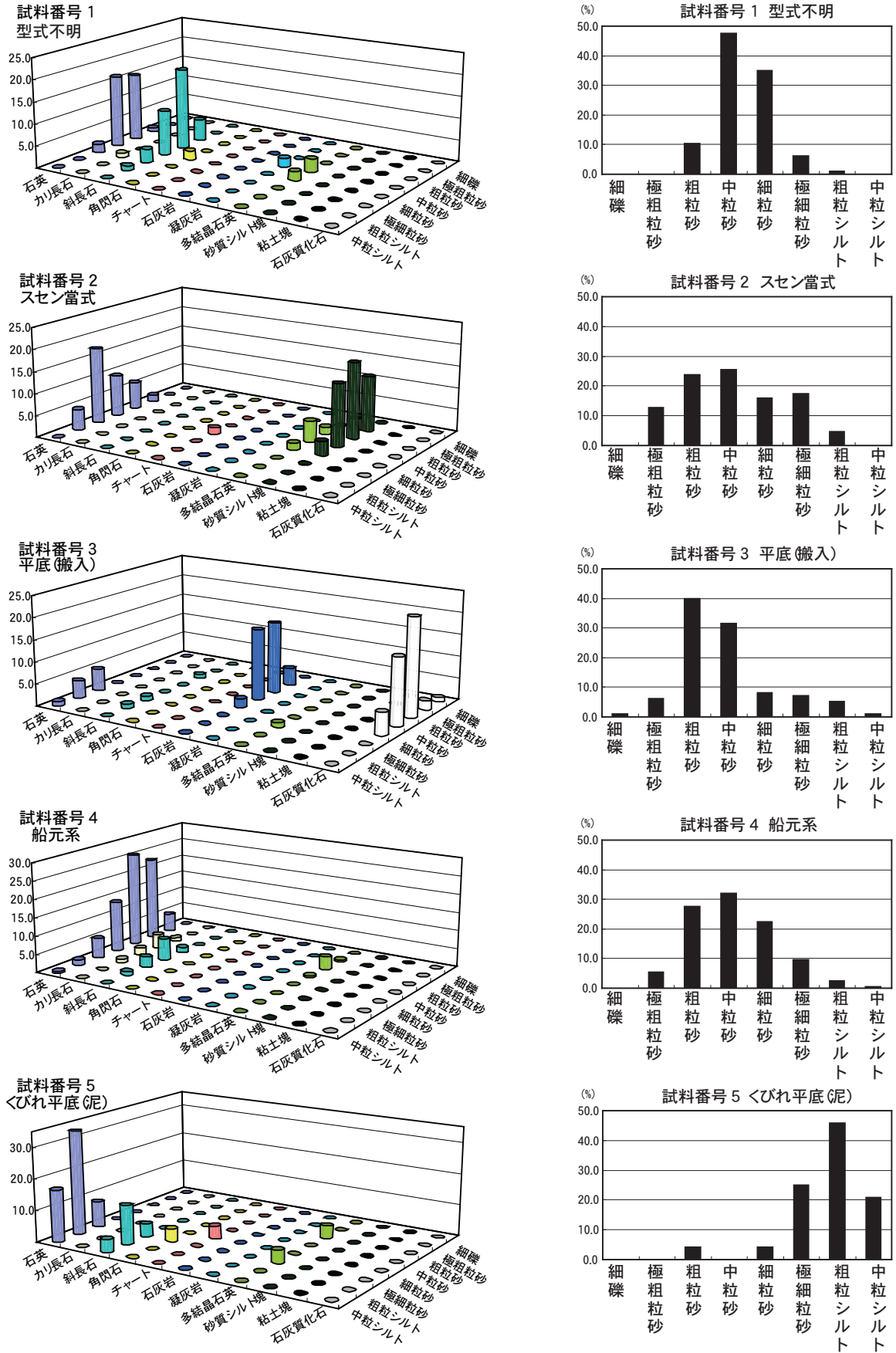
- 藤尾慎一郎，2009，弥生時代の実年代，西本豊弘編 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代，雄山閣，9-54.
- 木崎甲子郎編著，1985，琉球弧の地質誌，沖縄タイムス社，278p.
- 小林達雄編，2008，小林達雄先生古希記念企画 総覧 縄文土器，株式会社アム・プロモーション，1322p.
- 松田順一郎・三輪若葉・別所秀高，1999，瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－，日本文化財科学会第16回大会発表要旨集，120-121.
- 日本の地質「九州地方」編集委員会，1992，日本の地質9 九州地方，共立出版，371p.
- 日本の地質増補版編集委員会，2005，日本の地質 増補版，共立出版，374p.

第84表－1 薄片観察結果

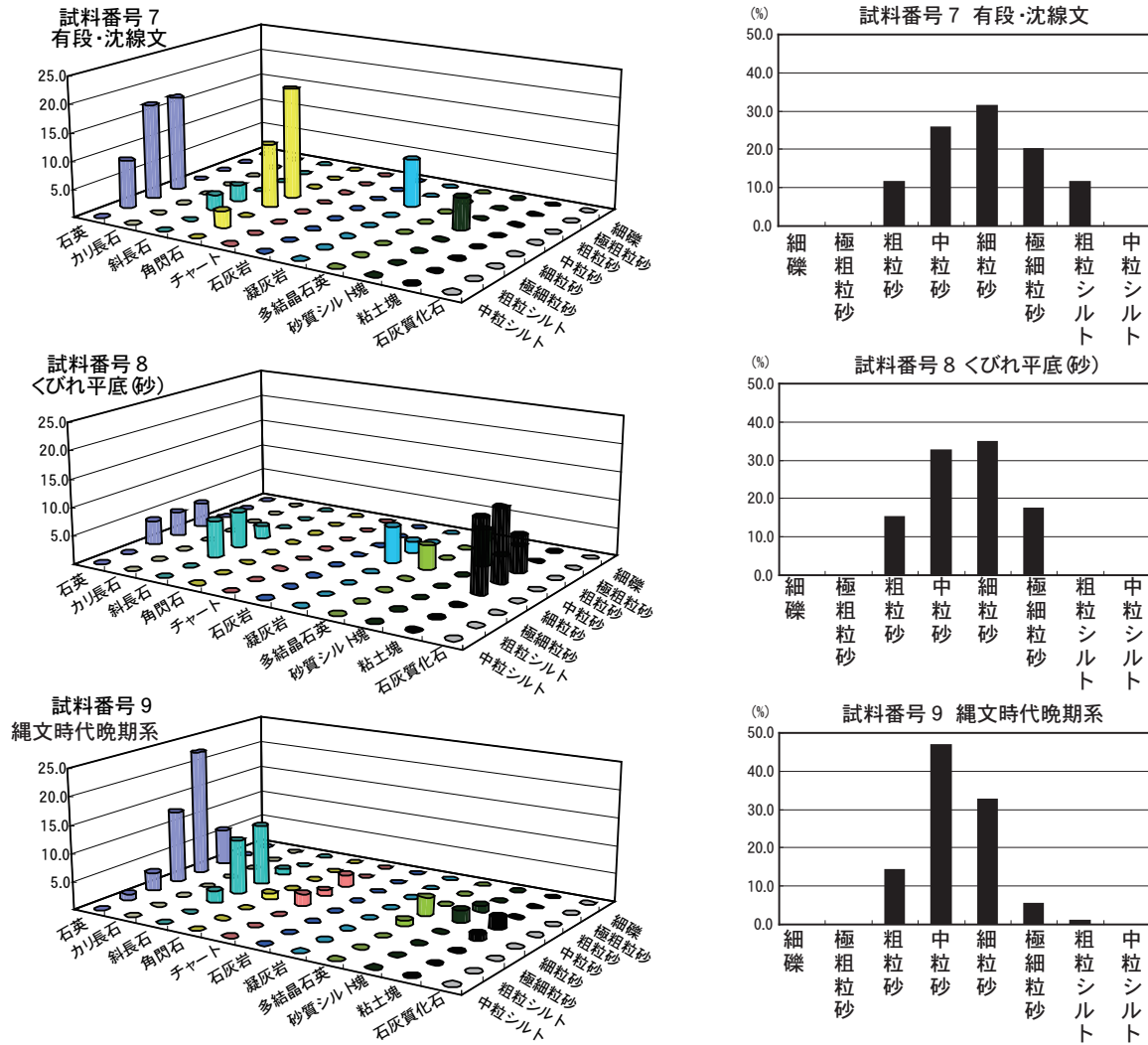
試料番号	砂粒区分	砂粒の種類構成																	合計							
		鉱物片							岩石片							その他										
		石英	カリ長石	斜長石	単斜輝石	角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	炭酸塩鉱物	不透明鉱物	チャート	頁岩	石灰岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英		脈石英	変質岩	珪化岩	砂質シルト塊	粘土塊	石灰質化石	
1	細礫																									0
	極粗粒砂																									0
	粗粒砂	1		5						4																10
	中粒砂	15		18	1					4				2		1	3		2							46
	細粒砂	16		10	1	2				3							2									34
	極細粒砂	2	1	3																						6
	粗粒シルト			1																						1
	中粒シルト																									0
	基質																								632	
	孔隙																								28	
備考	基質は褐色粘土鉱物、雲母鉱物、酸化鉄などによって埋められ、褐色～赤褐色を示す。斜長石は清澄なものが多い。変質岩は、褐色化した風化岩など。																									
2	細礫																									0
	極粗粒砂																							8		8
	粗粒砂	1															1	1	1				11			15
	中粒砂	4															3						9			16
	細粒砂	6									1						1						2			10
	極細粒砂	11																								11
	粗粒シルト	3																								3
	中粒シルト																									0
	基質																								634	
	孔隙																								38	
備考	基質は赤褐色粘土鉱物、酸化鉄によって埋められる。砂質シルト塊は、角礫状を呈し、土器片の可能性あり。																									
3	細礫																									1
	極粗粒砂											4														2
	粗粒砂			1								16														22
	中粒砂											16														15
	細粒砂									1		2														5
	極細粒砂	5		1													1									7
	粗粒シルト	4		1																						5
	中粒シルト	1																								1
	基質																								443	
	孔隙																								22	
備考	基質は雲母鉱物質。石灰質化石は二枚貝、有孔虫、サンゴなど。																									
4	細礫																									0
	極粗粒砂	10															1									11
	粗粒砂	46	2															7								55
	中粒砂	52	8	3															1							64
	細粒砂	28	4	12						1																45
	極細粒砂	11	2	6																						19
	粗粒シルト	3		2																						5
	中粒シルト	1																								1
	基質																								725	
	孔隙																								27	
備考	基質は赤褐色粘土鉱物、酸化鉄によって埋められる。																									

第84表－2 薄片観察結果

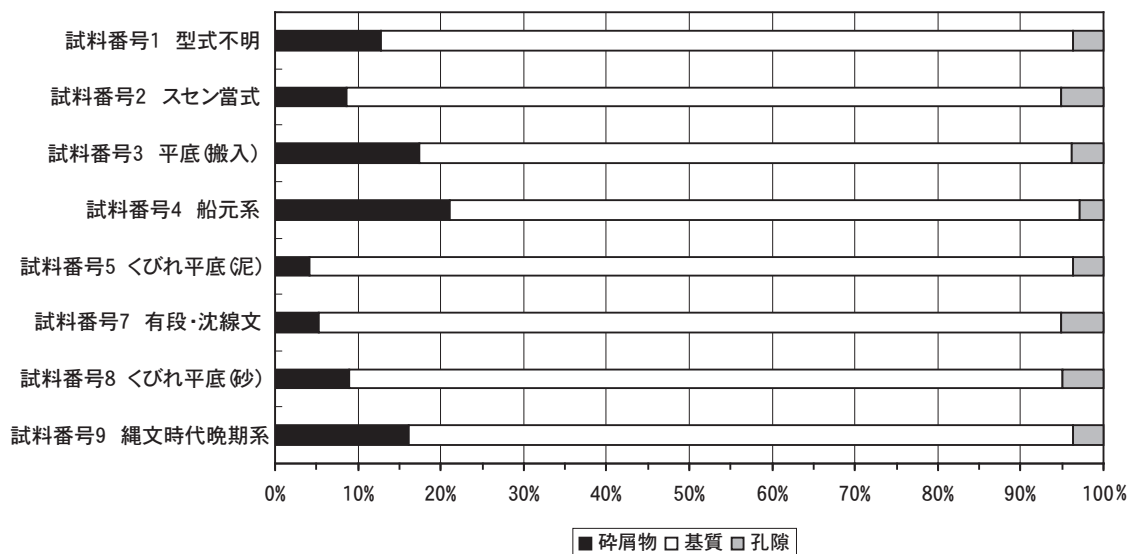
試料番号	砂粒区分	砂粒の種類構成																合計										
		鉱物片								岩石片						その他												
		石英	カリ長石	斜長石	単斜輝石	角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	炭酸塩鉱物	不透明鉱物	チャート	頁岩	石灰岩	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩		多結晶石英	脈石英	変質岩	珪化岩	砂質シルト塊	粘土塊	石灰質化石			
5	細礫																									0		
	極粗粒砂																										0	
	粗粒砂																	1									1	
	中粒砂																										0	
	細粒砂											1															1	
	極細粒砂	2		1		1					1							1									6	
	粗粒シルト	8		3																							11	
	中粒シルト	4		1																							5	
	基質																								525			
	孔隙																								21			
備考	基質はややシルト質で、雲母鉱物、石英、長石類などで埋められる。																											
7	細礫																										0	
	極粗粒砂																											0
	粗粒砂													3	1													4
	中粒砂					7																	2					9
	細粒砂	6		1		4																						11
	極細粒砂	6		1																								7
	粗粒シルト	3				1																						4
	中粒シルト																											0
	基質																								597			
	孔隙																								34			
備考	基質は雲母鉱物質で褐色を示す。角閃石は新鮮で、未酸化。清澄な斜長石も散見される。																											
8	細礫																										0	
	極粗粒砂																											0
	粗粒砂													1									3	3				7
	中粒砂	2		1										3			2				1		6					15
	細粒砂	2		3		1				4													6					16
	極細粒砂	2		3		2	1																					8
	粗粒シルト																											0
	中粒シルト																											0
	基質																								441			
	孔隙																								25			
備考	基質は赤褐色粘土鉱物、酸化鉄によって埋められる。粘土塊は基質と同質の赤褐色粘土であるが、砂質シルト塊は褐色を呈し、角閃石や斜長石の砂粒を含む。砂質シルト塊は土器片？。																											
9	細礫																										0	
	極粗粒砂																											0
	粗粒砂	6		1						1	2	1								1		1						13
	中粒砂	21		10						1	1	2					3	1				2	2					43
	細粒砂	12		9		1				4	2						1						1					30
	極細粒砂	3		2																								5
	粗粒シルト	1																										1
	中粒シルト																											0
	基質																								459			
	孔隙																								21			
備考	基質は褐色～赤褐色粘土鉱物によって埋められる。清澄な斜長石が多く認められる。砂質シルト塊は土器片？。																											



第112図 胎土の鉱物・岩石出現頻度と粒度組成 (1)



第113図 胎土の鉱物・岩石出現頻度と粒度組成 (2)



第114図 碎屑物・基質・孔隙の割合

第V章 まとめ

本遺跡は米軍基地返還以前の試掘調査で土壌が油分汚染されている地域とそうでない地域があった。そのため、調査は、油分汚染地域は防衛局が原因者となり、汚染されていない地域は区画整理事業による緊急発掘調査が行なわれた(第3図)。今回の報告は後者の緊急発掘調査の成果をまとめたものである。本遺跡は、北西側は範囲確認調査(2008)が行なわれ、南西から南東にかけては上述した油分汚染地域の原状回復に伴う緊急発掘調査が行なわれ、その報告は別の機会で行なうこととする。尚、両原因者による発掘調査でほぼ全面的な調査が行なわれた。

今回の発掘調査の結果、貝塚時代後期からグスク時代、近代から戦前に至るまでの遺跡であることが判明した。

本遺跡の成果をまとめる前に、遺跡の位置及び立地関係を整理しておきたい。本遺跡は北側に平安山原B遺跡、南東に伊礼原遺跡、西に平安山原C遺跡が隣接し、北東側の丘陵から西海岸に向かって広がる沖積低地に展開し、3遺跡に囲われるように所在している。現在、本遺跡と伊礼原遺跡の間にはナガサが流れているが、平安山原C遺跡との間にも過去の調査でナガサ跡と思われる流路が確認され、これまでの調査からグスク期以降に流路が形成されていることが判明している。

各時期の範囲は、貝塚時代後期は調査区の北から南東側へ拡がり、伊礼原遺跡まで及ぶようである。グスク時代と近代から戦前までは全体的で、前者は平安山原C遺跡から伊礼原遺跡まで及ぶ。

さて、今回の調査成果について前章まで述べてきたのでここでは再度、遺構や遺物について整理を行いたい。

1. 遺構

遺構は、各時期で検出されている。貝塚時代後期、グスク時代、近・現代と順じて概要を記述する。

貝塚時代後期の遺構はV b層のイモガイ貝集積、貝だまり、4318SK、Ⅲ層とⅥ層にパックされたIV～V a層の4409SXがある。

イモガイ貝集積は調査区南側のH17グリッドでV b層より検出されている。イモガイはアンボンクロザメとクロフモドキの2種類で、サイズは大型である。また、貝の集積の過程では下位、中位、上位でそれぞれ殻頂部の配置の仕方を変え崩れないように積み重ねられていることが把握できた。集積の平面形は円形で断面は鍋底状を呈する。本遺構とともに大当原式土器に近い土器が出土していることから貝塚時代後期中葉頃と思われる。

貝だまりは5ヶ所確認され、伴う出土遺物や標高等を考慮して貝塚時代後期の遺物包含層が散在して残ったようである。

4318SKは部分的に攪乱を受けていることから性格は不明である。

4409SXはⅢ層とⅥ層にパックされた状況で北壁B・C12・13グリッドで検出されている。平面形は半円状を呈するが北側へ広がると思われる。断面形は鍋底状を呈する。4409SX堆積層はIV層(1～4層に細分される)とV a層(5層)から成る。1層は青磁が出土していることからⅢ層を削り取って堆積したと思われる。2～4層は貝塚時代前期と貝塚時代後期の遺物が混在して出土することから、伊礼原遺跡や平安山原B遺跡など周辺遺跡の包含層からの二次堆積である。4層下部は泥炭層で樹木片があり、それを樹種同定及び年代測定を行った結果、サガリバナ科の常緑高木であることが判明した。年代測定は950±30BP(補正年代)であった。本遺構の最下層V a層(5層)

は北側のみに堆積している。出土遺物がフェンサ下層式土器のみであることから貝塚時代後期後半の時期の単純層であることが把握された。本遺構の北側はナガサや徳川の流域であることからそれらとの関連や湿地帯等が想定され、遺構はこれらの淵にあたると思われる。

貝塚時代後期の遺構は上層のⅢ・Ⅱ層期の遺構によって大半の包含層が攪乱を受け、Ⅰ層の米軍の埋設物なども及んでおり、それらの影響により良好な遺構は僅少で性格も不明な状況であった。

グスク時代の遺構は調査区の南側に 1000 余の柱穴群が広がる。その中で 4 本柱の高床式建物址が 1 棟確認できた。柱穴群は重複が著しく他にプランは確認できなかった。柱穴群は高床式建物址に比してサイズが小さめのものが多く重複している状態である。グスク時代初期の集落構成で仲宗根求氏(註1)の「吹出原型掘立柱建物址」の中で、高床式建物址と平地式建物址はセット関係にあり、本遺跡の高床式建物址もセット関係の可能性はある。このことから集落構成は 15 世紀から 16 世紀頃まで保持していたと思われる。本期の広がり、北西は平安山原 C 遺跡、南は伊礼原遺跡(2007)まで及ぶ。中心は範囲確認調査(2008)の 4 トレンチから今回の調査区と思われる。他に土坑や溝状遺構が検出されているが性格は不明である。

近代から戦前は 0008SF とそれに付帯する水路及び石列がある。

0008SF は調査区の北西側に分布する。北西から南東方向に延びる石敷道路で、部分的に良好な状態で切石などの加工された石を利用して作られた道路であることが残存状況から確認できる。戦前の写真(第 88 図)からすると南東側の伊平集落から北西側の平安山原集落に及ぶ道路のようである。水路と石列は石敷道路に交差し敷設されている。水路は切石を利用していることがわかる。石列は東西方向に延びるが残存状況が悪く、小礫が利用されている。これらは、米軍の基地機能のために大半は破壊されたようである。

2. 遺物

本遺跡からは若干、貝塚時代前期の土器が出土する。主に海成砂(枝サンゴ)からであるが、Ⅱ～Ⅴ層でもごく少量出土する。海成砂の枝サンゴ層から出土するのは二次堆積であり、これらの遺物の本体は伊礼原遺跡が考えられる。本期の土器はⅠ群土器として前章で紹介している。その中で、船元系土器等の器面に縄目の施文が見られる土器(Ⅰ類)が出土している。伊礼原 E 遺跡(2010)について 2 例目となる。海成砂出土の土器付着物を放射性炭素年代測定にかけたところ 4450±40BP(補正年代)の年代が得られた。他に室川下層式土器(Ⅱ類)や面縄前庭式土器(Ⅲ類)などが出土している。

本遺跡の主体を成す土器は貝塚時代後期でⅡ群土器にあたる。Ⅱ群土器はⅤb層を主体にするがⅡ～Ⅲ層または、4409SXでも確認できる。Ⅲ層期の柱穴掘削時やⅡ層期の石敷道路設置、耕作、Ⅰ層期の米軍による埋設物等でⅤb層まで掘削されている状況であることから攪乱を受けている。

Ⅱ群土器はⅠ類からⅨ類まで細分することができた。本群でも搬入土器が出土している。Ⅰ類のスエン當式土器(第21図32)や土師質(第21図36～38)の土器などが搬入土器に当たる。スエン當式土器は脚台を有する甕形で、文様は隆帯文+沈線文で構成される。県内では平敷屋トウバル遺跡(註2)、大堂原貝塚(2004新里)(註3)などで出土している。在地土器はⅡ類からⅨ類で晩期系土器、浜屋原式土器、大当原式土器、アカジャンガー式土器、くびれ平底式土器、型式不明土器などである。Ⅱ類の有文土器では特徴的な土器が出土している。第22図39・44・第23図48などで、口縁部は方形状に肥厚する晩期系の様相を呈している。文様は、口唇部と口縁部から胴中位に文様帯を持

第85表 伊礼原 D 遺跡・小堀原遺跡土器分類別比較

部位	分類	小堀原遺跡			伊礼原 D 遺跡					
		Ⅵ層			Ⅴ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴa層	Ⅴb層上	Ⅴb層下
		a	b	c	川跡					
口縁部	Ⅱ群Ⅰ類	△	△						△	△
	Ⅰ群Ⅱ類				△					△
	Ⅰ群Ⅲ類				△					△
	Ⅰ群Ⅰ類									△
	Ⅱ群(晩期)	△								
	Ⅱ群(＜)	△								
	Ⅱ群Ⅱ類				△			○	○	
	Ⅱ群Ⅲ類	△			△	△		△		
	Ⅱ群Ⅳ類					△		○		
	Ⅱ群Ⅴ類	○				△		△		
	Ⅱ群Ⅵ類(厚)	△	◎			○		○	◎	
	Ⅱ群Ⅵ類(薄)		○	△		○		◎	○	
	Ⅱ群Ⅶ類					○		○		
Ⅱ群Ⅷ類(砂)			○				○			
Ⅱ群Ⅷ類(泥)						○	◎			
底部	乳房状					△		◎	○	
	くびれ平底						○	◎	△	

つ。これら土器の文様構図は類似するところがあるが施文方法に種類がみられる。図39の口唇部は沈線文で口縁部直下及び胴中位に半截竹管による押し引き文を巡らし、その間に「Ω」状の突帯文の貼り付けと、斜位の刺突文が施される。突帯上にも半截竹管による刺突文が施され、突帯は途切れる。このような文様構図が、図44・48では口唇部は刺突文が施され、口縁直下は幅広の沈線文が横位に施される。前者は胴上位に2条の幅広の横位沈線文とその間に押し引き文が施される。後者は胴上位に突帯文が残ることから、図45や図39の突帯文に類似する可能性もある。また、Ⅶ類でも若干文様の構図が類似する第29図112がある。文様帯は口唇部から口縁部にみられ、口唇部は刻目文を、口唇部外面から口縁下部に斜位沈線文を施す、また、口縁部外面には「Ω」状の突帯文が口唇部上面まで貼付けられ、突帯下部は横位に延びるが途切れ途切れとなり、斜位沈線で横位突帯文に繋げる施文法である。これらⅡ類とⅦ類の図112を見てみるとⅡ類間では文様の変遷が図39→図45・48→図44、そして上述しなかったが図49の様に口唇部を刺突文、口唇部外面から口縁下部にかけて縦位短沈線でその下部はやや横位に短沈線を巡らし、かなり簡易になる傾向がみられる。ただし、Ⅱ類からⅦ類への直接的な変遷は不明であることから今後の資料増加に期待したい。

土器の出土状況や分布域を見てみると、Ⅱ群土器はⅥ類の大当原式土器とⅧ類のくびれ平底系土器が多く出土し、前者は内陸側、後者は海岸側に分布している。また、分布域でⅥ類やⅧ類に特徴がみられ、Ⅵ類は内陸側では厚手と薄手がある。口縁部は直状が多く形態は厚手の舌状が多い。Ⅷ類は泥質と砂質とその中間があり、口縁部は直状と外反が占める。口縁形態は直状で丸みを帯びるのが多く、外反は有段が多い。一方、海岸側は前述のとおりⅧ類が多く、泥質がほぼ半数である。口縁形態は、直状と外反が占める。口縁形態は丸みと角張るのが多く、舌状は少なくなる。

底部でも分布状況と諸特徴が見られる。内陸側では乳房状尖底と尖底が多く、海岸側にくびれ平底が多い。内陸側の土器の胎土では乳房状尖底と尖底は砂質が占め、くびれ平底は砂質と泥質がほぼ同数である。海岸側のくびれ平底は泥質が占めている。また、4409SXはⅧ類のくびれ平底が主体で文様の状況や胎土が泥質であることから「フェンサ下層式土器」に酷似する。

本遺跡と類似する小堀原遺跡の土器の出土状況と比較してみると、Ⅰ群土器は両遺跡とも二次堆積である。Ⅱ群土器では本遺跡では多種類に細分でき、Ⅴ類の浜屋原式土器の出土は少なく、Ⅵ類の大当原式土器が多く出土する。またⅥ類は厚手と薄手が多く見られ、小堀原遺跡では薄手が少ない状況である。底部は両遺跡とも乳房状尖底が多く、くびれ平底土器は本遺跡が少ないようである。

今回、土器の胎土分析（第IV章第3節）を7点行った。その結果、資料番号2（スセン當式土器）及び資料番号5（くびれ平底土器）は地質を示す岩石片の量が少量で胎土組成が把握できず、地質学的背景は判明できなかった。他は、鋳物等の種類構成は各々異なった特徴であることから、異なる地質学的背景を有する地域で作成されていることが判明した。特に、資料番号4（船元系土器）は沖縄本島内に分布しない花崗岩を含むことから搬入であることが証明された。

貝製品は概ねⅤ層である。オオベッコウガサガイ及びオオツタノハ有孔製品、ヤコウガイ製貝匙、ゴホウラ製貝輪及び未製品、二枚貝有孔製品（シャコガイ・リュウキュウサルボオなど）などの装飾品や実用品、加工途中などが出土している。ヤコウガイ製貝匙は背面型と腹面型が出土し、後者はⅢ層のグスク期の可能性がある。また、マガキガイの殻頂部のみを利用し玉製品もある。

骨製品はイノシシの腓骨による骨針、大腿骨での管状製品が得られている。全体的に骨製品は少ない。

石器は石斧、磨石、磨石兼敲石、敲石、石皿、砥石などが得られている。各々の石材を見てみると石斧は輝緑岩、斑レイ岩、砂質片岩などで斑レイ岩が多い。磨石及び磨石兼敲石は砂岩、角閃石

安山岩、輝緑岩などで砂岩が多い。石皿は砂岩が多い。砥石は砂岩やシルト岩がある。全体的に見てみると砂岩が多いようである。また、本町の地質は国頭礫層の南限であり本島北部と似た岩石が使用されているようである。石斧を形態的に見てみると、基部が厚い両刃と基部の薄い扁平片刃が見られる。グスク時代は刃部の幅が小さいのが出土している。これら石斧の刃部は刃こぼれが著しいことから使用頻度が高いと思われる。また、出土状況は貝塚時代後期からグスク時代にかけて少なくなる。このような状況は奄美・沖縄本島での傾向のようである（註4・5）。石器で特筆する資料が得られている。チャート製の敲石兼磨石（第47図22）で全面丁寧に磨かれている。類例は少ないのではないかとと思われる。

Ⅲ層グスク期は、中国産陶磁器、タイ産褐釉陶器、三彩などが出土している。中国産陶磁器やタイ産陶器は調査区全体に分布するが北側より南側に集中して出土する。また、三彩はG・H・17・18に集中し、全て鶴型水注と思われ同一個体の可能性がある。青磁はほぼ15～16世紀、白磁は玉縁口縁碗が1点出土しているが、抉り入り高台皿など15～16世紀が多く出土する。染付も碗や碁笥皿で外面に芭蕉文を施す資料があり、15～16世紀にまとまっている。中国産褐釉陶器やタイ産褐釉陶器も15～16世紀を示している。器種を見てみると壺、瓶で、前者が主体となる。中国産褐釉陶器には急須も見られる。タイ産褐釉陶器は範囲確認調査（2008）では合子も得られているので、詳細に小破片を照査してみると器種は増える可能性がある。時期はやはり中国産磁器と同時期になる。瑠璃釉、色絵、タイ産半練土器、カムイヤキも出土しているが少量である。

Ⅱ層近代になると沖縄産陶器で施釉、無釉と陶質土器が得られている。器種は碗、皿、壺、すり鉢、甕、瓶、火炉、鍋、急須などである。本土産磁器は、すり鉢、唐津焼の皿、スンカンマカイ（砥部焼）、急須、皿が出土している。分布状況は、調査区の南側に集中している。また、簪、煙管、分銅、人形（瓦質）、銭貨も出土し、これらは主に0008SFの道路及びその周辺より主に出土する。

自然遺物は貝類・獣骨が出土している。食糧残渣となる貝類の出土状況はV層期が主体である。シャコガイ（シラナミ、ヒメジャコ）が主体を成し、他にリュウキュウサルボオやメンガイとなっている。近隣の小堀原遺跡はヒメジャコが大半を成し、シラナミは僅少で他は類似している。

獣骨はⅡ層・Ⅲ層よりイヌ、ネコ、ブタ、ウシ、ウマが出土している。V層はイノシシや魚類で、魚類はリーフ内の魚種が大半である。

以上が本遺跡の遺構及び遺物について述べてきた。そこで、本遺跡を前述した周辺遺跡との関連について述べまとめとしたい。Ⅰ群土器を見てみると南東側に隣接する伊礼原遺跡が本体となろう。Ⅱ群土器の貝塚時代後期を見てみると、北側の平安山原B遺跡と伊礼原遺跡が隣接する。V類土器の出土状況からすると平安山原B遺跡側に集落が偏り、Ⅷ類土器からすると伊礼原遺跡側に偏る様相である。グスク時代は柱穴群密度から本遺跡が本体でその広がり、西側は平安山原C遺跡から南東側の伊礼原遺跡まで及ぶようである。近代から戦前は東南側の伊平集落と北側の平安山原集落のアクセス道路が存在し、その周辺は畑であった。また、遺跡の立地を考慮してみると、出土遺物の古手は内陸側で、新しいのは海岸側に多くみられることから砂丘形成過程が集落形成の変遷と一致している様相を呈している。区画整理事業区域内における各遺跡の立地状況と出土遺物の状況を比較して整理すると、この一帯の沖積世低地における砂丘形成と遺跡の立地関係が明らかになるのではないかと考える。このことが今後の検討が課題となってくる。

〈註文献〉

註1：仲宗根求 2002 「吹出原型掘立柱建物址」提唱について『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第27号 読谷村立歴史民俗資料館

第V章

註2：島袋洋（編）1996 『平敷屋トウバル遺跡』 沖縄県文化財調査報告書 第125集 沖縄県教育委員会

註3：新里貴之 2004 「沖縄諸島の土器」 高宮廣衛・知念勇編 『考古資料大観 12 貝塚後期文化』 pp.203-212 小学館

註4：中山清美 2004 「奄美諸島の石器・石製品」 高宮廣衛・知念勇編 『考古資料大観 12 貝塚後期文化』 pp.260-263 小学館

註5：岸本義彦 2004 「奄美諸島の石器・石製品」 高宮廣衛・知念勇編 『考古資料大観 12 貝塚後期文化』 pp.264-266 小学館

第86表 伊礼原D遺跡の時期（沖縄・九州の時代区分対照表）

九州	縄文時代						弥生時代			古墳時代			奈良時代	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	戦国時代	安土桃山時代	江戸時代	近代	現代
	草創早期	前期	中期	後期	後期末	晩期	晩期末	前期	中期前半	中期後半	後期前半	後期後半										
沖縄	貝塚時代															グスク時代前期	グスク時代後期/古琉球	近世琉球	近代沖縄	戦後沖縄		
	早期			前期			中期			後期			後期後半			12世紀～15世紀	15世紀～1609年	1609～1879年	1979～1945年	1945～1972年	1972年～	
	前I期	前II期	前III期	前IV期前～中葉	前IV期後葉	前IV期後葉	前V期前葉	前V期中葉～後葉	前V期末	後期前半(古)	後期前半(中)	後期前半(新)	後期後半	グスク時代	三山	第一尚氏王朝	第二尚氏王朝前期	第二尚氏王朝後期	沖縄県の設置	アメリカ統治時代	沖縄県 日本復帰	
	遺跡名	層																				
伊礼原D遺跡	I																				○	○
	II																					
	III																					
	IV																					
	Va		△	△			△						○									
	Vb上						△	△	○				◎									
Vb下						△	△					○										
VI		△	△			△																

凡例：◎非常に多い ○多い △少ない △僅少

〈引用・参考文献〉 土器・貝製品

高宮廣衛 1968 『那覇市の考古資料』 pp.299 那覇市教育委員会

高宮廣衛 他 1985 「沖之永良部島神野貝塚発掘調査概報（その1）－Aトレンチー」 『沖国大考古』 第7号 沖縄国際大学研究室

新垣孫一・川平朝申・国分直一 1957 「久高島シマシヤーマ貝塚の調査概報」 『文化財要覧』 琉球文化財保護委員会

知名定順 1980 「久志貝塚」 名護市文化財調査報告 名護市教育委員会

島袋洋（編） 1996 『平敷屋トウバル遺跡』 沖縄県文化財調査報告書 第125集 沖縄県教育委員会

當眞嗣一（編） 1983 『カンドウ原遺跡発掘調査報告書（I）』 沖縄県文化調査報告書 第49集 沖縄県教育委員会

西銘章・城間肇・藤崎京・他 2001 『ヤッチのガン カンジン原古墓群』 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第6集 沖縄県埋蔵文化財センター

名嘉真武夫・安里嗣淳・他 1979 『伊江島ナガラ西貝塚』 伊江村文化財調査報告書 第8集 伊江村教育委員会

新田重清 他 1977 『渡喜仁浜原貝塚』 今帰仁村文化財調査報告書 第1集 今帰仁村教育委員会

中山晋（編） 2007 『渡地村跡』 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第46集 沖縄県立埋蔵文化財センター

城間肇（編） 2008 『宇地泊西原丘陵古墓群』 宜野湾市文化財報告書 第42集 宜野湾市教育委員会

中山清美（編） 2006 『マツノト遺跡』 笠利町文化財調査報告書 第28集 笠利町教育委員会

高梨修 1999 『奄美大島名瀬市小湊・フワガネク（外金久）遺跡群』 名瀬市文化財叢書 二 名瀬市教育委員会

宮城伸一・東當美和 2005 『津堅貝塚』 勝連町の文化財 第23集 勝連町教育委員会

島弘（編） 1986 『備瀬貝塚』 本部町文化財調査報告書 第4集 本部町教育委員会

上江洲 均 1973 『沖縄の民具』 慶友社

金武正紀・比嘉春美 1978 『恩納村熱田貝塚発掘調査報告書』 沖縄県文化調査報告書 第23集 沖縄県教育委員会

上原静 1989 『首里城出土の貝殻』 考古学ジャーナル No.311号

時代	層	遺構	出土遺物
戦後	I層		
近現代	II層	0008SF 0019SL (石列)	
	III層	柱穴群 4450SB (高床式建物址)	
グスク時代 (前期)?	IV層	950±30 (サガリバナ)	
	Va層	4409SX	
貝塚時代 (後期後半)	Vb層	イモ貝集積 4317SS	
海成層	VI層	4454±35	

第115図 時代別出土遺物変遷

報 告 書 抄 録

ふりがな	いれいぼる いせき							
書名	伊礼原D遺跡							
副書名	—							
巻次	—							
シリーズ名	北谷町教育委員会文化財調査報告書							
シリーズ番号	第35集							
編著者名	山城安生・東門研治・松原哲志・島袋春美・上地千賀子・呉屋広江・黒住耐二 樋泉岳二・(株)パリノ・サーヴェイ							
編集機関	沖縄県北谷町教育委員会							
所在地	〒904-0192 沖縄県中頭郡北谷町字桑江226番地 TEL 098-936-3159							
発行年月日	2013年(平成25年)8月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
いれいぼる いせき 伊礼原D遺跡	おきなわけん 沖縄県 ちやたんちやう 北谷町 あざいへい 字伊平 こあざ 小字 いれいぼる 伊礼原	473260		26° 19′ 13″	127° 45′ 33″	20070214 ~ 20080229	1,470	区画整理事業に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
伊礼原D遺跡	集落	貝塚時代 後期	4409SX・4318SK・イモ ガイ貝集積(4317SS)・ 貝だまり		土器・土製品・石器・貝 製品・骨製品		木材(サガリバナ) 950±30B.P. 土器付着物(船元系) 4,450±40B.P.	
		グスク 時代	柱穴群・高床式建物址 (4450SB)・土坑・溝状 遺構		カムイヤキ・白磁・青磁・ 染付・瑠璃釉・褐釉陶器・ 三彩・瓦質土器・焼土・ 銭貨			
		近・現代	0008SF(ビーチロック 道)0019SL(石列)		沖縄産施釉・無釉陶器・ 陶質土器・本土産陶磁 器・先島系土器・木製品・ 円盤状製品		石敷遺構・石列・水 路	
要 約	<p>伊礼原D遺跡は北側に丘陵を有し、北東からはナガサが西流している。西側は臨海砂丘が展開していたと思われる。本遺跡は試掘調査及び範囲確認調査の段階で米軍による土壌汚染を受けていることが判明した。包含層から下層にかけて油臭等による汚染で、当時の調査進捗に苦渋を味わった経緯がある。このことから、本遺跡における本調査は、汚染されている区域とそうでない区域があり、前者は防衛局、後者は区画整理事業を原因者として本発掘調査を行うこととなった。今回は区画整理事業による本発掘調査による成果をまとめたものである。今回の調査では、貝塚時代後期の遺構は希薄で、4409SXやイモガイ貝集積などが検出された。これらの成果は本期の大当原式土器に伴うイモガイ貝集積とくびれ平底土器期の遺構(4409SX最下層)があることが判明した。続くグスク時代は南側に柱穴群が拡がり柱穴の重複が見られ、構造物の建て替えが幾度も行われたと推察される。北東側では辛うじて1棟の高床式建物址が確認された。近代は道路跡などが検出された、道路は石敷で水路も見られた。この時期南東側に伊平集落、北西側に平安山集落が展開していた。このように本遺跡は貝塚時代から近代までの集落でその変遷を考える上で重要である。</p>							

北谷町文化財調査報告書 第35集

い れい ばる
伊 礼 原 D 遺 跡

— 桑江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業(平成18・19年度) —

編 集：北 谷 町 教 育 委 員 会

発行年：2013年(平成25年)8月

〒904-0192 沖縄県北谷町字桑江 226 番地

TEL 098-936-3159

印 刷：オ ア シ ス

〒902-0068 沖縄県那覇市真嘉比 245-1

TEL 098-886-0390



北谷町